

**研究所・センター 2009 年度研究活動総括と 2010 年度研究計画について**  
**様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)**

項 目	内 容
2009 年度研究活動実績	<p>以下の各項目の 2009 年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。</p> <p>1. 研究所の研究の到達状況</p> <p>本研究所では、現在 5 つのプロジェクト研究を中心として研究活動が組織されている。占領期の憲法論議を中央地方のジャーナリズムの対応から読み解くことを一昨年度からあらたに研究課題として設定した「近代日本史研究会」、暴力と人間存在を研究課題とし、暴力からの人間回復の可能性を解く「暴力からの人間存在の回復研究会」(回復研) 間文化(インターカルチャル)の視点からヨーロッパとアジアの文化の対立の経験構造を探る「間文化現象学研究会」、社会的弱者の自立・自律を、観光を通して実現できるのかを国際比較の中で問う「貧困の文化と観光研究会」、グローバル化時代の民主主義の在り方を探る「グローバル化と公共性研究会」である。</p> <p>は、「日本国憲法制定期」の新聞史料を中心にした収集、分析を終え、2009 年度はそれを引き継ぎ「講和・独立から憲法制定 10 周年」までの資料を中心に収集・分析作業を進め、着実に研究の成果を積み上げている。</p> <p>は、国際会議を開催し、国際的研究ネットワークを広げつつあるとともに、これまでの研究成果を下記のように公刊することに多くの力を注ぎ、現代社会における暴力の意味についての理解を深めた。</p> <p>もまた、国際シンポジウムを開催し、国際的研究ネットワークを確固として築きつつある。言語の問題を多方面から研究しつつ、若手研究者たちの組織化にも力を入れつつある。</p> <p>は、本年度から、従来の研究を継承しつつ、アジアのツーリズム空間の生成過程とトランスナショナルな人の移動に関する研究に重点を移しながら、国際シンポジウムなどを開催し、その成果を公刊できた。</p> <p>は、あらたに東アジアにおけるグローバル化の影響と公共性に研究の重点を移しながら、従来から続いている 4 大学国際シンポジウムを開催し、国際研究ネットワークの輪を広げている。</p> <p>2. 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>国内の研究を主とする を除き、各研究プロジェクトは、海外にそれぞれ共同研究パートナーを持ち、継続的に国際シンポジウムを開催している。2009 年度も各研究プロジェクトは国際シンポジウムを開催し、国際的な研究ネットワークを強固にし、また広げており、その成果の一部は、一昨年度から刊行されている研究所の英文紀要に掲載され、海外の研究機関にも送付されている。</p> <p>3. 研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</p> <p>本研究所は、上記の研究プロジェクト、ならびに研究所としての邦文、英文紀要の発行、研究所主催の講演会などを組織・運営するために運営委員会を毎月定期的に開催する。</p> <p>また、各研究プロジェクトの課題として若手院生研究者・院生の組織化が意識的にめざされている。</p> <p>4. 学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</p> <p>本年度は、現在継続している、 の「近代日本史研究会」(基盤 C, 2009~2011)、 の「間文化現象学研究会」(科研(基盤 B), 2008~2012)を除き、各研究プロジェクトが科学研究補助金に応募したが、採択されなかった。しかし、それまで科研費を取得していたプロジェクトが連続して取得することは、一般に困難である面も考慮しなければならないし、今後のどのような工夫をするのかは検討すべき課題である。</p> <p>主要な成果としては、 が、『立命館大学人文科学研究紀要』94 号に特集を組み、 が、同上 95 号に特集を組んだ。また藤巻正巳・江口信清編著『グローバル化とアジアの観光』(ナカニシヤ出版、2009 年 5 月、同編著『貧困の超克とツーリズム』(明石書店、2010 年 3 月)を刊行した。また、各研究プロジェクトのメンバーが多くの個別論文を著わしている。</p>

項 目	内 容
2010 年度研究計画	以下の各項目の 2009 年度の活動実績を踏まえながら 2010 年度の活動計画について記入して下さい。
	<p>1. 2010 年度の研究計画について</p> <p>については、引き続き新聞資料の収集と整理、その分析、特に 1948 年～51 年の「日本国憲法制定期」と「講和・独立から憲法制定 10 周年」の間の時期につての研究を進める。</p> <p>については、引き続き海外の研究者との交流を図りながら研究課題の一層の深化をめざしている。</p> <p>については、今年度は研究センター立ち上げのための国際シンポ等を予定している。日本での間文化現象学の研究拠点の基礎固めが今年度の課題である。</p> <p>についても、国際シンポを開催しつつ、本年度は特にアジアにおけるツーリズム研究のプラットフォーム作りが課題となる。また、京都周辺部の「限界集落」でのコミュニティー・ベースト・ツーリズムの可能性の研究にも新たに着手する。</p> <p>については、あらたにグローバル化に関する研究を東アジア地域に絞り、そこにおけるグローバル化と経済・社会の変容について、国際シンポを開催しながら追求する。またその一環として東アジアの市民社会研究のプラットフォーム作り着手する。</p> <p>なお、研究所の課題としては、こうしたプロジェクトの研究の上に立ち、引き続き『立命館大学人文科学研究紀要』の 96,97 号と、英文紀要 <i>Journal of Ritsumeikan social sciences and Humanities Vol.3</i> 発行をめざす。</p> <p>また、学内で様々に展開されている研究会を研究所のプロジェクトとして吸収し、継続的な研究環境を提供する取り組みを積極的に展開することも課題となる。</p>
	<p>2. 学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>各研究プロジェクトは、海外研究者、あるいは機関との研究ネットワークをこれまで継続的に作り上げてきており、国際シンポが毎年開催されている。その成果も様々な形で刊行されている。今年度も引き続き、このネットワークを強固にしました、その拡大を図っていくことがめざされる。学内での共同研究会も積極的に展開し、多くの研究者の参加を得ることとしたい。</p>
	<p>3. 研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>それぞれの研究プロジェクトの 2009 年度の総括と 2010 年度の研究計画によると、各プロジェクトの研究意欲は高く、その成果が引き続き期待しうる。しかし、課題もある。研究プロジェクトは何よりもその研究の継続性が要求される。各研究プロジェクトにおいては、単発の国際シンポジウムを華々しく行うというのではなく、内外の研究者、研究機関との深い信頼関係のなかで継続的な学術交流を目指すことが大きな流れとなっている。そうした学術交流こそ、本大学の研究水準を上げるために現在必要なことである。しかし、継続性にある研究プロジェクトへの支援体制を本研究所が十分に行いうる体制になっているかといえはまだまだ十分ではない。本研究所、ならびに本大学の研究政策において検討されるべき課題の一つである。</p> <p>また、新たな研究プロジェクトの設立を研究所として支援する体制を整えることも重要である。</p> <p>さらにいえば、若手研究者、院生の研究会メンバーへの参加を積極的に、意識的に進めることが、研究を活性化するために必要であろう。</p>
<p>4. 学外研究費の申請予定等について</p> <p>各研究プロジェクトは、科研への申請を積極的に行っており、今年度もその取り組みを継続する。また民間等の研究助成への応募も進めたい。</p>	

2009年度 人文科学研究所 研究会開催一覧

主催	開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所
人文科学研究所	6/4	18:00-20:00	間文化現象学研究会	"Phenomenological Responses to the Philosophy of Life"	ハヨ・クロンバッハ(ロンドン政治経済科学大学教授)	末川記念会館 第3会議室
人文科学研究所	6/4	18:00-19:30	間文化現象学研究会	A Conference of Inter-cultural Phenomenology "Phenomenological Responses to the Philosophy of Life".	Dr. Hayo Krombach (The London School of Economics and Political Science)	末川記念会館 第3会議室
人文科学研究所	6/6	16:30-18:00	グローバル化とアジアの観光研究会	「インドネシア・バリ州におけるエコツーリズム」	井澤 友美(国際関係学研究科後期課程)	第2研究会室
人文科学研究所	6/12	15:00-17:30	近代日本思想史研究会	「1950年代日本の戦後補償論議 戦傷病者戦没者遺族等援護法の立案過程」	植野 真澄((財)政治経済研究所・研究員)	第2研究会室
人文科学研究所	6/27	15:00-17:30	グローバル化とアジアの観光研究会	「アジアの国際労働力移動 東南アジアの状況を中心に」	石井 由香(立命館アジア太平洋大学教授)	第2研究会室
人文科学研究所	10/22	14:40~17:30	間文化現象学研究会	「あいだとしての文化 文化と文化のあいだ」 「現象学と解釈学の新たな交わり 超越論的媒体性の間文化論的展開について」	木村 敏(京都大学名誉教授) 新田 義弘(東洋大学名誉教授)	末川記念会館 第3会議室
人文科学研究所	10/23	16:20~18:00	間文化現象学研究会	"Phänomenologie in pragmatischer Hinsicht"	ゲルノート・ベーメGernot Böhme (ダルムシュタット工科大学)教授	末川記念会館 第3会議室
人文科学研究所	11/7	10:30~16:30	「グローバル化とアジアの観光」研究会	公開国際ワークショップ 「アジアにおけるツーリズム空間と生産と地元民 - 外国人労働者 - 外国人観光客が織り成すインターフェイス」 「大分県・別府を訪れる外国人観光客の動向」 「地方の観光開発への地元社会の参加と社会資本:タイ南部サムイ島の漁村を事例として」 「インド・ヒマラヤにおけるホームステイ」 「マレーシアにおけるホームステイプログラムとコミュニティの発展」	ハン・ジホ、四本幸夫(立命館アジア太平洋大学) ガンナバ・ボンボンラット(マヒドン大学) デヴィット・ピーティ(立命館大学) ヤハヤ・イブラヒム(トレンガヌ・マレーシア大学)	末川記念会館 第3会議室
人文科学研究所	11/17	16:00~	間文化現象学研究会	「ヨーロッパの運命としての理想化Idealisierung als Schicksal Europas」	クラウス・ヘルトKlaus Held(ヴッパータール大学)	創思館カンファレンスルーム
人文科学研究所	11/27	15:00~17:40	近代日本思想史研究会	第2回近代日本思想史研究会「占領期後半の憲法論議 - 「憲法記念日」論説を中心に(1948 - 51年) - 」	梶居佳広(非常勤講師)	第1研究会室
人文科学研究所	11/27	16:30~18:00	グローバル化と公共性 研究会	岐路に立つ韓国の市民運動 - 日本との対比から -	文京洙(国際関係学部教授)	修学館2階 人文研所長室前会議室
人文科学研究所	12/26	15:30~17:30	グローバル化とアジアの観光	「ホームステイの人類学的研究 - ホームステイ組織EILの形成と展開」 「日本におけるホームステイの誕生とその発展経過、アジアの国への展開」	山口 隆子(神戸大学大学院総合人間科学研究科)	第1研会室
人文科学研究所	1/15	15:00~17:40	第3回近代日本思想史研究会	戦前日本における「社会」事業理論 「海野幸徳を中心に」	猪原 透(日本史 M1)	第1研究会室
人文科学研究所	1/22	16:20~20:30	間文化現象学研究センター	ワークショップ: "Die Idee der Phänomenologie" und Post-Husserlianer "Das Problem der Gegebenheit des Erscheinens Jan Patočkas und Michel Henrys Konzept der Phänomenalität" 「現出することの所与性という問題 現象性についてのヤン・パトチカとミッシェル・アンリの構想」 "Selbstgegebenheit und "Erleben des Erlebnisses"" (仮題) 「自己所与性と「体験を体験すること」について」	カレル・ノヴォトニー 池田 裕輔(文学研究科博士前期課程)	第2研究会室
人文科学研究所	1/23,24	10:00~18:30	間文化現象学研究センター	間文化現象学プロジェクト:第2回シンポジウム 1/23(土)10:00~18:10 "Älaya-Urstiftung und Genesis des Bewusstseins - Ein ergänzender Vergleich der Forschungen zur Längsintentionalität in Yogacara-Buddhismus und Phänomenologie" "Interkulturelle Vernunft. Eine Vorstudie im Anschluss an Husserl" (仮題) "Europa und Nacheuropa in der philosophischen Reflexion Jan Patočkas" "Kultur - Leben - Welt" 1/24(日)10:00~18:30 "Cultural and Ideological Encounters and Disencounters. Violence and Reconciliation under a Phenomenological Perspective" "Being Bound to Others in Trust: A Basis for Intercultural Experience" 17:30~18:30 全体討論	1/23(土) ローズマリー・ラーナーRosemary R.P. Lerner(ペルー・ボンティシア・カトリック大学教授) 田口茂(山形大学准教授) カレル・ノヴォトニーKarel Novotny (プラハ・カレル大学准教授) 谷徹(立命館大学教授) 1/24(日) ローズマリー・ラーナーRosemary R.P. Lerner(ペルー・ボンティシア・カトリック大学教授) アンソニー・スタインボックAnthony J. Steinbock(南イリノイ大学教授) 司会:和田 渡(阪南大学教授)	創思館カンファレンスルーム
人文科学研究所	3/5	10:00~18:30	近代日本思想史研究会	第4回近代思想史研究会 「日露戦争と写真報道」 「戦前日本における非正規労働者と管理システム - 官営八幡製鉄所職夫の場合」 「戦後岩手の社会・文化運動と「岩手の保健」」	井上祐子(京都外国語大学非常勤講師) 長島修(経営学部教授) 北河賢三(早稲田大学教育・総合科学学術院教授)	第1研究会室
人文科学研究所	3/10	10:30~17:30	回復研究会	サイモン・ブローナー氏講演会14:30~17:30 "Framing Violence and Play in American Culture" 「暴力化遊びか - 日常的な文化分析と日米比較」 ヴァナキュラー文化研究会10:00~14:25 「1960~1970年代に本のメディアイベントと寿の文化装置をめぐる消費文化の展開」 「戦争の記憶:言語化される感情の原景」 「遊牧民女性の技と記憶:西北アナトリア、ヤージュ・ベディルの事例から」 「アメリカ音楽のコミュニケーション力」 後藤幸浩氏 薩摩琵琶 演奏会&トーク(18:00~20:00)	サイモン・ブローナー氏講演会 サイモン・J・ブローナー氏(ペンシルヴェニア州立大学教授) モデレーター:宮下和子(鹿屋体育大学)、小長谷英代(長崎県立大学) ヴァナキュラー文化研究会(10:30~14:25) 関口英里(同志社女子大学) 田中寛(大東文化大学) 江川ひかり(明治大学) 宮下和子(鹿屋体育大学)	諒友館839教室 後藤氏講演会は場所:レストランカナルム
人文科学研究所	3/19	15:00~17:00	グローバル化と公共性 研究会	「A・スミスの市民社会論と今日」	野沢敏治(千葉大学)	人文研所長室前会議室

**研究所・センター 2009 年度研究活動総括と 2010 年度研究計画について**  
**様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)**

項 目	内 容
2009 年度研究活動実績	<p>以下の各項目の 2007 年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。</p> <p>研究所の研究の到達状況</p> <p>当研究所はいわゆる「研究センターB」として、07 年度 4 月から東京キャンパスにおいて、社会人向けの高度専門職養成カリキュラムの開発・運用、金融関連の研究を行ってきた。</p> <p>特に、金融領域においてはサブプライム問題後の新たな枠組みの模索が続けられている。表面的には複雑な金融技術の行きすぎに対する見直しの論調が強いが、現実には、通常の金融手法や金融商品、金融監督の枠組みにあってもこうした高度先端技術なしには語れない状態となっており、幅広い層に高度専門職養成のカリキュラムを提供するニーズがこれまで以上に強まっている。このため、本年度においても、「金融と法」東京講座ならびに税法講座を軸に教育活動に注力し、サブプライム後のカリキュラム構築に向けた作業を行った。</p> <p>具体的には、センター長の大垣が従来同様「金融と法」講座を開講し、約 30 名の受講生に対して、高度な専門知識の研修を行った。この講座は大学院の正規科目として科目等履修の対象にもされているが、11 年度に向けてこの修了者を対象とした東京における法学研究科前期博士課程の受講対応の可能性について同科と検討に着手した。</p> <p>次に、三木が担当している税法講座は 09 年度も多くの税理士・弁護士等の専門家が参加した。第一線の全国の実務家が講師陣として多数協力し、講義の場では双方向の鋭い意見交換がなされ、プロ同士の研修の場という新しい講座スタイルが確立し、立命方式の特色になっている。ただし、開講 3 年目を迎え講師負担が大きいなどの問題も出てきていること、民主党政権下で税制の大幅な変更も予想されることから、来年度からは税法講座のあり方を大きく見直す予定である。</p> <p>学术交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>社会的連携としては、センター長の大垣が 07 年度に立ち上げた「移住・住みかえ支援機構」が順調に展開し始め、マスコミの注目も集めつつある。</p> <p>共同センター長の三木が政府税制調査会の委員に任命され、新しい税制の枠組み構築に向けて主体的関与を行うこととなった。</p> <p>研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</p> <p>センターの運営は、東京中心に活動しているセンター長の大垣が担当。</p> <p>税法講座や講座打ち合わせのために、共同センター長の三木はほぼ毎週末東京に出て、若手研究員は月一の会合に出るという状況。</p> <p>学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</p> <p>研究費：過年度獲得調査報酬等に加え税法講座の剰余金により総額で 2000 万円以上の資金を確保している。</p> <p>研究成果：金融と法東京講座の講義内容に基づいて有斐閣法学教室に 2007 年～2008 年年度において同名の連載を実施し、法曹養成でない金融高度専門職養成のカリキュラムを世に問うた。</p>

項 目	内 容
2010年度研究計画	以下の各項目の2009年度の活動実績を踏まえながら2010年度の活動計画について記入して下さい。
	<p>2009年度の研究計画について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「金融と法」講座の継続。サブプライム後を見据えた講義内容の改訂の実施。地方銀行企画担当者をオブザーバー参加者として迎えた演習科目の大幅刷新の実施。</li> <li>2. 金融と法東京講座のカリキュラムに基づく教科書の発刊（有斐閣で5月末に出版の予定）。</li> <li>3. 東京における大学院法学研究科前期博士課程の開設に向けた準備作業の実施。</li> <li>4. 「地域CFO養成講座」の開設に向けた準備作業の実施。本年においては、6月と10月において地方銀行の企画担当者向けに泊まり込み講座（土日2日間）を企画、実施の予定。</li> <li>5. 税務講座の内容の全面見直しの実施と開講・運営。</li> <li>6. 政府で検討が始まるノンリコース型住宅ローンを支える金融技術開発。</li> <li>7. 電子記録債権を利用した電子手形サービスやABLなど、商業ファイナンス関連の金融技術、法運用の実情調査ならびに、同法に係る研究の実施。実務家との連携の強化。研究会の実施。</li> </ol>
	<p>学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 政府の「移住・住みかえ支援」政策に積極的に関与。その他金融関連の公職への取り組みとそのための背後支援機能の強化。</li> <li>2. 地域再生に向けた動きを支援するための「地域CFO人材」養成への取り組み。PFI・PPPの推進を企図する政府との連携を強化。</li> <li>3. 三木シニアフェローを中心に、新たな税制構築に向けた取り組みを実施。</li> </ol>
	<p>研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 三木教授の退職に伴い、同教授のほかこれまでの東京講座講師を中心に学外研究員（フェロー）制度を設けて研究機能の強化を図る。</li> <li>2. 新たに副センター長として法学部望月教授を迎えて体制の強化を図る。</li> <li>3. 大学院構想との関連で図書等施設の充実を図る。</li> </ol> <p>なお、東京キャンパスにおける本学の研究支援機能はきわめて貧弱（ほとんど皆無）なので、現在行っている教育機能に加えて、本格的に研究機能を担う場合には大学全体としての取り組みが必要と史料される。</p>
	<p>学外研究費の申請予定等について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 10年度に予定されるノンリコース型住宅ローン開発に対する補助金受給に関連し、関連コンソーシアムからの調査費の獲得をめざす。</li> <li>2. 地銀向け講習剰余金などによる追加的研究費の獲得。</li> </ol>

研究所・センター 2009 年度研究活動総括と 2010 年度研究計画について  
 様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)

項 目	内 容
2009 年度研究活動実績	以下の各項目の 2009 年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。
	<p>研究所の研究の到達状況                      2009 年度の研究・教育活動として、下記のような活動計画を立てた。</p> <p>研究・教育活動</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>『白川学講座』全三巻刊行の企画・具体化。</li> <li>一般教育特殊講義「白川学の世界」(前期二単位)の開講。</li> <li>中国古代文字学研究を行う研究者に対する研究費支援と同方面に関心のある学生指導の実質化。</li> <li>白川家から御寄贈いただいた白川先生旧蔵書の整理。</li> </ol> <p>それぞれの到達状況は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2009 年度内に平凡社に入稿を終え、現在校正の段階である(今秋刊行予定)</li> <li>無事に開講して多くの受講生を得、好評であった。</li> <li>研究費支援を行い、学生有志の参加を得て読書会を定期に開催した。</li> <li>白川先生旧蔵書の整理を終え、詳細な目録も刊行した。</li> </ol>
	<p>学術交流、社会的連携、国際交流について                      次の四つの計画を立て、それぞれ当初の計画通りの到達目標に達した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「漢字指導士」「漢字教育士」の資格認定事業計画。両資格の商標登録を終え、現在具体化に向け検討中である。</li> <li>児童を対象とする漢字探検隊企画の拡大・継続。前年度より大幅に拡大した。</li> <li>2010 年度の白川先生生誕百周年記念行事の計画。具体的な計画を立て、実施に向け準備中である。</li> <li>白川先生の受講生の組織・白川会の維持・発展。具体案について検討中。</li> </ol>
	<p>研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について                      本研究所の運営体制は、所長 1 名・副所長 1 名・および 5 名の運営委員を中心に運営され、2009 年度は 4 回の委員会を開催した。学術事業と文化事業における役割分担や、それぞれの連携について協議し、運営をおこなった。</p>
	<p>学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について                      科学研究費の申請を行ったが、残念ながら不採用であった。研究所員の研究成果については、『立命館白川静記念東洋文字文化研究紀要』に掲載し、また今秋刊行予定の『白川学講座』全三巻にも掲載される予定である。</p>

項 目	内 容
2010 年度研究計画	以下の各項目の 2009 年度の活動実績を踏まえながら 2010 年度の活動計画について記入して下さい。
	<p>2010 年度の研究計画について</p> <p>2010 年度の研究・教育活動の計画は、下記の通りである。</p> <p>1. 白川静文庫開設記念展の開催。これは本学図書館と本研究所との共同企画である。立命館大学に寄贈された白川先生旧蔵書が整理されて 4 月に『立命館大学図書館蔵 白川静文庫目録』が刊行された。この目録刊行を記念して白川静文庫開設記念展を 5 月 10 日から 6 月 24 日まで同図書館一階展示コーナーにおいて開催する。</p> <p>2. ホームカミングデーに合わせた記念フォーラムの開催。第一部・白川賞の授賞式、第二部・松岡正剛氏の講演、第三部・座談会「白川静を語る」の開催、の三部で構成する。第三部・座談会には第二部で講演をする松岡正剛氏も参加し、他に沈慶昊氏（韓国・高麗大学教授、第一回「立命館白川静記念東洋文字文化賞」受賞者）、白川先生の弟子として谷口義介氏（摂南大学教授）、高島敏夫氏（本研究所研究員）、遺族として津崎幸博氏（白川先生の女婿）も加わって白川先生の学問と人物について語って頂く。</p> <p>3. 本研究所編『白川学入門講座』全三巻の出版（平凡社）。目下綿密な校正の作業中で、この三巻は研究所叢書として十月に刊行を予定している。</p> <p>なお、一般教育特殊講義「白川学の世界」の開講と研究者に対する研究費支援及び学生指導についても昨年度同様に継続して行っていく。</p>
	<p>学术交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>社会的活動としては創作漢字コンテストを産経新聞社と共催で挙行了。既に審査を終え、計六一名を表彰した。その詳細は、5 月 15 日付産経新聞朝刊に報告されている。この創作漢字コンテストは反響が大きく非常に好評であったので、来年度も第二回を開催する予定である。</p> <p>また、研究所による「漢字指導士」「漢字教育士」の資格認定事業について、この資格に必要な講義等を、今年度四月から、立命館大学文学部ならびに放送大学大阪学習センターにおいて開講した。この資格認定の為の講義をインターネットにおいて開講すべく、目下、その実施に向けて審議・検討中である。</p> <p>漢字探検隊企画についても昨年度同様に拡大・充実をはかる。また白川会についても継続して維持・充実を目指す。</p>
	<p>研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>所長として加地伸行教授（衣笠総合研究機構）、副所長として上野隆三教授（文学部）、芳村弘道教授（文学部）として運営委員を組織視し、運営をおこなう。</p>
	<p>学外研究費の申請予定等について</p> <p>申請予定はない。</p>

**研究所・センター 09 年度研究活動総括と 10 年度研究計画について**  
**様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)**

項 目	内 容
2009 年度研究活動実績	以下の各項目の 2009 年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。
	<p align="center"><b>研究所の研究の到達状況</b></p> <p>(1)基礎研究プロジェクトの推進、(2)「東アジア専門家会議」、(3)平和研究の展開、(4)コリア研究センターの活動支援、(5)国際研究のネットワーク形成と各学部・研究科および平和ミュージアムとの連携等を内容とする新たな展開に向けての基盤づくりを進めた。</p> <p>(1)では、「ポスト西洋型国際関係理論」研究会、「知識資本と世界経済研究会」が研究活動を継続発展し、成果をまとめ公表を予定している。「ヒューマン・トラフィッキング研究会」は、2010 年度よりの科研費研究プロジェクトの母体となった。「立命館現代中国研究会」、「地球環境情報を核とした人間・社会・経済次元」研究会、「東アジア企業家ネットワーク」研究会が継続して活動した。(2)では、「東アジア専門家会議」の名称は使用しなかったものの、外務省日中研究交流推進事業を実施し、北京(中国社会科学院)での専門家会議ならびに京都での国際シンポジウム等を開催した。また、「メコンプロジェクト」(科研費)が、海外調査、日中国際シンポジウム(中国雲南大学)など活発に展開している。(3)の平和研究における国際平和ミュージアムとの提携はまだ本格化しておらず、課題を残している。(4)のコリア研究センターは引き続き、多彩な活動を行っている。(5)国際連携(別項)。なお、邦文紀要 2 回発行(アジア特集号と通常号)、英文紀要を発行したものの、分量において課題を残した。</p> <p>このように、研究所は本来の活動水準を回復し、新たな飛躍を期待できる段階に入っている。しかし、グローバル化の進展が生み出す諸問題が一挙に表面化している現在、問題の分析とその解決のための研究という課題に見合った体制・基盤・研究資源を用意できていない。研究所の継続的な活動を支える抜本的な人的、財政的な条件、体制の整備が急務である。</p>
	<p align="center"><b>学術交流、社会的連携、国際交流について</b></p> <p>外務省日中研究交流推進事業「21 世紀の東アジアと新たな日中関係」を通じて、中国社会科学院、国家発展改革委員会対外経済研究所、厦門大学等と、「メコンプロジェクト」を通じて、中国雲南大学等と、交流を拡大した。また、「英国学派と国際関係学」シンポジウム開催を通じて英国研究所との交流をさらに発展させた。</p>
	<p align="center"><b>研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</b></p> <p>運営委員会：年 11 回開催      運営委員：松野周治(所長)、大久保史郎(衣笠総合研究機構)、徐勝(法・前期)、宇野木洋(法・後期)、小田美佐子(法)、高尾克樹(政策)、中川涼司(国関)、原毅彦(国関)、山下範久(国関)、西口清勝(経済)、田中宏(経済)、守政毅(経営・前期)、長島修(経営・後期)、唐澤靖彦(文)</p>
	<p align="center"><b>学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</b></p> <p><b>学外研究費</b>      平成 21 年度外務省日中研究交流支援事業(東北アジア地域研究センター、人文科学研究所と共同) 4,332,639 円 + 日中共同研究者訪中経費(大学側経費受入なし)</p> <p><b>研究成果の刊行</b>  <b>紀要</b>      ・立命館国際地域研究 第 30 号、第 31 号(発行：2009 年 12 月、2010 年 3 月)      ・Ritsumeikan International Affairs vol.8(発行：2010 年 3 月)      Newsletter Vol.39(発行：2009 年 7 月 7 日)</p>

項 目	内 容
2010 年度研究計画	以下の各項目の 2009 年度の活動実績を踏まえながら 2010 年度の活動計画について記入して下さい。
	<p>2010 年度の研究計画について</p> <p>国際地域研究所は、1989 年の設置以来、東と西、南と北、アジアと欧米の接点に位置し、世界と日本の平和的発展に敏感な研究所としての特色を発揮してきた。なかでも、近年は韓国、中国に加えて東南アジア(タイ、ラオスなど)との研究協力を強化しながら、東アジアの平和構築・社会発展研究に重点においてきた。世界の政治経済構造が歴史的転換期を迎える中、大きな理論的視野とともに緻密な現状分析を基礎にした地域研究の重要性が改めて確認されている。新たな研究会も立ち上げながら、以下の 3 分野の課題を、～ の計画に従って推進する。</p> <p>(1) 世界政治経済の構造変化の中で、国際社会の平和的発展、国際協力の推進をはかる。</p> <p>(2) 東アジアの平和構築と社会発展、日本の役割や経済社会再建に関する課題を提示する。</p> <p>(3) 国際関係・地域研究の基礎研究の推進を実施する。</p> <p>( ) 東アジア地域研究を重点的に進める。09 年度日中研究交流推進事業を発展させる研究企画の実現を図るとともに、「ASEAN-Divide の克服とメコン川地域開発(GMS)に関する国際共同研究」(科研費)との連携、「立命館現代中国研究会」(現代中国総合研究体制構築を視野に入れる)、「日米中政治経済研究会」(新規)、「華人企業経営研究会」(10 年度より「東アジア企業家ネットワーク研究会」から改称)等を推進する。</p> <p>( ) 基礎研究においては「ヒューマン・トラフィッキング研究」(2010 年度からは科研費研究として展開)を軸にした人間の安全保障構築に関する研究、「途上国研究会」等を継続推進するとともに、EU 研究会を新たに発足させ、本学の関連研究者の共同、東アジアを中心とする他地域研究との交流等を旨とする。また、「ポスト西洋型国際関係理論」研究会の成果をふまえ、欧米国際関係理論・国際政治理論研究の新たな展開を図る。</p> <p>( ) 「京都平和研究会」等を通じて国際平和ミュージアムと連携して、平和研究を推進する。</p> <p>( ) コリア研究センターとの連携、東北アジア地域研究センターとの協力、「北朝鮮問題研究会」等を通じて、グローバル危機下の東北アジア地域平和構築と地域協力等を研究する。</p> <p>( ) 国際関係学部を中心に、学部・研究科との連携を強化し、教育研究への貢献ならびに大学院生育成等を進める。</p>
	<p>学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>東アジア地域研究を中心に、中国(厦門大学、雲南大学、中国社会科学院、上海社会科学院など) 韓国(ソウル大学等) タイ(NIDA)、ラオス(ラオス国立大学)等との連携を強化する。同時に欧米(米国、英国、ドイツなど)の大学研究機関との協力をさらに発展させる。EU 委員会、大連市発展研究センター、日本外務省などと、国内外における社会連携を強化する。</p>
	<p>研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>運営委員：松野周治(所長) 大久保史郎(衣笠総合研究機構) 西口清勝(共通教育推進機構) 中川涼司(国関) 益田実(国関) 出口雅久(法) 小田美佐子(法) 田中宏(経済) 小池洋一(経済) 唐澤靖彦(文) 宇野木洋(文) 庵途由香(文)、守政毅(経営)</p> <p>定例運営委員会：毎月第 3 金曜日</p>
	<p>学外研究費の申請予定等について</p> <p>基盤研究プロジェクトを中心に、引き続き、科研費等の学外研究費の獲得に努力する。</p>

## 09年度国地研プロジェクト

## 研究会実施一覧

	プロジェクト	開催日		テーマ	報告者	所属	職位
1	外務省平成21年度 日中研究交流支援事業	11月 27日	金	[キックオフミーティング] 「21世紀における新たな日中関係 現状と課題」			
2	外務省平成21年度 日中研究交流支援事業	1月 29日	金	[国際シンポジウム] 「21世紀における新たな日中関係 現状と課題」			
3	外務省平成21年度 日中研究交流支援事業	1月 30日	土				
4	国際交流セミナー	3月 30日	金	[国際交流セミナー] 「新たな日中関係構築に向けて 中国の都市、農村、貧困、医療」			
第1回	メコン会議	5月 22日	金				
第2回	メコン会議	6月 19日	金				
第3回	メコン会議	11月 6日	金	The Role of Foreign Capital in Recent Economic Development of Cambodia	Ngov Penghuy	名古屋大学大学院国際開発研究科	助教
第4回	メコン会議	1月 23日	土	1) 午後3時-4時: 昆明現地調査「第3次案」(最終案)の検討 2) 午後4時-5時30分: 研究会 報告タイトル「雲南省とGMS開発の現状」 3) 午後5時30分-6時: 昆明の現地事情について、畢世鴻氏と懇談	畢 世鴻 (ひつ せこう, Bi Shihong)	東南アジア研究所/GMS研究センター・雲南大学国際関係研究院、日本貿易振興機構(ジェトロ)・アジア経済研究所	准教授/副主任、海外客員研究員
	メコン会議	3月 8日	月	[立命館大学・雲南大学共同セミナー] GMS開発をめぐる日中関係			
第1回	ポスト西洋型国際関係理論	5月 28日	木	国際関係理論の「ポスト西洋的転回」と英国学派	池田丈佑	立命館大学衣笠総合研究機構	PD
第2回	ポスト西洋型国際関係理論	6月 15日	月	Critical Theory from Canada's Perspective	Clair Turenne-Sjolander	University of Ottawa	教授
第3回	ポスト西洋型国際関係理論	7月 6日	月	The Birth of the 'Taiwanese' On the Genealogy of Taiwanese National Identity	Hwang, Yih-Jye	University of Leiden	PD
	ポスト西洋型国際関係理論	3月 23-25日		[国際シンポジウム&国際ワークショップ] 岐路に立つ国際関係理論 西洋/非西洋的視点からの新構想			
第1回	ヒューマン・トラフィッキング研究会	7月 12日	日	女性・子どもを中心とした人身売買に関する国連特別報告者との対話	Ms. Joy Ngozi Ezeilo 他		
第1回	途上国研究会	11月 27日	金	岐路に立つ韓国の市民運動 日本との対比から	文 京洙	国際関係学部	教授
第2回	途上国研究会	1月 21日	木	メキシコ・シティにおける民衆運動と市民参加	小林 操史	立命館大学大学院国際関係研究科	
第14回	知識資本と世界経済研究会	4月 25日	土	ITサービスに関する企業調査の概要(日本アイ・ピー・エム) インテリジェント調査 NTTデータ技術開発本部 システム科学研究所 リスボン戦略の下での労働市場改革とその評価 ヨーロッパにおける知識基盤型経済移行への取り組みと問題点	森原 康仁 田村 太一 星野 郁	京都大学大学院 大阪市立大学大学院 立命館大学国際関係学部	院生 院生 教授
第15回	知識資本と世界経済研究会	5月 23日	金	知識資産経営と組織パフォーマンス—人材・知識・ICTの融合の時代—	小豆川裕子	NTTデータシステム科学研究所	主幹研究員
第15回	知識資本と世界経済研究会	7月 11日	土	知識資本主義の時代に関する予備的考察 スマートパワー・頭脳還流・クリエイティブ・クラス・ソーシャルビジネスを中心にして 20世紀の電子情報化と制度補完 21世紀への意味 図書出版について	関下 稔 中川 涼司	本学国際関係学部教授 同上	教授 同上
第1回	現代中国研究会	10月 23日	金	問題としての近代から見た「毛鄧」時代 ポスト文革期における文化批評の営み	宇野木洋	法学部	教授
第2回	現代中国研究会	12月 11日	金	文化大革命に関する覚書	奥村 哲	東京都立大学	教授
第1回	北朝鮮問題研究会	4月 24日	金	北朝鮮のロケット発射後の朝鮮半島情勢の展望	Choi Jin Wook	韓国統一研究院	
第2回	北朝鮮問題研究会	7月 20日	月	朝鮮半島非核化の展望と米朝関係 - 2012年に向けて動くピョンヤン・ソウル・ワシントン	吉田 康彦	大阪経済法科大学	客員教授
第3回	北朝鮮問題研究会	7月 25日	土	米朝関係の新展開	アンソニー・ディ フィリポ	リンカーン大学	
第4回	北朝鮮問題研究会	12月 24日	木	[講演会] ゴールは2012年、歴史的転換に向かう朝鮮半島 オバマのプラハ演説と国際核不拡散体制	吉田 康彦	大阪経済法科大学	客員教授

**研究所・センター 2009 年度研究活動総括と 2010 年度研究計画について**  
**様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)**

項 目	内 容
2009 年度研究活動実績	以下の各項目の 2009 年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。
	<p align="center">研究所の研究の到達状況</p> <p>コリア研究センターでは、2009 年度の活動計画に基づき、以下の研究活動を主催または共催で行った。</p> <p>■シンポジウム          シンポジウム「友禅図案（絵摺り）に描かれた『韓国併合』」5月30日</p> <p>■国際学会議          「東アジアに対する日本の戦争の記憶」7月24日～26日          「新国際協調時代における東北アジア」11月6日</p> <p>■学術フォーラム          第4回 RiCKs 次世代研究者フォーラム「日本と朝鮮半島の関係を問い直す - 『韓国併合百年』を前に」7月31日～8月1日</p> <p>■RiCKs 月例研究会（第23回～30回）          ■第4回 RiCKs 韓国映画フェスティバル「自立する女性 - 映画俳優キム・ヘスの魅力」および特別シンポジウム「自立する女性 - 映画俳優キム・ヘスの魅力」10月23日～25日</p>
	<p align="center">学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>コリア研究センターの本年度の社会的連携事業、国際・学術交流は、2009 年度計画に基づき、以下のような活動を行った。</p> <p>■学術交流協定          東国大学校北韓学研究所と学術交流協定締結（11月6日）          慶北大学校韓国僑民研究所と学術交流協定締結（3月17日）</p> <p>■海外客員研究員受け入れ          韓寅燮、李承信、徐程錫</p> <p>■委託事業          韓国の社団法人民族問題研究所の委託事業「戦後日本における朝鮮研究を推進した草創期の研究者への聞き取り事業」</p> <p align="center">国際シンポジウム参加</p> <p>「学術討論会 民主主義と地域経済」（3月16日）          「日本帝国主義強制併合 100 年の回顧と朝鮮民族の課題」（3月17日）</p>
	<p align="center">研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</p> <p>コリア研究センターの運営体制は、2010 年 4 月現在、センター長 1 名・副センター長 2 名・事務局長 1 名および 9 名の研究委員兼運営委員からなる運営委員会（計 13 名）そして専任研究員 2 名、専従事務局員 1 名の事務局を中心に運営されている。2009 年度は運営委員会（機構非公認）を 4 回開催。センターでは、専任研究員 2 名および事務局員 1 名が常勤し、センターの日常的な運営に従事している。また、日本および韓国・米国・カナダ在住の研究者 29 名が特別研究員として本センターと連携している。</p>

	<p>学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</p> <p>■2009年度の学外研究費は、総額 5,202,276 円</p> <p>■研究成果刊行 立命館大学コリア研究センター編『アン・ソング 韓国映画とその時代』( RiCKs ブックレット3、かもがわ出版) 徐勝・中戸祐夫編『朝鮮半島の和解・協力 10年 金大中・盧武鉉政権の対北朝鮮政策の評価』( コリア研究センター研究叢書 6、御茶ノ水書房) 立命館大学コリア研究センター『コリア研究』第1号 ( ISSN1884-5215)</p>
項 目	内 容
2010 年度研究計画	<p>以下の各項目の 2009 年度の活動実績を踏まえながら 2010 年度の活動計画について記入して下さい。</p> <p>2010 年度の研究計画について (主催または共催)</p> <p>1) 「光州 30 年シンポ」4 月 30 日～5 月 2 日</p> <p>2) 国際シンポジウム「東北アジアの安全保障における信頼醸成」5 月 29 日</p> <p>3) 国際シンポジウム「新国際協調主義時代における東アジアと朝鮮半島」(7 月 10 日)</p> <p>4) 第 5 回次世代研究者フォーラム (8 月 2～5 日)</p> <p>6) 第 5 回映画フェスティバル (11 月上旬を予定)</p> <p>7) 『コリア研究』第 2 号発刊 (2011 年 3 月)</p> <p>8) 月例研究会 (月 1 回、第 3 水曜日)</p> <p>9) 翻訳研究会開催</p> <p>10) 成果刊行 : 『2009 年 RiCKs 次世代フォーラム論文集 3』5 月刊行予定、『2010 年 RiCKs 次世代フォーラム論文集 4』12 月刊行予定 ・『コリア研究』第 2 号発刊 (2011 年 3 月)</p> <p>学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>客員研究員の受け入れ 徐程錫(公州大学校)、イ・ゴンジェ(民族問題研究所編纂委)、金哲培(全北大学校)、シン・ジェホン(暁園大学校)、チェ・ジョンギ(全南大学)、波佐場清、戸塚悦郎 RiCKs 次世代研究者フォーラム開催 (8 月 2 日～8 月 5 日、於立命館大学) 海外研究所との学術交流 高麗大学校日本研究センター、東国大学校北韓学研究、慶北大学校韓国僑民研究所 第 4 回 RiCKs 韓国映画フェスティバル 「ソル・ギョング」(11 月上旬)</p> <p>研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>2009 年度第 4 回運営委員会 (09 年 1 月 29 日実施) で、2010 年度 4 月以降の体制が決定した。新センター長として桂島宣弘教授 (文学部長)、副センター長として勝村誠教授 (政策科学) および山下高行教授 (産業社会)、運営委員に倉田玲准教授 (法) が就任した。また、2010 年度第 1 回運営委員会 (10 年 4 月 19 日実施) で、木村一信 (前本学文学部教授、現プール学院大学学長) が諮問委員に就任した。</p> <p>学外研究費の申請予定等について</p> <p>日本学術振興会「国際研究集会」(4 月末日〆切)、韓国国際交流財団「韓国学関連プログラム」(7 月下旬)、日本学術振興会科学研究補助金 (科研)(10 月下旬)、日韓文化交流基金フェローシップ募集 (10 月下旬)、ジャパン・ファウンデーション「知的交流会議助成」(11 月中旬)、日韓文化交流基金「学術定期刊行物助成」「人物交流助成」(1 月下旬)、韓国学中央研究院「海外韓国学支援事業」(3 月下旬)</p>

【別紙添付資料】

1. コリア研究センターでは、2009年度の活動計画に基づき、以下の研究活動を行った。

■シンポジウム

シンポジウム「友禅図案（絵摺り）に描かれた『韓国併合』（於アカデメイア立命21、主催：文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタルヒューマニティー拠点」（立命館大学）立命館大学人文学会、共催：立命館大学国際平和ミュージアム、5月30日）

■国際学術会議

「東アジアに対する日本の戦争の記憶」（於鹿児島・城山観光ホテル、主催：立命館大学コリア研究センター、東北アジア歴史財団、7月24日～26日）

「新国際協調時代における東北アジア」（於韓国・東国大学校、主催：立命館大学コリア研究センター、東国大学校北韓学研究所、11月6日）

■学術フォーラム

第4回 RiCKS 次世代研究者フォーラム「日本と朝鮮半島の間を問い直す - 『韓国併合百年』を前に」（共催：東国大学校 BK21 韓国語文学における伝承と翻訳研究人力養成事業団、於立命館大学衣笠キャンパス敬学館、7月31日～8月1日）

■RiCKS 月例研究会

第23回 RiCKS 月例研究会（4月15日）

報告：韓仁燮（ソウル大学校法科専門大学院教授）

「現代韓国の民主化と刑事司法の変化（1987～2008）」

第24回 RiCKS 月例研究会（5月20日）

報告：申順浩（木浦大学校社会科学部教授）「韓国の島 その現況と開発の方向」

第25回 RiCKS 月例研究会（6月17日）

報告：李定垠（ソウル大学女性研究所研究員・京都大学文学研究科 GCOE 外国人共同研究員）「韓国の人権概念の形成と制度化 1945年～1970年代」

第26回 RiCKS 月例研究会（7月24日）

報告：高吉嬉（山形大学地域教育文化学部地域教育学科助教授）「東北アジアの平和構築に向けての社会科学教育の課題を考える～朝鮮半島イメージの二極分化と日本人の「誇り」を軸に～」

第27回 RiCKS 月例研究会（10月21日）

報告：尹海東（成均館大学校東アジア学術院教授、国際日本文化研究センター外国人研究員）「書評報告：桂島宣弘『東アジア自他認識の思想史 日本ナショナリズムの生成と東アジア』（ノンヒョン、2009年）を読む」

第28回 RiCKS 月例研究会（11月25日）

報告：波佐場清（立命館大学コリア研究センター特別研究員、大阪経済大学講師）「書評報告：徐勝、中戸祐夫編『朝鮮半島の和解・協力10年 金大中・盧武鉉政権の対北朝鮮政策の評価』（お茶の水書房、2009年）を読む」

第29回 RiCKS 月例研究会（12月16日）

報告：李相燦（ソウル大学校人文大学国史学科副教授、同大学奎章閣韓国学研究院兼務教授、国際日本文化研究センター外国人研究員）「朝鮮時代の王立図書館・アーカイブとしての奎章閣と奎章閣資料の形成」

第30回 RiCKS 月例研究会（1月13日）

報告：李孝仁（慶熙大学校）「映画『オールド・ボーイ』とファシズム-ウィルヘルム・ライヒの性・経済学理論から見た」

■第4回 RiCKS 韓国映画フェスティバル「自立する女性 - 映画俳優キム・ヘスの魅力」（於立命館大学朱雀キャンパス大講義室）および特別シンポジウム「自立する女性 - 映画俳優キム・ヘスの魅力」（於立命館大

学朱雀キャンパス大講義室、10月23日～25日)

パネリスト：李鳳宇(シネカノン代表)、イ・ジュイク(ポラム・エンターテインメント代表)、李泳采(恵泉女学園大学国際社会学科教員)、斉藤綾子(明治学院大学文学部芸術学科教授) 司会：富田美香(立命館大学映像学部准教授)

## 2. コリア研究センターの本年度の社会的連携事業、国際・学術交流は、2009年度計画に基づき、以下のような活動を行った。

### ■学術交流協定

東国大学校北韓学研究所と学術交流協定締結(11月6日)

慶北大学校韓国僑民研究所と学術交流協定締結(3月17日)

### ■海外客員研究員受け入れ

韓寅燮、李承信、徐程錫

表敬訪問

高麗大学日本学研究センター(1月25日)

東西大学副学長および日本研究センター(3月15日)

東亜大学石堂学術院(3月15日)

韓国海洋大国際海洋問題研究所(3月16日)

慶北大学校総長および韓国僑民研究所(3月16日)

### ■委託事業

韓国の社団法人民族問題研究所の委託事業「戦後日本における朝鮮研究を推進した草創期の研究者への聞き取り事業」

国際シンポジウム参加

「学術討論会 民主主義と地域経済」(主催：東亜大学石堂学術院地域文化研究所、3月16日)

「日本帝国主義強制併合100年の回顧と朝鮮民族の課題」(主催：慶北大学校韓国僑民研究所、3月17日)

## 3. 研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について

コリア研究センターの研究組織は、5つの研究室(法・政治、経済、社会・文化、歴史・日韓関係、在外コリアン)から構成される。各研究室には13人の研究委員および2人の専任研究員がそれぞれの専門分野によって配置され、センターにおける研究企画などを行う。また、日本および韓国・米国・カナダ在住の研究者29名が特別研究員として本センターと連携している。

コリア研究センターの運営体制は、2010年4月現在、センター長1名・副センター長2名・事務局長1名および9名の研究委員兼運営委員からなる運営委員会(計13名)そして専任研究員2名、専従事務局長1名の事務局を中心に運営されている。2009年度は運営委員会(機構非公認)を4回開催し、センターの事業および運営について企画・検討・決議などを行った。修学館2階にあるセンターでは、平日9時～5時半に専任研究員2名および事務局長1名が常勤し、センターの日常的な運営に従事している。

## 4. 学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について

■2009年度の学外研究費は、総額5,202,276円で、内訳は以下の通りである。

・韓国の社団法人民族問題研究所の委託事業「戦後日本における朝鮮研究を推進した草創期の研究者への聞き取り事業」¥1,509,455

・その他(チケット収入など)¥3,692,821

### ■研究成果刊行

\*単行本

立命館大学コリア研究センター編『アン・ソンギ 韓国映画とその時代』(RiCKS ブックレット3、かもがわ出版)

徐勝・中戸祐夫編『朝鮮半島の和解・協力 10 年 金大中・盧武鉉政権の対北朝鮮政策の評価』（コリア研究センター研究叢書 6、御茶ノ水書房）

立命館大学コリア研究センター『コリア研究』第 1 号（ISSN1884-5215）創刊

\* その他学術誌掲載・資料集など

『立命館大学コリア研究センター次世代研究者フォーラム論文集 3』発刊予定

## 5 . 2010 年度の研究計画について

- 1) 「光州 30 年シンポ」(4 月 30 日～5 月 2 日) 主催は全南大学 5・18 研究所、センターは共催
- 2) 国際シンポジウム「東北アジアの安全保障における信頼醸成」(5 月 29 日) センターと東国大学校北韓学研究所との共催
- 3) 国際シンポジウム「新国際協調主義時代における東アジアと朝鮮半島」(7 月 10 日)  
センター主催
- 4) 第 5 回次世代研究者フォーラム(8 月 2～5 日)  
コリア研究センターと東国大学校 B K 21 韓国語文学における伝承と翻訳研究人力養成事業団の共催
- 5) 第 5 回映画フェスティバル(11 月上旬を予定)
- 6) 『コリア研究』(特集:「朝鮮半島・日本の歴史理解 - 日本の朝鮮併合 100 年」を予定) 第 2 号発刊(2011 年 3 月)
- 7) 月例研究会(月 1 回、第 3 水曜日):「韓国・朝鮮」を対象とする研究者たちの学術発表および韓国における研究成果の紹介、学術交流の場として毎月 1 回第 3 水曜日に「月例研究会」を開催する。
- 8) 翻訳研究会開催:韓国における優れた研究・書籍を翻訳・出版することで、韓国研究への認識を広め、日本における韓国学研究所の基盤形成に貢献するために毎月 1 回第 2 月曜日に「翻訳研究会」を開催する。
- 9) 成果刊行: 2010 年度は以下の刊行物出版を予定している。
  - ・コリア研究センター『2009 年 RiCKKS 次世代フォーラム論文集 3』5 月刊行予定
  - ・コリア研究センター『2010 年 RiCKKS 次世代フォーラム論文集 4』12 月刊行予定
  - ・『コリア研究』第 2 号(特集:「朝鮮半島・日本の歴史理解 - 日本の朝鮮併合 100 年」を予定) 発刊(2011 年 3 月)

## 6 . 学術交流、社会的連携、国際交流について

本センター設立以降、研究を推進するなかで、韓国の主要大学との共同研学術交流および、アメリカ・カナダ・中国の韓国研究者を含めた幅広い学術交流を進めてきた。本年度は、こうした方針に基づき、以下のような交流事業を推進する予定である。

客員研究員の受け入れ

徐程錫(公州大学校)

イ・ゴンジェ(民族問題研究所編纂委)

金哲培(全北大学校)

シン・ジェホン(暎園大学校)

チェ・ジョンギ(全南大学)

波佐場清

戸塚悦郎

RiCKKS 次世代研究者フォーラム開催 (8 月 2 日～8 月 5 日、於立命館大学)

日韓の若手韓国学研究者を集め、ワークショップ形式の学術フォーラムを行う。その成果は、「次世代フォーラム論文集」として刊行する。

海外研究所との学術交流

本年度は、具体的には高麗大学校日本研究センター、東国大学校北韓学研究、慶北大学校韓国僑民研究所との国際学術交流を企画している。

< 社会的連携 >

코리아研究センターでは、設立趣旨の一つである地域社会に開かれたセンターとなることを目指し、韓国学研究の社会還元事業の一環として、本年度は以下のような事業を開催する。

第4回 RiCKS 韓国映画フェスティバル 「ソル・ギョング」(予定)

(11月上旬、立命館大学朱雀キャンパス大講堂)

**7. 研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について**

2009年度第4回運営委員会(09年1月29日実施)で、2010年度4月以降の体制が決定した。新センター長として桂島宣弘教授(文学部長)、副センター長として勝村誠教授(政策科学)および山下高行教授(産業社会)、運営委員に倉田玲准教授(法)が就任した。また、2010年度第1回運営委員会(10年4月19日実施)で、木村一信(前本学文学部教授、現プール学院大学学長)が諮問委員に就任した。また、プログラム推進のためのRA(専任研究員)を2名配置することも決定した。これからは、運営委員会の開催回数の増加などが検討事項である。

**8. 下の学外研究費に申請予定である。**

日本学術振興会「国際研究集会」(4月末日〆切)、韓国国際交流財団「韓国学関連プログラム」(7月下旬)、日本学術振興会科学研究補助金(科研)(10月下旬)、日韓文化交流基金フェロシップ募集(10月下旬)、ジャパン・ファウンデーション「知的交流会議助成」(11月中旬)、日韓文化交流基金「学術定期刊行物助成」「人物交流助成」(1月下旬)、韓国学中央研究院「海外韓国学支援事業」(3月下旬)

**研究所・センター 2009 年度研究活動総括と 2010 年度研究計画について**  
**様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)**

項 目	内 容
2009 年度研究活動実績	以下の各項目の 2009 年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。
	<p align="center">研究所の研究の到達状況</p> <p>2008 年度をもって学内外研究助成を獲得した研究所重点領域プロジェクト研究は全て終了した。2009 年度は研究所にとっての転換期であると考え、最大の目的を「新しい研究構想の種を撒き育て始めること」とし、できるだけ多くの萌芽的研究プロジェクトを創出すことに重点を置いた。</p> <p>2009 年度は、プロジェクト研究として、研究所重点領域である日本人の国際移動研究会、国際日本文化研究理論研究会、国際日本文化研究会、アヴァンギャルド研究会、プロレタリア芸術研究会の 5 プロジェクトが活動を展開した他、研究所独自に行っている萌芽的研究プロジェクトを新しい研究を育てる観点から枠を拡大し、最終的に 6 プロジェクト(ジェンダー研究会、ヴァナキュラー文化研究会、東拓移民の GIS 研究会、ヴィジュアルリティ研究会、空間形成研究会、小笠原歴史研究会)を採択した。従来型の研究所重点領域における研究プロジェクトに加え、新しい研究分野についても開拓を行った。</p>
	<p align="center">学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>国際的公開企画の開催としては下記の通りである。国際日本文化研究会は国際ワークショップやシンポジウムを 3 回開催した。日本人の国際移動研究会は公開シンポジウムを 2 回、国際公開シンポジウムを 1 回開催した。11 月には、アジアの英語教科書コーパスの構築と相互比較の基盤研究プロジェクト(C プロジェクト)と国際言語文化研究所が共催で国際シンポジウム「日本の英語教育のアジアにおける位置づけ(2)ーベトナム、マレーシア、フィリピンから学ぶもの」および小笠原歴史研究会の公開国際シンポジウム「帝国の周辺ー南洋への入り口としての小笠原」を開催した。翌 3 月には、プロレタリア芸術研究会のシンポジウム「プロレタリア芸術とアヴァンギャルド」およびヴァナキュラー文化研究会の「ヴァナキュラー文化研究会は研究会発表会&amp;サイモン・プロナー講演会」を開催した。また、いずれも、今後に資する研究ネットワークの構築ができた。</p> <p align="right">( 別紙「言文研 2009 年度企画一覧」参照 )</p>
	<p align="center">研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</p> <p>運営委員会(14 名)は各プロジェクトの代表・幹事を中心に組織し、年間 5 回の委員会を開催した。また、企画委員会を毎月開き、新所長のサポートおよび研究所企画の立案・検討を行った。本年度は紀要の投稿論文が多く、査読者の選定を編集委員会では行えず、企画委員を招集し選定を行わざるを得なかった。近年増加傾向の投稿論文のほとんどが言語教育関係であるため、来年度の査読者の選定については、過去の運営体制を再度活かし、言語教育センターとの連携をめざし協議を進めてゆく。そのの日常業務は、所長と事務局で毎週打合せを行い進めた。( 別紙「2009 年度の運営体制と研究組織」参照 )</p>
	<p align="center">学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</p> <p><b>学外研究費</b> 科学研究費補助金：基盤研究 A「モダニズムの世界化と亡命・移住・難民化」(西成彦)、基盤研究 A「環太平洋地域における日本人の国際移動に関する学際的研究」(米山裕)、基盤研究 B「アジアの英語教科書コーパスの構築と相互比較：社会・文化的コンテクストと関連させて」(中村純作)、基盤研究 C「ラテンアメリカにおける資格文化の政治学」(崎山政毅)、サントリー財団「語りえない人々の語り」に関する超越的研究」(ウェルズ恵子)</p>

	<p><b>研究成果の刊行</b> 紀要『立命館言語文化研究』を2008年度の国際シンポジウム・プロジェクトの研究報告を中心に21巻1～4号の計4冊を各号約300ページで刊行した。</p>
<p>項 目</p>	<p>内 容</p>
<p>2010年度研究計画</p>	<p>以下の各項目の2009年度の活動実績を踏まえながら2010年度の活動計画について記入して下さい。</p>
	<p>2010年度の研究計画について</p> <p><b>プロジェクト研究</b> 重点領域である日本人の国際移動研究会(基盤研究・R-GIRO研究助成)、2009年度から始まったプロレタリア芸術研究会と今年度から加わった山田美妙プロジェクト研究会の3プロジェクトが活動を展開する他、研究所独自に行っている萌芽的プロジェクト研究の枠を拡大して募集する。具体的には、若手研究者の育成と研究所への参加、後続する新しい研究テーマ発掘のため、本学衣笠総合研究機構所属の研究プロジェクトに所属していないポスドクフェローに申請資格を与える他、学内全教員からも募集する(5件程度採択予定)。</p> <p><b>研究所企画</b> 学内研究助成への申請から展開した「グローバル・ヒストリーズ：国民国家から新たな共同性へ」を今年度からの新・連続講座として11月の4週にわたり開催する予定である。本企画を研究所の各プロジェクトが協働するプロジェクトとして位置づけ、今後多年にわたる「連続講座」として開講し広く社会に公開する。また、各々の講座内容は、書籍シリーズ化を視野に入れ、まずは研究所紀要に特集として掲載する。土曜講座は「在日ノンジャパニーズ日本研究家が見た日本文化」(5月)、「グローバル・ヒストリーズ(仮)」(3月)を担当する。</p> <p><b>研究成果の刊行</b> 「ラテンアメリカのアヴァンギャルド(仮)」を刊行予定である。また、紀要『立命館言語文化研究』は、2009年度のシンポジウムやプロジェクトの研究成果を中心に22巻1～4号の計4冊を刊行予定である。</p>
	<p>学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>ヴァナキュラー研究会で、4月3日に今井新悟(筑波大学)講演会およびワークショップ「グローバリゼーション時代の日本語：その感性と活力」を開催した。ジェンダー研究会では、7月に米山リサ氏(カリフォルニア大学)を招聘し、公開カンファレンスを行う。研究所企画としては、上記の新規連続講座を開催し、海外から研究者を招聘し、新たな学術交流ネットワーク作りをすすめる予定である。</p>
	<p>研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>運営委員会は各プロジェクト代表・幹事を中心に組織し、年に5回程度の委員会を開催する。また企画委員会は昨年度同様毎月招集する。企画委員と編集委員から構成する拡大編集委員会を年に数回開き、査読者の選定を行う。編集委員は、それ以外の紀要の編集と発行に関する実務・協議を行う予定である。日常業務は、所長と事務局で毎週打合せを行い、業務を進める。また、言語教育センターとの連携については引き続き実現に向けて働きかけてゆく。(別紙「2010年度の運営体制と研究組織」参照)</p>
	<p>学外研究費の申請予定等について</p> <p>研究所プロジェクトでは、2010年度科学研究費補助金基盤研究B「バックラッシュ時代の平和構築とジェンダー」(秋林こずえ)が採択された。</p> <p>研究所萌芽的プロジェクト研究は、学内外への研究助成への申請を前提に支援するプロジェクトであるので、それらのプロジェクトでは、申請を行う予定である。現在、三菱財団、サントリー財団、村田記念財団、トヨタ財団をはじめとした民間助成に計5件申請中である。また、それぞれの教員が科学研究費補助金への申請を予定している</p>

分類	開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or報告)	実績数	一般への公開 非公開
国際言語文化研究所	4/13	18:00～20:00	貴司山治研究会(国際日本文化研究会内)	1.日記資料の移管について 2.貴司山治日記の出版について 3.新資料の紹介 4.資料紹介	中川成美(立命館大学) 伊藤共治氏(貴司山治資料所有者) 内藤由直(立命館大学) 和田崇(立命館大学)	学而第2研究会室		14	×
国際言語文化研究所	4/21	15:00～17:30	第1回国際日本文化研究会	若者はだまっとれ?!	講師 米谷 ぶみ子氏(作家) 司会 中川成美(立命館大学)	学而館第2研究会室	20	25	(学内)
国際言語文化研究所	5/6	13:00-18:00	第1回日本人の国際移動研究会	1.プレシンポジウム“紀元2600年海外奉祝”打ち合わせ 2.研究報告“虹田学園におけるアイヌ教育とアメリカ”	1.坂口満宏(京都女子大学) 藤岡由佳(キャスター) 2.宮下敬志(機構PD)	修第5フロ		10	×
国際言語文化研究所	5/16	13:00-18:00	第2回日本人の国際移動研究会	10月シンポジウム第2セッションの報告内容の検討	河原典史(立命館大学) 坂口満宏(京都女子大学) 米山裕(立命館大学)	私学会館204		14	×
国際言語文化研究所	5/25	13:30～17:30	共催 言文研/国際日本文化研究会	国際ワークショップ'文学的 近代の超克 日本研究の新たな視座を求めて'	スピーカー: ハリー・ハルトウーニアン(ニューヨーク大学) 西川 長夫(立命館大学) 鈴木 貞美(国際日本文化研究センター) 酒井 直樹(コーネル大学) ディスカッサント: リヴィア・モネ(モントリオール大学) 司 会: 中川 成美(立命館大学)	末川第3	50 (概算)	30(休校のため本学教員を中心に開催)	×(学内教員・研究員・学外関係者)
国際言語文化研究所	6/5(研究会) 6/6(資料移管)	18:00-20:00	貴司山治資料調査研究会(国際日本文化研究会内)	1.資料の移管 2.貴司山治日記資料出版の企画案について 3.新資料の翻刻について 写本や刊本を翻刻・そのままの形で新に出版すること	中川成美(立命館大学) 伊藤共治氏(貴司山治資料所有者) 内藤由直(立命館大学) 和田崇(立命館大学) 村田裕和(立命館大学)	学而館第2研究会室(6日) 徳島県立文学書道館(6日)		15	×
国際言語文化研究所	6/7	16:00～18:00	第1回ジェンダー研究会	戦後補償訴訟と時効:除斥期間 法的安定性と正義	松本克美(立命館大学法務研究科) コメンテーター・司会: 岡野八代(立命館大学法学部)	創思館405教室	10～15	13	(学内)
国際言語文化研究所	6/12	15:00～17:30	第2回国際日本文化研究会	藤田嗣治から多和田葉子まで 視覚性と旅	スピーカー: Doug Slaymaker氏 (Director, Division of Russian and Eastern Studies Associate Professor of Japanese University of Kentucky) ディスカッサント: 村田 裕和 氏(立命館大学) 司 会: 秋吉 大輔(立命館大学)	末川第2	5	14	(学内)
国際言語文化研究所	6/13	14:00～18:00	立命館明治文学研究会(国際日本文化研究会内)	1. 研究発表 福井辰彦「立命館大学蔵山田美妙旧蔵書について」 大貫俊彦「早稲田大学演劇博物館蔵山田美妙宛て書簡について」 2. 報告 福井辰彦「山田美妙宛渡辺省亭書簡翻刻」 3. 打ち合わせ 今後の研究会方針、翻刻作業についてなど	1. 研究発表 福井辰彦(文学部講師) 大貫俊彦(早稲田大学大学院) 2. 報告 福井辰彦(文学部講師)	創思館412		12	×
国際言語文化研究所	6/13	15:00～	第1回ヴァナキュラー文化研究会	サイバースペースにおける言語教育	講演 清水秀子(コロラド大学ボルダー校主任講師) 司会 西山淳子(言語教育センター)	末川会館第三会議室		18	×
国際言語文化研究所	6/19	13:00-18:00	主催:国際日本文化研究会 共催:立命館大学国際言語文化研究所	上映会&シンポジウム 「三池 終わらない炭鉱(やま)の物語」	部 映画上映 部 講演&討論 熊谷博子(映像ジャーナリスト) 神谷雅子(京都シネマ代表/産業社会学部教授) 池内靖子 兼司会(産業社会学部教授) 部 研究報告 16:20 17:50 1. 友田義行(衣笠総合研究機構ポストドクトラルフェロー) 2. 雨宮幸明(大学院文学研究科博士後期課程) 3. 茶園梨加(九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程) 監督からの応答および質疑応答 中川成美 兼司会(文学部教授) 閉会の挨拶 Charles E. FOX(国際言語文化研究所所長/文学部教授)	創思館1Fカンファレンスルーム	50 (概算)	80	
国際言語文化研究所	6/18		第2回ヴァナキュラー文化研究会	ヴァナキュラー文化のフロンティア	清水秀子(コロラド大学)	学而館		6	×
国際言語文化研究所	6/20	13:00-18:00	第3回日本人の国際移動研究会		飯塚隆藤(立命館大学) 轟博史(APU) 佐藤量(立命館大学RA研究員)	私学会館201		14	×
国際言語文化研究所	6/21	10:00-17:30	女性・戦争・人権学会 第11回大会	今こそ人権回復を求めて 国際人権法と日本軍性奴隷制度	2009年度総会 司会 清木愛砂(島根大学) 自由論題報告:玉城福子(大阪大学大学院) /コメント 秋林こずえ(立命館大学) 大会シンポジウム 「今こそ人権回復を求めて 国際人権法と日本軍性奴隷制度」 司 会 岡野八代(立命館大学) 報告1 戸塚悦郎(龍谷大学) 報告2 阿部浩己(神奈川大学) 報告3 元百合子(大阪大学大学院) コメント 清木愛砂(島根大学) コメントへの応答 質疑応答	末川講義室			

分類	開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or報告)	実績数	一般への公開 非公開
国際言語文化研究所	7/18	13:30-17:00	第1回月例英語教育公開講座	「コーパスを論文作成に利用する方法:単語連鎖に焦点をあてて」 「ことばでめぐる裁判員裁判:法廷言語のコーパス分析」	水本 篤(流通科学大学講師・言語教育情報研究科1期生) 「ことばでめぐる裁判員裁判:法廷言語のコーパス分析」	創思館 443教室		13	(英語教育専門家のみ)
国際言語文化研究所	7/18	13:00-18:00	第4回日本人の国際移動研究会	プレシンポジウム「20世紀に於ける強制退去・強制移住・強制送還等の非自発的移動(仮)」	報告 永田由利子(豪・クイーンズランド大学) レポート 和泉真澄(同志社大学)、坂口満宏(京都女子大学) 司会 米山裕(立命館大学)	私学会館201		14	×
国際言語文化研究所	7/19	10:00-18:00	第5回日本人の国際移動研究会		朴美貞(立命館大学) 物部ひろみ(同志社大学) 山崎有恒(立命館大学) 南川文里(神戸市立大学) 藤田拓之(立命館大学大学院生?)	京都私学会館		11	×
国際言語文化研究所	7/27	15:00-17:00	第3回国際日本文化研究会	「近世の謡曲」	スピーカー: Bonaventura RUPERTI 氏(ヴェネツィア大学) ディスカッション: 赤間 亮 氏(立命館大学) 司会: Osvaldo MERCURI(立命館大学)	学而館第2研究会室		14	
	8/7	15:00-17:30	ヴァナキュラー文化研究会・語りプロジェクト第二回研究会	発表者 佐藤渉(立命館大学法学部准教授) 西山淳子(立命館大学言語教育センター、嘱託講師)	発表者 「現代アポリジナル絵画は何を「語る」のか」 「英語と日本語の時制解釈における推論パターン」	所長室前会議室		5	×
国際言語文化研究所	8/10		第6回日本人の国際移動研究会	プレシンポジウム				10	×
国際言語文化研究所	8/11		主催 日本人の国際移動研究会 国際言語文化研究所	シンポジウム「紀元2600年奉祝行事と在外・日本人」	報告者 東栄一郎(ペンシルバニア大学) 藤岡由佳(キャスター) 清水さゆり(ミシガン州立大学) 司会 米山裕(立命館大学) コメント 坂口満宏(京都女子大学)	キャンパスプラザ京都第2会議室		26	×
国際言語文化研究所	9/3	16:00~	フォークテイル研究会	アンソロジープロジェクト	企画: ウェルズ恵子	修学館言文研所長室前会議室	-	5	×
国際言語文化研究所	9/9-9/10		第7回日本人の国際移動研究会(合宿)			堅田		12	×
国際言語文化研究所	9/19	13:30-17:00	第2回月例英語教育公開講座	1) コーパスと高校の英語授業 2) 小学校英語～必修化対応のための今年度の動きと今後の展望	講師: 山添孝夫(滋賀県立八幡商業高等学校・言語教育情報研究科2期生) 湯川笑子(本学文学部・言語教育情報研究科教授)	創思館 442教室		12	(英語教育専門家のみ)
国際言語文化研究所	10/3	14:00-18:00	立命館明治文学研究会(国際日本文化研究会内)	研究発表 立命館大学蔵『此ぬし』の山田美妙書き入れについて <談話>と<談話体> 山田美妙と『山田都女』の「言文一致」における問題点 山田美妙関係手稿類翻字六点 忍月・紅葉・鈴木茂太	福井辰彦(文学部講師) 大橋崇行(国際基督教大学高等学校) 青田寿美(国文研)	学而館2階第1研究会室		15	×
国際言語文化研究所	10/10-10/11	10月10日(土)13:00-18:00 11日(日)10:00-17:00	主催: 日本人の国際移動研究会、立命館大学国際言語文化研究所、基盤(A)(代表: 米山裕)、学内提案(代表: 河原典史) 協賛: 同時代史学会	国際シンポジウム「環太平洋地域における日本人の国際移動」 International Movement of the Japanese in the Pacific Rim Areas セッション1: 基調報告 セッション2: 太平洋世界の多様性・多元性と日本人の国際移動 セッション3: GISを活用した東洋拓殖移民への空間論的接近 セッション4: 移住先地域から見た環太平洋日本人世界	10月10日 セッション1: 米山裕(立命館大学)「日本人の国際移動と太平洋世界の形成」 セッション2: 清水さゆり(ミシガン州立大学)「バシフィック・ヒストリーにむけて: アメリカにおける研究動向」 坂口満宏(京都女子大学)「誰が移民を送り出したのか?」 河原典史(立命館大学)「太平洋をめぐるニシンと日本人: 第二次世界大戦前のカナダ西岸における塩ニシン製造業」 酒井一臣(大阪大学・研究員)「文明国標準」の南洋観 コメント: 和田光弘(名古屋大学) 10月11日 セッション3: 飯塚隆藤(立命館大学・研究員)「GI」	創思館カンファレンスルーム	60	58(10/10) 60(11/11)	×
国際言語文化研究所	10/17	13:30-17:00	第3回月例英語教育公開講座	1) ESP and Corpus Linguistics—What and Why and How 2) コーパスを活用した英語初級者向けDDL授業の実際と指導効果	講師: Prof. Judy Noguchi(Mukogawa Women's University) 中條清美(日本大学: 准教授)	有心館 443教室		11	(英語教育専門家のみ)
国際言語文化研究所	10/23	17:30-19:00	国際言語文化研究所 萌芽的研究プロジェクト ヴァナキュラー文化研究会/サントリー文化財団研究助成金プロジェクト 「語りえない人々の語り」研究会共催	薩摩琵琶弾き語り「声と弦の記憶」	演奏、講演: 後藤幸浩	アトリサーチセンター多目的室		11	
国際言語文化研究所	10/24	14:00-19:00	ヴィジュアルリティ研究会	「翻訳作業の課題: 実務と書籍の現場から」	企画: 崎山政毅 報告者: 久野量一(法政大学経済学部、准教授)	相思館412号室		7	×

分類	開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or報告)	実績数	一般への 公開 非公開
国際言語文化研究所	11/7	13:00-18:00	主催:科学研究費補助金基盤研究B「アジアの英語教科書コーパスの構築と相互比較」、立命館大学国際言語文化研究所プロジェクトC4 共催:立命館大学大学院言語教育情報研究科	国際シンポジウム「アジアにおける英語教育」日本の英語教育のアジアにおける位置づけ(2) ベトナム、マレーシア、フィリピンから学ぶもの	挨拶 中村純作(立命館大学大学院教授) 講師紹介 朝尾幸次郎(立命館大学教授) 「ベトナムの英語教育の現状と課題」Dr. Van Van Hoang(ベトナム国立大学ハノイ校教授) 5「マレーシアの英語教育の現状と課題」Dr. Saadiyah Darus(マレーシア・ケバンサンン大学教授) 「フィリピンの英語教育の現状と課題」Dr. Jonathan Malicsi(フィリピン大学ディルマン校教授) 「日本の英語教育の現状と課題」山岡 憲史(立命館大学教育開発・支援センター教授)	恒心館3階 730教室	50	35	(英語教育専門家のみ)
国際言語文化研究所	11/7-8	11月7日 13:00-18:15 / 8日 9:00-16:15	小笠原歴史研究会 主催:立命館大学国際言語文化研究所萌芽研究プロジェクト	公開シンポジウム「帝国の周辺 南洋への入り口としての小笠原諸島」	11.7(土) 開会挨拶・趣旨説明 Charles E. FOX(立命館大学国際言語文化研究所長) 1.山上 博信(日本島嶼学会担当理事)コベベじいさんはどうして帰化したのか? 2.Greg Dvorak(学術振興会特別研究員)ミクロネシアの島である小笠原諸島 3.Colin Tyner(U. of California Santa Cruz, Graduate School) Cultivating the Pristine in Post-reversion Ogasawara Islands 4	諒友館 839教室	20	17(11/7) 16(11/8)	
国際言語文化研究所	11/12	16:30-19:00	主催:国際言語文化研究所/国際日本文化研究会	公開講演会「越境する心 朗読と対話の試み」	朗 読:エミネ・セヴギ・エズダマ(作家)/多和田葉子(作家) ワークショップ 司会進行:アン・バラン(立命館大学大学院)/アンドレ・ハーグ(スタンフォード大学大学院)/中川成美(立命館大学)	創思館カンファレンスルーム	40	70	
国際言語文化研究所	11/15		2009年度LEIS英語教育公開講座参加者数					20	
国際言語文化研究所	11/21	14:00-18:00	第8回日本人の国際移動研究会	Kibei Problem: Rethinking the History of Japanese American Internment during WWII 1920年代のロスアンゼルス日本人移民の離婚から見る結婚観	マイケル・ジン(UCSC・院)14時~15時半 藤坂 恭子(京都大学・研)16時~17時半	京都私学会館 2F 204		7	×
国際言語文化研究所	11/21	13:00~16:00	「女性・戦争・人権」学会、ジェンダー研の共催	講演会 なぜ、いま戦後責任を考えるのか? 「ポスト戦後世代」からの問題提起	講演:高橋哲哉(東京大学) 司会:岡野八代 法学部学生研究報告	朱雀203教室		42	(参加費 飼料代として500円)、 学生無料
国際言語文化研究所	11/26	16:00~	フォークテイル研究会	アンソロジープロジェクト	企画:ウェルズ恵子	修学館言文研所長室前会議室		5	×
国際言語文化研究所	11/28	14:00~18:00	第2回ヴィジュアルリティ研究会	「21世紀のボラニー:グローバル経済思想の可能性」	報告者:中山智香子 コメント:山川俊和、崎山政毅	修学館 212号室		7	×
国際言語文化研究所	12/14	16:30~20:00	空間形成研究会	2009年度第2回研究会 「『帝国』の拡大と台湾国立公園 - 1930年代の台湾における「山地」と台湾原住民 -」	企画:高橋秀寿 報告者:松田京子(南山大学)	学而館第1研究会室		11	×
国際言語文化研究所	12/19		2009年度LEIS英語教育公開講座参加者数	生きた英会話を学ぶ 英語DVDの字幕を活用して コーパスに基づくコロケーション研究と言語観の変化-ディスコースの重要性	北尾謙治教授(同志社大学) 梅咲敦子教授(立命館大学)	有心館4F 443教室		15	(英語教育専門家のみ)
国際言語文化研究所	12/26	14:00~18:00	第9回日本人の国際移動研究会	1)「日系人戦時強制収容をめぐる人の移動について」 2)「南米における二世と ニッケイの運動:アルゼンチンを中心に」	1)山倉明弘氏(天理大学) 2)石田智恵氏(立命館大学・院)	京都女子大学京都女子大学 J校舎3階 史学科学生研究室		14	×
国際言語文化研究所	1/11	14:00~19:00	国際日本文化研究会	日本研究理論研究会国際ワークショップ 「越境する心 - 台湾と文学の記憶 -」	スピーカー:フェイ・阮・フリーマン(コロラド大学) コメンテーター:楠井清文(立命館大学PD) ディスカッサント:西成彦(立命館大学) 司会:中川成美(立命館大学)	末川記念会館第2階 講義室	15	7	
国際言語文化研究所	1/16	13:30~17:00	月例 英語教育公開講座	1)Wikiを用いた英語学習コンテンツ開発入門:英文法リファレンスサイト開発を例に 2)学習者コーパスと中間言語研究:アジア圏大学生英作文コーパスCEEAAUSに見る「日本人英語」の姿	1)講師:木村修平非常勤講師(京都女子大学) 2)講師:石川慎一郎准教授(神戸大学)	有心館4F 443教室		11	(英語教育専門家のみ)
国際言語文化研究所	1/21	16:00~	フォークテイル研究会	アンソロジープロジェクト	企画:ウェルズ恵子	学而館		5	×
国際言語文化研究所	1/26	18:00~20:00	貴司山治研究会(国際日本文化研究会内)	貴司山治日記刊行の打ち合わせ及び来年度の活動について	中川成美、村田裕和、伊藤共治	末川記念会館第2階 講義室		10	×

分類	開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or報告)	実績数	一般への 公開 非公開
国際言語文化研究所	3/1-3/2	3/1 13:30-17:00 3/2 10:00-17:00 企画展示 3/211:30-17:00	主催:立命館大学国際言語文化研究所/プロレタリア芸術研究会	シンポジウム「プロレタリア芸術とアヴァンギャルド」 映画上映「プロキノと能勢克男の時代1927-1937 ドキュメンタリーとアヴァンギャルドの越境」 同時開催:企画展示「小型映画の芸術 プロキノと能勢克男の時代1927-1937」 シンポジウム・研究報告 回覧雑誌『密室』の画文共鳴 象徴主義とモダニズムの通路をめぐって 『美術』の進出 人形座にみる大正期新興美術運動の様態 漫画からみるプロレタリア文化運動 自慰と尖端 『マヴォ』とその周囲 首のない体/字面のない活字 印刷術総合運動『死刑宣	3月1日(月) (研究報告) 木股知史(甲南大学 教授) 滝沢恭司(町田市立国際版画美術館 学芸員) 足立元(東京芸術大学 教育研究助手) 野本聡(法政大学中学高等学校 講師) 村田裕和(立命館大学 助教) (ディスカッション) コメンテーター:波瀾剛(九州大学 准教授)司会:村田裕和 3月2日(火) (研究報告) 楠井清文(立命館大学衣笠総合研究機構 ポストドクトラルフェロー) アンドレ・ヘイグ(スタンフォード大学大学院 博士課程) 佐藤洋(早稲田大学大学院 博士課程) 雨宮幸明(立	創思館カンファレンスルーム, 充光館(映画上映時間のみ), 創思館406号(企画展示)	40	52(3/1) 82(3/2)	
国際言語文化研究所	3/10	10:30-20:00	ヴァナキュラー文化研究会	『ヴァナキュラー文化研究会』研究発表会&サイモン・プロナー氏講演会	企画:ウェルズ恵子 ヴァナキュラー文化研究会研究発表会 『1960-1970年代日本のメディアイベントと都市の文化装置をめぐる消費文化の展開』 関口英里(同志社女子大学) 『戦争の記憶:言語化される感情の原景』 田中寛(大東文化大学) 『遊牧民女性の技と記憶:西北アナトリア、ヤー・ジュ・ベディルの事例から』 江川ひかり(明治大学) 『アメリカ音楽のコミュニケーション』 宮下和子(鹿屋体育大学) サイモンプロナー氏講演会 『暴力が遊びか - 日常的な文化分析と日米比較』 講演者:サイモンプロナー コメン	諒有館839(ヴァナキュラー文化研究会、サイモンプロナー氏講演会)、レンストランカルム(後藤氏講演会)		39	
国際言語文化研究所	3/23	13:00	空間形成研究会	空間形成研究会2009年度第3回研究会	『<島嶼ディアスポラ>の系譜』 報告者:石原俊(明治学院大学) 『第一次大戦とアルガス:再考』 報告者:中本真生子(立命館大学) コメント:松田京子(南山大学)、長志珠絵(神戸外国語大学)、高野麻子(一橋大学社会学研究科)	学而館第3研究会室		12	×
国際言語文化研究所	3/23	13:00	第10回日本人の国際移動研究会		『園田節子氏』『南北アメリカ華民と近代中国:19世紀トランスナショナル・マイグレーション』 東京大学出版会、2009年の批評:宮下敬志(立命館大学) 『上述の本へのコメント』園田節子 『(卒論報告)1930年代加州における剣道二世武道教育』野原壽乃	キャンパスプラザ京都第1講習室		15	×

**【運営体制】 年に 4～5 回招集**

所 長： Charles E. FOX (文学部教授)

運営委員会

委員長： Charles E. FOX (文学部教授)

委員： 中川成美 (提案公募研究代表者, 文学部教授)

池内靖子 (産業社会学部教授) 後期のみ

秋林こずえ (提案公募研究代表者, 国際関係学部准教授)

米山 裕 (科研費研究代表者, 文学部教授)

河原典史 (文学部准教授)

西 成彦 (科研費研究代表者, 先端総合学術研究科教授) 前期のみ

梅咲敦子 (政策科学部・言語教育情報研究科教授) 後期のみ

高橋秀寿 (言文研萌芽的プロジェクト研究代表者, 文学部教授)

崎山政毅 (提案公募研究代表者, 文学部教授)

西林孝浩 (文学部准教授)

ウェルズ恵子 (文学部教授)

吉田寛 (先端総合学術研究科准教授)

村田裕和 (提案公募研究代表者, 文学部助教)

事務局 人文社会リサーチオフィス

企画委員会(執行部) 09年度は、月に1回招集

**年間を通しての研究所企画の立案。研究所企画の検討など必要に応じて随時招集**

委員長： Charles E. FOX (文学部教授)

委員： 中川成美 (提案公募研究代表者, 文学部教授)

池内靖子 (産業社会学部教授) 後期のみ

米山 裕 (科研費研究代表者, 文学部教授)

西 成彦 (科研費研究代表者, 先端総合学術研究科教授)

崎山政毅 (提案公募研究代表者, 文学部教授)

秋林こずえ (提案公募研究代表者, 国際関係学部准教授)

編集委員会 **紀要の編集と発行に関する実務・協議。主に紀要各号の編集開始時に招集**

委員長： Charles E. FOX (文学部教授)

委員： 西林孝浩 (文学部人文総合インスティテュート教授)

ウェルズ恵子 (文学部教授)

村田裕和 (提案公募研究代表者, 文学部助教)

**土曜講座等企画運営委員会の委員は所長が兼任する。**

2009年度は 7月(中川先生)と 2月いずれか(Fox先生)を担当。

**国際言語文化研究所図書選定委員は、図書予算の削減とともに廃止とした。**

図書選定は、運営委員会にて審議する。

## 【研究組織】

## A プロジェクト

- ・学内研究支援制度によるプロジェクト研究（09年度までの「学内提案公募型研究推進プログラム「基盤的研究」」および09年度からの「研究推進プログラム「基盤研究」」による研究プロジェクト）

## B プロジェクト

- ・言文研萌芽的プロジェクト研究（研究所独自の支援プロジェクト。次年度の学内外研究費申請のために研究所にて支援するプロジェクト）

## C プロジェクト

- ・科学研究費補助金による研究プロジェクト。

## 各プロジェクトの代表者および幹事

## A プロジェクト

A1：「日本人の国際移動研究会」：米山裕

A2：「国際日本文化研究理論研究会」：中川成美

A3：「国際日本文化研究会」：中川成美

A4：「アヴァンギャルド研究会」：崎山政毅

A5：「萩原恭次郎の芸術における身体性・視覚性に関する総合的研究」：村田裕和

## B プロジェクト申請予定者

B1：池内靖子「多角的なジェンダーの視点による正義概念の再構築をめざす研究」

B2：ウェルズ恵子「ヴァナキュラー文化のフロンティア：英語ネットワーク世界と日本」

B3：梅咲敦子「日英対照による話し言葉の実証的研究のための大学口語日本語コーパス」

B4：河原典史「GISを活用した植民地期朝鮮における東洋拓殖移民への空間論的接近」

B5：崎山先生「ヴィジュアルリティの脱植民地化の可能性 ラテンアメリカを事例に」

B6：高橋秀寿「グローバリゼーションと植民地主義の観点からの空間形成の歴史的分析」

B7：Charles FOX「近現代日本と小笠原諸島

Modern and Contemporary Japan and the Ogasawara (Bonin) Islands」

Dumouchel 先生 or 他の先生（未定）

## C プロジェクト

C1：西 成彦

C2：中村純作

プロジェクトは、研究所の重点領域の研究を中心に受け入れている。各プロジェクトは、研究所の活動サポートと研究成果発表の場(研究所紀要への成果の発表)を得ることが出来る。

網掛け：執行しなかったプロジェクト。

**【運営体制】 年に4～5回招集**

所 長： Charles FOX（文学部教授）

運営委員会

委員長： Charles FOX（文学部教授）

委 員： 中川成美（文学部教授）

西成彦（先端総合学術研究科教授）

池内靖子（産業社会学部教授）

米山裕（文学部教授） 後期のみ

河原典史（文学部准教授）

高橋秀寿（文学部教授）

崎山政毅（文学部教授）

秋林こずえ（国際関係学部准教授） 後期のみ

ウェルズ恵子（文学部教授）

西林孝浩（文学部准教授） 後期のみ

吉田寛（先端総合学術研究科准教授）

村田裕和（文学部助教）

田浦秀幸（言語教育情報研究科教授）

永橋為介（産業社会学部准教授）

南川文里（国際関係学部） 計16名

事務局 人文社会リサーチオフィス

企画委員会(執行部) 2010年度もなるべく毎月招集

年間を通しての研究所企画の立案。研究所企画の検討など必要に応じて随時招集

委員長： Charles FOX（文学部教授）

委 員： 中川成美（提案公募研究代表者，文学部教授）

池内靖子（産業社会学部教授）

米山 裕（科研費研究代表者，文学部教授） 後期のみ

西 成彦（科研費研究代表者，先端総合学術研究科教授）

崎山政毅（提案公募研究代表者，文学部教授）

秋林こずえ（提案公募研究代表者，国際関係学部准教授） 後期のみ

編集委員会 紀要の編集と発行に関する実務・協議。主に紀要各号の編集開始時に招集

委員長： Charles FOX（文学部教授）

委 員： ウェルズ恵子（文学部教授）

村田裕和（文学部助教）

中村純作（言語教育情報研究科

Lachlan JACKSON（ロックラン ジャクソン）(法学部)

土曜講座等企画運営委員会の委員は所長が兼任する。

2010年度は、5月(Fox) 3月グローバル・ヒストリーズ(崎山)。

国際言語文化研究所図書選定委員は、図書予算の削減とともに廃止とした。

図書選定は、運営委員会にて審議する。

### 【研究組織】

#### Aプロジェクト

- ・学内研究支援制度によるプロジェクト研究

#### Bプロジェクト

- ・言文研萌芽的プロジェクト研究(研究所独自の支援プロジェクト。次年度の学内外研究費申請のために研究所にて支援するプロジェクト)

#### Cプロジェクト

- ・科学研究費補助金による研究プロジェクト。

#### 各プロジェクトの代表者および幹事

##### Aプロジェクト

- A1: 米山裕(基盤研究)日本人の国際移動研究会
- A2: 米山裕(R-Giro)日本人の国際移動研究会
- A3: 中川成美(基盤研究)山田美妙プロジェクト研究
- A4: 村田裕和(基盤研究)プロレタリア芸術研究会

##### Bプロジェクト申請予定者

- B1: 崎山政毅 ヴィジュアルリティ研究会(継続)
- B2: B3: B4: B5:(募集中)

##### Cプロジェクト

- 調整中C1: ジェンダー研究会(秋林こずえ+池内靖子)

プロジェクトは、研究所の重点領域の研究を中心に受け入れている。各プロジェクトは、研究所の活動サポートと研究成果発表の場(研究所紀要への成果の発表)を得ることが出来る。

**研究所・センター 2009 年度研究活動総括と 2010 年度研究計画について**  
**様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)**

項 目	内 容
2009 年度研究活動実績	以下の各項目の 2009 年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。
	<p align="center">研究所の研究の到達状況</p> <p>2009 年度は、オープン・リサーチ・センター整備事業「臨床人間科学の構築 - 対人援助のための人間環境デザイン」(2005-2009) の最終年度にあたり、「対人援助」というテーマに関する共同研究としての総括と、今後、さらに当研究所が学部やキャンパスを超えて、「人間科学」という大きな枠組みのもとに、新しい融合的テーマのインキュベーターとしての機能を果たすべく、どのような方針を目指すかが模索された年であった。加えて、4 年目を迎えた GCOE プログラム「生存学」創成拠点に関する研究・運営が人間科学研究所の二大事業であった(これについては別途センターの総括を参照のこと)。</p> <p>オープン・リサーチ・センター整備事業に関しては、今年度、学術論文約 30 編、学会発表 40 編、単行本 22 編が発表され、また全体総括として、12 月に学外の研究者も交え、衣笠、BKC、APU の 3 キャンパスから 16 のプロジェクトメンバーによる報告会が行われた。「対人援助学」の総括的業績としては、昨年度(2009 年 3 月)に刊行された「対人援助学キーワード集」(晃洋書店)に続き、「対人援助学の可能性」(福村書店)が刊行された。また当事業の外国語発信としてこれまでの代表的研究を英文で紹介する Collected Papers from Human Services Research が、Ritsumeikan Human Service Research 20 として刊行された。</p> <p>また、「対人援助」(Human Services) についての方法論や地域連携等についての議論を社会公開・実装するという当初の目標を、2009 年 11 月 6 日に「第一回日本対人援助学会」を立命館大学において発会することによって達成することができた。</p>
	<p align="center">学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>対人援助(Human Services)に関わる幅広い学術・人事交流が、発達障害、障害者就労支援、男性介護、高齢者、患者などの領域において、連携的サービスの実現に向けて、医療生協、京都府・市の教育委員会、あるいは NPO や福祉施設との協働作業のもとに行われた。国際交流においては、当研究所のプロジェクトを軸とした、アジア・アフリカ学術基盤形成事業セミナー、JICA とも連携した自閉症児への包括支援のための海外実践や会議が行われた。</p>
	<p align="center">研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</p> <p>ヒューマンサービスリサーチセンターと GCOE プログラム採択拠点である生存学研究センターのふたつの大きなプロジェクト組織を擁してきた。いずれも定期的に運営委員会および執行部会によって総括・展望が行われた。また、当研究所でのプロジェクトからの派生的なプロジェクトも R-GIRO(2009~2010 で計 3 件)にも採択されている。</p>
	<p align="center">学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</p> <p>厚生労働省、舞鶴市、科学技術振興機構(JST)・社会技術研究開発センター(RISTEX)、(独)日本学術振興会よりの受託研究、日本生活協同組合連合会医療部会、(株)公文教育研究会、(株)オリエントコーポレーションからの奨学寄附研究、(財)京都市ユースサービス協会との学外共同研究などによる学外研究費を得ている。研究成果は「人間科学研究」2 巻が発行され、また「ヒューマンサービスリサーチ」は 6 冊刊行され、いずれも HP 上で公開している。その他の出版物については を参照のこと。</p>

項 目	内 容
2010 年度研究計画	以下の各項目の 2009 年度の活動実績を踏まえながら 2010 年度の活動計画について記入して下さい。
	<p data-bbox="464 427 791 454">2010 年度の研究計画について</p> <p data-bbox="416 506 1369 725">人間研は、2001 年から 2009 年度まで、10 年にわたり学術フロンティア推進事業およびオープン・リサーチ・センター整備事業によって、対人援助を主たるテーマとすることで、基礎と応用、あるいはミクロな個人からマクロな制度にいたるまで、衣笠、BKC、APU というキャンパスを越えた研究交流や共同研究の可能性を検証、実現してきたといえる。また学内に限らず、地域連携や国際交流に関しても、既存学部や学範を超えた新たな研究さらには教学活動にも少なからず影響を与えたと考えられる。</p> <p data-bbox="416 734 1369 1115">2010 年度は、そうした研究・実践の実績や人的ネットワークを生かしつつ、新しい展開を想定している。そのコアとなるプロジェクトとして、平成 22 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「(プロジェクト名) 大学を模擬社会空間とした自立支援のための持続的対人援助モデルの構築」(研究テーマ名) 大学をアクティブなシミュレーションの場とした高齢者・障害者への対人援助の実証的研究」に申請し 4 月中旬に採択が決定している。このプロジェクトは、従来人間科学研究所における基幹プロジェクトの後継事業と位置づけられるものであり、すでに学部を超えた多数の研究者が参加を予定している。人間科学研究所が、立命館大学と地域の中の新しい地域資源(情動的、人的、物理的)として、現況の社会から先行した共生社会の実現のための積極的試みを、基礎から応用にわたる総合力を動員した提案として発信していく予定である。</p>
	<p data-bbox="464 1167 922 1193">学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p data-bbox="416 1202 1369 1464">でも示したように、学術、社会的連携が、プロジェクト推進のキーワードとなる。すでに上記のプロジェクトを前提とした行政や教育機関との連携のための計画が多数行われているが、地域的特性を活かしつつもそこで示される方法論のモデルは、広く国際的にとりわけアジア諸国に、単に情報レベルではなく協働的な試みとして展開していく予定である。また、研究成果については、対人援助学会をはじめ、国内・国際の学会において発信すると同時に、「人間科学研究」など研究所定期刊行物において HP による Web 公開を含め引き続き遅滞なく行う予定である。</p>
	<p data-bbox="464 1480 1310 1507">研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p data-bbox="416 1559 1369 1700">2010 年度の前期に、上記のプロジェクトの具体的な展開について、向こう 3 年間の全体計画および研究分担の概略を計画する予定である。学内の中・長期研究高度化政策にも呼応しつつ、安定的な研究活動の確保にむけて組織の見直しや運営方法について検討していく。</p>
	<p data-bbox="464 1749 826 1776">学外研究費の申請予定等について</p> <p data-bbox="416 1785 1369 1895">すでに関連する研究者の科学研究費をはじめ民間を含めた研究資金の申請を促進するが、学習科学をキーコンセプトとする人間科学系の新学部構想など、教学との連携をも含め、新たなファンド獲得の可能性を追求する。</p>

開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or報告)	実績数	公開 非公開 ×
4/4	14:00~16:30	第15回 TOFFセミナー	共に語る不妊 ~古くて新しい家族のテーマ~	本学衣笠総合研究機構客員研究員 荒木晃子 他	立命館アカデミア 大阪	14	10	
4/25	13:00~17:00	F S J G	ひきこもりを考える	衣笠総合研究機構 客員研究員 上田陽子	クレオ東	10	6	
5/16	13:00~16:30	公開講座シネマで学ぶ 「人間と社会の現在」	映画「lifers」	映画監督 坂上香 本学先端総合学術研究科 教授 立岩真也	朱雀大講義室	300	102	
5/23	14:00~16:00	男性介護研究会	家族介護者支援の課題	岡山大学大学院保健学研究科 助教 生田由加利	学術館第2研究会室	30	45	
5/24	13:00~17:00	F S J G	ひきこもり青年の社会参加を考える 会	衣笠総合研究機構 客員研究員 上田陽子	クレオ東	10	8	
5/30	13:00~17:00	TOFF研究会		衣笠総合研究機構 客員研究員 荒木晃子	立命館アカデミア 大阪	10	中止	
5/30	9:00~11:00	DAISY研修会	多文化共生に向けたDAISYテキスト の可能性	国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所 特別研究員 河村 宏	学術館第1研究会室	30	20	
6/2	08:00~17:10	アジア・アフリカ学術基盤形成 事業セミナー	東アジアの発達障害児のための治療 教育プログラム開発	本学人間科学研究所 ベトナムプロジェクト 中原一 精 本学先端総合学術研究科 教授 中村隆一 本学社会学研究科 院生 張鋭 本学産業社会学部 教授 荒木穂積 ハノイ師範大学 教授 Nguyen Thi Hoang Yen ハノイ師範大学 Nguyen Tuyet Mai 国立教育大学 Nguyen Thi Phuong Dung	ハノイ師範大学	100	87	
6/5	13:00~16:30	ひきこもり家族支援研修 会	3回連続講座第1回 「家のなかでの行動分析的対応」		立命館アカデミア 大阪	20	12	
6/12	13:00~16:30	ひきこもり家族支援研修 会	3回連続講座第2回 「家のなかでの行動分析的対応」		立命館アカデミア 大阪	20	10	
6/13	13:00~16:30	公開講座シネマで学ぶ 「人間と社会の現在」	映画「休暇」	本学法科大学院 教授 上田寛 本学文学部 教授 望月昭	朱雀大講義室	300	117	
6/19	13:00~16:30	ひきこもり家族支援研修 会	3回連続講座第3回 「家のなかでの行動分析的対応」		立命館アカデミア 大阪	20	10	
7/18	13:00~16:30	公開講座シネマで学ぶ 「人間と社会の現在」	映画「カナリア」	弁護士 佐賀千恵美 本学産業社会学部 教授 中村正	朱雀大講義室	300	110	
7/18	13:00~14:30	男性介護研究会第3回	男性介護者取材の舞台裏	NHK京都放送局 制作ディレクター 山口健一 郎	衣学館3号教室	30	25	
7/25	14:00~16:00	男性介護研究会第4回	男性介護者を支援する「となりの かいご」の取り組み	「となりのかいご」代表 川内 潤	学術館第2研究会室	30	30	
7/26	12:00~20:00	京都シンポジウム	「ジャスティス・クライアント(Justice Client) への臨床・福祉的アプローチ」	本学文学部 教授 廣井亮一 福島大学 生島浩 ノルダム大学 藤川洋子	カンファレンス	150	300	
7/30	15:00~17:30	ユースワーカー養成研究会		産業社会学部 教授 中村 正 産業社会学部 教授 遠藤 保子 産業社会学部 教授 野田 正人 京都市ユースサービス協会 水野 篤夫 京都市ユースサービス協会 大場 孝弘 京都市ユースサービス協会 松山 廉	キャンパスプラザ京都	30	20	
8/26	17:15~18:15	日本心理学会	21世紀を担う子どもを育てる	アグネス・チャン(歌手・エッセイスト・教育学博士)	以学館1号ホール	250	200	
9/21	11:00~16:00	ひらめき ときめきサイエ ンス	さまざまな困難をのりこえるための 家族・仲間の大切さ-患者さんから 学ぶ	佐藤達哉(立命館大学文学部教授)	創思館303・304	20	19	
9/26	11:00~15:30	男性介護研究会	創造! 提言! 男の介護環境 こうしたい! こうあって欲しい!	津止 正敏(本学産業社会学部教授)	研心館632号教室	150	95	
10/12	14:00~17:40	ガーゲン先生ご夫妻 講演 会		佐藤達哉(立命館大学文学部教授)	カンファレンス	150		
10/28	16:00~19:30	フィリップ・ワロン先生、ク ロード・メスマン先生講演会	「発達障害(自閉症、LD、ADHD等) とコンピュータ利用によるその診 断」 「女性の名において フランスにお	フィリップ・ワロン(フランス国立健康医学研究所) クロード・メスマン(移民家族臨床支援センター)	創思館カンファレ ンス	150	80	
11/7	13:30~15:00	対人援助学会	連携に向けたプラットフォームの創 造	白井正樹(神奈川県立保健福祉大学) 桑園英俊(桑の実工房) 居内 学(京都市) 荒木晃子(内田クリニック・岡田医院) サトウタツヤ(本学文学部教授) 望月 昭(本学文学部教授) 中村 正(本学産業社会学部教授) 岡 土郎(本学応用人間科学研究科教授) 朝野 浩(本学教育開発推進機構教授) 村本邦子(本学応用人間科学研究科教授)	創思館カンファレ ンス	150	100	
11/14	13:30~16:30	公開講座シネマで学ぶ	映画「ゆれる」	斎藤 真緒(本学産業社会学部教授) 神谷 雅子(本学産業社会学部教授・京都シネ マ代表)	朱雀講義室	300	100	
11/16~ 19		アジア・アフリカ学術基盤形 成事業	International Joint Reserch in IEP for Children with Developmental Dis order in the East Asia	竹内謙彰(本学産業社会学部教授) 荒井庸子(本学社会学研究科院生) Tran Thu Ha(ハノイホープセンター) Nguyen Thi Hoang Yen(ハノイ師範大学) Ye Hao Sheng Huang Xin Yin	ハノイ師範大学	100	50	
11/18	16:30~18:30	メアリー・ハーベイ博士講演 会	暴力被害の声に耳を傾ける	メアリー・ハーベイ(ハーバード大学医学部臨床 心理学准教授)	創思館401・402	40	30	
11/21	13:30~16:00	男性介護研究会	家族介護者支援の論理と課題他	斎藤 真緒(本学産業社会学部教授)	学術館第2研究会 室	30	28	
12/6	13:30~16:00	「認知症を知り地域をつくる」 キャンペーン 本人ネット ワーク支援事業実践報告会	認知症の人の社会参加を考える	津止 正敏(本学産業社会学部教授)	以学館1号ホール	200	120	
12/6	10:00~17:00	立命館大学特別公開シンポ ジウム	高機能自閉症・アスペルガー症候 群の学童期・思春期の発達特徴と 教育的支援	荒木穂積(本学産業社会学部教授) 竹内謙彰(本学産業社会学部教授)	末川記念会館1階 講義室	150	160	
12/12	11:00~16:00	男性介護研究会	ワークショップ(第2回徹底討論) 創造! 提言! 男の介護環境 こうしたい! こうあって欲しい!	本学産業社会学部津止ゼミナール3回生	敬学館2階250号	200	120	

開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or報告)	実績数	公開 非公開 ×
12/12	13:00～17:30	報告会	オープン・リサーチ・センター整備事業「臨床人間科学の構築」成果報告会	望月 昭(本学文学部・教授) 中村 正(本学産業社会学部・教授) サトウタツヤ(本学文学部・教授) 松田 亮三(本学産業社会学部・教授) 東山 篤規(本学文学部・教授) 中川 吉晴(本学文学部・教授) 櫻谷 真理子(本学産業社会学部・教授) 齋藤 真緒(本学産業社会学部・准教授) 小澤 亘(本学産業社会学部・教授) 吉田 甫(本学文学部・教授) 星野 祐司(本学文学部・教授) 武藤 崇(本学文学部・准教授) 野田 正人(本学産業社会学部・教授) 陳 延偉(本学情報理工学部・教授) 荒木 穂積(本学産業社会学部・教授)	創思館カンファレンスルーム	150	63	
12/19	13:00～16:30	公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」	映画「トウキョウソナタ」	望月昭(本学文学部・応用人間科学研究科教授) 中村正(本学産業社会学部・応用人間科学研究科)	朱雀大講義室	300	115	
2/13・14	13日13:30～16:00 14日10:00～12:00	第8回男性介護研究会	当事者が集う/語る「場」の思想と技術 -男性介護者の交流現場からの問題提起-	望月 裕子(当事者団体長野シルバーバック 代表) 宗利 勝之(当事者団体長野シルバーバック 事務局長) 松村 美枝子(当事者団体東京・荒川オヤジの会 役員) 芦田 豊美(社団法人認知症の人と家族の会京都支部 役員) 西山 良孝(NPO法人スマイルウェイ 理事長) 浅井 さかえ(京都府南丹市社会福祉協議会 主事) 三村 恭子(京都府南丹市社会福祉協議会 主事) 西野 玲子(当事者団体豊中市老人介護者(家族)の会 役員) 吉原 英男(当事者団体大東市在宅介護で学会 役員) 牧野 史子(NPO法人介護者サポートネットワークセンターアラジン 理事長) 中島 由利子(NPO法人介護者サポートネットワークセンターアラジン 事務局長) 平山 亮(米国オレゴン州立大学院 RA) 手島 洋(県立広島大学) 秋田 範子(男性介護ネットワーク事務局) 秦 易子(男性介護ネットワーク事務局) 津止 正敏(本学産業社会学部 教授) 斎藤 真緒(本学産業社会学部 准教授)	研心館632 学術館第2研究会室	100	60	13日 14日 ×
2/21		放課後保証全国連絡会			敬学館230・242・243・244	100	60	
2/27	14:00～17:30	科学の視点で学ぶ	科学の視点で学ぶ「手話」～人とつながりあえる社会のために	吉岡 昌子(本学文学部 助手) 神田 和幸(中京大学国際教養学部 教授)	研心館632	150	17	
2/27	13:00～16:30	公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」	映画「チョコラ！」	小林茂(映画監督) 林達雄(本学特別招聘教授・アフリカ日本協議会代表)	朱雀大講義室	300	93	
3/6	13:00～16:30	男性介護研究会	国際比較男性介護者シンポジウム	斎藤 真緒(本学産業社会学部准教授) 湯原(加藤) 悦子(日本福祉大学) 平山 亮(オレゴン州立大学) 津止 正敏(本学産業社会学部 教授)	創思館カンファレンス	150	62	
3/7	11:00～16:00	男性介護ネット記念講演会	男たちの介護体験	長門 裕之(俳優)	創思館カンファレンス 研心館4号ホール	150	142	
3/13	13:00～16:30	公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」	映画「海とお月さまたち」	土本基子(土本典昭監督夫人) 栗原彬(本学特別招聘教授)	朱雀大講義室	300	47	

## 2009年度の研究発表の状況

## &lt; 雑誌論文 &gt;

著者名	論文標題			
Higashiyama Atsuki, Koga kazuo	Perceived self-tilt in dynamic visual stimuli: Evidence for suppression by vestibulo-tactile			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
Perception	有	38	平成21年	281-291
著者名	論文標題			
Higashiyama Atsuki, Koga kazuo	Perceived range, perceived velocity, and perceived duration of the body rolling in the frontal			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
Attention, Perception, & Psychophysics	有	71	平成21年	104-115
著者名	論文標題			
Kuriki Ichiro, Ashida Hiroshi, Murakami Ikuya, Kitaoka Akiyoshi	Functional brain imaging of the Rotating Snakes illusion by fMRI.			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
Journal of Vision	有	8(10):16	平成21年	1-10
著者名	論文標題			
吉田甫・玉井智・大川一郎・土田宣明・田島信元・川島隆太・泰羅雅登・杉本幸司	音読と簡単な計算の遂行による介入が認知症高齢者の日常生活動作におよぼす影響			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
立命館人間科学研究	有	18	平成21年	23-32
著者名	論文標題			
孫琴・吉田甫	高齢者における抑制機能に関する研究 同一性ベースと場所ベースの抑制機能を中心にし			
著者名	論文標題			
孫琴・吉田甫・大川一郎・土田宣明	健康高齢者の抑制機能および関連する認知機能に関する研究: 日本と中国における比較研			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
立命館人間科学研究	有	19	平成21年	103-110
著者名	論文標題			
Yen-Wei Chen, Shota Sobue, Xinyin	KANSEI based Clothing Fabric Image Retrieval			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
Lecture Notes in Computer Science	有	5646	平成21年	71-80
著者名	論文標題			
Xinyin Huang, Shouta Sobue, Tomoki Kanda, Yen-Wei Chen	Mapping Functions Between Image Color Features and KANSEI			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
Information	有	12	平成21年	137-146
著者名	論文標題			
Xinyin Huang, Yan Zhang, Aibing Xu, Hisashi Kawabayashi, Yen-Wei Chen	A Research on Social Anxiety Individuals Emotion Recognition Using IEC			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
Proc. of the 2009 Fifth International Conference on Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal Processing	有	-	平成21年	1213-1216
著者名	論文標題			
Xinyin Huang, Xiaocui Xu	A Case Study on Influence of Teacher's Emotion on Training of Autistic Children			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
Chinese Journal of Special Education	有	8	平成21年	44-49
著者名	論文標題			
Takuma Terada, Takayuki Fukui, Takanori Igarashi, Keisuke Nakao, Akio Kashimoto, Yen-Wei Chen	Automatic Facial Image Manipulation system and Facial Texture Analysis			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
Prof. of 2009 Fifth International Conference on Natural Computation	有	-	平成21年	8-12

著者名	論文標題			
春日井敏之	親と教師の協同関係を築く - 子どもの願いを重ねながら			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
季刊ひろば	無	158	平成21年	25-30
著者名	論文標題			
春日井敏之	集団活動とピア・サポート活動 - 学校教育における可能性			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
現代のエスプリ	無	502	平成21年	73-82
著者名	論文標題			
春日井敏之	大学におけるサポート活動 - 新入生支援、インターンシップ、授業の試み			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
現代のエスプリ	無	502	平成21年	130-139
著者名	論文標題			
春日井敏之	座談会「教育実践を読む - 子ども・教師・学校に人間的つながりを」			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
教育	無	756	平成21年	84-114
著者名	論文標題			
春日井敏之	子どもの生きづらさと親の生きづらさ - 「かあちゃん、本当にぼくでいいの？」			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
生活教育	無	731	平成21年	60-67
著者名	論文標題			
櫻谷眞理子	イギリスの児童保護の現状と課題			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
立命館産業社会論集	有	45(1)	平成21年	35-51
著者名	論文標題			
櫻谷眞理子	子どもたちの『困った行動』の理解と援助			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
季刊ひろば	無	159	平成21年	4-9
著者名	論文標題			
竹内謙彰	学童期における認知発達の特徴 - 9, 10歳の発達の節目に焦点を当てて -			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
立命館人間科学研究	有	18	平成21年	77-86
著者名	論文標題			
前田明日香・荒井庸子・井上洋平・張鋭・荒木美知子・荒木穂積・竹内謙彰	自閉症スペクトラム児と親の支援に関する調査研究 親のアンケート調査から			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
立命館人間科学研究	有	19	平成21年	29-41
著者名	論文標題			
中村正	男性のためのグループワーク - DV加害男性、虐待親、性犯罪者たちとのセッションの経験か			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
集団精神療法	有	25(1)	平成21年	32-40
著者名	論文標題			
荒木晃子	不妊心理をめぐる『生殖と医療』の援助臨床実践報告～サイレントマイノリティの社会化～			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
立命館人間科学研究	有	18	平成21年	63 - 75
著者名	論文標題			
荒木晃子	不妊現象の構造化と臨床社会的概念に関する考察～不妊と個・家族・社会～			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
立命館人間科学研究	有	19	平成21年	121 - 132
著者名	論文標題			
日高友郎・水月昭道・サトウタツヤ・松原洋子	ALS患者の生活現場における技術や知識の検討 ピア・サポート事例のフィールドワークから			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
立命館人間科学研究	有	18	平成21年	33-47
著者名	論文標題			
津止正敏	家族介護者支援のリアリティ - 男性介護者研究からの提言 -			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
高齢者虐待防止研究	無	5(1)	平成21年	32-38
著者名	論文標題			
津止正敏	介護で孤立しないネットワークづくり - 男性介護者の介護実態と支援実践から -			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
地方自治職員研修	無	591	平成21年	17-19
著者名	論文標題			
津止正敏・長崎圭子	動き出した男性介護者ネットワーク			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
NHK社会福祉セミナー	無	75(22)	平成21年	130-133

著者名	論文標題			
中川吉晴	スピリチュアリティと今日のヒューマンサービス			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
宗教研究(日本宗教学会 第67回学術大会紀要特集)	無	82/359 (4)	平成21年	144-145
著者名	論文標題			
中川吉晴	よりインテグラルな心理療法を求めて			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
立命館心理・教育相談センター年報	無	8	平成21年	印刷中
著者名	論文標題			
佐藤文紀・星野祐司	展望的記憶の意図優位性効果における遂行意図を付与する教示の効果			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
認知心理学研究	有	6	平成21年	109-121
著者名	論文標題			
池田沙織・望月昭	視覚障害者のパソコン操作における晴眼者との共用マニュアルの効果			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
立命館人間科学研究	有	18	平成21年	87-97
著者名	論文標題			
吉岡昌子	自己記録を用いた文字通訳スキルの訓練 - 行動変容と自己の言語化の機能的関係についての検討 -			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
通訳翻訳研究	有	8	平成21年	133-150
著者名	論文標題			
Roger Vilardaga, Steve.C.Hayes, Michel Levin, MutoTakashi	Creating a strategy for progress: A contextual behavioral science approach			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
The Behavior Analyst	有	32(1)	平成21年	105-133
著者名	論文標題			
松島京	妊娠・出産期のドメスティック・バイオレンスとは～セクシュアル・ヘルス/ライツの課題として捉えるために～			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
近大姫路大学教育学部紀要	有	創刊号	平成21年	29-38
著者名	論文標題			
松島京	医療現場における子ども・女性の人権保障～妊娠・出産期からの子育て支援の必要性			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
財団法人兵庫県人権啓発協会研究紀要	有	10	平成21年	3-17
著者名	論文標題			
野田正人	スクールソーシャルワーカーって何者？			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
月刊生徒指導	無	2009年6 月号	平成21年	10-13
著者名	論文標題			
斎藤真緒	日本における男性介護者支援の課題「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」の取り組みから			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
生活協同組合研究	無	403	平成21年	41-48
著者名	論文標題			
斎藤真緒	男が介護するということ-家族・ケア・ジェンダーのインターフェイス			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
立命館大学産業社会論集	有	45(1)	平成21年	171-185
著者名	論文標題			
Junya Tsutsui, Koh Chi-Young	Male Selection in Korea and Japan: Facts and Future Reserch Agenda.			
雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
Ritsumeikan Social Sciences Review	有	44(4)	平成21年	49-66

## &lt; 学会発表 &gt;

発表者名	発表標題		
吉岡昌子	障害学生支援のユニバーサルな展開に向けて 行動分析学に基づく実証的検討と今後の課題		
学会名	開催地	発表年月	
日本心理学会第 73 回大会	立命館大学	平成 21 年 8 月	
発表者名	発表標題		
吉岡昌子・二階堂祐子	教員への配慮依頼が障害学生支援の活動に及ぼす影響 - 模擬講義場面における予備的検討		
学会名	開催地	発表年月	
日本特殊教育学会第 47 回大会	宇都宮大学	平成 21 年 9 月	
発表者名	発表標題		
林炫廷・望月 昭・丹生卓也・稲生ゆみ子	総合支援学校に通う生徒における報告言語行動の増大に関する写真の効果		
学会名	開催地	発表年月	
日本行動分析学会第 27 回大会	筑波大学	平成 21 年 7 月	
発表者名	発表標題		
鈴木史織・望月昭	障害を持つ子どもに対する学業マネジメント・スキル形成の支援		
学会名	開催地	発表年月	
日本行動分析学会第 27 回大会	筑波大学	平成 21 年 7 月	
発表者名	発表標題		
杉島恵里子・望月昭・中鹿直樹	就労場面における知的障害者の作業記録の自立に向けた支援 - 支援ツールとしての時間計算定規と記録表の効果		
学会名	開催地	発表年月	
日本行動分析学会第 27 回大会	筑波大学	平成 21 年 7 月	
発表者名	発表標題		
山下 藍・木田 聡・丹生卓也・稲生ゆみ子・望月昭	総合支援学校に通う生徒を対象にした自己確認記録表を用いたセルフ・マネジメント・スキルの獲得 自己の即時的な確認記録が自立的作業遂行に及ぼす効果の検討		
学会名	開催地	発表年月	
日本行動分析学会第 27 回大会	筑波大学	平成 21 年 7 月	
発表者名	発表標題		
川村徹也・田中晶子・小野利恵子・稲生ゆみ子・丹生卓也・望月昭	PECS を用いた児童間のコミュニケーションの促進		
学会名	開催地	発表年月	
日本行動分析学会第 27 回大会	筑波大学	平成 21 年 7 月	
発表者名	発表標題		
松島京	妊娠・出産期のドメスティック・バイオレンス～医療現場における被害者支援と予防に向けて～		

学会名	開催地	発表年月
第 35 回日本保健医療社会学会大会	熊本大学	平成 21 年 5 月
発表者名	発表標題	
北岡明佳	遠近法的錯視を考える	
学会名	開催地	発表年月
日本心理学会第 73 回大会	立命館大学	平成 21 年 8 月
発表者名	発表標題	
尾田政臣	横向き矢印の認知	
学会名	開催地	発表年月
日本認知心理学会第 7 回大会	新座	平成 21 年 7 月
発表者名	発表標題	
尾田政臣	黄金比の妥当性	
学会名	開催地	発表年月
日本心理学会第 73 回大会	立命館大学	平成 21 年 8 月
発表者名	発表標題	
Atsuki Higashiyama	Brightness and definition of pictures seen from between the legs	
学会名	開催地	発表年月
The 32 <sup>th</sup> Annual Meeting of European Conference on Visual Perception	レーゲンズブルク(ドイツ)	平成 21 年 8 月
発表者名	発表標題	
東山篤規・伊藤高秋・ 下野孝一	鏡に写された写真画の奥行き伸長現象	
学会名	開催地	発表年月
関西心理学会第 121 回大会	大阪人間科学大学	平成 21 年 11 月
発表者名	発表標題	
破田野智己・竹澤智美	時間制限は選択方略の一貫性を失わせる	
学会名	開催地	発表年月
日本心理学会第 73 回大会	立命館大学	平成 21 年 8 月
発表者名	発表標題	
竹澤智美	写真空間における実際空間の再現性	
学会名	開催地	発表年月
日本心理学会第 73 回大会	立命館大学	平成 21 年 8 月
発表者名	発表標題	
竹澤智美	チョコレートの美味しさ評価とブランドやパッケージとの関係	
学会名	開催地	発表年月
日本心理学会第 73 回大会	立命館大学	平成 21 年 8 月
発表者名	発表標題	
宮原 道子	無関連な聴覚刺激が認知課題遂行に及ぼす影響とその評価	
学会名	開催地	発表年月

日本心理学会第 73 回大会		立命館大学	平成 21 年 8 月
発表者名	発表標題		
星野祐司	刺激数の増減が表象的慣性に及ぼす影響		
学会名		開催地	発表年月
日本心理学会第 73 回大会		立命館大学	平成 21 年 8 月
発表者名	発表標題		
都賀美有紀・毛留幸代・星野祐司	高齢者における項目と順序の短期記憶		
学会名		開催地	発表年月
日本心理学会第 73 回大会		立命館大学	平成 21 年 8 月
発表者名	発表標題		
都賀美有紀・星野祐司	遅延時間が順序の記憶における語長効果に及ぼす影響:再構成課題を用いた検討		
学会名		開催地	発表年月
関西心理学会 121 回大会		大阪人間科学大学	平成 21 年 11 月
発表者名	発表標題		
織田涼・八木保樹	他者の行動予測における検索容易性の経験の利用		
学会名		開催地	発表年月
日本心理学会第 73 回大会		立命館大学	平成 21 年 8 月
発表者名	発表標題		
織田涼・八木保樹	他者の行動予測における検索容易性効果		
学会名		開催地	発表年月
日本社会心理学会第 50 回大会		大阪大学	平成 21 年 10 月
発表者名	発表標題		
織田涼・八木保樹	新奇な他者の行動予測における検索容易性効果		
学会名		開催地	発表年月
関西心理学会第 121 回大会		大阪人間科学大学	平成 21 年 11 月
発表者名	発表標題		
松田隆夫	静止画像に表象される空間の知覚と感性印象 研究の展望と今後の課題		
学会名		開催地	発表年月
日本心理学会第 73 回大会		立命館大学	平成 21 年 8 月
発表者名	発表標題		
武藤崇	行動分析学は臨床心理学に何をもたらすのか?		
学会名		開催地	発表年月
日本行動分析学会		筑波	平成 21 年 7 月
発表者名	発表標題		
武藤崇	「たすける」と「科学として心理学」		
学会名		開催地	発表年月
日本心理学会		京都	平成 21 年 8 月
発表者名	発表標題		

Tuukka Toivonen, Junya Tsutsui, Haruka Shibata		Is there a Plan B?: How Transitioning Students at Japanese Universities Perceive Risks in Working Life and How They Plan to Manage Them	
学会名		開催地	発表年月
SCARR conference “ Managing the Social Impacts of Change from a Risk Perspective”		北京師範大学	平成 21 年 4 月
発表者名		発表標題	
Junya Tsutsui		Asymmetric Mixture: Determinants of the Attitude toward Intermarriage in Japan	
学会名		開催地	発表年月
The 3rd Gendering Asia Network Conderence		ヘルシンキ(フィンランド)	平成 21 年 5 月
発表者名		発表標題	
Mao Saito		Transformation of informal care and gender: male carers in Japan	
学会名		開催地	発表年月
British Sociological Association: Ageing, Body and Society Study Group Conference: Gender, Ageing and the Body		ロンドン(英国)	平成 21 年 7 月
発表者名		発表標題	
近藤まり		多文化環境における企業と経営学に関する研究と教育の実践報告(共通論題「社会経験に根ざした研究を求めて:外交・教育・企業」)	
学会名		開催地	発表年月
東南アジア学会九州例会		別府・大分	平成 21 年 7 月
発表者名		発表標題	
春日井敏之		シンポジウム「中学生問題の現在 - 現代の中学生が抱える困難と大人との関わりという視点から」	
学会名		開催地	発表年月
日本教育心理学会第 51 回総会		静岡大学	平成 21 年 9 月
発表者名		発表標題	
荒木美知子・荒井庸子・井上洋平・前田明日香・荒木穂積・竹内謙彰		自閉症スペクトラム児の親支援のための調査研究	
学会名		開催地	発表年月
日本保育学会 62 回大会		千葉大学	平成 21 年 5 月
発表者名		発表標題	
櫻谷眞理子		イギリスにおける児童虐待対応の今日的課題を探る	
学会名		開催地	発表年月
日本子ども虐待防止学会		埼玉ソニックシティ	平成 21 年 11 月
発表者名		発表標題	
司会:片山伸子, 話題提供:渋谷郁子・高田		発達心理学における育ち合い概念の検討(シンポジウム)	

薫・吉本朋子, 指定討論: 川島由里子・松永あけみ		
学会名	開催地	発表年月
日本心理学会 第 73 回大会	立命館大学	平成 21 年 8 月
発表者名	発表標題	
Ikuko Shibuya, Takashi Kawanabe	Critical motor skills forming nursery school teacher s impression of preschooler s motor difficulty	
学会名	開催地	発表年月
Developmental Coordination Disorder VIII International Conference	メリーランド大学	平成 21 年 6 月
発表者名	発表標題	
渋谷郁子	集団独語から見えてくるもの - 仲間と共有できる世界の構築 -	
学会名	開催地	発表年月
日本心理学会 第 73 回大会	立命館大学	平成 21 年 9 月
発表者名	発表標題	
高田薫	子育てサークル参加者の調査から見えてくる育ちの場	
学会名	開催地	発表年月
日本心理学会 第 73 回大会	立命館大学	平成 21 年 8 月
学会名	開催地	発表年月
日本心理学会 第 73 回大会	立命館大学	平成 21 年 8 月
発表者名	発表標題	
小野京子・市来百合子・水間みどり・松田佳子・綿引美香	表現アートセラピーの多様性をめぐって	
学会名	開催地	発表年月
日本心理臨床学会第 28 回秋季大会	東京国際フォーラム	平成 21 年 9 月

## &lt; 図書 &gt;

著者名	出版者		
津止正敏・桜井政成	ミネルヴァ書房		
書名	発行年	総ページ数	
ボランティア教育の新地平	平成 21 年	271	
著者名	出版者		
津止正敏・斎藤真緒・ 桜井政成	クリエイツかもがわ		
書名	発行年	総ページ数	
ボランティアの臨床社会学 - あいまいさに潜む 「未来」 -	平成 21 年	289	
著者名	出版者		
江崎智里・津止正敏・ 藤本文朗	クリエイツかもがわ		
書名	発行年	総ページ数	
ベト・ドクが教えてくれたもの - 分離手術成功 20 周年と平和へのメッセージ -	平成 21 年	149	
著者名	出版者		
松田亮三	勁草書房		
書名	発行年	総ページ数	
健康と医療の公平に挑む	平成 21 年	266	
著者名	出版者		
松田亮三・棟居徳子 (編)	立命館大学生存学研究センター		
書名	発行年	総ページ数	
生存学研究センター報告 9 健康権の再検討: 近年の国際的議論から日本の課題を探る	平成 21 年	99	
著者名	出版者		
立岩真也	筑摩書房		
書名	発行年	総ページ数	
唯の生	平成 21 年	424	
著者名	出版者		
立岩真也・岡本厚・尾 藤廣喜	同成社		
書名	発行年	総ページ数	
生存権 - いまを生きるあなたに	平成 21 年	141	
著者名	出版者		
渡辺公三	言叢社		
書名	発行年	総ページ数	
身体・歴史・人類学 - アフリカのからだ	平成 21 年	411	
著者名	出版者		

渡辺公三	言叢社		
書名	発行年	総ページ数	
身体・歴史・人類学 —西欧の眼	平成 21 年	454	
著者名	出版者		
サトウタツヤ	誠信書房		
書名	発行年	総ページ数	
TEMではじめる質的研究 時間とプロセス	平成 21 年	236	
著者名	出版者		
Mari Kondo、Harukiyo Hasegawa、Calros Noronha、	New York: Palgrave Macmillan.		
書名	発行年	総ページ数	
"Management in the Philippines", in eds. Harukiyo Hasegawa and Carlos Noronha, Asian Business & Management - theory, practice and perspectives.	平成 21 年	432	
著者名	出版者		
春日井敏之	北大路書房		
書名	発行年	総ページ数	
子ども環境から考える保育内容(大橋喜美子・三宅茂夫編)	平成 21 年	190	
著者名	出版者		
小澤亘(編)	立命館大学ボランティアセンター		
書名	発行年	総ページ数	
立命館大学ボランティアセンター主催国際シンポジウム報告書「ボランティアリズムと教育 - カナダ、韓国、そして、日本」	平成 21 年	77	
著者名	出版者		
中鹿直樹・望月昭	福村出版		
書名	発行年	総ページ数	
ライフサイクルから読む障害者の心理(田中農夫男・木村進編)	平成 21 年	340	
著者名	出版者		
ジョー・ライクリー、デイヴィッド・R・ビューケルマン、ジャニス・ライト(著) 望月昭・武藤崇・吉岡昌子・青木千帆子(監訳)	福村書店		
書名	発行年	総ページ数	
ビギニング・コミュニケーターのための AAC 活用事例集	平成 21 年	585	

著者名	出版者		
熊野宏昭・武藤 崇	星和書店		
書名	発行年	総ページ数	
ACT(アクト) = ことばの力をスリリとかわす新次元の認知行動療法 こころのりんしょう あらかると(特集号; 28 巻 1 号)	平成 21 年	180	
著者名	出版者		
中川吉晴	せせらぎ出版		
書名	発行年	総ページ数	
ホリスティック・ケア(吉田敦彦・守屋治代・平野慶次編)	平成 21 年	211	
著者名	出版者		
ローエン、中川吉晴 他(訳)	春秋社		
書名	発行年	総ページ数	
うつと身体	平成 21 年	374	
著者名	出版者		
Nakagawa Yoshiharu	Springer		
書名	発行年	総ページ数	
The International Handbook of Education for Spirituality, Care and Wellbeing, de Souza, M.; Francis, L.J.; O'Higgins-Norman, J.; Scott, D. (Eds.)	平成 21 年	印刷中	
著者名	出版者		
ミラー、中川吉晴 他 (訳)	晃洋書房		
書名	発行年	総ページ数	
魂にみちた教育	平成 21 年	印刷中	
著者名	出版者		
Jeng-Shyang Pan, Yen-Wei Chen and Lahmi C. Jain 編	IEEE Computer Society		
書名	発行年	総ページ数	
Proceedings of the 2009 Fifth International Conference on Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal Processing	平成 21 年	1357	
著者名	出版者		
水野篤夫	世界思想社		
書名	発行年	総ページ数	
青少年のグループ・サークル活動「青少年・若者の自立支援」	平成 21 年	229	
著者名	出版者		

小林 英義 (著), 梅山 佐和 (著), 鈴木 崇之 (著), 藤原 正範 (著), 小木曾 宏 (著)	生活書院	
書名	発行年	総ページ数
児童自立支援施設 これまでとこれから	平成 21 年	267
著者名	出版者	
望月昭、サトウタツ ヤ、中村正、武藤崇 (編)	福村出版	
書名	発行年	総ページ数
対人援助学の可能性 「助ける科学」の創造と 展開	平成 21 年	252

**研究所・センター 2009 年度研究活動総括と 2010 年度研究計画について**  
**様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)**

項 目	内 容
2009 年度研究活動実績	以下の各項目の 2009 年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。
	<p align="center">センターの研究の到達状況</p> <p>事業開始 3 年目を迎え平成 19 年度採択拠点中間評価を受け（現地調査も含む）生の技法（Ars Vivendi）の研究拠点として一定の評価を得ることができた。主な活動は下記。</p> <p>1）拠点関連書籍について、1 冊につき 1 つのファイルを作成。1800 冊。上記書籍データベースを含め、HP 掲載情報を増補した。約 22,000files、合計約 800MB。年間アクセスは約 900 万（ヒット数の累計）</p> <p>2）英語に加え韓国語メールマガジンを刊行した。</p> <p>3）日本の貧困・格差についての既存の言説を整理し、租税に関わる議論・政策を検証した（著書刊行）</p> <p>4）聴覚障害者等の情報補償について実用・実装研究を行った。</p> <p>5）09 年度に行った「東アジア ALS 患者在宅療養研究シンポジウム」のネットワークを維持し、共同研究体制を構築した。</p> <p>6）エチオピア・ケニアにおいて飢饉、エイズ、援助に関する現地調査を行い情勢を分析した。</p>
	<p align="center">学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>国内 東大 GCOE「死生学」と共同企画 湘南工科大学・東北福祉大学の GP とも連携し、重度障害者の交信を容易にするための社会的・地域的・教育的な仕組みを作ってきた 海外 国際カンファレンス「翻訳学の行方（2010/01）」と「絆と境目（2010/03）」を行った 台湾からの研修生（日本リハビリ協会のアジア障害者招聘 PG）と JPSP サマープログラム外国人客員研究員（米、クラーク大）を受け入れた。</p>
	<p align="center">研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</p> <p>「生存学」創成拠点の研究組織を中心に運営している。日常的研究活動については G0（全体統括）の拠点リーダー、G1～G3 の各副リーダー、プロジェクト・マネージャー事務局が ML や会議等で綿密に連絡をとり運営している。拠点全般に関わる運営については、執行部運営委員会、事業推進担当者全体会議（急ぎの場合は ML）で審議・決定する。また、先端総合学術研究科専任教員 2 名・兼任教員 1 名が人間科学研究所運営委員として人間科学研究所の運営に参加しており、拠点を支える 2 組織の連携を促進している。</p>
	<p align="center">学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</p> <p>詳細は別紙添付＜学外研究費獲得状況＞および＜研究成果刊行状況等＞参照（GCOE は教員に加え院生等の活動も評価対象となるため、それらも含む）。院生が得ている研究助成は 39 件。本センターが刊行しているセンター報告は、2009 年度は 4 号刊行した、そのうち 3 号は PD や院生などの若手研究者が編者となっている。このことは若手研究者育成を目的の一つとする GCOE の理念に沿ったことである。院生業績のうち特筆すべきは川口有美子著『逝かない身体 ALS 的日常を生きる』（2009/12/15）が第 41 回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞したことである。</p>

項 目	内 容
2010 年度研究計画	以下の各項目の 2009 年度の活動実績を踏まえながら 2010 年度の活動計画について記入して下さい。
	<p>2010 年度の研究計画について</p> <p>最終年度にむけ、生存学の内包と外延を明確にして外部に対する説明を明確化すると共に、自己限定せず自己増殖・自己創発する運動体としての生存学のあり方を損なわない日常的な研究活動を行う。主な活動は下記。</p> <p>メールマガジンの充実。英語、韓国語メールマガジンの刊行を継続。日本語のメールマガジンを発刊する。病と障害に関わる(東)アジアの連携についても継続。韓国等からの留学生も参加。韓国で日韓の研究者の研究集会を 2 度開催。教員の著作の韓国語訳を韓国で出版。民間組織の機関誌や冊子、研究報告書などについてのデータベースの構築を進める。各地の点字図書館の全国協議会等の民間団体、大学図書館等と連携し、視覚障害をもつ学生・研究者に対する学術図書のデジタルデータ提供システムを研究し構築する。聴覚障害を有する人のコミュニケーションに関するシンポジウムの記録等をまとめた報告書を刊行。湘南工科大学・東北福祉大学の GP とも連携しつつ、重度障害者の交信を容易にするための社会的・地域的・教育的な連携の成果を学会で報告し、論文にして公表し、その普遍化をはかる。</p> <p>患者等社会的マイノリティーを対象とした研究の倫理に関する連続企画を、院生を対象に実施。基本所得に関する教員・院生の共著書を刊行。労働政策、ケア労働に関わる同様の共著書を刊行。</p>
	<p>学术交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>さまざまなレベルの交流と連携を引き続き行いハブ拠点化を目指す 国内 湘南工科大学・東北福祉大学の GP と連携。NPO 法人滋賀県難病連絡協議会と連携 アフリカ日本協議会と連携 海外 韓国・京畿(キョンギ)大学他と研究交流。英国エディンバラ大学の研究グループと緩和ケアについての共同研究を進める。英国リーズ大学障害学センター所長のコリン・バーンズ氏を集中講義の講師として招聘。連携を深める。イタリア・ベルガモ大学大学院複雑性認識論人類学研究所(イタリア)とワークショップを開催。</p>
	<p>研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>2007 年度に組織した拠点の運営体制を基本的に維持しつつ、先端的研究成果の発信と若手研究者の育成が相乗効果をもたらすような組織運営を引き続き追究していく。</p> <p>内部・外部評価委員会の設置を行う。まず学内・拠点内研究者により活動のレビューを行い、評価項目及び水準を定めた上で外部研究者に委託して外部評価を行う。内部評価は 22 年度中に行い、外部評価委員会を発足させる(外部評価は最終年度 2011 年 6 月までに行う)。</p>
	<p>学外研究費の申請予定等について</p> <p>三菱財団 トヨタ財団 財団法人みずほ福祉助成財団 ファイザーヘルスリサーチ振興財団研究助成 など民間助成</p> <p>JPSP 最先端・次世代研究開発支援プログラム など公的・準公的助成に申請する予定である。</p>

2009年度「生存学」創成拠点 関連企画

開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数(概算or報告)	実績数	開催形態	公開 非公開 x
4/7	16:00～18:00	第6回研究会	出生をめぐる倫理研究会	野崎 泰伸(立命館大学ポスドクトラルフェロー) 堀田 義太郎(立命館大学ポスドクトラルフェロー) 櫻井浩子(立命館大学先端総合学術研究科)	立命館大学創思館414	15	6	主催	
4/17	13:00～16:00	老い研究会第9回研究会	「福祉社会学会第7回大会」抄録提出 / および報告に向けての調整・議論	仲口 路子(本学先端総合学術研究科) 有吉玲子(本学先端総合学術研究科) 矢野 亮(本学先端総合学術研究科) 北村 健太郎(衣笠総合研究機構 ポスドクトラルフェロー) 堀田 義太郎(日本学術振興会日本学術振興会特別研究員)	立命館大学創思館414/416	15	10	主催	
4/22	18:15～19:30	The Politics and Psychology of "False Memory Syndrome"	「誤った記憶シンドローム」を扱う心理学をめぐるポリティクス	Carolyn Zerbe Enns, Ph.D. (Professor of Psychology, Cornell College) 村本邦子(本学応用人間科学研究科教授) サトウタツヤ(本学文学部教授)	立命館大学創思館406	18	10	共催	
5/10	14:00～17:00	国際シンポジウム: 障害者による支援の未来 日・台・韓協働の可能性	高等教育機関における障害学生支援、障害者スポーツ、障害者の自立生活等の分野	陳盈如(「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」研修生) 安田真之(本学先端総合学術研究科) 加藤啓太(日本福祉大学・社会福祉学部) 白杉真(本学先端総合学術研究科) 鄭喜慶(本学先端総合学術研究科) 青木慎太郎(本学先端総合学術研究科) 立岩真也(本学先端総合学術研究科教授)	学術館2階 第2研究会室	40	20	主催	
5/16	13:00～16:30	公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」	映画「lifers」	映画監督 坂上香 本学先端総合学術研究科 教授 立岩真也	朱雀大講義室	300	102	共催	
5/29	13:00～16:00	老い研究会第10回	福祉社会学会報告の内容の検討	田島 明子(本学先端総合学術研究科) 有吉 玲子(本学先端総合学術研究科) 牧 昌子(本学先端総合学術研究科) 仲口 路子(本学先端総合学術研究科) 北村 健太郎(衣笠総合研究機構 ポスドクトラルフェロー) 堀田 義太郎(日本学術振興会日本学術振興会特別研究員)	創思館416	15	11	主催	
6/6	14:00～18:00	「視覚障害学生がスーダン・日本で暮らす・学ぶ」	日本で学ぶスーダン人視覚障害者の経験に触れ、日本におけるスーダン人視覚障害者はじめとする障害者学生支援およびスーダンの視覚障害学生支援における協働の可能性を考える	パシール(本学院生)	京都府国際センター	40	37	共催	
6/13	13:00～18:00	第22回認知症介護研究会	「京都における精神医療による認知症の実践とその歴史(仮題)」	森俊夫(京都府立洛南病院診療部長) 天田城介(立命館大学大学院先端総合学術研究科・教授)	立命館大学朱雀キャンパス多目的室	30	26	主催	
6/13	13:00～16:30	公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」	映画「休暇」	本学法科大学院 教授 上田寛 本学文学部 教授 望月昭	朱雀大講義室	300	117	主催	
6/15	13:00～18:00	「現代社会における統制と連帯」第1回研究会	国立ハンセン病療養所における複層的な連帯と対立について	桑畑洋一郎(九州大学大学院比較社会文化研究特別研究者)	創思館302	30	18	共催	
6/20	16:00-18:30	「身体/生命×社会×医療」市野川容孝氏に諸々を聞く(仮題)	「身体/生命×社会×医療」市野川容孝氏に諸々を聞く(仮題)	市野川容孝(東京大学大学院総合文化研究科准教授)	創思館403・404	40	30	主催	
6/25	10:40～12:10	文化心理学講演会	A Study of Teacher and Student Perceptions in Four Countries	Prof. S.H.Mahmud (University of Dhaka)	創思館412	18	18	主催	
6/26	18:00～21:00	ポスター作成方法研究会	ポスター発表素材の作り方の講習会	水月昭道氏(衣笠総合研究機構PD)	有心館431	75	35	主催	
6/28	14:30～17:00	国際交流企画「クリティカルな状況にある人へのケアを生業とすること」	クリティカルな状況にある人へのケアを生業とすること	ハリス・スミス(ワシントン大学保健医療学部教授) 的場和子(立命館大学大学院先端総合学術研究科) 小幡光子(立命館大学大学院先端総合学術研究科) 山口剛司(明治大学情報コミュニケーション学部)	長岡緩和ケア研究所	10	10	共催	X
7/14	14:00～	リーズ大学における障害学Simon Prideaux氏に聞く	Simon Prideauxさん(リーズ大学)のお話 & 議論 日本語通訳あり	Simon Prideauxさん(リーズ大学)	創思館416	15	6	主催	
7/18	13:00～16:30	公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」	映画「カナリア」	弁護士 佐賀千恵美 本学産業社会学部 教授 中村正	朱雀大講義室	300	110	共催	
7/19	15:30～18:00	第2回ケア研究会	ケア care」なる事象 / 価値をめぐる理論 / 実証研究を目的	仲口 路子(本学先端総合学術研究科) 木幡光子(本学先端総合学術研究科)	創思館414	15	7	主催	
8/1	15:00～18:00	公開研究会「フーコーの仕事について 酒井隆史氏と論じる」(仮題)	フーコーの仕事について 酒井隆史氏と論じる	酒井隆史(大阪府立大学人間社会学部准教授)	創思館303・304	40	20	主催	
8/12	10:00～16:00	NEC難病コミュニケーション支援講座-生きるためのコミュニケーション-	生きるためのコミュニケーション	NEC・鈴木さん 川村義肢さん 日向野さん 日本ALS協会近畿ブロック・久住純司さん	創思館403・404	20	12	後援	
8/22	14:00-18:00	第8回QOL研究会	小林公夫, 2007, 「治療行為の正当化原理」日本評論社. 講読 第4章 第4節～終章まで / カール・ベッカー, 2000, 「日本的なターミナルケアを目指して 患者の生と死の質をどう評価するか」カール・ベッカー編 「生と死のケアを考える」法蔵館, 272-316.	堀田義太郎(日本学術振興会特別研究員) 福田茉莉(岡山大学博士課程)	創思館416	15	10	主催	

2009年度「生存学」創成拠点 関連企画

開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数(概算or報告)	実績数	開催形態	公開 非公開 x
8/28	12:30~14:30	日本心理学会第73回大会シンポジウム	「古いをめぐる時空間 その身体と社会」	天田城介(立命館大学大学院先端総合学術研究科・准教授) 春日キスヨ(松山大学人文学部教授) 西川勝(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任准教授) 浜田寿美男(奈良女子大学文学部教授) 鷺田清一(大阪大学大学院文学研究科/大阪大学総長)	敬学館210	296	125	共催	
8/31	13:00~17:00	第2回「現代社会における統制と連帯」研究会	成吉善事件を読む 朝鮮人の毒殺事件が日本初の安楽死判決になるまで	美馬達哉(京都大学医学研究科准教授)	立命館大学衣笠キャンパス創思館403・404	40	20	共催	
9/5	13:00~16:30	「研究の自由と倫理を考える 生命科学をめぐって」	「研究の自由と倫理を考える 生命科学をめぐって」	ぬで鳥次郎(東京財団研究員) 中山茂樹(京都産業大学法学部准教授) 増井徹(独立行政法人医薬基盤研究所主任研究員) 松原洋子(本学先端総合学術研究科教授) 天田城介(本学先端総合学術研究科准教授)	創思館303.304	40	14	主催	
9/6	13:00~17:30	死生学と生存学	死生学と生存学	立岩真也(立命館大学大学院先端総合学術研究科教授) 清水哲郎(東京大学大学院人文社会系研究科教授) 大谷いづみ(立命館大学産業社会学部教授) 島園 進(東京大学大学院人文社会系研究科教授) 鈴木義彦(松戸市立病院救急部) 川口有美子(立命館大学大学院先端総合学術研究科) 福間 聡(東京大学大学院人文社会系研究科・GCOE死生学究拠点形成特任研究員) 堀田義太郎(日本学術振興会特別研究員)	東京大学・本郷キャンパス 医学部・鉄門記念講堂(医学部教育研究棟14階)	300	100	共催	
9/12	14:00~17:45	頭部外傷や病気による後遺症を持つ若者と家族の会+立命館大学生存学研究センター共催企画講演会	講演1「あったか地域の大家族-富士型サービスの16年」/講演2「いまある唯一のこの身体こそが世界を拓く」	大久保光人(頭部外傷や病気による後遺症を持つ若者と家族の会会長) 惣万佳代子(特定非営利活動法人デイサービスこのゆびとーまれ理事長) 天田 城介(立命館大学大学院先端総合学術研究科准教授)	朱雀キャンパス4階大講義室(ホール)	450	130	共催	
9/18	15:00~18:00	「歴史社会学の方法論 福間良明氏の仕事の仕方」(仮題)	「歴史社会学の方法論 福間良明氏の仕事の仕方」(仮題)	福間良明(立命館大学産業社会学部准教授)	立命館大学衣笠キャンパス諒友館824教室	36	20	共催	
9/21	10:30~16:00	ひらめき ときめき企画	さまざまな困難をのりこえるための家族・仲間の大切さ~患者さんから学ぶ	佐藤達哉(立命館大学文学部教授)	創思館303.304	40	19	共催	
9/26,27	(9/26) 12:00~18:40 (9/27) 9:15~16:45	障害学会第6回大会	シンポジウム1「障害学生支援を語る」 シンポジウム2「障害と貧困 ジェンダーの視点からみえてくるもの」(仮)	26日 桐原 尚之(全国「精神病」者集団/協)プランニングネットワーク東北客員研究員) 倉田 瑞穂(日本福祉大学学生) 平井 佑典(和光大学学生) 後藤 吉彦(フリス女学院大学バリアフリー推進室コーディネーター) 27日 瀬山 紀子(東京大学大学院経済学研究科) 湯澤 直美(立教大学コミュニティ福祉学部) 佐々木 彩(かりん燈・万人の所得保障を目指す介助者の会) 飯野 由里子(東京大学先端科学技術研究センター)	朱雀大講義室	300	204	共催	
10/10	14:00~18:00	第23回認知症介護研究会	高齢者歯科医療をめぐる歴史と現在 分業・ジェンダー・地位・労働・政策	文元基宝(文元歯科医院) 森岡敦(森岡歯科医院)	立命館大学朱雀キャンパス多目的室	30	20	共催	
10/11	13:00~18:00	医療を要する重度障害者サポートシステムのための勉強会(第一回)	「重度障害者の自立生活と支援」	立岩真也(本学大学院先端総合学術研究科教授)	(医)永原診療会 自在館			共催	
10/19	13:00~17:00	第3回「現代社会における統制と連帯」研究会	未定	未定	立命館大学衣笠キャンパス修学館共同研究室			共催	
10/22	16:20~19:30	公開企画「ヘイドン・ホワイト氏特別講義」	ヘイドン・ホワイト教授のポストモダニズム講義	ヘイドン・ホワイト(スタンフォード大学教授) 金城 美幸(本学大学院先端総合学術研究科) 西嶋 一泰(本学大学院先端総合学術研究科) 岡本 充弘(東洋大学文学部・教授) 吉田 寛(本学大学院先端総合学術研究科・准教授)	立命館大学衣笠キャンパス以学館2号ホール	498	136	共催	
11/2	13:30~17:00	安楽死問題韓・日国際セミナー	未定	李 相原(総神大学神学大学院教授、ソサン生命倫理研究所副所長) 立岩 真也(本学先端総合学術研究科教授)	国会議員会館 小会議室			主催	
11/7	13:30~17:30	障害学研究会開催部会 第31回研究会	自閉症の社会学へ向けて	竹中 均(神戸市外国語大学・教授)	立命館大阪オフィス	90	50	共催	
11/14	13:00~16:30	公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」	映画「ゆれる」	斎藤真緒(本学産業社会学部准教授) 神谷雅子(京都シネマ代表・本学産業社会学部教授)	朱雀大講義室	300	100	主催	

2009年度「生存学」創成拠点 関連企画

開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数(概算or報告)	実績数	開催形態	公開 非公開 x
11/18	13:00~16:00	第4回「現代社会における統制と連帯」研究会	「現代社会における統制と連帯」研究会の量的調査の検討	天田城介(本学大学院先端総合学術研究科・准教授) 中井美樹(本学産業社会学部准教授)	創思館405	22	10	共催	
11/21	15:00~18:00	公開研究企画	「介助(者)の現在」	前田拓也(神戸学院大学講師) 高橋慎一(「生存学」リサーチ・アシスタント) 渡邊琢(かりん燈 万人の所得保障を目指す介助者の会) 堀田義太郎(日本学術振興会ポスドクトラル・フェロー) 安部彰(本学衣笠総合研究機構ポスドクトラル・フェロー)	創思館401・402	40	20	主催	
11/28	13:00~18:30	院生プログラムワークショップ	『制限の技法、生存の技法』 国籍・市民権と移民難民先住民	石田智恵(本学大学院先端総合学術研究科博士課程) 永田貴聖(本学衣笠総合研究機構ポスドクトラルフェロー) 本岡大和(本学大学院先端総合学術研究科博士課程) 石川真作(京都文京大学研究員) 李洪章(京都大学大学院文学研究科博士課程・日本学術振興会特別研究員DC1) 番匠健一(本学大学院先端総合学術研究科博士課程) ノア・マコーマック(京都産業大学准教授) 金城美幸(本学大学院先端総合学術研究科博士課程)	創思館401・402	40	20	主催	
12/5	14:00~18:00	公開研究企画	「ケアと生存の哲学」	堀田義太郎(日本学術振興会ポスドクトラル・フェロー) 安部彰(本学衣笠総合研究機構ポスドクトラル・フェロー)	創思館401・402	40	15	主催	
12/13	14:00~16:30	AJF・DPI日本会議・立命館GCOE生存学共催学習会	「カメルーン熱帯雨林地域で暮らす障害者の生存戦略」	戸田美佳子(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科)	神保町区民館2階洋室A	38	20	共催	
12/16	12:00~15:00	第5回「現代社会における統制と連帯」研究会	「現代社会における統制と連帯」研究会の量的調査の検討		創思館405	22	10	共催	
12/19	13:00~16:30	公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」	映画「トウキョウソナタ」	望月昭(本学文学部・応用人間科学研究科教授) 中村正(本学産業社会学部・応用人間科学研究科教授)	朱雀大講義室	300	115	主催	
12/27	14:00~18:00	第24回認知症介護研究会	「介護民俗学という方法」	六車由実(介護職員、兼京都造形芸術大学通信教育部非常勤講師) 天田城介(本学大学院先端総合学術研究科准教授)	立命館大学朱雀キャンパス多目的室	30	10	共催	
1/9.10	9日 8:45~18:30 10日 9:00~18:40	国際コンファレンス「翻訳学の行方 Translation Studies in Japanese Context」	近年、欧米そして日本を除くアジア圏を中心に活発な広がりを見せているトランスレーション・スタディーズ(TS)を翻訳大国として知られる日本の文脈で考えるというのが本国際会議の趣旨である。	坂井セシル氏(フランス パリ第7大学) ヘルマンズ・テオ氏(イギリス ロンドン大学ユニヴァーシティ・カレッジ) 真島一郎氏(日本 東京外国語大学) 水野の氏(日本 立教大学) 水野真木子氏(日本 金城学院大学) 若林ジュディ氏(アメリカ ケント州立大学)	創思館カンファレンスルーム	138	150(2日間)	共催	
1/20	12:00~15:00	第6回「現代社会における統制と連帯」研究会	「現代社会における統制と連帯」研究会の量的調査の検討		創思館405	22	10	共催	
1/25	13:15~17:30	第二回ワークショップ	フィリップ・バーン・パレース先生講演	フィリップ・バーン・パレース(ハーヴァード大学哲学科客員教授) 後藤玲子(本学大学院先端総合学術研究科教授(代議:ポール・デュムシエル)) 山森亮(同志社大学准教授) 齋藤拓(本学大学院先端総合学術研究科) 村上慎司(本学大学院先端総合学術研究科)	創思館401・402	40	14	主催	
1/30	13:00~16:30	公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」	映画「ハッシュ！」	橋口亮輔(映画監督) 河口和也(広島修道大学教授)	朱雀大講義室	300	91	主催	
2/2	15:00~	公開インタビュー	「杉本健郎氏に聞く」	杉本健郎(小児科学会倫理委員会委員、NPO法人医療的ケアネット理事長)	創思館416	15	8	主催	
2/12	13:00~20:00	障害者の生活・教育支援研究会公開ワークショップ	「聴覚障害者における文化の承認と言語的正義の問題」	八木 慎一(本学大学院先端総合学術研究科) 後藤 圭孝(京都大学大学院生) 片山 知哉(本学大学院先端総合学術研究科) 古川 優貴(一橋大学大学院生) 坂本 徳仁(国立障害者リハビリテーションセンター研究所流動研究員)	立命館大学衣笠キャンパス諒友館3階839教室	20	10	主催	
2/13	13:00~18:00	公開研究会	第2回尊厳死・安楽死研究会	有馬昌(本学大学院先端総合学術研究科准教授) 安部彰(立命館大学ポスドクトラルフェロー)	創思館416	15	10	主催	
2/18	12:00~15:00	第7回「現代社会における統制と連帯」研究会	「現代社会における統制と連帯」研究会の今後の進め方について	密田逸郎(日本社会保障研究会事務局長)	創思館405	22	10	共催	
2/21	13:00~17:00	Art and Margins研究会	公開研究会「アートと障害の現在」第1回	阿部こずえ(ミュージアムアクセスビュー代表) 五島智子(Dance&People代表)	創思館411	22	10	主催	
2/21	13:00~16:00	古い研究会	公開研究会「我が国の公的年金制度の基本問題」	密田逸郎(日本社会保障研究会事務局長)	創思館416	15	10	主催	
2/26	14:00~17:00	地域社会におけるマイノリティの生活/実践の動態と政策的介入の力学に関する社会学研究	公開企画「多民族国家構想とマイノリティ」在日外国人の現状と課題から共生社会の展望を考える	佐藤 信行(在日韓国人問題研究所所長RAIK所長、立教大学兼任講師)	創思館303・304	40	15	主催	

2009年度「生存学」創成拠点 関連企画

開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数(概算or報告)	実績数	開催形態	公開 非公開 x
2/27	13:00～16:30	公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」	映画「チョコラ！」	小林茂(映画監督) 林達雄(本学特別招聘教授・アフリカ日本協議会代表)	朱雀大講義室	300	93	主催	
3/1	14:00～17:00	第4回生命倫理研究会	『死ぬ権利 カレン・クライラン事件と生命倫理の転回』合評会 香川知晶先生をお迎えして	香川知晶(山梨大学大学院医学工学総合研究部教授) 櫻井浩子(本学大学院先端総合学術研究科院生) 大谷いづみ(本学産業社会学部教授) 有馬育(東京大学大学院医学系研究科特任助教) 堀田義太郎(日本学術振興会特別研究員)	創思館401・402	40	18	共催	
3/13	13:00～16:30	公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」	映画「海とお月さまたち」	土本基子(土本典昭監督夫人) 栗原彬(本学特別招聘教授)	朱雀大講義室	300	37	主催	
3/13	18:00～20:00	AJF・DPI日本会議・立命館GCOE生存学共催学習会	エジプトにおける障害者支援の現状と課題	山内信重(社団法人神奈川学習障害教育研究協会、文教大学人間科学部)	千代田区富士見区民館 3階 洋室C			共催	
3/14	14:00～18:00	第25回認知症介護研究会	「聴覚障害児医療の再検討(仮題)」	上農正剛(九州保健福祉大学社会福祉学部)	立命館大学衣笠キャンパス創思館303・304	40	15	共催	
3/18～20	9:30～16:25(18日) 9:15～17:10(19日) 10:00～17:00(20日)	国際コンファレンス「絆と境目 正義と文化に関する新たなパースペクティブ」	社会的絆創造と境界の建設両方による正義と文化の間の発展する関係を調査すること、言い換えると、今日のグローバル化された世界において文化と正義の絆と境界がどのように変化し、相互に作用しているかを理解しようとするのが今回の目的である	Axel Honneth (Frankfurt University) Fuyuki Kurasawa (York University) Mauro Magatti (Catholic University, Milano) Gurpreet Mahajan (Jawaharlar Nehru University) Achille Mbembe (Witwatersrand University) Tariq Modood (Bristol University) Wolfgang Palaver (Innsbruck University) Anne Phillips (London School of Economics) Saskia Sassen (Columbia University) Laurent Thevenot (EHESS, Paris) James Tully (University of Victoria)	創思館カンファレンスルーム	138	95(3日間計)	共催	
3/21	15:00～	2009年度 日本社会学理論学会研究例会	「社会学理論形成における承認論の可能性 アクセル・ホネットにおける承認と物象化」	アクセル・ホネット(フランクフルト大学教授・同社会研究所長) 辰巳 伸知(佛教大学准教授) 宮本 真也(明治大学准教授) 出口 剛司(明治大学准教授)	明治大学駿河台キャンパスリバティタワー10111教室			共催	
3/22	15:00～18:00	明治大学情報コミュニケーション学部ジェンダーセンター開設記念連続シンポジウム	「労働と承認 ジェンダーから見た社会的正義」	アクセル・ホネット(フランクフルト大学教授・同社会研究所長) 日暮雅夫教授(本学産業社会学部現代社会学科) 大真敦子教授(学習院大学文学部ドイツ語圏文化学) 藤野寛教授(一橋大学大学院言語社会研究科・本学部兼任講師) 宮本真也准教授(明治大学情報コミュニケーション学部) 大河内泰樹助教(京都産業大学文化学部国際文化学)	明治大学リバティタワー1Fリバティホール	492		共催	
3/22	10:00～15:45	公開シンポジウム	「聴覚障害者の情報保障を考える」	坂本徳仁(国立障害者リハビリテーションセンター研究所) 櫻井悟史(本学先端総合学術研究科) 渡邊あい子(本学先端総合学術研究科) 近藤 幸一(全国手話通訳問題研究会 副運営委員長) 高岡 正(全日本難聴者・中途失聴者団体連合会理事長) 松本 正志(全日本ろうあ連盟 手話通訳対策部長) 三宅 初穂(全国要約筆記問題研究会 理事長)	創思館カンファレンスルーム	138	75	共催	
3/25	12:00～16:30	古い研究会	公開企画「老いをめぐる諸制度の変容を知る」	石井暎禧(医療法人財団石心会理事長) 田島明子(本学大学院先端総合学術研究科) 有吉玲子(本学大学院先端総合学術研究科) 各務勝博(本学大学院先端総合学術研究科) 仲口路子(本学大学院先端総合学術研究科) 渋谷光美(本学大学院先端総合学術研究科) 矢野亮(本学大学院先端総合学術研究科) 荒木重嗣(新潟青陵大学短期大学部人間総合学科学科教授) 牧昌子(本学大学院先端総合学術研究科)	立命館大学衣笠キャンパス創思館401・402	40	15	共催	
3/25	16:30～19:00	古い研究会	公開インタビュー企画「過去を聞く/足場を知る/社会を構想する」	石井暎禧(医療法人財団石心会理事長) 市田良彦(神戸大学大学院国際文化学研究科教員) 立岩真也(本学大学院先端総合学術研究科教授) 天田城介(本学大学院先端総合学術研究科准教授)	立命館大学衣笠キャンパス創思館401・402	40	15	主催	

## 2009 年度刊行物等成果一覧

(事業推進担当者(教員)は下線)

## &lt;論文等&gt;

- 立岩 真也 2009/04/01 「医療者にとっての「社会」——身体の現代・8」『みすず』51-3(2009-4 no.570):32-42,
- 立岩 真也 2009/04/01 「税制について・5——家族・性・市場 42」『現代思想』37-4(2008-4):36-70 ,
- 青木 慎太郎 2009/04/01 「今、障害をもつ私たち自身が考えなくては、社会や環境は変わらない」『わんぱく通信』No.62
- 葛城 貞三 2009/04/01 取材「肉親二人が発症 社会の理解広げたい」『京都新聞』
- 青木 慎太郎 2009/04/03 「(論壇)高等教育と視覚障害者支援」『点字毎日』4月3日号
- 訓覇浩・久保井撰・並里まさ子・松原 洋子・宮坂道夫・安速壬・堤良蔵・玉城しげ・上野正子(シンポジウム記録)2009/04/09「胎児標本問題から私たちが学びとるべきものは何か」『ハンセン病市民学会年報 2008』世界書院 113-135
- 遠藤 彰 2009/04/15 「ダーウィンの生物体の変奏と転換——ミミズと蘭と蜂」『現代思想』37-5(2009-4e):114-135
- 松原洋子 2009/4/16 「東アジア ALS プロジェクトと生存学」『JALSA』77:24-25
- 川口有美子 2009/4/16 「東アジア ALS プロジェクトと生存学[補足]」『JALSA』77:26
- 川口有美子 2009/4/16 「障害者自立支援法 4月からの改定のポイント」『JALSA』77:27-28
- 松原 洋子 2009/04/16 「東アジア ALS プロジェクトと生存学」『日本 ALS 協会会報』(77):24-25
- 立岩 真也 2009/04/25 「『生存学』創刊号」(医療と社会ブックガイド・93)『看護教育』50-3(2009-3):- (医学書院)
- 立岩 真也 2009/04/25 「生存学という企み?」『日本生命倫理学会ニューズレター』41:3
- 立岩 真也 2009/04/25 「もらったものについて・3」『そよ風のように街に出よう』77:
- 葛城 貞三 2009/04/26 取材「ALS 協会県支部 独自介護事業所開設へ」京都新聞
- 水月 昭道 2009/04/\*\* 「超高学歴人材の無駄遣いはいかなものか」臨時別冊 『朝日ジャーナル』
- 日戸 由刈・萬木 はるか・武部 正明・片山 知哉・本田 秀夫 2009/04/\*\* 「4つのジュースからどれを選ぶ?—アスペルガー症候群の学齢児に集団で「合意する」ことを教えるプログラム開発」『精神科治療学』24(4)
- 立岩 真也 2009/05/01 「税制について・6——家族・性・市場 43」『現代思想』37-5(2008-5):44-56
- 立岩 真也 2009/05/01 「家族、ではないこと——身体の現代・9」『みすず』51-4(2009-5 no.571):52-63
- 大谷 いづみ 2009/05/01 「「尊厳ある死」を望むこと(特集:「生きるに価しない」とされた生命へのまなざし)」, 『福音と世界』, 2009-5: 44-45

- 松田亮三 2009/05/21 新聞記事「市民への情報発信不可欠——社会混乱を防ぐには」  
『京都新聞』
- 立岩 真也 2009/05/25 「『唯の生』」(医療と社会ブックガイド・94)『看護教育』  
50-5(2009-5):462-463 (医学書院)
- 中倉 智徳 2009/05/30 「社会学に「静かな革命」をもたらすタルドの社会概念——ドゥ  
ルーズにも大きな影響を与えた思索の数々」『図書新聞』 2919、5面 (ガブリエル・タ  
ルド著 村澤真保呂、信友建志訳『社会法則/モナド論と社会学』河出書房新社、2008  
年12月30日の書評)
- 西田 美紀 2009/05/\*\* 「SEIQoL-DWを用いて 患者の「語り」からケアをさぐる」  
『看護学雑誌』73(5):40-44 (医学書院)
- 水月 昭道 2009/05/\*\* 「子どもの安全と居住福祉」『居住福祉研究』8
- 水月 昭道 2009/05/\*\* 「Book Review 居住福祉研究叢書 第3巻 中山間地の居住福  
祉」 『居住福祉研究』8
- 日高 友郎・水月 昭道 2009/05/\*\* 「第八回日中韓居住問題国際会議京都大会研究討論」  
『居住福祉研究』7:27-34
- 磯邊 厚子・青木久美子 2009/05/\*\* 「スリランカの看護学生が目指す看護実践への道—  
看護学生のアンケート調査から—」 『看護実践の科学』34(5):62-65, 看護の科学社
- Tomoo Hidaka, Shodo Mizuki, and Tatsuya Sato 2009/05/\*\* "Ethnography of  
communication support for ALS patients", Fifth International Congress of Qualitative  
Inquiry, pp141, Illinois: United States
- 立岩 真也 2009/06/01 「税制について・7——家族・性・市場 44」  
『現代思想』37-7(2008-6):28-39
- 立岩 真也 2009/06/01 「本人が認め、語ること——身体の現代・10」  
『みすず』51-5(2009-6 no.572)
- 立岩 真也 2009/06/01 「書評：藤村正之『生の社会学』」  
『福祉社会学研究』6:143-148,
- 立岩 真也 2009/06/01 「利益が生産者のものでなければ法人税を課し徴収するのは当  
然」 『商工につぼん』745(2009-6):34-37 (特集1：法人税の根拠を問う)
- 小泉 義之 2009/06/01 「フーコーのディシプリン 『言葉と物』と『監獄の誕生』に  
おける生産と労働」  
『現代思想』37-7(2009-6):206-218
- 青木 慎太郎 2009/06/14 「(論壇) 模擬裁判で感じた制度の課題」  
『点字毎日』6月14日号
- 天田 城介 2009/06/14 「十分な医療の議論を」『京都新聞』3面
- 川口 有美子 2009/06/25 「意思伝達不可能性は人を死なせる理由になるのか」  
『福祉労働』123号, pp. 28-35.
- 伊藤 佳世子 2009/06/25 「長期療養の『筋ジス』患者の退院・地域生活 いろんな『初  
めて』を経験した1年」 『季刊福祉労働』第123号 (巻頭カラー) 紹介文執筆

- 立岩 真也 2009/06/25 「『良い死』」(医療と社会ブックガイド・95)  
『看護教育』50-6(2009-6):554-555 (医学書院)
- 立岩 真也 2009/06/\*\* 「良い死 / 唯の生—発言と応答」  
(財)日本宗教連盟シンポジウム実行委員会編『いま、いのちを考える—脳死・臓器移植をめぐる』, 日本宗教連盟第3回宗教と生命倫理シンポジウム報告書, pp.4-8,25, 28-30,35-39,41-42
- 西 成彦 2009/06/\*\* 「ターミナルライフ/終末期の風景(新連載・1)害虫的」  
『すばる』第31巻6号(集英社), pp.190-199
- 立岩 真也 2009/07/01 「税制について・8(終)—家族・性・市場 45」  
『現代思想』37-(2008-7)
- 立岩 真也 2009/07/01 「本人が認め、語ること・2—身体の現代・11」  
『みすず』51-6(2009-7 no.573):36-48,
- 渡辺 公三 2009/07/01 「青年活動家レヴィ=ストロース—ポール・ニザン「アデン・アラビア」書評から」『みすず』51-6(2009-7 no.573):22-26
- 小泉 義之・市田 良彦 2009/07/01 「討議1 危機のさなかに検証するマルチチュードの政治 哲学」  
『別冊情況』10(7):128-146(特集 六八年のスピノザ—アントニオ・ネグリ『野生のアノマリー』の世界)
- 小泉 義之 2009/07/01 「デカルトの赤色存在論」  
『別冊情況』10(7):275-281(特集 六八年のスピノザ—アントニオ・ネグリ『野生のアノマリー』の世界)
- 磯邊 厚子 2009/07/01 「スリランカの社会福祉の現状と課題—福祉政策の光と影—」  
『京都市立看護短期大学紀要』34:23-33,京都市立看護短期大学
- 磯邊 厚子 2009/07/01 「訪問看護ステーション実習で学んだこと カンファレンスの意見交換から"生活に根ざした看護とは"」 『京都市立看護短期大学紀要』34:101-108,京都市立看護短期大学
- 渡辺 公三 2009/07/01 「青年活動家レヴィ=ストロース—ポール・ニザン「アデン・アラビア」書評から」『みすず』51-6(2009-7 no.573)
- 立岩 真也 2009/07/10 「開催趣旨:ベーシックインカムは答になるか?」  
『障害学研究』5:6,
- 立岩 真也 2009/07/10 「司会+:ベーシックインカムは答になるか?」  
『障害学研究』5:7,36-432(第4回大会シンポジウムの記録),
- 小林 勇人 2009/07/15 「ワークフェア」  
VOL collective 編(白石嘉治・矢部史郎責任編集)『VOL lexicon』pp.186-187.(以文社)
- 中倉 智徳 2009/07/15 「一般的知性」  
VOL collective 編(白石嘉治・矢部史郎責任編集)『VOL lexicon』pp.20-21.(以文社)
- 中倉 智徳 2009/07/15 「経済心理学」  
VOL collective 編(白石嘉治・矢部史郎責任編集)『VOL lexicon』pp.54-55.(以文社)

- 立岩 真也 2009/07/25 「『良い死』『唯の生』続」(医療と社会ブックガイド・96)  
『看護教育』50-7(2009-7):646-647 (医学書院)
- 片山 知哉 2009/07/\*\* 連載：リハビリテーションとメンタルヘルス(11)「まとめ・リハビリテーション従事者とメンタルヘルス従事者 1」 『地域リハビリテーション』2009年7月号(三輪書店)
- 西 成彦 2009/07/\*\* 「ターミナルライフ/終末期の風景(2)恥辱死」  
『すばる』第31巻7号(集英社), pp.238-247
- 伊藤 佳世子 2009/07/\*\* 『介助サービス技能検定テキスト』第 部・第7章第2～4節 社団法人長寿社会文化協会(184-233)
- 立岩 真也 2009/08/01 「本人が認め、語ること・3—身体の現代・12」  
『みすず』51-7(2009-8 no.574),
- 渡辺 公三 2009/08/01 「青年活動家レヴィ=ストロース2—ジャック・ヴィオ「白人の降架」書評から」 『みすず』51-7(2009-8 no.574)
- 小泉 義之 2009/08/05 「余剰と余白の生政治」 『思想』1024(2009-8):20-37
- 松原 洋子 2009/08/17 「死に急いでいるような風潮にあえて「生存学」を投げかける前編」, 『AERA』22-36(2009.8.17)
- 日高 友郎・福田 茉莉・水月 昭道・サトウ タツヤ 2009/8/28 「ALS患者のコミュニケーション支援のエスノグラフィ」 日本心理学会第73回大会発表論文集, p.245
- サトウ タツヤ・若林 宏輔・滑田 明暢・安田 裕子・渡邊 芳之 2009/8/23 「時間的類型化：人間理解への方法論的提案—個別性と普遍性の間—」  
日本心理学会第73回大会発表論文集, p.273
- 山田 早紀・サトウ タツヤ 2009/8/23 「「共謀」が認定された事件における供述調書に対する供述心理学的研究—福岡事件における7名の被告人の供述調書を用いて—」  
日本心理学会 第73回大会発表論文集, p.472
- 立岩 真也 2009/08/24 「死に急いでいるような風潮にあえて「生存学」を投げかける後編」, 『AERA』22-37(2009.8.24):87,
- 立岩 真也 2009/08/25 「『生存権』」(医療と社会ブックガイド・98)  
『看護教育』50-8(2009-8):- (医学書院)
- 村上 潔 2009/08/31 「1970年代の女性当事者たちによる「主婦的状况」をめぐる問題提起—主に東京都国立市公民館における実践の記録から」 『立命館人間科学研究』19:43-57
- 吉田 一史美 2009/08/31 「特別養子制度の成立過程—福祉制度の要請と特別養子制度の設計—」 『立命館人間科学研究』19:77-89
- 望月 昭 2009/08/31 「SEIQoL-DWの有用性と課題—G. A. Kellyのパーソナル・コンストラクト・セオリーを参照して—」 『立命館人間科学研究』19:133-140
- 片山 知哉 2009/08/\*\* リハビリテーションとメンタルヘルス(12)「まとめ・リハビリテーション従事者とメンタルヘルス従事者 2」 『地域リハビリテーション』2009年8月号(三輪書店)

- 立岩 真也 2009/09/01 「『税を直す』+ 次の仕事の準備—家族・性・市場 46」  
『現代思想』37-12(2008-9):24-35
- 立岩 真也 2009/09/01 「身を処すこと—身体の現代・13」 『みすず』51-8(2009-9 no.575)
- 堀田 義太郎 2009/09/01 「生死の選択と福祉政策の課題—治療拒否擁護論の批判的検討」 『世界と議会』538(2009年8・9月合併号):22-29
- 渡辺 公三 2009/09/01 「青年活動家レヴィ=ストロース3—1931年の書評、マルセル・デア『社会主義の展望』」 『みすず』51-8(2009-9 no.575)
- 後藤 玲子 2009/09/02 「「生存」、潜在能力アプローチから考える」 『談』85:11-30.
- 立岩 真也 2009/09/05 「選挙はあった。しかし」 時事通信配信,
- 立岩 真也 2009/09/06 「書評:浮ヶ谷幸代『ケアと共同性の人類学—北海道浦河赤十字病院精神科から地域へ』」 『北海道新聞』2009-9-6朝刊:12,
- 立岩 真也 2009/09/10 「再開する—人間の条件・20」 理論社・ウェブマガジン,
- 立岩 真也 2009/09/17 「政権交代について」 『京都新聞』2009-9-17
- 水月 昭道 2009/09/18 「コストの削減で非常勤講師らが苦しむ現状維持ではなく将来への教育と経営を」 『毎日新聞』朝刊:22
- 大野 真由子 2009/09/25 「二つの時計と二重の苦しみを抱える油症事件被害者」  
Yusho Support Center News—カネミ油症被害者支援センターだより—(28)
- 立岩 真也 2009/09/25 「『流儀』・1」(医療と社会ブックガイド・98)  
『看護教育』50-9(2009-9):- (医学書院)
- 中倉 智徳 2009/09/26 「世紀や領域を越えて「自由に架橋」される数多くの思想家と主題—「潜在性」と「仮想性」という二つのヴァーチャル性はどう扱うべきなのか」  
『図書新聞』2935, 5面 (清水 高志著『来るべき思想史—情報/モノド/人文知』冬弓舎, 2009年4月20日刊行の書評)
- 山本 崇記 2009/09/\*\* 「「不法占拠地域」における住民運動の条件—京都市東九条を事例に」 『日本都市社会学会年報』第27号、ハーベスト社
- 立岩 真也 2009/10/01 「政権交代について—家族・性・市場 47」 『現代思想』37-13(2008-10):
- 立岩 真也 2009/10/01 「免責される/されないこと・1—身体の現代・14」  
『みすず』51-9(2009-10 no.576),
- 渡辺 公三 2009/10/01 「青年活動家レヴィ=ストロース4—精神分析の研究書への書評」 『みすず』51-8(2009-10 no.576)
- 立岩 真也 2009/10/10 「できないことによしあし・1—人間の条件・21」  
理論社・ウェブマガジン
- 橋口 昌治 2009/10/14 「若者の貧困考えよう—就職、住宅、セーフティーネット 組合員や大学院生ら企画 17日から連続講座 中京」 『京都新聞』朝刊:21
- 橋口 昌治 2009/10/19 「貧困率、実態把握へ—要因、過程 詳細分析を」  
『京都新聞』朝刊:3

- サトウ タツヤ・山田 早紀 2009/10/24-25 話題提供 ワークショップ【指宿信(成城大学)企画】「司法過程におけるコミュニケーション：分析手法の有用性とその課題」  
法と心理学会 第10回大会プログラム, p.9
- 山田 早紀・サトウ タツヤ 2009/10/24-25 企画・話題提供 ワークショップ「自白供述分析の3次元的視覚化システムにおけるテクノロジー：法学、心理学の融合のかたち」  
法と心理学会 第10回プログラム, p.10 - 11
- 立岩 真也 2009/10/25 「本拠点の本」(医療と社会ブックガイド・99)  
『看護教育』50-10(2009-10):-(医学書院),
- 村上 潔 2009/10/25 「書評：妙木忍『女性同士の争いはなぜ起こるのか——主婦論争の誕生と終焉』」『オルタ』413(2009-11/12):54-55
- 小泉 義之 2009/10/27 「われわれは大学が何をなすうるか、ということさえわかっていない」『現代思想』38-14(2009-14):\*\*-\*\*
- 立岩 真也 2009/10/30 「「反」はどこに行ったのか」『環』39(Autumm 2009):138-142  
(特集・「医」とは何か)
- 植村 要 2009/10/\*\* (エッセイ)「自己目的化する「変化」——政権選択選挙に思う」  
『点字ジャーナル』40(10):13-6(通巻第473号), 東京ヘレン・ケラー協会
- 立岩 真也 2009/11/01 「資産としての職・1——家族・性・市場 48」  
『現代思想』37-14(2008-11):,
- 立岩 真也 2009/11/01 「免責される/されないこと・2——身体の現代・15」  
『みすず』51-10(2009-11 no.577),
- 福島 在行・岩間 優希 2009/11/01 「平和博物館研究 に向けて——日本における平和博物館研究史とこれから——」『立命館平和研究 別冊』、立命館大学国際平和ミュージアム、pp.1-77
- 渡辺 公三 2009/11/06 「「人間とは」根源的に問いかけ——レヴィ = ストロース氏を悼む」『京都新聞』:13
- 立岩 真也 2009/11/08 「これからのことについて」『at プラス』2:80-90(特集:21世紀の市民社会)
- 大谷 いづみ 2009/11/08 「自分なら、どうする：子どもからの臓器移植可能に——法改正で、来年から日本でも」『京都新聞』
- 立岩 真也 2009/11/10 「良い死/唯の生」  
『ICUとCCU』33-11:1-6(医学図書出版, 特集:集中治療における終末期医療:新たな提案)
- 立岩 真也 2009/11/10 「できないことのよしあし・2——人間の条件・22」  
理論社・ウェブマガジン,
- 渡辺 公三 2009/11/12 「「人間とは」問い続け——レヴィ = ストロース氏を悼む」  
『中日新聞』夕刊
- 立岩 真也 2009/11/15 「尊厳死・安楽死——いのちとはなにか 立岩真也さんに聞く・1」  
『Fonte』278:2,

- 渡辺 公三 2009/11/16 「「人間とは何か」問う—類まれな知性」 『産経新聞』
- 立岩 真也 2009/11/25 「『税を直す』」(医療と社会ブックガイド・100)  
『看護教育』50-11(2009-11):- (医学書院),
- 渡辺 公三 2009/11/28 「ひっそりと自然に回帰した知の巨星—追悼クロード・レヴィ  
=ストロース」『図書新聞』2943号
- Shin'ya Tateiwa 2009/12/01 「Bioethics: Sharing Japan's Masterpieces with the  
World」, 『Japanese Book News』62,
- 立岩 真也 2009/12/01 「免責される/されないこと・3—身体の現代・16」  
『みすず』51-11(2009-12 no.578)
- 立岩 真也 2009/12/01 「ベーシックインカムという案について—家族・性・市場 49」  
『現代思想』37-15(2008-12),
- 立岩 真也 2009/12/01 「尊厳死、家族の判断—いのちとはなにか 立岩真也さんに聞  
く・2」『Fonte』279:2,
- 渡辺 公三 2009/12/01 「レヴィ=ストロースからマルセル・モースへ」平凡社  
『月刊百科』566:10-16
- 松田 亮三 2009/12/04 「まえがき」  
松田・棟居 編『健康権の再検討—近年の国際的議論から日本の課題を探る』:5-6
- 松田 亮三 2009/12/04 「健康権シンポジウム あいさつと趣旨説明」  
松田・棟居 編『健康権の再検討—近年の国際的議論から日本の課題を探る』:16-19
- ポール・ハント 2009/12/04 講演「到達可能な最高水準の健康に対する権利—その機  
会と課題」(日本語訳:棟居 徳子)
- 松田・棟居 編『健康権の再検討—近年の国際的議論から日本の課題を探る』:20-37
- 棟居 徳子 2009/12/04 報告「日本における健康権保障の現状—健康権の指標からみた  
日本」
- 松田・棟居 編『健康権の再検討—近年の国際的議論から日本の課題を探る』:38-50
- 天田 城介 2009/12/04 あとがき  
松田・棟居 編『健康権の再検討—近年の国際的議論から日本の課題を探る』:97-99
- 松原 洋子 2009/12/04 「まえがき」  
櫻井・堀田 編『出生をめぐる倫理—「生存」への選択』:5-7
- 池端 祐一郎 2009/12/04 『カトリックの教説から見る中絶問題—中絶に関わる諸事項  
の関連』
- 櫻井・堀田 編『出生をめぐる倫理—「生存」への選択』:10-33
- 吉田 一史美 2009/12/04 「「こうのとりのゆりかご」と婚外子・未婚母—ドイツの  
Babyklappe, アメリカの safe Haven Laws との比較から」
- 櫻井・堀田 編『出生をめぐる倫理—「生存」への選択』:34-61
- 野崎 泰伸 2009/12/04 「「生きるに値しない生」とはどんな生か—メンバーシップの  
画定問題を考える」
- 櫻井・堀田 編『出生をめぐる倫理—「生存」への選択』:62-82

- 西沢 いづみ 2009/12/04 「ポリオ生ワクチン獲得運動に見いだされる社会的な意義」  
櫻井・堀田 編『出生をめぐる倫理——「生存」への選択』:83-112
- 北村 健太郎 2009/12/04 「「痛み」への眼差し——血友病者をめぐる論点の構図」  
櫻井・堀田 編『出生をめぐる倫理——「生存」への選択』:113-142
- 堀田 義太郎 2009/12/04 「出生前選別批判の可能性と限界」  
櫻井・堀田 編『出生をめぐる倫理——「生存」への選択』:143-170
- 櫻井 浩子 2009/12/04 「妊娠 22 週児の出生をめぐる倫理的問題——新生児医療からのアプローチ」 櫻井・堀田 編『出生をめぐる倫理——「生存」への選択』:171-189
- 櫻井 浩子・堀田 義太郎 2009/12/04 「あとがき」  
櫻井・堀田 編『出生をめぐる倫理——「生存」への選択』:190-193
- 立岩 真也 2009/12/10 「できないことによしあし・3——人間の条件・23」  
理論社・ウェブマガジン
- 後藤 玲子 2009/12/14 「母子・老齢加算廃止は合憲 京都地裁請求棄却「大臣の裁量内」」  
『京都新聞』夕刊:11
- 立岩 真也 2009/12/15 「出生前診断・選択的中絶——いのちとはなにか 立岩真也さんに聞く・3」 『Fonte』280:2,
- 立岩 真也 2009/12/15 「あらゆる生を否定しない立場とは」  
石谷 邦彦 編/日本臨床心理学会 監修 2009/12/15 『安楽死問題と臨床倫理——日本の医療文化よりみる安らかな生と死の選択』, 青海社, 152p. ISBN-10: 4902249456  
ISBN-13: 978-4902249453 2520 pp.18-28
- 渡辺 公三 2009/12/20 「歴史の重圧に抗う」レヴィ=ストロース追悼  
『Facta』ファクタ出版株式会社:51
- 下村 雄紀・藤倉 哲哉・新山 智基・福西 和幸・圓 純一郎 2009/12/20 「ブルーリ潰瘍問題に対する小規模 NGO 支援の可能性: Project SCOBU の事例」 『神戸国際大学紀要』77:1-14, 神戸国際大学 第77号
- 天田 城介 2009/12/21 新聞記事「唯一の理解者心に負担——見え隠れする貧弱な在宅サービス 「今の制度 満足している人わずか」」 『朝日新聞』:25
- 立岩 真也 2009/12/22 射水市民病院事件不起訴についてのコメント 『読売新聞』2009-12-22 富山県版,
- 立岩 真也 2009/12/25 「最終回です。」(医療と社会ブックガイド・101 最終回)  
『看護教育』50-12(2009-12):- (医学書院),
- 植村 要 2009/12 「視覚障害をもつ演習担当教員として」  
『人権教育研究センター報 第23回「花園大学人権週間」特集号』16:78-79(通巻35号),  
花園大学人権教育研究センター.
- 市山 雅美・田坂 さつき・日高 友郎・水月 昭道・大野 英隆 2009/12 「ALS 当事者との出会いからはじまるサービスラーニング——湘南工科大学・立命館大学・立正大学との連携による IT プロジェクト報告」  
『湘南工科大学紀要』, 湘南工科大学紀要委員会, 43 巻(1号), pp119-134

滑田 明暢・サトウ タツヤ 2009/9/13 「仕事と家事の分担に関わる公正のクラスター分析を用いた経路類型的理解」日本質的心理学会第6回大会抄録集, p.77

Tatsuya Sato, Tomo Hidaka and Mari Fukuda 2009/\*\*/\*\* "Depicting the Dynamics of Living the Life: The Trajectory Equifinality Model"

Dynamic Process Methodology in the Social and Developmental Sciences, Springer, pp.217-240

大谷 いづみ 2009/\*\*/\*\* 「「尊厳死」思想の淵源—J.フレッチャーとバイオエシックスの交錯」小松美彦・香川知晶編『メタバイオエシックスの構築へ 生命倫理を問いなおす』NTT出版、207-233

Tomoo Hidaka, Shodo Mizuki, and Tatsuya Sato 2009/5/23 "Ethnography of communication support for ALS patients." Fifth International Congress of Qualitative Inquiry, p141.

立岩 真也 2010/01/01 「ベーシックインカム・2—家族・性・市場 50」

『現代思想』38-1(2010-1):

渡辺 公三・小泉 義之 2010/01/01 討議「レヴィ=ストロースの問いと倫理」

『現代思想』38-1(2010-1):pp.116-130

渡辺 公三 2010/01/01 「グラックス・バブーフと共産主義」

『現代思想』38-1(2010-1):\*\*-\*\*

立岩 真也 2010/01/27 「ベーシックインカム・3「非優越的多様性」—家族・性・市場 51」 『現代思想』38-2(2010-2):pp.\*\*-\*\*

葛城 貞三 2010/01/29 「患者支援の経費援助—県難病連絡協、共同募金会から配分」『京都新聞』

齊藤 由香 2010/01/\*\* 「7章 知が宿る身体—統合教育と東洋医学の交点を「触れる」=「手当て」にみる—」 『ヒューマンサービスリサーチ 18 インテグラル・アプローチ—統合的・変容的探求』立命館大学人間科学研究所, pp.119-137

中川 吉晴(監訳)・齊藤 由香(訳) 2010/01/\*\* ヘルゲ・M・オスターホルド, エリザベス・フッサール・ルビアアーノ, デイヴィッド・ニコル「2章 変容的教育にふたたび火をともし—参与的事例研究—」『ヒューマンサービスリサーチ 18 インテグラル・アプローチ—統合的・変容的探求』立命館大学人間科学研究所, pp.47-82

中鹿 直樹・望月 昭 2010/01/\*\* 「課題分析を使った指導の記録を就労支援に活用する」 『立命館人間科学』20:53-64

Tatsuya, Sato 2010/01/\*\* Time in Life and Life in Time: Between Experiencing and Accounting 『立命館人間科学』20:79-92

山本 崇記 2010/02/04 「「希望の家」50年の歩み—14日に集い 冊子まとめ披露へ」『京都新聞』:20

渡辺 公三 2010/02/25 インタビュー「レヴィ=ストロースは何を問うたのか」

『レヴィ=ストロース』「道の手帖」河出書房, pp.20-35

安部 彰・堀田 義太郎 2010/02/26 「まえがき」

安部 彰・堀田 義太郎編 『ケアとノの倫理』(生存学研究センター報告 11) 立命館大学生存学研究センター、pp.5-9.

小泉 義之・安部 彰・堀田 義太郎 2010/02/26 「ケアと生存の哲学」

安部 彰・堀田 義太郎編 『ケアとノの倫理』(生存学研究センター報告 11) 立命館大学生存学研究センター、pp.14-76.

前田 拓也・渡邊 琢・高橋 慎一・堀田 義太郎・安部 彰 2010/02/26 「介助(者)の現在」

安部 彰・堀田 義太郎編 『ケアとノの倫理』(生存学研究センター報告 11) 立命館大学生存学研究センター、pp.78-124.

岩間 優希 2010/02/26 「他者の戦争を見ることについて—開高健のヴェトナム戦争報道」 安部 彰・堀田 義太郎編 『ケアとノの倫理』(生存学研究センター報告 11) 立命館大学生存学研究センター、pp.126-144.

片山 知哉 2010/02/26 「養育関係内における多文化主義—子どもの文化選択をめぐる規範理論への予備的考察」

安部 彰・堀田 義太郎編 『ケアとノの倫理』(生存学研究センター報告 11) 立命館大学生存学研究センター、pp.145-166.

仲 アサヨ 2010/02/26 「精神病院不祥事件が語る入院医療の背景と実態—大和川病院事件を通して考える」

安部 彰・堀田 義太郎編 『ケアとノの倫理』(生存学研究センター報告 11) 立命館大学生存学研究センター、pp.167-195.

大谷 通高 2010/02/26 「犯罪被害者の救済におけるケア・試論—被害 についての考察から」

安部 彰・堀田 義太郎編 『ケアとノの倫理』(生存学研究センター報告 11) 立命館大学生存学研究センター、pp.196-223.

安部 彰・堀田 義太郎 2010/02/26 あとがき

安部 彰・堀田 義太郎編 『ケアとノの倫理』(生存学研究センター報告 11) 立命館大学生存学研究センター、pp.244-257.

立岩 真也 2010/03/01 「差異とのつきあい方—家族・性・市場 52」

『現代思想』38-3(2010-3): 26-35.

立岩 真也 2010/03/01 (インタビュー・聞き手)「杉本 健郎「医療的ケア」が繋ぐもの」 『現代思想』38-3(2010-3): 52-81.

小泉 義之 2010/03/01 「病苦、そして健康の影 医療福祉的理性批判に向けて」

『現代思想』38-3(2010-3): 82-97.

天田 城介 2010/03/01 「家族の余剰と保障の残余への勾留 戦後における老いをめぐる家族と政策の(非)生産」 『現代思想』38-3(2010-3): 114-129.

上農 正剛 2010/03/01 「人工内耳は聴覚障害者の歌を聴くか？」

『現代思想』38-3(2010-3): 152-166.

吉野 靱 2010/03/01 「ヒポクラテスの切っ先」『現代思想』38-3(2010-3): 167-179.

- 的場 和子 2010/03/01 (翻訳)トマス・ポッグ「新薬開発 貧しい人々を除外すべきか?」 『現代思想』38-3(2010-3):198-209.
- 斉藤 龍一郎 2010/03/01 「南の国々から広がる地球規模疾病負荷(GBD)との闘い」 『現代思想』38-3(2010-3):pp.\*\*-\*\*
- 渡辺 公三 2010/03/04 「私のモノ語り レヴィ=ストロースの文鎮」 『京都新聞』2010-3-4:9
- 堀田 義太郎 20100308 (書評)「ベーシック・インカム構想を通して社会政策の課題を考える」(橋木俊詔・山森亮 『貧困を救うのは、社会保障改革か、ベーシック・インカムか』人文書院、2009年) 『インパクション』173号, pp.197-\*\*
- 立岩 真也 2010/03/20 「中間報告報告他」
- 立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:6-10
- 松原 洋子 2010/03/20 「院生たちが創る生存学」
- 立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:11-13
- 天田 城介・小林 勇人・齊藤 拓・橋口 昌治・村上 潔・山本 崇記 2010/03/20 「生産/労働/分配/差別について」(座談会) 立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:14-70
- 橋口 昌治 2010/03/20 「労働運動の社会運動化」と「社会運動の労働運動化」の交差——「若者の労働運動」の歴史的位置づけ」
- 立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:71-82
- 村上 潔 2010/03/20 「「主婦性」は切り捨てられない——女性の労働と生活の桎梏にあえて向き合う」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:83-95
- 山本 崇記 2010/03/20 「同和行政が提起する差別是正の政策的条件——差別と貧困を射程にした社会政策に関する予備的考察」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:96-109
- 堀田 義太郎 2010/03/20 「単なる生の質——終末期医療とQOLの臨界」
- 立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:110-132
- 櫻井 浩子 2010/03/20 「新生児医療におけるQOLと「子どもの最善の利益」
- 立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:133-144
- 植村 要 2010/03/20 「「エンハンスメント」言説における「障害者」の生の位置——レオン・カスの論を中心に」
- 立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:145-170
- サトウ・タツヤ 2010/03/20 「QOL、再考(死より悪いQOL値を補助線として)」
- 立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:171-191
- 永田 貴聖 2010/03/20 「日比間でトランスナショナルになるフィリピン人たち」
- 立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:192-206
- 富田 敬大 2010/03/20 「家畜とともに生きる——現代モンゴルの地方社会における牧畜経営」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:207-221
- 石田 智恵 2010/03/20 「「日系人」という生き方、日系人の生き方——一九七二年・一

- 九七三年の政策からみるスキーム」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:222-237
- 新山 智基 2010/03/20 「顧みられない熱帯病・ブルーリ潰瘍問題における医療 NGO の展開——市民社会論を手掛かりとして」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:238-248
- 鄭 喜慶 2010/03/20 「韓国重度障害者運動によるパラダイムの変換——二〇〇〇年代以後の自立生活運動と移動権連帯運動を中心に」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:249-264
- 川口 有美子 2010/03/20 「患者会組織の国際的展開——「ALS にグローバル・スタンダードは必要なのか？」 立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:265-296
- 石田 智恵 2010/03/20 「文献紹介 「日系人」という法的地位」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:297-305
- 梁 陽日 2010/03/20 「文献紹介 在日とは何か？——内外の境界のはざままで生きることの意味と希望を考える」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:306-313
- 有吉 玲子 2010/03/20 「宮崎県透析拒否事件の再考—いまなお終わらずに」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:314-327
- 有馬 斉 2010/03/20 「中立な国家と個人の死ぬ権利」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:328-345
- 櫻井 悟史 2010/03/20 「誰が死刑を担ってきたのか？—死刑執行人の歴史社会学的考察」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:346-360
- 川田 薫 2010/03/20 「在住アフリカ人コミュニティへの HIV/AIDS 予防啓発活動の取り組み——市民社会団体によるナイジェリア人同郷団体との協働の道のり」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:361-373
- 篠木 涼 2010/03/20 「注意のマネジメント——ミュンスターバーグ、産業心理学、映画理論」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:374-389
- 小林 勇人 2010/03/20 「ワークフェアを巡る国際研究調査—アメリカ×キューバ×カナダ」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:390-393
- 永田 貴聖 2010/03/20 「一五分で到着するフィールドは世界に通ずる」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:393-394
- 富田 敬大 2010/03/20 「国際会議のススメ—二〇〇九年の CIEPO 国際会議に参加した経験をもとに」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:394-396
- 石田 智恵 2010/03/20 「南米でニッケイたちの現在を垣間見る」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:396-398
- 新山 智基 2010/03/20 「顧みられない熱帯病・ブルーリ潰瘍問題調査を通じて」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:398-400
- 岡田 和男 2010/03/20 「スリランカ紛争終結と今後の課題」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:400-401
- 川端 美季 2010/03/20 「初冬のシドニーで—豪州日本研究学会参加記録・Public Bath 探訪」立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:402-404

- 佐藤 量 2010/03/20 「植民地経験と戦後社会について」  
立命館大学生存学研究センター 編『生存学』2:404-405
- 青木 慎太郎 2010/03/25 「はじめに」  
青木 慎太郎 編『視覚障害学生支援技法 増補改訂版』(生存学研究センター報告12)  
立命館大学生存学研究センター、pp.5-9.
- 青木 慎太郎 2010/03/25 「第1章 大学における視覚障害者支援の概要」  
青木 慎太郎 編『視覚障害学生支援技法 増補改訂版』(生存学研究センター報告12)  
立命館大学生存学研究センター、pp.14-32.
- 韓 星民 2010/03/25 「第2章 視覚障害者用支援機器と文字情報へのアクセス」  
青木 慎太郎 編『視覚障害学生支援技法 増補改訂版』(生存学研究センター報告12)  
立命館大学生存学研究センター、pp.33-83.
- 青木 慎太郎 2010/03/25 「第3章 視覚障害者への情報支援と著作権法上の課題」  
青木 慎太郎 編『視覚障害学生支援技法 増補改訂版』(生存学研究センター報告12)  
立命館大学生存学研究センター、pp.86-102.
- 植村 要 2010/03/25 「第4章 出版社の対応とその背景」  
青木 慎太郎 編『視覚障害学生支援技法 増補改訂版』(生存学研究センター報告12)  
立命館大学生存学研究センター、pp.103-129.
- 斉藤 龍一郎 2010/03/25 「第5章 スーダンと日本、障害当事者による支援の可能性」  
青木 慎太郎 編『視覚障害学生支援技法 増補改訂版』(生存学研究センター報告12)  
立命館大学生存学研究センター、pp.132-148.
- 立岩 真也 2010/03/25 「第6章 異なる身体のもとでの交信—COE & 新学術領域研究で目指すもの」  
青木 慎太郎 編『視覚障害学生支援技法 増補改訂版』(生存学研究センター報告12)  
立命館大学生存学研究センター、pp.149-172.
- 青木 慎太郎 2010/03/25 「おわりに」  
青木 慎太郎 編『視覚障害学生支援技法 増補改訂版』(生存学研究センター報告12)  
立命館大学生存学研究センター、pp.203-206.
- 水月 昭道 2010/03/26 「「高学歴ワーキングプア」その後—大学に回す国費増やせ」  
『京都新聞』朝刊：6
- 阿部 あかね 2010/03/31 「1970年代日本における精神医療改革運動と反精神医学」  
『Core Ethics』6:1-11
- 一宮 茂子 2010/03/31 「生体肝移植ドナーの負担と責任をめぐって—親族・家族間におけるドナー決定プロセスのインタビュー分析から—」  
『Core Ethics』6:13-23
- 伊藤 佳世子 2010/03/31 「長期療養病棟の課題—筋ジストロフィー病棟について—」  
『Core Ethics』6:25-36
- 植村 要・山口 真紀・櫻井 悟史・鹿島 萌子 2010/03/31 「書籍のテキストデータ化にかかるコストについての実証的研究—視覚障害者の読書環境の改善に向けて—」

- 『Core Ethics』 6:37-49
- 大野 藍梨 2010/03/31 「『わたしはティチューバ』における黒人奴隷制への抵抗」  
『Core Ethics』 6:75-86
- 岡田 清鷹 2010/03/31 「『民約訳解』再考—中江兆民と読者世界—」  
『Core Ethics』 6:87-97
- 各務 勝博 2010/03/31 「「寝たきり予防」から「介護予防」へ—そこで語られてきたこと—」 『Core Ethics』 6:109-119
- 影浦 順子 2010/03/31 「下村治経済理論の一考察—経済成長と金融調整のあり方をめぐって—」 『Core Ethics』 6:121-131
- 片山 知哉 2010/03/31 「ウィル・キムリッカのネイション概念—キムリッカ多文化主義論における、こどもという問いの不在—」  
『Core Ethics』 6:133-143
- 葛城 貞三 2010/03/31 「滋賀県難病連絡協議会の結成」 『Core Ethics』 6:145-155
- 角崎 洋平 2010/03/31 「なぜ 給付 ではなく 貸付 をするのか?—Muhammad Yunus の 貸付 論と「市場社会」観の検討—」 『Core Ethics』 6:157-167
- 金城 美幸 2010/03/31 「建国初期イスラエルにおけるデイル・ヤーシーン事件の語り—殺戮行為の糾弾と正当化—」 『Core Ethics』 6:169-179
- 蔡 正倫 2010/03/31 「台湾鉄道における「民営化改革」をめぐる歴史とその政治—戦後から 1989 年「民営化改革」まで—」 『Core Ethics』 6:197-208
- 貞岡 美伸 2010/03/31 「代理懐胎における子どもの福祉—依頼者の親としての適格性—」 『Core Ethics』 6:209-218
- 佐藤 浩子 2010/03/31 「重度障害者等包括支援に関する考察—個別と包括の制度間比較—」 『Core Ethics』 6:219-228
- 佐藤 = ロスベアグ・ナナ 2010/03/31 「『地名アイヌ語小辞典』から「厚い翻訳」を考察する」 『Core Ethics』 6:229-239
- 渋谷 光美 2010/03/31 「在宅介護福祉労働としての家庭奉仕員制度創設と、その担い手政策に関する考察」 『Core Ethics』 6:241-251
- 杉原 努 2010/03/31 「障害者雇用における合理的配慮の導入視点—障害のあるアメリカ人法 (ADA) の現状からの考察—」 『Core Ethics』 6:253-264
- 田島 明子 2010/03/31 「認知症高齢者の作業療法における言説・研究の変容・編制過程—1980・1990 年代のリハビリテーション雑誌の検討—」 『Core Ethics』 6:265-27
- 仲 アサヨ 2010/03/31 「精神科特例をめぐる歴史的背景と問題点—精神科特例の成立および改正の議論から—」 『Core Ethics』 6:277-286
- 新山 智基 2010/03/31 「感染地域の社会経済的現状と WHO、医療中心型援助の限界—ブルーリ潰瘍の事例—」 『Core Ethics』 6:287-297
- 西嶋 一泰 2010/03/31 「一九五〇年代における文化運動のなかの民俗芸能—原太郎と「わらび座」の活動をめぐって—」 『Core Ethics』 6:299-310
- 西田 美紀 2010/03/31 「重度進行疾患の独居者が直面するケアの行き違い / 食い違い

- の考察—ALS 療養者の一事例を通して—」『Core Ethics』6:311-321
- 牛 革平 2010/03/31 「近代国民国家モデルについての考察—方法論的アプローチから—」 『Core Ethics』6:323-337
- 萩原 浩史 2010/03/31 「行政主導による精神保健福祉に関する普及啓発活動—その批判的考察—」 『Core Ethics』6:339-348
- 長谷川 唯 2010/03/31 「自立困難な進行性難病者の自立生活—独居 ALS 患者の介助体制構築支援を通して—」 『Core Ethics』6:349-359
- 番匠 健一 2010/03/31 「1910 年代の内務官僚と国民統合の構想—田澤義舗の青年論を中心に—」 『Core Ethics』6:361-373
- 牧 昌子 2010/03/31 「高齢者に対する新たな医療制度における「現役並み所得」概念—2006 年度の医療制度改革関連法による公費負担を中心に—」『Core Ethics』6:375-384
- 松枝 亜希子 2010/03/31 「トランクライザーの流行—市販向精神薬の規制の論拠と経過—」 『Core Ethics』6:385-399
- 松田 有紀子 2010/03/31 「「花街らしさ」の基盤としての土地所有—下京区第十五区婦女職工引立会社の成立から—」 『Core Ethics』6:401-411
- 三野 宏治 2010/03/31 「日本の精神医療保健関係者の脱病院観についての考察—米国地域精神医療保健改革とそれについての議論をもとに—」 『Core Ethics』6:413-423
- 本岡 大和 2010/03/31 「難民になれない庇護希望—米加間の「安全な第三国」協定の影響—」 『Core Ethics』6:425-435
- 森下 直紀 2010/03/31 「ダム・ディベート—サンフランシスコの水源開発にともなう景観価値と国立公園—」 『Core Ethics』6:437-449
- 山本 晋輔 2010/03/31 「重度身体障害者の居住支援—単身 ALS 罹病者の転居事例を通して—」 『Core Ethics』6:451-460
- 梁 陽日（釀一） 2010/03/31 「在日韓国・朝鮮人のアイデンティティと多文化共生の教育—民族学級卒業生のナラティブ分析から—」 『Core Ethics』6:473-483
- 吉田 幸恵 2010/03/31 「ある精神障害者の語りと生活をめぐる—考察—「支援」は何を意味する言葉か—」 『Core Ethics』6:485-496
- 磯邊 厚子 2010/03/31 「スリランカの農村・農園の妊婦の健康と潜在能力」  
『Core Ethics』6:497-508
- 一宮 茂子 2010/03/31 「膵島移植レシピエントの期待と現実—1 型糖尿病患者のインタビュー調査より—」 『Core Ethics』6:509-518
- 岩田 京子 2010/03/31 「風景整備政策の成立過程—1920 30 年代における京都の風致地区の歴史的的位置—」 『Core Ethics』6:519-528
- 大村 陽一 2010/03/31 「日本土木建設業の近代化と「朝鮮人」労働者の移入」  
『Core Ethics』6:529-539
- 白杉 眞 2010/03/31 「自立生活センターの組織に関する研究—運動と事業のバランスを保つための方策—」 『Core Ethics』6:541-550
- 田島 明子 2010/03/31 「作業療法の現代史 2・1976 ~ 1980」

『Core Ethics』6:551-562

モリ カイネイ 2010/03/31 「華人系教会による海外宣教の展開—19世紀から21世紀へ—」『Core Ethics』6:563-570

村上 潔 2010/03/31 「「主婦論争」再検討—論調と対象の再整理からみる課題と展望」『現代社会学理論研究』04:148-160 (人間の科学新社)

三野 宏治 2010/03/\*\* 「精神障害者クラブハウスモデルの仕事を媒介にした相互支援の考察—その仕組みと発想」『福祉文化研究』Vol.19

磯邊 厚子・井関敦子・石村久美子 2010/03/\*\* 「スリランカの農村・農園における妊婦の健康と well-beings」

『国立女性教育会館研究ジャーナル』14号, 独立行政法人国立女性教育会館

岩間 優希 2010/03/\*\* 「メディアとしての焼身—1963年、ティク・クァン・ドックの事件をめぐる」『表象』4:, 表象文化論学会

岩間 優希 2010/03/\*\* 「新刊旧刊 ベトナム戦争と日本 吉沢南著 海の向こうの火事 ベトナム戦争と日本 1965-1975 トーマス・R・H・ヘイブズ(吉川勇一訳) ベトナム戦争を考える 戦争と平和の関係 遠藤聡著」『アリーナ』8, 風媒社

< 学術図書 ( 分担執筆、編者等含 ) >

望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ 編 2009/04/30 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, 247p. ISBN-10: 4771020655 ISBN-13: 978-4771020658

中村 正 2009/04/30 「逸脱行動」

望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ 編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.9-10.

中村 正 2009/04/30 「NPO (エヌ・ピー・オー; 非営利組織)」

望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ 編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.21-22.

中村 正 2009/04/30 「加害者臨床」

望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ 編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.33.

中村 正 2009/04/30 「家庭内暴力」

望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ 編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.41.

中村 正 2009/04/30 「環境犯罪学」

望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ 編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.45.

中村 正 2009/04/30 「子ども虐待」

望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ 編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.79.

中村 正 2009/04/30 「社会病理」

望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ 編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.101.

中村 正 2009/04/30 「社会臨床学」

望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ 編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.102-103.

中村 正 2009/04/30 「親密さ」

望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ 編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.119.

- 中村 正 2009/04/30 「性犯罪」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.130.
- 中村 正 2009/04/30 「ゼロトレランス政策」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.132-133.
- 中村 正 2009/04/30 「相互行為」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.135.
- 中村 正 2009/04/30 「ソリューション・フォーカスト・アプローチ」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.139.
- 中村 正 2009/04/30 「ダイヴァージョン」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.141.
- 中村 正 2009/04/30 「脱暴力学習」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.148.
- 中村 正 2009/04/30 「デートバイオレンス (2)」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.159.
- 中村 正 2009/04/30 「ナラティブセラピー」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.167.
- 中村 正 2009/04/30 「ハラスメント」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.182.
- 中村 正 2009/04/30 「被害者ケア」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.184-185.
- 中村 正 2009/04/30 「ポストモダン」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房 p.204-205.
- 中村 正 2009/04/30 「破れ窓理論」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.215.
- 中村 正 2009/04/30 「ラベリング (烙印)」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房 p.218-219.
- 中村 正 2009/04/30 「臨床社会学」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.223.
- 中村 正 2009/04/30 「老人虐待」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.226.
- 松田 亮三 2009/04/30 「医療制度」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.15.
- 松田 亮三 2009/04/30 「医療保険」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.15-16.
- 松田 亮三 2009/04/30 「エンパワメント」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.23.
- 松田 亮三 2009/04/30 「介護保険制度」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.31-32.

- 松田 亮三 2009/04/30 「健康保険制度」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.68.
- 松田 亮三 2009/04/30 「公衆衛生」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.70.
- 松田 亮三 2009/04/30 「在宅療養支援診療所」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.85-86.
- 松田 亮三 2009/04/30 「診療報酬」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.120.
- 松田 亮三 2009/04/30 「地域保健」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, .150-151.
- 松田 亮三 2009/04/30 「長寿医療制度（後期高齢者医療制度）」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, .155-156.
- 松田 亮三 2009/04/30 「福祉国家」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, .192-193.
- 松田 亮三 2009/04/30 「療養病床」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, .222-223.
- 望月 昭 2009/04/30 「応用行動分析（ABA；Applied Behavior Analysis）」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.24-25.
- 望月 昭 2009/04/30 「学生ジョブコーチ」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.36.
- 望月 昭 2009/04/30 「キャリアアップ」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.55-56.
- 望月 昭 2009/04/30 「QOL（キュー・オー・エル）」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.56-57.
- 望月 昭 2009/04/30 「公正交換指標」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.71.
- 望月 昭 2009/04/30 「行動形成（シェイピング）」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.71-72.
- 望月 昭 2009/04/30 「自己決定」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.89-90.
- 望月 昭 2009/04/30 「実験と実践」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.92.
- 望月 昭 2009/04/30 「就労支援」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, .104-105.
- 望月 昭 2009/04/30 「ジョブコーチ」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, .113-114.
- 望月 昭 2009/04/30 「正の強化」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編 『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, .129-130.

- 望月 昭 2009/04/30 「セルフマネジメント」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, .131-132.
- 望月 昭 2009/04/30 「対人援助と研究倫理」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, .142-143.
- 望月 昭 2009/04/30 「対人援助の3つの機能」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, .143-145.
- 望月 昭 2009/04/30 「特別支援教育」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.162.
- 望月 昭 2009/04/30 「ノーマリゼーション」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.177.
- サトウ タツヤ 2009/04/30 「学融とモード論」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.37.
- サトウ タツヤ 2009/04/30 「複線経路・等至性モデル」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, .193-195.
- 天田 城介 2009/04/30 「老い」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.24.
- 天田 城介 2009/04/30 「認知症(3)」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.173.
- 立岩 真也 2009/04/30 「正義」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.127.
- 立岩 真也 2009/04/30 「生存学」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, .127-128.
- 松原 洋子 2009/04/30 「研究倫理」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.65.
- 松原 洋子 2009/04/30 「優生学と新優生学」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.216.
- 大谷 いづみ 2009/04/30 「死の教育」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.95-96.
- 大谷 いづみ 2009/04/30 「尊厳死」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, .139-140.
- 水月 昭道 2009/04/30 「ワーキングプア」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ 編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房
- 水月 昭道 2009/04/30 「フィールドワーク」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ 編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房
- 日高 友郎 2009/04/30 「エスノグラフィ」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ 編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.20.
- 日高 友郎 2009/04/30 「科学技術社会論」
- 望月 昭・中村 正・サトウ タツヤ 編『「対人援助学」キーワード集』, 晃洋書房, p.33-34

- 栗原 彬 五十嵐 暁郎 編 高畠 通敏 著, 2009/05/08, 『高畠通敏集 3 現代日本の選挙』, 岩波書店, 323p. ISBN-10:4000281089 ISBN-13: 978-4000281089
- 西 成彦 2009/05/23 『世界文学のなかの『舞姫』(理想の教室)』  
みすず書房, 144p. ISBN-10: 4622083299 ISBN-13: 978-4622083290 1,680
- 立岩 真也・雨宮 処凜・岡崎 伸郎・浅野 弘毅(司会) 2009/05/25 「自殺をどうとらえるか」(座談会) 浅野・岡崎編[2009:13-54]\*\*浅野 弘毅・岡崎 伸郎 編 20090525 『自殺と向き合う』, 批評社, メンタルヘルス・ライブラリー24, 197p. ISBN-10: 4826505043 ISBN-13: 978-4826505048 1890
- 藤原 信行, 20090525, 「自殺(予防)をめぐる「物語」としての精神医学的知識の普及と自死遺族」, 浅野・岡崎編[2009:119-128]\*\*浅野 弘毅・岡崎 伸郎 編 20090525 『自殺と向き合う』, 批評社, メンタルヘルス・ライブラリー24, 197p. ISBN-10: 4826505043 ISBN-13: 978-4826505048 1890
- 後藤 玲子・齊藤 拓 翻訳 2009/06/10 『ベーシック・インカムの哲学—すべての人にリアルな自由を』 勁草書房, 494p. ISBN-10: 4326101830 ISBN-13: 978-4326101832
- 齊藤 拓 2009/06/10 「訳者解説」  
『ベーシック・インカムの哲学—すべての人にリアルな自由を』, 397-454
- 後藤 玲子 2009/06/10 「訳者解説2」  
『ベーシック・インカムの哲学—すべての人にリアルな自由を』, 455-470
- 立岩 真也 2009/06/12 「「いのち」をめぐる断章」  
高草木 光一 編 20090612 『連続講義「いのち」から現代世界を考える』, 岩波書店, [2009:216-224] ISBN-10: 400022171X ISBN-13: 978-4000221719
- 立岩 真也 2009/06/12 「対論」(最首悟との対論)  
高草木 光一 編 20090612 『連続講義「いのち」から現代世界を考える』, 岩波書店, [2009:225-231] ISBN-10: 400022171X ISBN-13: 978-4000221719
- 大谷 いづみ 2009/06/20 「「先哲の基本的な考え方」の学習」  
公民教育学会編 『公民教育事典』, 第一学習社
- 大谷 いづみ 2009/06/20 「「科学技術と倫理」の学習」  
公民教育学会編 『公民教育事典』, 第一学習社
- 田島 明子 2009/06/25 『障害受容再考—「障害受容」から「障害との自由」へ』  
三輪書店, 212p.
- 篠木 涼 2009/06/26 「美的体験、アトラクション、映画の観客への影響—ミュンスターバーグの芸術心理学」, 大森淳史・岡林洋・仲間裕子編著 『芸術はどこから来てどこへ行くのか』 晃洋書房:pp.499-511
- サトウ タツヤ 2009/06/\*\* 「世界の社会心理学史」  
日本社会心理学会 編 『社会心理学事典』, 丸善. ISBN-10: 4621081071 ISBN-13: 978-4621081075
- サトウ タツヤ 2009/06/\*\* 「日本の社会心理学史」  
日本社会心理学会 編 『社会心理学事典』, 丸善. ISBN-10: 4621081071 ISBN-13:

978-4621081075

サトウ タツヤ 2009/06/\*\* 担当委員「13章 原理・方法」

日本社会心理学会 編 『社会心理学事典』, 丸善 . ISBN-10: 4621081071 ISBN-13: 978-4621081075

Tatsuya Sato, Tomo Hidaka and Mari Fukuda 2009/07/01 "Depicting the Dynamics of Living the Life: The Trajectory Equifinality Model". In Valsiner, J.; Molenaar, P.C.M.; Lyra, M.C.D.P.; Chaudhary, N. (Eds.) "Dynamic Process Methodology in the Social and Developmental Sciences" Springer, Pp.217-240.

水月 昭道 他 2009/07/10 「「安全・安心」フィーバーに巻き込まれる子ども」

仙田 満編著・上岡 直見編 『子どもが道草のできるまちづくり』学芸出版社, pp.68-81  
ISBN-10: 4761524634 ISBN-13: 978-4761524630 2100

水月 昭道 他 2009/07/10 「現代の道草ウォッチング」

仙田 満編著・上岡 直見編 『子どもが道草のできるまちづくり』学芸出版社, pp.92-113  
ISBN-10: 4761524634 ISBN-13: 978-4761524630 2100

渡辺 公三 2009/07/14 『身体・歴史・人類学 —アフリカのからだ』

言叢社, 411p. ISBN-10:486209029X ISBN-13:978-4862090294

渡辺 公三 2009/07/14 『身体・歴史・人類学 —西欧の眼』

言叢社, 454p. ISBN-10:4862090303 ISBN-13:978-4862090300

小泉 義之 2009/07/\*\* 『デカルトの哲学』

人文書院, 231p. ISBN-10: 4409040987 ISBN-13: 978-4409040980 4410

川口 有美子・小長谷 百絵 編 2009/08/10 『在宅人工呼吸器ポケットマニュアル—暮らしと支援の実際』医歯薬出版, 212p. ISBN-10:4263235290  
ISBN-13:9784263235294

川口 有美子 2009/08/10 「人工呼吸器を使って生活する」川口・小長谷編 [2009]

川口 有美子 2009/08/10 「在宅人工呼吸器生活者の生活実態とケア」

川口・小長谷編 [2009]

立岩 真也 2009/08/10 「人工呼吸器の決定？」

川口・小長谷編 [2009:153-166]

栗原 彬 2009/09/04 編集 『高畠通敏集 1 政治理論と社会運動』

栗原 彬・五十嵐 暁郎編, 高畠 通敏著 『高畠通敏集 1 政治理論と社会運動』岩波書店,  
340p. ISBN-10: 4000281062 ISBN-13: 978-4000281065

立岩 真也・村上 慎司・橋口 昌治 2009/09/10 『税を直す』

青土社, 350p. ISBN-10: 4791764935 ISBN-13: 978-4791764938 2310

立岩 真也 2009/09/10 「第1部 軸を速く直す—分配のために税を使う」

立岩・村上・橋口 [2009:11-218]

村上 慎司 2009/09/10 「第2部 税率変更歳入試算+格差貧困文献解説 第1章 所得税率変更歳入試算」立岩・村上・橋口 [2009:221-240]

橋口 昌治 2009/09/10 「第2部 税率変更歳入試算+格差貧困文献解説 第2章 格

- 差・貧困に関する本の紹介」 立岩・村上・橋口 [ 2009:242-311 ]
- 水月 昭道 2009/09/10 『アカデミア・サバイバル——「高学歴ワーキングプア」から抜け出す』 中央公論新社, 248p. ISBN-10: 4121503295 ISBN-13: 978-4121503299 777
- 天田 城介 2009/09/\*\* 『老い衰えゆくこと の社会学〔増補改訂版〕』 多賀出版 .
- 立岩 真也 2009/11/10 「立岩真也氏との対話」(新田勲との対談) 新田勲編 『足文字は叫ぶ!——全身性障害のいのちの保障を』, 現代書館, pp.124-148
- 渡辺 公三 2009/11/14 『闘うレヴィ = ストロース』 平凡社, 288p. ISBN-10: 4582854982 ISBN-13: 978-4582854985
- Reiko Gotoh & Dumouchel, Paul 2009/11/\*\* *Against Injustice: The New Economics of Amartya Sen*, Cambridge University Press, 344p ISBN-10: 0521899591 ISBN-13: 978-0521899598 10,891
- Reiko Gotoh & Paul Dumouchel (eds.) 2009/11/\*\* *Against Injustice: The New Economics of Amartya Sen*, Cambridge University Press. 328p. ISBN-10: 0521899591 ISBN-13: 978-0521899598 8,435
- Reiko Gotoh & Paul Dumouchel 2009/11/\*\* Introduction
- Reiko Gotoh & Paul Dumouchel (eds.) *Against Injustice: The New Economics of Amartya Sen*, pp.1-36.
- Reiko Gotoh 2009/11/\*\* 7 Justice and public reciprocity
- Reiko Gotoh & Paul Dumouchel (eds.) *Against Injustice: The New Economics of Amartya Sen*, pp.140-160
- 2009/12/04 松田 亮三・棟居 徳子 編 『健康権の再検討——近年の国際的議論から日本の課題を探る』
- 立命館大学生存学研究センター, 生存学研究センター報告 9, 99p. ISSN 1882-6539
- 2009/12/04 櫻井 浩子・堀田 義太郎編 編 『出生をめぐる倫理——「生存」への選択』
- 立命館大学生存学研究センター, 生存学研究センター報告 10, 194p. ISSN 1882-6539
- 三野 宏治 2009/12/08 「アメリカ合衆国: 社会福祉の現状, 地域精神保健福祉」
- 『世界の社会福祉年鑑 2009』 pp190-200, 旬報社.
- 川口 有美子 2009/12/15 『逝かない身体——ALS 的日常を生きる』, 医学書院, 270p. ISBN-10: 4260010034 ISBN-13: 978-4260010030 2100
- 部 彰・堀田 義太郎編 2010/02/26 『ケアとノの倫理』(生存学研究センター報告 11)
- 立命館大学生存学研究センター.
- ロード・レヴィ=ストロース著, 吉田 禎吾・渡辺 公三・福田 素子・鈴木 裕之・真島 一郎訳 2010/03/01 (共訳) 『クロード・レヴィ=ストロース 神話論理 4-2 裸の人 2』
- みすず書房, p.568, ISBN-10:4622081555 ISBN-13:978-4622081555 8925
- 渡辺 公三 2010/03/01 「訳者あとがき」
- クロード・レヴィ=ストロース著, 吉田 禎吾・渡辺 公三・福田 素子・鈴木 裕之・真島 一郎訳 『クロード・レヴィ=ストロース 神話論理 4-2 裸の人 2』 みすず書房: 873-896

大谷 いづみ 2010/03/04 「「尊厳死」思想の淵源—J.フレッチャーとバイオエシックスの交錯」 小松 美彦・香川 知晶編 『メタバイオエシックスの構築へ—生命倫理を問いなおす』 NTT 出版, 288p. pp.207-233 ISBN-10:4757160496 ISBN-13:978-4757160491 3360

天田 城介 2010/03/10 『 老い衰えゆくこと の社会学』

多賀出版, vi+683p. ISBN 978-4-8115-7571-1

早坂 裕子・広井 良典・天田 城介 2010/03/10 『社会学のつばさ—医療・看護・福祉を学ぶ人のために』

ネルヴァ書房, x+260p. ISBN-10: 4623056309 ISBN-13: 978-4623056309

望月 昭・サトウ タツヤ・中村 正・武藤 崇 編 2010/03/20 『対人援助学の可能性—「助ける科学」の創造と展開』 福村出版, 252p. ISBN-10: 457125038X ISBN-13: 978-4571250385

立命館大学生存学研究センター 編 2010/03/20 『生存学』 vol.2 生活書院, 416p. ISBN-13:978-4-903690-51-3

トマス ポック 立岩 真也 監訳 / 安部 彰・池田 浩章・石田 知恵・岩間 優希・齊藤 拓・原 佑介・的場 和子・村上 慎司 訳, 2010/03/25 『なぜ遠くの貧しい人への義務があるのか—世界的貧困と人権』, 423p ISBN-10:4903690520 ISBN-13: 9784903690520

生活書院 3000

青木 慎太郎 編 2010/03/25 『視覚障害学生支援技法 増補改訂版』, 生存学研究センター報告 12, 208p. ISSN 1882-6539

#### < 口頭発表等 >

櫻井 浩子 2009/04/03 「新生児・小児医療における『エホバの証人』輸血拒否事件—親の権利義務を中心に」 東京大学医療政策人材養成講座第9回倫理研究会 於：東京都愛育病院会議室 18:30-21:00

葛城 貞三 2009/04/14 報告「滋賀難病連の取り組み」

財政確立をめざす研修会 於：大阪城東府庁舎

Matsubara, Yoko 2009/04/17 Report "Rethinking the Discourse on the Cyborg Ethics." The 9th East Asia Science, Technology, and Society Networks Conference, National Cheng Kung University, Tainan, Taiwan

天田 城介 (コメント) 2009/04/19 ケア を考える会第44回例会. 午後~ . 於：京都市(二条).

Matoba, K.・Morita, T.・Sakiyama, H.・Deguchi, T. 2009/05/7-10 "An experience of Buddhism based palliative care 1: How nurses see the role of Bonze at Vihara unit?", 11th Congress of the European Association for Palliative Care, the Austria Center in Vienna.

Morita, T.・Matoba, K.・Sakiyama, H.・Deguchi, T. 2009/05/7-10 "An experience of Buddhism based palliative care 2: How Buddhism priest see their roles in PCU?",

11th Congress of the European Association for Palliative Care, the Austria Center in Vienna.

Sakiyama, H. · Deguchi, T. · Matoba, K. · Morita, T. 2009/05/7-10 "An experience of Buddhism based palliative care 3: Reconsidering the social consciousness of relegion", 11th Congress of the European Association for Palliative Care, the Austria Center in Vienna.

Hotta, Yoshitaro, Abe, Akira, Matoba, Kazuko & Arima, Hitoshi 2009/05/09 "The Importance of Social Support in Decision Making regarding Terminal Care: What ALS Patients in Japan can Teach us",

Poster Presentation at 11th Congress of the EAPC, Vienna, Austria

立岩 真也 2009/05/10 「協働・連帯のために今行なっていること」

国際シンポジウム：障害者による支援の未来——日・台・韓協働の可能性，於：立命館大学衣笠キャンパス

立岩 真也 2009/05/11 「生命哲学」

平成 21 年度滋賀県看護教員養成講習会 於：滋賀県看護研修センター，

立岩 真也 2009/05/14 「悲惨について注意深かったこと」

ひとり芝居「天の魚」2009 年公演，於：東京大学駒場キャンパス，

立岩 真也・坂上 香 2009/05/16 「『LIFERS』を巡って」(対談)

公開講座 シネマで学ぶ「人間と社会の現在」シリーズ 2 「“裁き”のそのあとで——加害といかに向き合うか」 於：立命館大学朱雀キャンパス

仲口路子 2009/05/17 「在宅医療と家族の位置/中立性」

第 35 回医療保健社会学会大会 看護・リハ系演題・ポスターセッション報告 於：熊本大学

能勢 桂介 2009/05/17「外国人と共生するローカル・シティズンシップの課題——長野県 X 地域を事例として」『移民政策学会』於：明治大学

田島 明子 2009/05/16-17 「作業療法の現代史・1965～1975 - 医療職化と独自性のはざまで - 」 第 35 回日本保健医療社会学会大会 於：熊本大学黒髭北地区 (ポスター報告)

大谷 いづみ 2009/05/17 「高校「倫理」の教育内容と教科書編集に関わる諸問題？——「いま」「ここ」で「知を愛すること/善く生きること」を問う営み」 日本哲学会第 68 回大会 於：慶応大学三田キャンパス 第 4 会場 第一校舎 124 ワークショップ「高等学校「哲学・倫理」の現状と課題」座長：坂井昭宏

新山 智基 2009/05/23 「ブルーリ潰瘍にみる顧みられない熱帯病の現状と課題——ガーナ共和国の事例を中心に」 日本アフリカ学会第 46 回学術大会 於：東京農業大学世田谷キャンパス

吉田 幸恵 2009/05/23「精神障害者の地域生活——生活史の聞き取りからみえてくる支援のあり方」グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点主催研究会「ケア研究会」於：創思館 416



日本居住福祉学会第9回大会，中京大学

天田 城介（講義） 2009/06/02 「臨床におけるコミュニケーションの皮肉と隘路——私たちの耐え忍ぶ振る舞いが他者にとっての脅威となる」。

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター講義「臨床コミュニケーション」．於：大阪大学吹田キャンパス．

佐野 竜介・大西 赤人・甲斐 隆治・北村 健太郎・松本 剛史・森戸 克則 2009/06/05-06 「「ヘモフィリア友の会全国ネットワーク」を御紹介します」

第32回日本血栓止血学会学術集会 於：北九州国際会議場

松原 洋子 2009/06/05 報告「ハイブリッドな身体を生きる——サイボーグ論の現在」

明治学院大学港区民大学講座「現代社会における技術と人間—テクノソサエティの現在」  
明治学院大学白金校舎

佐藤 浩子 2009/06/06 「医療的ケアを必要とする子どもへの自治体施策について」

福祉社会学会第7回大会 於： 於：日本福祉大学名古屋キャンパス

田島 明子・各務 勝博・北村 健太郎 2009/06/06

「「寝たきり老人」とノのリハビリテーション——特に1990年以降について」

第7回福祉社会学会 於：日本福祉大学名古屋キャンパス

小林 勇人 2009/06/07 「ニューヨーク市のワークフェア政策II」

第7回福祉社会学会 於：日本福祉大学名古屋キャンパス

伊藤 佳世子 2009/06/06 「長期療養の重度障害者の退院支援——筋ジストロフィー患者の事例から」 第7回福祉社会学会 於：日本福祉大学名古屋キャンパス

渋谷 光美 2009/06/06 「社会福祉サービスとしての在宅介護——家庭奉仕員制度創設期の政策と実態」 第7回福祉社会学会 於：日本福祉大学名古屋キャンパス

安部 彰・佐藤 静・有馬 斉 2009/06/07 「ケアの「社会化」を再考する」

第7回福祉社会学会 於：日本福祉大学名古屋キャンパス

佐藤 静・有馬 斉・安部 彰 2009/06/07 「ケアワークにおける諸問題の再検討——ケアの倫理を手がかりに」第7回福祉社会学会 於：日本福祉大学名古屋キャンパス

櫻井 浩子 2009/06/07 「重度障害新生児におけるケアの担い手——親子の権利義務関係からのアプローチを中心に」

福祉社会学会第7回大会 テーマセッション「ケアを再考する——家族・労働・規範」  
於：日本福祉大学名古屋キャンパス

有吉 玲子・仲口 路子・野崎 泰伸 2009/06/06 報告「1970年代～1980年代の高齢者医療と透析医療」 第7回福祉社会学会 於：日本福祉大学名古屋キャンパス

仲口 路子・有吉 玲子・野崎 泰伸 2009/06/06 報告

「1990年代以降の高齢者医療政策の変容——「入院期間の短縮」から「早期退院」へ」

第7回福祉社会学会 於：日本福祉大学名古屋キャンパス

牧 昌子・北村 健太郎・野崎 泰伸 2009/06/06 「老年者控除廃止がもたらした可処分所得への影響——2000年代以降における高齢者をめぐる税制改正の現在」

第7回福祉社会学会 於：日本福祉大学

- 天田 城介 (司会) 2009/06/06 「(テーマセッション(C))『老いをめぐる政策と歴史——その変容』の司会)」 福祉社会学会第7回大会. 於: 日本福祉大学名古屋キャンパス
- 立岩 真也 2009/06/07 「研究を次に進めるために」  
福祉社会学会第7回大会テーマセッション「心や精神や神経の病や障害、と社会」 於:  
日本福祉大学
- 三野宏治 2009/06/07 「アメリカにおける脱入院化——ケネディ教書以前とその後」  
福祉社会学会第7回大会テーマセッション「心や精神や神経の病や障害、と社会」 於:  
日本福祉大学
- 吉田 幸恵 2009/06/07 「精神障害者の地域生活支援の在り方の一考察——ある精神障害者の生活史聞き取り調査より」 福祉社会学会第7回大会テーマセッション「心や精神や神経の病や障害、と社会」 於: 日本福祉大学
- 山口 真紀 2009/06/07 「診断名を与えること/得ることについての問題の再検討——ニキの主張を起点にして」 福祉社会学会第7回大会テーマセッション「心や精神や神経の病や障害、と社会」 於: 日本福祉大学
- 松枝 亜希子 2009/06/07 「1950-60年代のトランクライザーの隆盛」  
福祉社会学会第7回大会テーマセッション「心や精神や神経の病や障害、と社会」 於:  
日本福祉大学
- 立岩 真也 2009/06/07 「何が起こってしまったのか」  
福祉社会学会第7回大会シンポジウム「共助の時代再考」 於: 日本福祉大学名古屋キャンパス
- 後藤玲子 2009/06/07 償いでもなく、報いでもなく、必要だから——公的扶助の〈無条件性〉と〈十分性〉を支援する」 福祉社会学会第7回大会シンポジウム「共助の時代再考」 於: 日本福祉大学名古屋キャンパス
- 天田 城介 2009/06/07 「老いをめぐる政策と歴史・素描——なぜゆえに高齢者を生かそうとしてきたのか」 福祉社会学会第7回大会シンポジウム「共助の時代再考」 於: 日本福祉大学名古屋キャンパス
- Matsubara, Yoko 2009/06/10 “Seizongaku Ars Vivendi: Interdisciplinary Studies on Forms of Human Life and Survival.” インドネシア公共政策立案研修〈第1期〉、於: 立命館大学衣笠キャンパス
- 松原 洋子 2009/06/13 「サイボーグ論の射程: サイエンス・スタディーズと生命倫理から」 第60回 現代人類学研究会発表 於: 東京大学駒場キャンパス 18号館 4階 コラボレーションルーム2
- 新山 智基 2009/06/13 「アフリカにおける顧みられない熱帯病問題——ガーナ共和国・ブルリ潰瘍の事例を中心に」 リスクと公共性研究会 於: 京都大学稲盛財団記念館
- 天田 城介 (コメント) 2009/06/13 第22回認知症介護研究会. 於: 立命館大学朱雀キャンパス多目的室.
- 上田 寛・望月 昭 2009/06/13 「休暇」(対談) 公開講座 シネマで学ぶ「人間と社会の現在」シリーズ2 「“裁き”のそのあとで——加害といかに向き合うか」第2回 於: 立命

館大学朱雀キャンパス

川口 有美子 2009/06/14 「NPPV(非侵襲的人工呼吸療法)とTPPV(気管切開による人工呼吸療法)のインフォームド・コンセントに係る問題」

DPI全国集会 函館大会 於:函館市総合福祉センター 2F 第1会議室

堀田 義太郎 2009/06/14「ケア・再分配・格差について」 第7回ベーシック・インカム研究会(ベーシック・インカム日本ネットワーク準備委員会) 於:立命館大学

天田 城介(司会・コメント) 2009/6/15 「(桑畑洋一郎氏の報告へのコメント)」

2009年度第1回「現代社会における統制と連帯」研究会. 於:立命館大学衣笠キャンパス創思館302.

松原 洋子 2009/06/15 「人間と科学」 平成21年度滋賀県看護教員養成講習会、於:滋賀県看護研修センター

的場 和子・数藤 武彦・多田 洋子・多賀 裕美・森田 敬史 2009/06/19 「緩和ケア外来の試みから見えてくるもの」 第14回日本緩和医療学会学術大会 於:大阪国際会議場

森田 敬史・出口 剛司・崎山 治男・的場 和子・多田 洋子・田宮 仁 2009/06/19

「緩和ケア病棟における仏教者の関わり」 第14回日本緩和医療学会学術大会 於:大阪国際会議場

川口 有美子 2009/06/20 「エピキュリアンなエンド・オブ・ライフを実現する緩和ケア」 第14回日本緩和医療学会学術大会シンポジウム 於:大阪国際会議場

立岩 真也 2009/06/20 「御挨拶」ALS患者医療介護フォーラム, 於:台北花園ホテル

北村 健太郎 2009/06/20 「市野川容孝氏への質問」

「身体/生命×社会——市野川容孝氏に聞く」 於:立命館大学衣笠キャンパス創思館403・404教室

立岩 真也 2009/06/20 「幾らかの差異について」

「身体/生命×社会——市野川容孝氏に聞く」 於:立命館大学衣笠キャンパス創思館403・404教室

天田 城介(司会・コメント) 2009/06/20 「(市野川容孝氏の報告へのコメント)」

立命館大学グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点 公開研究会「身体/生命×社会——市野川容孝氏に聞く」. 於:立命館大学衣笠キャンパス創思館403・404教室.

堀田 義太郎 2009/06/20「出生選択の倫理学」

科学研究費補助金・基盤研究(C)「生殖と身体をめぐる“自然主義”の再検討」(2008-2011年度)研究代表者:大越愛子 第一回研究会 於:近畿大学

角崎 洋平 2009/6/20「社会政策のなかの生活福祉資金貸付制度」

日本社会保障研究会 第123回例会 於 キャンパスプラザ京都

川口 有美子 2009/06/21 「千葉で進化する介護」

進化する介護 in 千葉 於:千葉大学・けやき会館

立岩 真也 2009/06/21 「生の技法——つまり、使えるものは使う」

進化する介護 in 千葉 於:千葉大学・けやき会館

- 伊藤 佳世子 2009/06/21 実行委員「進化する介護」and 市民講座  
進化する介護 in 千葉 於：千葉大学・けやき会館
- 堀田 義太郎 2009/06/24 報告「『治療行為の正当化原理』（小林公夫著、日本評論社、2007年）講読 第3章～終章まで」 第6回「"QOL"を考える勉強会」於：創思館 410
- 櫻井 悟史 2009/06/25 「生に対する歴史の功罪——ヘイドン・ホワイト「歴史への意志」を読む」物語と歴史研究会
- 中田 喜一 2009/06/25 「ヘイドン・ホワイト「歴史における物語性の価値」読解」 物語と歴史研究会
- 西田 美紀 2009/06/\*\* 講義  
「重度訪問介護利用者の医療的ケア・介護支援 ——ALS（筋萎縮性側索硬化症）を中心に」 JCIL 主催，重度訪問養成研修
- 梁 陽日（醸一） 2009/07/03 報告「学校文化とエンパワメント」  
第1回「地域社会におけるマイノリティの生活／実践の動態と政策的介入の力学に関する社会学研究」研究会
- 櫻井 悟史 2009/07/04 「福間良明氏の仕事を／から学ぶ——歴史社会学の論文の一つの書き方」歴史社会学研究会
- 角崎 洋平 2009/07/09 「『シンガーの実践倫理を読み解く』」  
功利主義読書会 於：立命館大学衣笠キャンパス創思館 416（生存学書庫）
- 小川 浩史 2009/07/09 「野家啓一『物語の哲学』第一章「「物語る」ということ——物語行為論序説」読解 物語と歴史研究会
- 西嶋 一泰 2009/07/09 「野家啓一『物語の哲学』第七章「物語り行為による世界制作」読解 物語と歴史研究会
- 天田 城介（コメント） 2009/07/10 「（コメント）」 ラジオ関西．於：ラジオ関西
- 小林 勇人 2009/07/11 報告 関西社会福祉学会第16回若手研究者・院生情報交換会
- 堀田 義太郎 2009/07/11 報告 関西社会福祉学会第16回若手研究者・院生情報交換会
- 天田 城介（講演） 2009/07/11 「社会的なものをめぐって問うべきこと——立ち止まりながら歩を進めること」 熊本学園大学ウェルビーイング研究会 発足記念講演．於：熊本学園大学．
- 原 佑介 2009/07/12-3 「小林勝と在日朝鮮人文学」  
フォーラム「日本軍政下の東南アジアと台湾・沖縄」 於：江東区大島文化センター
- 中倉 智徳 2009/07/13 「人的資本・社会関係資本についてのノート」  
グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点主催研究会 第1回労働研究会 於：立命館大学 生存学センター（創思館 416）
- 立岩 真也 2009/07/14 「質問+日本のことを幾つか」 「リーズ大学における障害学——Simon Prideaux 氏に聞く」，主催：立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点於：立命館大学創思館
- 山本 崇記 2009/07/15 「部落解放運動の過去・現在・未来（4）——山内政夫氏（柳原銀行記念資料館）に聞く」（インタビュー記録）

- 櫻井 浩子 2009/07/17 「子どもを亡くした親の想いと患者会活動」  
同志社大学社会福祉特殊講義（臨床死生学） 於：同志社大学
- 佐賀 千恵美・中村 正 2009/07/18 （対談）「カナリア」  
開講座 シネマで学ぶ「人間と社会の現在」シリーズ2 「“裁き”のそのあとで——加害と  
いかに向き合うか」第3回 於：立命館大学朱雀キャンパス
- 立岩 真也 2009/07/18 「基本を確認する」  
第25回赤穂市市民福祉講座，主催：赤穂市社会福祉協議会，於：赤穂市総合福祉会館  
3階集会室 13:30～15:30，
- 渡辺 公三 2009/07/18 「闘うレヴィ＝ストロース——学生時代から神話研究まで」  
第12回早稲田大学文化人類学会研究集会 於：早稲田大学36号館
- 角崎 洋平 2009/7/18 「社会福祉思想における 貸付 の配置——ユヌス・ベンサム・  
井関孝雄」 法理学研究会7月例会 於 同志社大学
- 天田 城介 2009/07/18 報告 「老いと人権 働けない老いの身体 / 働ける老いの身  
体の分割線」『講座 人権論の再定位』執筆者会議．13：00～18：00．於：アルカディア  
市ヶ谷．
- 天田 城介 2009/07/19 講義「人間であることの条件」  
NHK 学園「人間学」講義．於：関西大学天六学舎．
- 仲口 路子 2009/07/19 「医療行為の「困り込み」に関する構築主義的研究」  
グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点主催研究会「ケア研究会」 於：立命館  
大学 生存学センター(創思館 414)
- 小幡 光子 2009/07/19 「看護師はいま—医療・看護をめぐる現状報告」  
グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点主催研究会「ケア研究会」於：立命館大  
学 生存学センター(創思館 414)
- 片山 知哉 2009/07/21 シンポジウム「精神医学的アプローチの提案」  
第13回横浜市療育研究大会全体会
- 大谷 通高 2009/07/23 「「表象と真実——ヘイドン・ホワイト批判に寄せて 4節～6節」  
を読む」 第3回物語と歴史研究会
- 村上 慎司 2009/07/26 報告「QOLに関する原理的な検討に向けての予備的考察」  
第7回「”QOL”を考える勉強会」於：創思館 410
- 櫻井 浩子 2009/07/26 報告「終末期にある「子どもの最善の利益」とQOL」  
第7回「”QOL”を考える勉強会」於：創思館 410
- 植村 要 2009/07/26 報告「「エンハンスメント」論の言説構造について——「障害者」  
の生に定位して」 第7回「”QOL”を考える勉強会」於：創思館 410
- 佐藤 = ロスベアグ・ナナ 2009/07/\*\* "A Voice of Ainu Woman Translator"  
オーストラリア日本学会第16回大会:シドニー
- 天田 城介(司会・コメント) 2009/08/01 立命館大学グローバル COE プログラム「生  
存学」創成拠点 公開研究会「フーコーの仕事について——酒井隆史氏と論じる」．於：立  
命館大学衣笠キャンパス創思館 303・304 教室．

- 立岩 真也 2009/08/01 「御挨拶—できたらよいと思っていること」  
NEC 難病コミュニケーション支援講座—生きるためのコミュニケーション, 於: 立命館大学衣笠キャンパス,
- 天田 城介 (集中講義) 2009/08/05-07 立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科〔専門社会調査演習 3 (質的調査法)〕 立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科集中講義 . 於: 立教大学新座キャンパス .
- 磯邊 厚子・井関敦子・石村久美子 2009/08/05-6 「スリランカの農村における母子の健康と潜在能力」 第 24 回日本国際保健医療学会学術大会/仙台 於: 東北大学
- 天田 城介 (コメント) 2009/08/06 「(何か)」りつりつ研究会 . 於: 立教大学池袋キャンパス .
- 高橋 慎一 2009/08/11 「障害者運動とまちづくり運動の展開 (1) —矢吹文敏氏 (日本自立生活センター) に聞く」(インタビュー記録)
- 岩田 京子 2009/08/21 「福間良明「大東亜」空間の生産( ) ( )—地政学における空間認識の動態性とナショナリティの再構築—」を読む」 第 8 回歴史社会学研究会
- 角崎 洋平 2009/08/21 「福間良明 (2003)『辺境に映る日本—ナショナリティの融解と再構築』柏書房を読む」 第 8 回歴史社会学研究会
- 松枝 亜希子 2009/08/21 「『反戦』のメディア史—戦後日本における世論と輿論の拮抗』を読む」 第 8 回歴史社会学研究会
- 立岩 真也 2009/08/22 「ただ生きられる世界へ」 於: 大阪ベイタワーホテル (環状線・弁天町),
- 堀田 義太郎 2009/08/22 報告「小林公夫, 2007『治療行為の正当化原理』日本評論社 . 講読 第 4 章第 4 節 ~ 終章まで」 第 8 回「"QOL"を考える勉強会」於: 創思館 410
- サトウ タツヤ 2009/08/26 話題提供者「我が国の心理学教育は学士力を保証できるか?」 日本心理学会第 73 回大会シンポジウム 於: 立命館大学衣笠キャンパス敬学館 250 9:30~11:30
- サトウ タツヤ 2009/08/26 企画者 & 指定討論者「裁判員裁判をめぐる「法と心理学」」 日本心理学会第 73 回大会ワークショップ 於: 立命館大学衣笠キャンパス敬学館 236 12:30-14:30
- サトウ タツヤ 2009/08/26 企画者「心理士に問われること 現場からの期待をこめて」 日本心理学会第 73 回大会シンポジウム 於: 立命館大学衣笠キャンパス敬学館 230 15:00~17:00
- 上村 晃弘・サトウ タツヤ 2009/08/26 「東金女児遺棄事件における報道とネット上の意見」 日本心理学会第 73 回大会ポスター 於: 立命館大学衣笠キャンパス以学館地階ポスター会場 12:30-14:30
- 立岩 真也 2009/08/27 「むしろかいくぐること」 日本心理学会第 73 回大会シンポジウム「指定討論: たすける・いきる・みせる—人にかかわる研究の倫理とは?」 於: 立命館大学衣笠キャンパス敬学館 230 15:00~17:00

渡辺 公三 2009/08/27 「指定討論」

日本心理学会第 73 回大会シンポジウム「指定討論：たすける・いきる・みせる——人にかかわる研究の倫理とは？」 於：立命館大学衣笠キャンパス敬学館 230 15:00～17:00

サトウ タツヤ 2009/08/27 企画者「「時間」と「空間」のなかで自己の変化を捉える」  
日本心理学会第 73 回大会シンポジウム 於：立命館大学衣笠キャンパス敬学館 210  
15:00～17:00

倉田 真由美 2009/08/28 話題提供者「死に対する態度研究の現状と展開」

日本心理学会第 73 回大会 ワークショップ 於：立命館大学衣笠キャンパス敬学館 253  
9:30-11:30

日高 友郎・福田 茉莉・水月 昭道・サトウ タツヤ 2009/08/28 「ALS 患者のコミュニケーション支援のエスノグラフィ」

日本心理学会第 73 回大会ポスター 於：立命館大学衣笠キャンパス以学館地階ポスター会場 9:30-11:30

サトウ タツヤ・若林 宏輔・滑田 明暢・安田 裕子・渡邊 芳之 2009/08/28 「時間的径路の類型化：人間理解への方法論的提案～個別性と普遍性のあいだ～」

日本心理学会第 73 回大会ポスター 於：立命館大学衣笠キャンパス以学館地階ポスター会場 9:30-11:30

大木 萌・サトウ タツヤ 2009/08/28 「幼児の「現実」認識の構成～サンタクロースの存在理解を通して～」

日本心理学会第 73 回大会ポスター 於：立命館大学衣笠キャンパス以学館地階ポスター会場 9:30-11:30

天田 城介 2009/08/28 司会&企画&指定討論者 「「古い」をめぐると時間——その身体と社会」 日本心理学会第 73 回大会シンポジウム 於：立命館大学衣笠キャンパス敬学館 210 12:30～14:30

望月 昭 2009/08/26 司会「特別講演 21 世紀を担う子どもを育てる」(講演者 アグネス・チャン) 日本心理学会第 73 回大会シンポジウム 於：立命館大学衣笠キャンパス以学館 1 号ホール 17:15-18:15

西田 美紀 2009/08/28-29 「「独居 AL-S 療養者の気管切開前の生活・支援体制課題——NPPV が必要となった患者の一事例を通じて」 日本難病看護学会

伊藤 佳世子 2009/08/28-29 口述発表「医療的ケアのある重度障害者への医療と福祉の連携～病院から地域生活へ戻る筋ジストロフィー患者の事例から～」 日本難病看護学会  
学術集会第 14 回大会 於：前橋テルサ

天田 城介 (司会・コメント) 2009/8/31 「美馬達哉氏の報告へのコメント」

2009 年度第 2 回「現代社会における統制と連帯」研究会 於：立命館大学衣笠キャンパス創思館 403・404.

Hiroko Sakurai 2009/08/\*\* "Activities of the Trisomy 18 Support Group: Mental Care for the Parents of Infants with Trisomy 18", The 11th World Congress of World Association for Infant Mental Health、Congress Center at Pacifico Yokohama

- 立岩 真也 2009/09/05 「生まれる前に決めること」 神経筋疾患ネットワーク主催シンポジウム 於：ハートピア京都,
- 天田 城介 (司会) 2009/09/05 「(司会)」
- 立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点公開企画「研究の自由と倫理を考える—生命科学をめぐる」. 於：立命館大学衣笠キャンパス創思館 403・404
- 立岩 真也 2009/09/06 「論点と論点はあるが通過されるという現況について」
- 東京大学グローバル COE プログラム「死生学の展開と組織化」・立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点 於：東京大学(本郷)
- 大谷 いづみ 2009/09/06 /a/20090906.htm 「パッケージ化される「よき死」の作法」
- 死生学と生存学—対話・1 於：東京大学(本郷)
- 川口 有美子 2009/09/06 「意思表示が困難になりゆく ALS における「生死をわけるプログラム」」 死生学と生存学—対話・1 於：東京大学(本郷)
- 堀田 義太郎 2009/09/06 「哲学・倫理学からの応答 2—ある治療拒否擁護論とその批判」 死生学と生存学—対話・1 於：東京大学(本郷)
- 村上 潔 2009/09/10 [講義]「主婦的状况を考える」
- 加古川市立陵南公民館平成 21 年度市民生涯学習大学講座(思春期・親育ち・子育て学科) 於：陵南公民館講義室
- 天田 城介 2009/09/12 講演「いまある唯一のこの身体の世界とともに在ること」
- 頭部外傷や病気による後遺症を持つ若者と家族の会 + 立命館大学生存学研究センター共催企画講演会 於：立命館大学
- 堀田 義太郎 2009/09/13 「在宅独居 ALS 患者の生活支援の諸課題—事例報告」
- 日本質的心理学会 第 6 回大会自主企画シンポジウム「難病患者を支える多層システムの構築と広がり—「ラーニングの支援」に注目して」 於：北海学園大学
- 大野 真由子 2009/09/13 「難病者の「疾病のパラドックスについての一考察— CRPS 患者の語りから得られる援助的視座」日本質的心理学会 於：北海学園大学
- 大谷 いづみ 2009/9/15 (講義)「パッケージ化される「よき死」の作法」
- 大阪大学(医の倫理学教室)講義「社会医学」 於：大阪大学吹田キャンパス医学講義棟視聴覚教室
- 天田 城介 (司会・コメント) 2009/09/18 歴史社会学研究会 + 立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点 公開研究会「歴史社会学の方法論—福間良明氏の仕事の仕方」. 於：立命館大学衣笠キャンパス諒友館 824 教室 .
- 松田 有紀子 2009/09/18 指定質問「「辺境」の定義と「日本」の発話の位置」
- 歴史社会学研究会 + 立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点 公開研究会「歴史社会学の方法論—福間良明氏の仕事の仕方」. 於：立命館大学衣笠キャンパス諒友館 824 教室 .
- 岩田 京子 「1920 年代から 30 年代の連続性または断絶」
- 歴史社会学研究会 + 立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点 公開研究会「歴史社会学の方法論—福間良明氏の仕事の仕方」. 於：立命館大学衣笠キャンパス諒

友館 824 教室 .

角崎 洋平 2009/09/18 指定質問「歴史社会学の応用可能性——社会科学にとっての歴史研究の方法論について」

歴史社会学研究会 + 立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点 公開研究会「歴史社会学の方法論——福間良明氏の仕事の仕方」. 於：立命館大学衣笠キャンパス諒友館 824 教室 .

櫻井 悟史 2009/09/18 指定質問「「語りがたい」ことについて・歴史を記述することで何ができるのかについて」

歴史社会学研究会 + 立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点 公開研究会「歴史社会学の方法論——福間良明氏の仕事の仕方」. 於：立命館大学衣笠キャンパス諒友館 824 教室 .

小川 浩史 2009/09/18 指定質問「戦争体験に執着することとナショナルな物語を内破することについて」

歴史社会学研究会 + 立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点 公開研究会「歴史社会学の方法論——福間良明氏の仕事の仕方」. 於：立命館大学衣笠キャンパス諒友館 824 教室 .

西嶋 一泰 2009/09/18 指定質問「一九五〇年代における「戦争体験」を語る場」

歴史社会学研究会 + 立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点 公開研究会「歴史社会学の方法論——福間良明氏の仕事の仕方」. 於：立命館大学衣笠キャンパス諒友館 824 教室 .

大谷 通高 2009/09/18 指定質問「「戦争体験」を「教養」とする論証についての質問——『「戦争体験」の戦後史』から」

歴史社会学研究会 + 立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点 公開研究会「歴史社会学の方法論——福間良明氏の仕事の仕方」. 於：立命館大学衣笠キャンパス諒友館 824 教室 .

サトウ タツヤ 2009/09/21 「さまざまな困難をのりこえるための家族・仲間の大切さ——患者さんから学ぶ」 日本学術振興会ひらめき ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI 於：立命館大学 衣笠キャンパス 創思館 3 階 創 303 教室 10：30（受付開始）～16：00

立岩 真也 2009/09/22 「交信のために——ここで行なわれていること」

平成 21 年 ITP-SL 夏季ワークショップ, 於：立命館大学衣笠セミナーハウス,

大谷 いづみ 2009/09/21 「パッケージ化される「よき死」の作法」

平成 21 年 ITP-SL 夏季ワークショップ, 於：立命館大学衣笠セミナーハウス,

森下 直紀 2009/09/26 「河川エンジニアとダム of 審美性」

日本科学史学会生物学史分科会「夏の学校 2009」, 神宮会館・五十鈴塾中央舎(三重県伊勢市)

片山 知哉・山田 裕一 2009/09/26 一般報告(演壇)「ふたつの構造的抑圧——専門家支配と能力主義に抗して自閉文化の存在意義を擁護する」 障害学会第 6 回大会 於：立命

## 館大学朱雀キャンパス

立岩 真也 2009/09/26 「シンポジウム「障害学生支援を語る」に寄せて—ここでな  
われていること」 障害学会第6回大会, 朱雀キャンパス

吉野 靱 2009/09/27 一般報告(演壇)「性同一性障害の疾病化の『恩恵』とその限界性」  
障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

野崎 泰伸 2009/09/27 一般報告(演壇)「ディアスポラとしての障害—障害はないに  
こしたことはないか、への1つの視座」 障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャン  
パス

青木 慎太郎・安田 真之 2009/09/26-27 ポスター報告「視覚障害大学院生の研究支援  
における課題—立命館大学大学院における「視覚系パソコン講座」から見てきたもの」  
障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

阿部 あかね 2009/09/26-27 ポスター報告「1970年代日本の精神医療改革運動に与え  
た「反精神医学」の影響」 障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

池田 雅広 2009/09/26-27 ポスター報告「Outsider art の系譜と活動支援—障害者芸  
術の視点から」 障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

伊藤 佳世子・川口 有美子・川島 孝一郎・野崎 泰伸 2009/09/26-27 ポスター報告「A  
L S—人々の承認に先行する生存の肯定」 障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀  
キャンパス

植村 要・山口 真紀・櫻井 悟史・鹿島 萌子 2009/09/26-27 ポスター報告「書籍のテ  
キストデータ化にかかるコストについて」 障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キ  
ャンパス

大野 真由子 2009/09/26-27 ポスター報告「障害者福祉制度の谷間に落ちる難病者の現  
状と課題について」

障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

大山 良子・伊藤 佳世子・河原 仁志・高阪 静子・林 典子・田中 環 2009/09/26-27 ポ  
スター報告「長期療養の重度障害者の地域移行における支援方法の検討—筋ジストロフ  
ィー患者の地域移行事例から」 障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

北村 健太郎 2009/09/26-27 ポスター報告「「ヘモフィリア友の会全国ネットワーク」  
の結成」 障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

坂本 徳仁・佐藤 浩子・渡邊 あい子 2009/09/26-27 ポスター報告「聴覚障害者の情報  
保障と手話通訳制度に関する考察—3つの自治体の実態調査から」

障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

櫻井 悟史・鹿島 萌子・池田 雅広 2009/09/26-27 ポスター報告「音声認識ソフトを用  
いた学習権保障のための仕組み」 第6回障害学会大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

佐藤 浩子・野崎 泰伸・川口 有美子 2009/09/26-27 「重度障害者等包括支援について  
—個別と包括の制度間比較」 障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

渋谷 光美 2009/09/26-27 ポスター報告「家庭奉仕員制度の国家政策化の背景に関する  
考察」 第6回障害学会大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

鄭 喜慶 2009/09/26-27 ポスター報告「変革運動と部分運動としての障害人運動—1989年韓国障害人雇用促進法制定と障害人福祉法闘争運動をめぐって」

第6回障害学会大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

白杉 眞 2009/09/26-27 ポスター報告「重度身体障害者の自立支援における自立生活センターの支援の在り方—自立生活センターにおける権利擁護活動を中心にして」

障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

田島 明子 2009/09/26-27 ポスター報告「作業療法学における認知症高齢者支援をめぐる変容・編制過程—1980・1990年代のリハビリテーション雑誌の検討」

障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

西田 美紀 2009/09/26-27 ポスター報告「医療的ケアを必要とする進行性重度障害者の単身在宅生活に向けての課題」 障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

長谷川 唯 2009/09/26-27 ポスター報告「重度障害者の在宅支援体制の事例検討」

障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

韓 星民・天畠 大輔・川口 有美子 2009/09/26-27 ポスター報告「情報コミュニケーションと障害の分類」 障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

安田 真之 2009/09/26-27 ポスター報告「学生ボランティアを中心とした障害学生支援の課題—日本福祉大学における障害学生支援を手がかりとしての考察」

障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

三野 宏治 2009/09/26-27 ポスター報告「精神障害当事者と支援者による障害者施設における対等性についての研究—クラブハウスモデル研究を通して支援関係の変換の試み」

障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

松枝 亜希子 2009/09/26-27 ポスター報告「向精神薬が規制されるにいたった経緯とその論拠—トランクライザーの事例から」 障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

山口 真紀 2009/09/26-27 ポスター報告「病名診断をめぐるとは何か—診断名を求め、語る声から考える」 障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

吉田 幸恵 2009/09/26-27 ポスター報告「<病い>を抱える人が社会で生きていく戦略—障害者の生活史から」 障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

山本 晋輔 2009/09/26-27 ポスター報告「重度障害者の単身在宅生活における住まいの実態と課題」 障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

渡邊あい子 2009/09/26-27 ポスター報告「障害者とパフォーマンスアーツの生成と展開—1970年代から現在まで」 障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

吉田 幸恵 2009/09/26-27 ポスター報告「<病い>を抱える人が社会で生きていく戦略—障害者の生活史から」 障害学会第6回大会 於:立命館大学朱雀キャンパス

HAYASHI Tatsuo September 28-29, 2009 "Working Hand-in-hand for the Just World", 2009 UNU/UNESCO International Conference on Africa and Globalization-Learning from the Past, Enabling a Better Future-", United Nations University

立岩 真也 2009/10/02 「生存学という企み」 国立民族学博物館学術潮流サロン 於：  
国立民族博物館

松原 洋子・天田 城介 2009/10/02 「研究倫理をめぐる歴史と現在(1)・(2)」

2009年度リサーチマネジメント 第01・02回 於：創思館411

阿部 あかね 2009/10/03 「反精神医学議論における、「病氣」をどう捉えるかという問題について」 「精神保健・医療と社会」研究会第1回研究会

岩佐 光章・本田 秀夫・清水 康夫・今井 美保・片山 知哉 2009/10/02 「特定地域の出生コホートに基づく小児自閉症の長期転帰—幼児期に悉皆的発生率調査で同定された子どもたちの15年後—」 児童青年精神医学会 一般口演

萩原 浩史 2009/10/09 シンポジウム「障がい者が地域で生活するために—淀川区における相談支援事業について—」 淀川区地域支援システム研修会「地域での障がい者支援について考える」主催：淀川区役所 淀川区保健福祉センター 淀川区社会福祉協議会 於：淀川区民センター

天田 城介 (司会・コメント) 2009/10/10 「文元基宝氏・森岡敦氏へのコメント」

第23回認知症介護研究会 於：立命館大学朱雀キャンパス多目的室

佐藤 量 2009/10/11 「東拓移民の帰国をめぐる同窓会の役割：禾湖里尋常小学校同窓会を事例に」 国際シンポジウム「環太平洋地域における日本人の国際移動」 於：立命館大学衣笠キャンパス創思館1Fカンファレンスルーム

立岩 真也 2009/10/11 「否応のない苦難、けれども打つ手はあるはずだ—京都で」 医療を要する重度障害者サポートシステムのための勉強会・第1回 於：京都、

日高 友郎・サトウ タツヤ 2009/10/12 「ALSサイエンスカフェの場の分析」 日本社会心理学会第50回大会・日本グループダイナミクス学会第56回大会合同大会, p.110

櫻井 悟史 2009/10/12 「刑務官が死刑執行人となることの問題の変遷」 (A Historical Review of the Problems concerning Whether Prison Officers Should be the Executioner) 第82回日本社会学会大会 於：立教大学

櫻井 悟史 2009/10/17-18 「押丁・看守=死刑執行人 囚式の成立背景—明治期の絞首刑をめぐる動向をてがかりに」 日本犯罪社会学会第36回(2009年度)大会

金城 美幸 2009/10/22 研究報告「《ホロコースト》をどう呼びうるか?—言語・政治・歴史的想像力」

特別公開企画「アフター・メタヒストリー—ヘイドン・ホワイト教授のポストモダニズム講義」 於：立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム

西嶋 一泰 2009/10/22 研究報告「歴史は誰がなぜどう描くか?—国民的歴史学運動と生活記録運動に即して」

特別公開企画「アフター・メタヒストリー—ヘイドン・ホワイト教授のポストモダニズム講義」 於：立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム

川口 有美子 2009/10/22 「難病患者を地域で支える医療・保健・福祉を強化する」

日本公衆衛生学会 シンポジウム, 10:05~12:05 於：奈良市文化会館

望月 昭 2009/10/23 「心理学と研究倫理(1)・(2)」

2009 年度リサーチマネジメント 第 03・04 回 於：創思館 411

立岩 真也 2009/10/24 「『生の技法』までとそれからの 20 年」 / 送付した文章

自立生活センター・アークスペクトラム主催シンポジウム自立活センターの歩み—これまでの記録と記憶。これからの希望。 於：ハートピア京都,

佐藤 達哉 2009/10/30 講演「生きる—出会いの場からの生の創造—」

2009 年度立正大学石橋湛山研究助成公開講演会「生きる—出会いの場からの生の創造」  
於：立正大学 1151 教室

佐藤 達哉 2009/10/30 講演「生きる—出会いの場からの生の創造—」

2009 年度立正大学石橋湛山研究助成公開講演会「生きる—出会いの場からの生の創造」  
於：立正大学 1151 教室

一宮 茂子 2009/10/30 「倫理委員会体制のもとでの研究とその困難 ( 1 )・( 2 )」

2009 年度リサーチマネジメント 第 05・06 回於：創思館 411

西 成彦 2009/10/30 大会進行

日本比較文学大会第 45 回関西大会 於：立命館大学衣笠キャンパス創思館

原 佑介 「植民地二世作家小林勝と朝鮮へのノスタルジア」

日本比較文学大会第 45 回関西大会 於：立命館大学衣笠キャンパス創思館

寺下 浩徳 「李北鳴におけるプロレタリア文学思想の変遷」

日本比較文学大会第 45 回関西大会 於：立命館大学衣笠キャンパス創思館

佐藤 = ロスベアグ・ナナ 2009/10/30 「自己翻訳にこだまする声 —知里幸恵とアイヌ神謡集—」 日本比較文学大会第 45 回関西大会 於：立命館大学衣笠キャンパス創思館

大野 藍梨 2009/10/30 「『わたしはティチューバ』における黒人奴隷制への抵抗」

日本比較文学大会第 45 回関西大会 於：立命館大学衣笠キャンパス創思館

大谷 いづみ 2009/11/01 「尊厳死」思想の淵源—J.フレッチャーとバイオエシックスの交錯」 日本医学哲学・倫理学会第 28 回大会 於：滋賀医科大学

片山 知哉 2009/11/01 「医療における代理決定と所属—終末期医療においてゲイ・レズビアンが直面する諸困難を例に」(抄録)・(報告資料) 日本医学哲学・倫理学会第 28 回大会 於：滋賀医科大学

貞岡 美伸 2009/11/01 「代理懐胎の容認を可能にする条件の検討」

日本医学哲学・倫理学会第 28 回大会 於：滋賀医科大学

サトウ タツヤ 2009/11/01 総合司会

第 1 回対人援助学会—連携に向けたプラットフォームの創造 主催：対人援助学会 共催：立命館大学大学院応用人間科学研究科、立命館大学人間科学研究所  
於：立命館大学衣笠キャンパス 創思館 1F カンファレンスルーム

望月 昭 2009/11/01 開会挨拶

第 1 回対人援助学会—連携に向けたプラットフォームの創造 主催：対人援助学会 共催：立命館大学大学院応用人間科学研究科、立命館大学人間科学研究所  
於：立命館大学衣笠キャンパス 創思館 1F カンファレンスルーム

サトウ タツヤ 2009/11/01 シンポジウム 3 : 「対人援助とアドボカシー」

第1回対人援助学会—連携に向けたプラットフォームの創造 主催：対人援助学会 共催：立命館大学大学院応用人間科学研究科、立命館大学人間科学研究所

於：立命館大学衣笠キャンパス 創思館 1F カンファレンスルーム

立岩 真也 2009/11/02 「死の代わりに失われるもの—日本での動向の紹介に加えて」

安楽死問題韓国国際セミナー 於：韓国・ソウル市・国会議員会館、

立岩 真也 2009/11/03 「韓国障害学研究会結成を祝して—日本のこれまで」

障害学研究会結成集会 於：韓国・ソウル市

三野 宏治 2009/11/03 「精神障害当事者と支援者による障害者施設における対等性についての研究」「精神保健・医療と社会」研究会第2回研究会

山口 真紀 2009/11/03 「精神障害当事者と支援者による障害者施設における対等性についての研究」「精神保健・医療と社会」研究会第2回研究会

立岩 真也 2009/11/08 「良い死？/唯の生！」

大阪青い芝の会定期大会 於：大阪市浪速区

天田 城介 2009/11/12 決定すること/してしまうことを思考する 当事者でも家族でも専門家でも、そして何者でもないこと、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター講義「臨床コミュニケーション」, 16:20~17:50. 於：大阪大学豊中キャンパス.

堀田 義太郎・櫻井 浩子 2009/11/14-15 「母体対峙外科手術の倫理問題」

第21回日本生命倫理学会年次大会 於：東洋英和女学院大学

片山 知哉 2009/11/14-15 「医療における承認と所属—障害のあるこどもにどの文化を伝えるべきか」 第21回日本生命倫理学会年次大会 於：東洋英和女学院大学

野崎 泰伸 2009/11/14-15 「障害はないにこしたことはないか、への準備的考察—「ディアスポラとしての障害」を手がかりに」 第21回日本生命倫理学会年次大会 於：東洋英和女学院大学

大谷 いづみ 2009/11/14-15 「J.フレッチャーとバイオエシックスの交錯—フレッチャーの anti-dysthanasia 概念」 第21回日本生命倫理学会年次大会 於：東洋英和女学院大学

川口 有美子 2009/11/14-15 「病いの物語から導かれるポリティクス」

第21回日本生命倫理学会年次大会 於：東洋英和女学院大学

松原 洋子 2009/11/14-15 オーガナイザー「市民模擬患者(SP)と身体診察教育をめぐる現状と問題点」 第21回日本生命倫理学会年次大会 於：東洋英和女学院大学

韓 星民 2009/11/22 シンポジウム「視覚障害者用の触覚機器開発の動向—聞く点字と読む点字の理解」, 「点字力の可能性—21世紀の新たなルイ・ブライユ像を求めて」セッション I 「点字が視覚障害者にもたらしたもの」 於：国立民族学博物館・第4セミナー室

松田 有紀子 2009/11/22 ゲストスピーカー「京都花街について—上七軒を中心に」

立命館大学文学部総合科目 京都歴史回廊プロジェクト研究 II フィールドワーク田中聡先生

- 大谷 いづみ 2009/11/15 「J.フレッチャーとバイオエシックスの交錯——フレッチャーの anti-dysthanasia 概念」 第 21 回日本生命倫理学会年次大会 於：東洋英和女学院大学
- 大谷 いづみ 2009/11/14-15 「生命倫理教育の再構築」コーディネーター  
第 21 回日本生命倫理学会研究大会 於：東洋英和女学院大学横浜校地  
公募シンポジウム「生命倫理教育の再構築」
- 渡辺 公三・昼間 賢 2009/12/04 (公開対談)「今、人類はどこにいるのか——あるいは多様体を映す場所へ」  
『身体・歴史・人類学』出版記念企画, ジュンク堂公開セミナー 於：新宿ジュンク堂
- 松枝 亜希子 2009/12/05 「1950-70 年代のトランクライザーの隆盛——規制の論拠と経過」 「精神保健・医療と社会」研究会第 3 回研究会
- 吉田 幸恵 2009/12/05 「<病い>を抱えて地域で<生きる>人——ある精神障害者の生活史記録から」 「精神保健・医療と社会」研究会第 3 回研究会
- 北村 健太郎 2009/12/06 「自分の身体に耳を澄ます——不確実な医療の揺らぎのなかのコミュニケーション」 多言語コミュニティ通訳ネットワーク (mcinet) 第 14 回事例検討会 於：立命館大阪オフィス
- 村上 潔 2009/12/13 「「女性の貧困」の問題化における諸問題と展望」  
社会文化学会第 12 回全国大会 於：大阪大学箕面キャンパス
- 松原 洋子・天田 城介 2009/12/18 「社会的活動としての研究とその倫理に関する事例研究 ( 1 )・( 2 )」2009 年度リサーチマネジメント 第 13・14 回 於：創思館 411
- 立岩 真也 2009/12/18 「良い死? / 唯の生!」  
日本宗教連盟第 4 回宗教と生命倫理シンポジウム・「尊厳死法制化」の問題点を考える  
於：東京・ホテルグランドヒル市ヶ谷,
- 小林 勇人 2009/12/18 「査読付学術論文を書くにあたって」  
同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻大学院 GP 院生運営主体小規模研究会  
於：同志社大学新町キャンパス
- 望月 昭・中村 正 2009/12/19 「『トウキョウソナタ』」(対談)  
公開講座 シネマで学ぶ「人間と社会の現在」シリーズ 3 於：立命館大学朱雀キャンパス
- 天田 城介 (司会・コメント) 2009/12/27 第 24 回認知症介護研究会 . 於：立命館大学朱雀キャンパス多目的室 .
- 立岩 真也 2009/11/28 「軸を速く直す」  
シンポジウム「当事者主権によるニーズ中心の福祉社会に向けて」, 於：TKP 大阪梅田ビジネスセンター
- 松原 洋子・天田 城介 2009/01/08 「事例検討と全体討議 ( 1 )・( 2 )」  
2009 年度リサーチマネジメント 第 15・16 回 於：創思館 411
- 渡辺 公三 2010/01/09 (司会)水野的「明治・大正期の翻訳規範と日本近代文学の成立」  
国際カンファレンス「翻訳学の行方 Translation Studies in the Japanese Context」

於：立命館大学衣笠キャンパスカンファレンスルーム

渡辺 公三 2010/01/09 (司会) 真島一郎「力 chikara の翻訳 - 人類学と日本初期社会主義」

国際カンファレンス「翻訳学の行方 Translation Studies in the Japanese Context」

於：立命館大学衣笠キャンパスカンファレンスルーム

小泉 義之 2010/01/09 (司会) パネル2「思想と歴史」

国際カンファレンス「翻訳学の行方 Translation Studies in the Japanese Context」

於：立命館大学衣笠キャンパスカンファレンスルーム

佐藤 = ロスベアグ・ナナ 2010/01/09 「文化を翻訳する—アイヌの口頭伝承から日本語へ」 国際カンファレンス「翻訳学の行方 Translation Studies in the Japanese Context」

於：立命館大学衣笠キャンパスカンファレンスルーム

西 成彦 2010/01/09 (司会) 招待講演・坂井セシル「フランスにおける翻訳論の現状と日本文学のフランス語訳をめぐって—川端康成から村上春樹に至る文化的アイデンティティの構築プロセスについて」

国際カンファレンス「翻訳学の行方 Translation Studies in the Japanese Context」

於：立命館大学衣笠キャンパスカンファレンスルーム

松原 洋子 2010/01/10 (司会) 招待講演・水野真木子「コミュニティ通訳の現状と課題」 国際カンファレンス「翻訳学の行方 Translation Studies in the Japanese Context」

於：立命館大学衣笠キャンパスカンファレンスルーム

飯田 奈美子 2010/01/10 「中国帰国者の支援制度からみるコミュニティ通訳の現状と課題」 国際カンファレンス「翻訳学の行方 Translation Studies in the Japanese Context」 於：立命館大学衣笠キャンパスカンファレンスルーム

岡田 清鷹 2010/01/10 ポスター発表「中村正直訳『西国立志編』における多層的読者の存在」 国際カンファレンス「翻訳学の行方 Translation Studies in the Japanese Context」 於：立命館大学衣笠キャンパスカンファレンスルーム

富田 敬大 2010/01/10 ポスター発表「「翻訳」される遊牧民と土地の関係—移行期モンゴルの放牧地に関する諸法令の分析から」

国際カンファレンス「翻訳学の行方 Translation Studies in the Japanese Context」

於：立命館大学衣笠キャンパスカンファレンスルーム

韓 星民・青木 慎太郎・植村 要・広瀬 浩二郎 2010/01/10 ポスター発表「支援技術を用いた触覚言語への通訳」

国際カンファレンス「翻訳学の行方 Translation Studies in the Japanese Context」

於：立命館大学衣笠キャンパスカンファレンスルーム

番匠 健一・原 佑介・永田 貴聖 2010/01/10 ポスター発表「「多文化主義」コミュニティの文化翻訳—川崎市と韓国安山市の事例」

国際カンファレンス「翻訳学の行方 Translation Studies in the Japanese Context」

於：立命館大学衣笠キャンパスカンファレンスルーム

渡辺 公三・佐藤 = ロスベアグ・ナナ 2010/01/10 (司会) 全体討論

国際カンファレンス「翻訳学の行方 Translation Studies in the Japanese Context」

於：立命館大学衣笠キャンパスカンファレンスルーム

藤原 信行 2010/01/11 「自殺動機付与ノカテゴリー執行をめぐるポリティクスと精神医学的知—ある自死遺族による局所的実践を例に」 「精神保健・医療と社会」研究会第4回研究会

仲 アサヨ 2010/01/11 「精神病院不祥事件が語る入院医療の背景と実態—大和川病院事件を通して考える」 「精神保健・医療と社会」研究会第4回研究会

小林 勇人 2010/1/22 (ゲストスピーカー)「ワークフェアの現状と課題—ニューヨーク市政を中心に」

大阪市立大学大学院 創造都市研究科 都市政策専攻都市公共政策研究分野 2009 年度「ワー クショップ II」 於：大阪市立大学大学院創造都市研究科梅田サテライト

渡辺 公三 2010/01/29 「『神話論理』の論理」

東京大学 GCOE「共生のための哲学研究教育センター」公開セミナー

於：東京大学教養学部、コラボレーションルーム3

村上 潔 2010/02/02 (講義)「私は家事する人？それとも働く人？」

2009 年度ふらっとねやがわ男女共同参画学習講座「主婦しながら働くということ」第1回 於：寝屋川市立男女共同参画推進センター(ふらっと ねやがわ)

萩原 浩史 2010/02/07 パネルディスカッション「これからの生活支援のあり方」

精神障害者地域生活支援全国規模フォーラム in 大阪

主催：大阪精神障害者地域生活支援連絡協議会 於：クレオ大阪東

八木 慎一 2010/02/12 「ろう文化ノ者への承認—アクセル・ホネット承認論の観点から」

障害者の生活・教育支援研究会公開ワークショップ 「聴覚障害者における文化の承認と言語的正義の問題」 於：立命館大学衣笠キャンパス諒友館3階839教室

片山 知哉 2010/02/12 「言語の分配，所属の平等」

障害者の生活・教育支援研究会公開ワークショップ 「聴覚障害者における文化の承認と言語的正義の問題」 於：立命館大学衣笠キャンパス諒友館3階839教室

坂本 徳仁 2010/02/12 「言語の費用負担と言語的正義の問題」

障害者の生活・教育支援研究会公開ワークショップ 「聴覚障害者における文化の承認と言語的正義の問題」 於：立命館大学衣笠キャンパス諒友館3階839教室

渡辺 公三 2010/02/13 「市場・民主主義・市民社会のモースのヴィジョン」

東京外国語大学 GCOE ラウンドテーブル「経済を「審問する」アラン・カイエ氏を囲んで」 於：東京日仏会館

三野 宏治 2010/02/20 「精神障害があるその人と支援者の「対等性」についての考察—当事者と専門家による共同研究を通して(日本福祉文化学会 発表予稿)」

「精神保健・医療と社会」研究会第5回研究会

渡邊 あい子 2010/02/20 「なぜ「障害者アート」は知的障害者の作品を想起させるのか—カテゴリー成立の言説から」 「精神保健・医療と社会」研究会第5回研究会

渡邊 あい子 2010/02/20 「「障害者アート」と自立支援に関する事例報告」

「精神保健・医療と社会」研究会第5回研究会

三野 宏治 2010/02/28 「精神障害があるその人と支援者の「対等性」についての考察—  
当事者と専門家による共同研究を通して」 日本福祉文化学会第20回大会 於：早稲田  
大学

櫻井浩子・大谷いづみ 2010/03/01 (司会・コメント)

第4回生命倫理研究会「『死ぬ権利—カレン・クライラン事件と生命倫理の転回』合評会  
—香川知晶先生をお迎えして」

森下 直紀 2010/03/11 "Hetch Hetchy: a View from Japan,"

the American Society for Environmental History Portland Conference, Panel 4-B:

Across the Pacific: Cross-boundary Influences, Portland, U.S.A.

松田有紀子 2010/03/14 「祇園の近代的花街への転換と八坂女紅場—土地所有からみ  
る「祇園らしさ」の生成」

日本文化人類学 第5回近畿地区研究懇談会 2009年度近畿地区修士論文発表会

於：国立民族学博物館 第3・第4セミナー室

松原 洋子 2009/03/22 (講演)「科学技術とともに生きること」

バクバクの会20周年記念集会イベント part3 —「いのちを考える」学習会

in 広島 於：広島市東区地域福祉センター 大会議室 13:30~16:00

立岩 真也 2010/03/22 開会挨拶

シンポジウム「聴覚障害者の情報保障を考える」

於：立命館大学衣笠キャンパス創思館1階カンファレンス・ルーム 10:00-15:45

櫻井 悟史 2010/03/22 「音声認識エンジンを用いた字幕化支援の現状と課題」

シンポジウム「聴覚障害者の情報保障を考える」

於：立命館大学衣笠キャンパス創思館1階カンファレンス・ルーム 10:00-15:45

渡邊 あい子 2010/03/22 「手話通訳事業の現状と課題」

シンポジウム「聴覚障害者の情報保障を考える」

於：立命館大学衣笠キャンパス創思館1階カンファレンス・ルーム 10:00-15:45

坂本 徳仁 2010/03/22 「聴覚障害者の教育・労働に関する諸問題」

シンポジウム「聴覚障害者の情報保障を考える」

於：立命館大学衣笠キャンパス創思館1階カンファレンス・ルーム 10:00-15:45

立岩 真也 2010/03/22 (モデレーター)パネルディスカッション「障害者権利条約下  
におけるコミュニケーション支援の課題」シンポジウム「聴覚障害者の情報保障を考える」

於：立命館大学衣笠キャンパス創思館1階カンファレンス・ルーム 10:00-15:45

立岩 真也 2010/03/22 パネルディスカッションのまとめ・閉会挨拶

シンポジウム「聴覚障害者の情報保障を考える」

於：立命館大学衣笠キャンパス創思館1階カンファレンス・ルーム 10:00-15:45

田島明子 2010/03/25 「1960年代以降の「寝たきり老人」とリハビリテーションをめぐる言説」

老い研究会公開企画「老いをめぐる諸制度の変容を知る / 基本を問う」 於：創思館 401・402

有吉玲子 2010/03/25 「1960年代以降における高齢者医療政策の変容」

老い研究会公開企画「老いをめぐる諸制度の変容を知る / 基本を問う」 於：創思館 401・402

各務勝博 2010/03/25 「1990年代以降の公的介護保険創設とその変容——予防政策を中心に」

老い研究会公開企画「老いをめぐる諸制度の変容を知る / 基本を問う」 於：創思館 401・402

仲口路子 2010/03/25 「1990年代以降の高齢者医療政策の変容——在宅移行を中心に」

老い研究会公開企画「老いをめぐる諸制度の変容を知る / 基本を問う」 於：創思館 401・402

渋谷 光美 2010/03/25 「戦後日本の家庭奉仕員制度の変容——在宅介護福祉労働の1970年代における変容」

老い研究会公開企画「老いをめぐる諸制度の変容を知る / 基本を問う」 於：創思館 401・402

矢野亮 2010/03/25 「大阪における同和政策における老いの位置——その政策的帰結」

老い研究会公開企画「老いをめぐる諸制度の変容を知る / 基本を問う」 於：創思館 401・402

牧昌子 2010/03/25 「1990年代以降における税制改正と年金制度・後期高齢者医療制度の接合—公的年金等控除の縮小、老年者控除廃止をめぐる」老い研究会公開企画「老いをめぐる諸制度の変容を知る / 基本を問う」 於：創思館 401・402

立岩 真也 2010/03/25 (インタビュー)「60年代からの運動は医療に何をもたらしたのか?—石井暎禧氏に聞く」

老い研究会公開インタビュー企画 「過去を聞く / 足場を知る / 社会を構想する」 於：創思館 401・402

天田城介 2010/03/25 「(各報告へのコメント)」. 老い研究会(2009年度グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点院生プロジェクト)公開企画「老いをめぐる諸制度の変容を知る」. 12:00~17:00. 於：立命館大学衣笠キャンパス創思館 401・402.

天田城介 2010/03/25 「(石井暎禧氏へのインタビュー(天田城介×市田良彦×立岩真也))」. 老い研究会(2009年度グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点院生プロジェクト)公開インタビュー企画「過去を聞く / 足場を知る / 社会を構想する」. 17:00~18:30. 於：立命館大学衣笠キャンパス創思館 401・402.

岡田 清 鷹 2010/03/26 口頭発表 Translation Involves Plural Readers: Saigoku-Risshihen in Japan Postgraduate Translation Symposium "Disordering the Disciplines: Translation and Interdisciplinarity," University of East Anglia, Norwich, 26-27th March 2010.

## &lt; 2009年度学外研究費獲得状況 &gt;

研究費の名称	申請・採択の別	研究課題等	交付を受けた者 (研究者名又は組織名)	研究経費 (総額, 千円)
科研費(基盤研究A)	採択	モダニズムの世界化と亡命・移住・難民化	西 成彦	13,600
科研費(基盤研究B)	採択	「患者の選択」をめぐる英国政策過程の分析: 自由・効率・公平をめぐるダイナミズム	松田 亮三	3,200
科研費(基盤研究C)	採択	文化多元主義と社会的正義に関する研究	PAUL DUMOUCHEL	4,200
科研費(基盤研究C)	採択	大学を人的・情報的地域資源とする『今働けないひと』への労働機会の創出	望月 昭	2,600
科研費(基盤研究C)	採択	生命倫理学における安楽死・尊厳死論のキリスト的基盤に関する歴史的社会的研究	大谷 いづみ	1,040
科研費(萌芽研究)	採択	発達の多様性を描くための複線径路・等至性モデルの開発	佐藤 達哉	2,600
科研費(萌芽研究)	採択	医療資源配分政策における熟考討議的政策分析の可能性	松田 亮三	2,000
科研費・新学術領域研究 (研究課題提案型)	採択	異なる身体のもとでの交信 本当の実用のための仕組と思想	立岩 真也	8,000
科研費(若手研究B)	採択	戦後日本社会における 老いと高齢化をめぐる表象と記憶の政治	天田城介	1,170
文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチ・センター整備事業	採択	臨床人間科学の構築 - 対人援助のための人間環境研究	望月 昭	57,459
文科省研究拠点形成費等補助金2009年度研究高度化のための支援体制整備事業	採択	「法と心理学」研究拠点の創成	佐藤 達哉	19,870
(独)科学技術振興機構(JST)平成21年度社会技術研究開発事業「研究開発成果実装支援プログラム」	採択	家族安全安心にむけた児童虐待防止のための「ヒューマンサービス社会技術」の実装	中村 正	3,250
受託研究	採択	日本における現在の保険政策問題と最近の改革進展(ドイツ・ベルテルスマン財団)	松田 亮三	600
受託研究	採択	ALS患者の生活現場との遠隔授業における教育効果—質的心理という視点から(立正大学)	佐藤 達哉	130
受託研究	採択	公共的コミュニケーションの可視化 - 複雑社会における政治的法的判断の構造(東京大学)	佐藤 達哉	1,716

**研究所・センター 2009 年度研究活動総括と 2010 年度研究計画について**  
**様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)**

項 目	内 容
2009 年度研究活動実績	以下の各項目の 2009 年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。
	<p align="center">研究所の研究の到達状況</p> <p>本年度は、アート・リサーチセンターが中核拠点となっている文部科学省グローバル COE プログラム「日本デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)以下、GCOE) 3 年目の活動を主軸に、若手研究者の教育拠点としての体制を強化し、DH グローバル・ハブ機能形成するための基盤整備を行った。GCOE 中間評価結果に基づき、プログラム終了後の将来構想を明確にするために具体的な制度設計を開始した。</p> <p>また、2008 年度で終了したオープン・リサーチ・センター整備事業の後継事業として、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の採択を受け、新たな研究プロジェクトを立ち上げた。これらのプロジェクトを軸にした学内提案および政策重点、R-GIRO など継続を含め計 9 件の学内資金をもとに多角的で広範な研究業績を累積した。</p>
	<p align="center">学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>GCOE の連携機関であるロンドン大学 SOAS と業務委託に関する覚書を新たに取り交わした他、アルザス欧州日本学研究所、奈良大学、祇園祭船鉾保存会、京都市・京都市景観まちづくりセンターなどとの学術交流・研究交流協定書を締結し、より綿密な教育・研究連携が実現できる環境を整備した。ハワイ大学、ロンドン大学、リーズ大学、コロンビア大学、シンガポール国立大学などから研究員を迎え、日常の研究交流はもとより、研究会やシンポジウム運営にも双方より参画した。国立スミソニアン研究所フリーア美術館・サックラー美術館、慶熙大学、アルパータ大学、クラーク大学、ヴェネツィア大学、高麗大学校、コーネル大学、セインズベリー日本芸術文化研究所などからの来訪が続き、新たな連携機関としての可能性が広がっている。</p> <p>また、日本学術振興会の ITP により、本センターに所属する若手研究者の在外研究を昨年度に引き続き支援し、新たに同会「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」に採択されたことでより若手研究者の在外研究の機会が増大した。</p> <p>アート・ドキュメンテーション学会と共同主催で全国規模の研究発表会を 2009 年 6 月に開催した。また、2010 年 3 月には、中国、台湾、韓国、オーストラリアより DH 研究の第一人者を招聘し Asia-Pacific DH centerNet Meeting を開催し、アジアにおける DH 研究ネットワーク構築の第一歩を踏み出した。</p> <p>関西経済連合会との共同研究が進行中であるのと同時に、NHK、ベネッセコーポレーションなどとの新たな共同研究の取り組みも始まっている。</p>
	<p align="center">研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</p> <p>センター運営委員会(必要に応じて開催)と、GCOE 運営委員会(毎週開催)の両組織によって運営を行った。両委員会には重複する委員も多く、役割分担や連携に関して、支障なく順調に運営を進めることができた。</p>

	<p>学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</p> <p>文部科学省のGCOE、同 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、日本学術振興会 若手研究者インターナショナルトレーニングプログラム（ITP）、及び「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」の採択を受け研究・教育活動の基盤とする他、Panasonic、キヨーテック、ジアス、ナックイメージテクノロジー、ハウスセゾンなど企業からの奨学寄附金として研究費を獲得した。また、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に別プロジェクトでも申請し、新たに採択を受けた。</p> <p>研究成果の発信として、センター紀要「アート・リサーチ」10号、シリーズ・日本文化デジタル・ヒューマニティーズ第2巻『イメージデータベースと日本文化研究』、GCOE2009年度報告書を刊行した他、Webによる研究成果の発信を強化した。</p>
<p>項 目</p>	<p>内 容</p>
<p>2010 年度研究計画</p>	<p>以下の各項目の2009年度の活動実績を踏まえながら2010年度の活動計画について記入して下さい。</p> <p>2010年度の研究計画について</p> <p>2010年度はGCOEの4年目となり、拠点の教育・研究活動を効果的な形で進める必要がある。そのためにも、アート・リサーチセンターを有効に活用するためのさまざまな手法による研究、およびに成果発信を行う予定である。通常のセミナー、講演会、シンポジウム、展覧会などの他に、Webなどを使った研究資源の共有化などをよりいっそう促進する。なお、展覧会は、「立命館創始140年・学園創立110周年」を記念した連続展覧会を企画している。</p> <p>拠点の主催する研究会やシンポジウムだけでなく、第19回地理情報システム学会学術大会や情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会など、関連諸学会との連携した企画を予定している。</p> <p>また、新たに本年度から新たに採択された私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「京都における工芸文化の総合的研究」を本格的に始動させる。</p> <p>学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>GCOEで展開している国際ネットワーク型の教育・研究活動を引き続き展開する。</p> <p>一方、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業では、研究テーマに沿ったかたちで、国内外の研究者、研究機関との連携、交流を行う予定である。</p> <p>また、産官学の新たな共同研究についても、引き続き模索を行う。今年度は、一昨年度から実施した京都市との京町家まちづくり調査の取りまとめ、および、昨年度からの（財）祇園祭船鉾保存会とのデジタル・ミュージアム事業を継続的に実施する。</p> <p>研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>2009年度同様、GCOE運営委員会とアート・リサーチセンター運営委員会の2つの運営組織の連携によって、運営を行う。</p> <p>また、2012年4月のGCOE関連の大学院設置を具体的に検討する。</p> <p>学外研究費の申請予定等について</p> <p>GCOEが教育に主眼をおいたプログラムであるため、研究資金を外部から獲得する必要がある。アート・リサーチセンターに所属する研究者が積極的に科学研究費補助金、奨学寄附金などを追求することにより、引き続きセンターにおける研究のための資金や運営資金を獲得するよう努める。</p>

分類	開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or報告)	実績数	公開 非公開 x
アートリサーチセンター	4/9	18:00-19:30	第45回GCOEセミナー	「GISと科学におけるいくつかの展開」 Some Developments in Geographic Information Systems and Science	Prof. Paul Longley (Centre for Advanced Spatial Analysis (CASA) and Dept of Geography, University College London)	アートリサーチセンター多目的ルーム	30	45	
アートリサーチセンター	4/13	11:30-13:00	番外編 (Vol.10) GCOEセミナー	1.「移送モデリングと伝染病感染分析のための、行動をベースとした時空間データモデル」 An Activity-Based Spatio-Temporal Data Model for Transport Modelling and Epidemics Transmission Analysis 2.「Geodemographics 2.0 地理的人口統計学モデルの仕様・評価・テストにおけるいくつかの展開」 Geodemographics 2.0: Some Developments in the Specification, Estimation and Testing of Geodemographic Models	1.Dr. Tao Cheng (Dept of Civil, Environmental & Geomatic Engineering, University College London) 2.Dr. Alex Singleton (Centre for Advanced Spatial Analysis (CASA), University College London)	アートリサーチセンター多目的ルーム	30	21	
アートリサーチセンター	4/21	18:00-19:30	第46回GCOEセミナー	「想像の地理 仏教と日本の世界地図」 Geographies of the Imagination: Buddhism and the Japanese World Map	Prof. Max Moerman (コロンビア大学ドナルド・キーン 日本文化センター)	アートリサーチセンター多目的ルーム	30	47	
アートリサーチセンター	4/28	18:00-19:30	第47回GCOEセミナー	1.「後鳥羽上皇の政治課題と公事・宗教儀礼」 2.「日本のアニメーション/CG技術伝播に関する一考察：中国デジタルコンテンツ産業クラスターを事例として」	1.谷昇(研究員/京都文化研究班) 2.中村彰憲(事業推進担当者/Web活用技術研究班/立命館大学映像学部・准教授)	アートリサーチセンター多目的ルーム	30	35	
アートリサーチセンター	5/12	18:00-19:30	第48回GCOEセミナー	1.「Sinners in the crossroad: parody and the subversion of authority in the oni kyogen.」 2.「デジタルヒューマンディーズワークショップ2009 参加報告 - 人文科学研究におけるコンピュータとネットワーク活用の実例 -」	1.:liset torino (El Colegio de Mexico Master in Asia and Africa Studies) 2.関口博之(衣笠総合研究機構・特別招聘准教授/デジタルアーカイブ技術研究班)・岡本 隆明(PD / 日本文化研究班)	アートリサーチセンター多目的ルーム	30	43	
アートリサーチセンター	5/19	18:00-19:30	第49回GCOEセミナー	1.「イタリア文化財デジタル化政策の動向報告及び在伊日本美術コレクション整理の現状と可能性」 2.「外地」日本語学データベースの構築と課題 日本文学・文化研究における活用を目的として 3.「松林露之助とセント・アイヴス 日本陶磁史関連史料のデジタル・データベース化への試み」 4.「立命館大学アートリサーチセンター所蔵友禅図案の公開に向けた整理 本来のまとまりをいかに再現するか」	1.齊藤 ちせ(衣笠総合研究機構RA1 / 日本文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D1) 2.楠井 清文(衣笠総合研究機構PD / 日本文化研究班) 3.前崎 信也(衣笠総合研究機構PD / 日本文化研究班) 4.岡本 隆明(衣笠総合研究機構PD / 日本文化研究班)	アートリサーチセンター多目的ルーム	30	42	
アートリサーチセンター	5/30	13:00-15:00	シンポジウム 友禅図案に描かれた「韓国併合」	「韓国併合」図案(絵摺り)を読み解く - 1910年前後の友禅 - 「着物の意匠としての韓国イメージ」 「植民地朝鮮における文化表象」	木立雅朗(立命館大学・教員) 乾翔子(東海大学国際文化学部・教員) 喜多恵美子(大谷大学文学部・教員)	アカデメイア立命館ミュージアム会議室	30	40	
アートリサーチセンター	6/5,6	6/5 13:15-17:10, 6/6 9:30-17:30	2009年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会	6/5 「楽しめるWEBデータベースの創出 - アート・コンテンツ・データベース(ACD)の時代へ -」 「身装 身体と装い」 「写真集・写真帖」 「歌舞伎」 6/6 人文系資料を対象とした大学図書館・大学博物館連携 リーフレットからみるミュージアムと来館者の関係 ミュージアム間の業務情報流通をめぐる課題と展望	6/5 赤間 亮(立命館大学大学院文学研究科教授・アートリサーチセンター長) 高橋晴子(大阪樟蔭女子大学) 村上清子(国立国会図書館) 赤間 亮(立命館大学大学院文学研究科教授・アートリサーチセンター長) 6/6 安達 匠(國學院大学図書館/筑波大学大学院) 増田ひろみ(駿河台大学大学院) 田良鳥 哲(東京国立博物館)	立命館大学・国際平和ミュージアム 内中野記念ホール	100	137	
アートリサーチセンター	6/2	18:00-19:30	第50回GCOEセミナー	1.「Collective Culture and Visualization of Spatiotemporal Information」 2.「A Historical GIS Analysis of the Landscape Compositions: A Case Study of Folding Screens "Rakuchu-Rakugai-zu"」 3.「Text and Pictures in Japanese Historical Documents」	1.大野 晋(衣笠総合研究機構RA1 / Web活用技術研究班 / 立命館大学大学院政策科学研究科・D2) 斎藤 進也(衣笠総合研究機構PD / Web活用技術研究班) 稲葉 光行(立命館大学大学院政策科学研究科・教授/Web活用技術研究班・リーダー) 2.塚本 章宏(日本学術振興会特別研究員PD / 歴史地理情報研究班) 3.岡本 隆明(衣笠総合研究機構PD / 日本文化研究班)	アートリサーチセンター多目的ルーム	30	37	
アートリサーチセンター	6/9	18:00-19:30	第51回GCOEセミナー	1.「レインコレクションと春画・艶本データベース」 2.「ホリルル美術館日本美術コレクション デジタル・アーカイブとデータベース公開について」	1.石上 阿希(PD/日本文化研究班) 2.竹村 さわ子(ホリルル美術館ロバートラッジ財団東洋美術部日本美術イメージ・プロジェクト主任/准研究員)	アートリサーチセンター多目的ルーム	30	44	
アートリサーチセンター	6/16	18:00-19:30	第52回GCOEセミナー	1.Interactive Visual Analysis of Personal Names in Japanese Historical Diary 2.Digital museums in Second Life	1.Toledo Nolasco Alejandro (衣笠総合研究機構RA1 / デジタルアーカイブ技術研究班 / 立命館大学大学院理工学研究科・D1) 2.Kingkam Sookhanaphiborn (衣笠総合研究機構PD/デジタルアーカイブ技術研究班)	アートリサーチセンター多目的ルーム	30	39	
アートリサーチセンター	6/23	18:00-19:30	第53回GCOEセミナー	1.「視覚資料による模様研究とその課題 日本模様データベース構築に向けて」 2.「お岩役の成立 趣向を中心に」 3.「女形の役者絵から読み取る「個性」の発展 - 初代中村富十郎(1719-1786)から六世中村歌右衛門(1917-2001)まで -」	1.加茂 瑞穂(RA1 / 日本文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D1) 2.周 萍(RA1 / 日本文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D2) 3.David Jerome Putnam (スイス・チューリッヒ大学修士課程)	アートリサーチセンター多目的ルーム	30	32	
アートリサーチセンター	6/30	18:00-19:30	第54回GCOEセミナー	1.「中近世移行期における京都西陣道路網の変遷」 2.「ネット時代における地理空間情報の新展開」 3.「20世紀京都における居住地域構造の変遷」	1.本多 健一(RA2 / 歴史地理情報班 / 立命館大学大学院文学研究科・D2) 2.瀬戸 寿一(RA1 / 歴史地理情報班 / 立命館大学大学院文学研究科・D1) 3.桐村高 / 歴史地理情報班 / 立命館大学大学院文学研究科・D3)	アートリサーチセンター多目的ルーム	30	29	
アートリサーチセンター	7/7	18:00-19:30	第55回GCOEセミナー	1.「家庭用ビデオゲームソフト付属マニュアルのデータベース構築とその課題」 2.「阿片問題と文学 資料のデジタル・アーカイブ化によせて」	1.尾鼻 崇(PD / Web活用技術研究班) 2.三上 聡太(RA2 / 日本文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D2)	アートリサーチセンター多目的ルーム	30	32	
アートリサーチセンター	7/8	12:00-13:00	番外編 (Vol.11) GCOEセミナー	「The Semiotics of Surimono: The Construction of Meaning in Privately Commissioned and Distributed Woodblock Prints in Relation to Ritual and Poetic Precedents (摺物の記号論: 歌や儀式の痕跡に基づいた意味)」	Daniel McKee 氏 (コーネル大学図書館)	アートリサーチセンター多目的ルーム	15	16	
アートリサーチセンター	7/13	12:00-13:00	番外編 (Vol.12) GCOEセミナー	「ハワイ州立大学に於ける日本の伝統芸能: 新しい「伝統」に向けて」	Julie A. Iezzi 氏 (ハワイ大学演劇学部准教授)	アートリサーチセンター多目的ルーム	15	13	

分類	開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or報告)	実績数	公開 非公開 x
アート・リサーチセンター	7/14	18:00-19:30	第56回GCOEセミナー	1.「映画・演劇興行年表 大正期 京都編(仮)」の構想と現状」 2.「板木と板本 板木を通じて板本を見る」	1.大矢 敦子 (RA1 / 京都文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D2) 2.金子 貴昭 (日本学術振興会特別研究員 / 立命館大学大学院文学研究科・D2)	アート・リサーチセンター多目的ルーム	30	39	
アート・リサーチセンター	7/15	18:00-19:30	番外編 (vol.13) GCOEセミナー	「韓国の日本学研究的現状 植民地時代の日本語資料のDB構築とその活用を中心に (仮題)」	李 承信(イ・スンシン)氏(高麗大学校日本学研究所センター研究教授)	アート・リサーチセンター多目的ルーム	30	22	
アート・リサーチセンター	7/21	18:00-19:30	第57回GCOEセミナー	1.「文献史料上の地名情報について」 2.「From Museum display systems to databases, or how is art history produced?」	1.1.花田 卓司 (RA2 / 京都文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D4) 2.Bincsik Monika (RA1 / 日本文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D1)	アート・リサーチセンター多目的ルーム	30	39	
アート・リサーチセンター	7/28	18:00-19:30	第58回GCOEセミナー	*「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ教育プログラム」履修生特集 1.「諸データベースの集約と利用者教育について」 2.「平安京 - 貴族の移動経路から見て - Heiankyo: from the viewpoint of Aristocrat's migration pathway」 3.「天神信仰の展開過程の一考察」 4.「基本動作に着目した仕舞の形(かた)の分析」	1.米田 あい (立命館大学大学院文学研究科・M2) 2.吉田 真澄 (立命館大学大学院文学研究科・M2) 3.中尾 芙貴子 (立命館大学大学院文学研究科・M2) 4.高橋 幸恵 (日本文化デジタル・ヒューマニティーズ教育プログラム 学外履修生)	アート・リサーチセンター多目的ルーム	30	39	
アート・リサーチセンター	8/3	10:00-12:00	基礎DHセミナー	金井杜道(写真家、元京都国立博物館)	金井杜道(写真家、元京都国立博物館)	アート・リサーチセンター多目的ルーム	5	5	x
アート・リサーチセンター	8/15	13:00-17:00	風俗画研究会	1.「大津絵の図様とその展開」 2.「奈良絵本・絵巻の研究」	1.谿春江(関西学院大学大学院) 2.石川透(慶應義塾大学・教授)	アート・リサーチセンター会議室1・2	20	30	
アート・リサーチセンター	8/16	13:00-17:00	風俗画研究会	1.「浮世絵にみる江戸の園芸文化」 2.「浮世絵にみる他者の構築 「唐人」という視点から考える」	1.日野原健司(太田記念美術館・主幹学芸員) 2.鈴木桂子(立命館大学・特別招聘准教授)	アート・リサーチセンター会議室1・2	20	30	
アート・リサーチセンター	8/24	9:30-12:00	GCOE特別セミナー	「文化財デジタルアーカイブのための画像技術 - 最先端研究開発とアーカイブの現場から - 」	司会:八村 広三郎(立命館大学情報理工学部教授)(1)9:30 - 9:35 開会のあいさつ 八村 広三郎 (2)9:35 - 10:15 井手 亜里(京都大学国際融合創造センター教授) (3)10:15 - 10:45 橋本 勝(NTTコミュニケーション科学基礎研究所) (4)10:45 - 11:15 赤間 亮(立命館大学文学部教授) (5)11:20 - 12:00 ディスカッション パネリスト+司会	アート・リサーチセンター多目的ルーム	30	27	
アート・リサーチセンター	9/29	18:00-19:30	第59回GCOEセミナー	「歴史的地名のジオコード 京都の通り名と「ジオドズ」の仕組み」	上田 直生(有限会社ロケージング・代表取締役)	アート・リサーチセンター多目的ルーム	30	31	
アート・リサーチセンター	10/3	11:00-12:30	番外編 (vol.14) GCOEセミナー	1. "Modelling uncertainty in spatial data - a natural hazards example" 2. "Landscape visualisation - origins and trends"	1.Prof. Andrew Lovett 2.Dr. Katy Appleton	歴史都市防災研究センター地階 カンファレンスホール	30	27	
アート・リサーチセンター	10/6	18:00-19:30	第60回GCOEセミナー	1.「画像変換サーバを用いたweb上の画像利用について」 2.「韓国での日本語文学書籍の所蔵について」 3.「Map of Japan from the Collection of Sir Hugh and Lady Cortazzi」	1.岡本隆明(PD / 日本文化研究班) 2.楠井清文(PD / 日本文化研究班) 3.前崎信也(PD / 日本文化研究班)・服部憲治(研究支援者)	多目的ルーム	30	37	
アート・リサーチセンター	10/13	18:00-19:30	第61回GCOEセミナー	1.「バーチャル文化財におけるキャラクタアニメーション」 2.「バーチャルダンスコラボレーションシステムのための感性情報を付与した身体動作の生成とその評価」	1.崔雄 Choi Woong (PD / デジタルアーカイブ技術研究班) 2.鶴田 清也 (RA / デジタルアーカイブ技術研究班 / 立命館大学大学院理工学研究所D4)	多目的ルーム	30	40	
アート・リサーチセンター	10/20	18:00-19:30	第62回GCOEセミナー	1.「ポスト美術館所蔵初代歌川国貞浮世絵版画コレクション」 2.「Wikipediaにおける知的生産活動の構造とプロセスに関する研究」	1.倉橋正恵(PD / 日本文化研究班) 2.大野晋(RA1 / ウェブ活用技術研究班 / 立命館大学大学院政策科学研究科 D2)	多目的ルーム	30	38	
アート・リサーチセンター	10/27	18:00-19:30	第63回GCOEセミナー	1.「美術を保存すること - 近代日本における美術複製の意義について - The Art of Copying Reproducing Japanese masterpieces in modern Japan」 2.「立命館大学アート・リサーチセンター所蔵友禅図案データベースの構築について - 図案面を中心に - 」 Digital Archiving for Yuzen Designs in the collection of Art Research Center,Ritsumeikan University	1.彬子女王(PD / 日本文化研究班) 2.山本真紗子(PD / 京都文化研究班)	多目的ルーム	30	41	
アート・リサーチセンター	10/31	10:00-15:00	ひらめきときめきサイエンス	踊りってなんだろう? ~ アフリカの踊りを科学する ~	遠藤保子(産業社会学部・教授)	アート・リサーチセンター多目的ルーム	30	26	
アート・リサーチセンター	11/3	18:00-19:30	第64回GCOEセミナー	「大英博物館における日本美術修復とその公開への試み」	杉山 恵助/ 大英博物館シニア・コンサバター	アート・リサーチセンター多目的ルーム	30	55	
アート・リサーチセンター	11/6	18:00-19:30	番外編 (Vol.15) GCOEセミナー	「学術知を市民知に変える学術情報発信へ - 特にウェブ活用の観点から」	岡本 真/ メールマガジンACADEMIC RESOURCE GUIDE 編集長	アート・リサーチセンター多目的ルーム	30	33	
アート・リサーチセンター	11/10	18:00-19:30	第65回GCOEセミナー	1.「春画・艶本データベース構築に向けて イギリス・フランスにおける調査報告」 2.「遊び」としてのビデオゲーム研究 「ゲームプレイ」の可視化と保存」	1.石上 阿希(PD / 日本文化研究班) 2.上村 雅之(事業担当推進者 / Web活用技術研究班 / 先端総合学術研究科教授)・尾鼻 崇 (PD / web活用技術研究班)	アート・リサーチセンター多目的ルーム	30	31	
アート・リサーチセンター	11/12	14:00-17:00	第2回ビデオゲーム・カンファレンス	シンポジウム「ファミコンとの出会いvol.1」	パネリスト: 中村光一(株式会社チュンソフト代表取締役社長) 大和聡(任天堂株式会社経営戦略室長) サイトウ・アキヒロ(立命館大学映像学部教授) 司会: 上村雅之(立命館大学大学院教授 / 任天堂アドバイザー)	アート・リサーチセンター多目的ルーム	50	21	

分類	開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or報告)	実績数	公開 非公開 x
アート・リサーチセンター	11/17	18:00-19:30	第66回GCOEセミナー	1."Segmentation of Motion Capture Data Using Neural Networks" 2."Analysis of visitors' behaviors in 3D virtual museums" 3."Similarity and Dissimilarity Patterns in Name Occurrences of Japanese Historical diary Analysis of visitors' behaviors in 3D virtual museums" 4."Character Animation of Performing Arts in Second Life"	1.ワラワット チョエンソワット (RA / デジタルアーカイブ技術研究班 / 立命館大学大学院理工学研究科 D1) 2.キンカーン スックハナビバーン (PD / デジタルアーカイブ技術研究班) 3.アレハンドロ トレド / ナスコ (RA / デジタルアーカイブ技術研究班 / 立命館大学大学院理工学研究科 D1) 4.崔 雄 (PD / デジタルアーカイブ技術研究班)	アート・リサーチセンター 多目的ルーム	30	30	
アート・リサーチセンター	11/24	18:00-19:30	第67回GCOEセミナー	1."Creating a Digital Database of Japanese Ceramics in Western Collections" 2."Kunten Management System" Explanation Marks Database on Japanese Historical and Religious Documents, based on text-image linkage" 3."Construction of a Database of Japanese Literary Magazines Published in Japan-ruled Korea" 4.未定。	1.前崎 信也 (PD / 日本文化研究班) 2.岡本 隆明 (PD / 日本文化研究班) 3.楠井 清文 (PD / 日本文化研究班) 4.斎藤 達也 (PD / Web活用技術研究班)	アート・リサーチセンター 多目的ルーム	30	36	
アート・リサーチセンター	11/25	12:00-13:00	番外編 (Vol.16) GCOEセミナー	"From the Material to the Intangible - Perspectives within Digital Cultural History"	Drew Baker (Kings College London: King's Visualisation Lab)	アート・リサーチセンター 多目的ルーム	30	19	
アート・リサーチセンター	12/1	18:00-19:30	第68回GCOEセミナー	1.「中世の京都祭礼における 鈴の変容 - その基礎的考察 (前編) - 」 "Changes of Hoko (Pike) as Festival Tool in Medieval Kyoto (The First Part)" 2.「京都市における地域名称を冠する建物の空間分布」 "Spatial Distributions of Buildings with Geographical Names in Kyoto" 3.「写真資料のデジタル化による 歴史的市街地の景観復原」 "On Restoration of Historical Urban Landscape by Digitalizing Photography Resources"	1.本多健一 (RA/歴史地理情報研究班/立命館大学大学院文学研究科D2) 2.桐村 喬 (RA/歴史地理情報研究班/立命館大学大学院文学研究科D3/日本学術振興会(JSPS)特別研究員DC1) 3.瀬戸寿一 (RA/歴史地理情報研究班/立命館大学大学院文学研究科D1)	アート・リサーチセンター 多目的ルーム	30	25	
アート・リサーチセンター	12/4, 5	12/4 13:00-17:30 12/5 9:30-17:30	主催:立命館大学 アート・リサーチセンター / 文部科学省 グローバルCOEプログラム 「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学、ロンドン大学 東洋アフリカ学院 (SOAS)、国際日本文化研究センター)	国際シンポジウム アート・リサーチセンター創十周年記念 「近世春本・春画とそのコンテクスト」	発表者: 赤間亮(立命館大学教授) 浅野秀剛(大和文華館館長) アンドリュー・ガーストル(ロンドン大学SOAS教授、立命館大学客員研究員、春画プロジェクトリーダー) 石上阿希(文部科学省グローバルCOEプログラムポストドクトラルフェロー) エリス・ティニオス(リーズ大学名誉教授) 小林ふみ子(法政大学准教授) ジェニー・ブレストン(ロンドン大学SOAS博士課程) 白倉敬彦(国際浮世絵学会理事) 高木元(千葉大学教授) 中嶋隆(早稲田大学教授) 早川剛多(国際日本文化研究センター教授) 樋口一貫(三井記念美術館学芸員) 日野原健司(太田記念美術館主任学芸員) ポール・ベリー(関西外国語大学教授) ロジャー・バックランド(大英博物館ポストドクトラルフェロー) 矢野明子(ロンドン大学SOASポストドクトラルフェロー、立命館大学客員研究員) 山本ゆかり(国際浮世絵学会編集委員)	国際平和ミュージアム 中野記念ホール	150	84	
アート・リサーチセンター	12/8	18:00-19:30	第69回GCOEセミナー	1.「絵画資料を利用した歌舞伎衣裳の一考察 『妹背山婦女庭訓』お三輪を例として」 "A consideration of the Kabuki costume, A case study of Omiwa's costume in Imoseyama on'na teikin" 2.「イギリスでの日本漆器コレクション」 "Japanese lacquer collections in England" 3.「続・板本の板木構造 - 藤井文政堂所蔵江戸期高野板の板木 - 」 "A Sequel to Physical Structures of Woodblocks for Japanese Printed Books - Woodblocks for Koya-ban in Edo period owned by Fujii Bunseido - "	1.加茂 瑞穂 (RA / 日本文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科D1) 2.ピンチク モニカ (RA / 日本文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科D1) 3.金子 貴明 (RA / 日本文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科D3 / 日本学術振興会(JSPS)特別研究員DC1)	アート・リサーチセンター 多目的ルーム	30	38	
アート・リサーチセンター	12/15	18:00-19:30	第70回GCOEセミナー	1.「ベルギー王立美術歴史博物館所蔵浮世絵コレクションのデジタル化報告及びイメージ・データベース利用の展望について」 2.未定 3.「出版図に描かれた近世京都の空間」(仮題)	1.松葉 涼子 (PD / 日本文化研究班) 2.三上 聡太 (RA / 日本文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科D1) 3.塚本 章宏 (PD / 歴史地理情報研究班 / 日本学術振興会(JSPS)特別研究員)	アート・リサーチセンター 多目的ルーム	30	39	
アート・リサーチセンター	12/18, 19	12/18 9:45-18:00 12/19 9:30-18:20	じんもんこん2009	人文科学とコンピュータシンポジウム 「デジタル・ヒューマニティーズの可能性」	基調講演: Geoffrey Rockwell (Professor, University of Alverta) 特別講演: 土岐憲三 (立命館大学歴史都市防災研究センター センター長)	BKCエポック21	200	174	
アート・リサーチセンター	12/22	18:00-19:30	第71回GCOEセミナー	"Kyokabon Online: Illustrated Poetry Anthologies by Utamaro from the Collection of the Fitzwilliam Museum, Cambridge University"	ジョン カーベーター (ロンドン大学SOAS教授 / 立命館大学衣笠総合研究機構 特別招聘教授 / 事業推進担当者)	アート・リサーチセンター 多目的ルーム	30	39	
アート・リサーチセンター	12/25, 26	毎日13:00 - 18:00	冬季風俗絵画研究会		周萍(立命館大学大学院博士課程GCOE・RA) 松島仁(国華社) 池田英美(サントリー 美術館学芸員) 大矢敦子((立命館大学大学院博士課程・GCOE・RA))	アート・リサーチセンター 第2会議室	20	15	x

分類	開催日	開催時間	研究会名	テーマ	報告者(所属)	開催場所	参加者数 (概算or報告)	実績数	公開 非公開 x
アート・リサーチセンター	1/12	18:00-19:30	第72回GCOEセミナー	1.「イタリア所蔵日本美術コレクション調査報告現状と展望」 "Current Conditions of Public Information on Japanese Art Collections in Italy" 2.「日本と中国の水滸伝絵画 魯智深像を中心に」 "The Suikoden Picture Seen in Japan and China On the Image of Rochishin" 3.(仮題)「歌舞伎から映画へ 興行情報データベース等を利用して」 "From Kabuki to Motion Picture: An Analysis Using the Database About the Information of Exhibition"	1.齋藤 ちせ (RA1 / 日本文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D2) 2.周 萍 (RA1 / 日本文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D2) 3.大矢 敦子 (RA1 / 京都文化研究班 / 立命館大学大学院文学研究科・D2)	アート・リサーチセンター多目的室	30	35	
アート・リサーチセンター	1/15	18:00-19:30	番外編(Vol.17)GCOEセミナー	「日韓映画研究 1941年の児童教誨という主題 発掘された映画「家なき天使」と「みかへりの塔」比較」	李 孝仁(イ ヒョイン)氏 / 慶熙大学演劇映画学科学教授		5	6	x
アート・リサーチセンター	1/23	10:00-18:00	国際シンポジウム	モーションキャプチャ技術と身体動作処理 Human Body Motion Analysis with Motion Capture	招待講演: David A. Salts(University of Georgia, USA) 特別講演: Jeff Price(Motion Analysis Studios)	BKCエポック21	100	45	
アート・リサーチセンター	2/9	18:00-19:30	第73回GCOEセミナー	1.「平安京と貴族社会 平安時代後期から鎌倉時代初期の移動経路を中心に」 2.「能の形の動作評価における舞い手側の着眼点」	1.吉田 真澄(立命館大学大学院文学研究科・M2) 2.高橋 幸恵(日本文化デジタル・ヒューマニティーズ教育プログラム 学外履修生)	アート・リサーチセンター多目的室	30	36	
アート・リサーチセンター	3/4	14:00-17:30	第3回ビデオゲーム・カンファレンス	ファミコンとの出会い vol.2	パネリスト: 森安 康雄(株式会社ベネッセコーポレーション事業創成推進室長) サイトウ・アキヒロ(立命館大学映像学部教授) 司会: 上村雅之(立命館大学大学院教授 / 任天堂アドバイザー)	アート・リサーチセンター多目的室	50	23	
アート・リサーチセンター	3/26	9:30-17:10	国際シンポジウム	2nd Asia-Pacific DH centerNet meeting	稲葉光行/立命館大学・政策科学教授、矢野桂司/立命館大学文学部・教授、八村広三郎/立命館大学情報理工・教授、Jane Hunter/University of Queensland, Jieh Hsiang/National Taiwan University, Byoung-il Choi/Duksung Women's University, Jungyeoun Lee /Korea Nazarene University, Feicheng Ma/Wuhan University, Xiaoguang Wang/Wuhan University, Xiaojuan Zhang/Wuhan University, 岩淵潤子 / 慶応義塾大学、高橋晴子・大阪樟蔭女子大学、田畑智司/大阪大学、永崎研直/人文情報研究所、後藤真/花園大学	アート・リサーチセンター多目的室	20	20	x

## 2009年度ARC研究成果一覧(2010年3月31日まで)

### 著書

- アンドリュー・ガーストル著、矢野明子訳、早川聞多編「近世艶本資料集成V 月岡雪鼎・2『艶道日夜女宝記』」国際日本文化研究センター、\*\*p., 2010年3月(出版予定)
- 谷昇『後鳥羽院政の展開と儀礼』思文閣出版、\*\*p., 2010年\*\*月(出版予定) 入稿済み
- 松本郁代、出光佐千子編『風俗絵画の文化学—都市をうつすメディア』思文閣出版、355p., 2009年7月
- 桃崎有一郎『中世京都の空間構造と礼節体系』思文閣出版、584p., 2010年2月(刊行予定)
- Lucia Dolce, 松本郁代編『儀礼の力—中世宗教の実践世界』法蔵館、\*\*p., 2010年3月(刊行予定)
- Ellis Tinios, *Japanese Prints: Ukiyo-e in Edo, 1700-1900*, British Museum Press, \*\*p., \*\*\* 2010 (forthcoming)

### 著書(分担執筆)

- 彬子女王「『風俗画』再考 - 西洋における日本美術研究の視点から - 」松本郁代、出光佐千子編『風俗絵画の文化学—都市をうつすメディア』思文閣出版、pp.227-300, 2009年7月
- 出光佐千子「池大雅が描いた都市景観と風俗表現」松本郁代、出光佐千子編『風俗絵画の文化学—都市をうつすメディア』思文閣出版、pp.138-163, 2009年7月
- 上田学「日露戦争と映画 - 実写映画を受容する観客の歴史性」奥村賢著編『日本映画史叢書 10 映画と戦争 - 撮る欲望 / 見る欲望』森話社、pp.35-58, 2009年8月
- 大矢敦子「『東海道中膝栗毛』関連作品に見られる歌舞伎から映画への連続性 - 江戸期の時空間イメージの創出 - 」赤間亮、富田美香編『日本文化研究とイメージデータベース』pp.112-131, 2010年3月, Atsuko Oya, 'The Continuity from Kabuki to Film as Seen in the Productions Related to Tokai Dochu Hizakurige', Ryo Akama, Mika Tomita, *Image-database and Studies for Japanese Arts and Cultures*, Nakanishiya Shuppan, pp.241-251, March 2010
- 岡本隆明「既存の画像データベースから新たに何を生み出すか - 画像変換サーバを利用したより詳細なアノテーションの記述とその応用 - 」赤間亮、富田美香編『イメージデータベースと日本文化研究』ナカニシヤ出版、pp.18-35, 2010年3月, Takaaki Okamoto, 'What can be Generated from the Existing Image Database?: The Application of Enhanced Annotations Using Image Conversion Servers', Ryo Akama, Mika Tomita, *Image-database and Studies for Japanese Arts and Cultures*, Nakanishiya Shuppan, pp.171-184, March 2010
- 尾鼻崇「初期ハリウッド映画における古典的な映画音楽手法の確立」大森淳史、仲間裕子、岡林洋著編『芸術はどこからきてどこへ行くのか』晃洋書房、pp. 288-301, 2009年5月
- 尾鼻崇「在米答礼人形のデジタル・アーカイブ構築の意義と方法」岡林洋著編『花・歌・人形』晃洋書房、pp.\*\*-\*\* 2010年\*\*月(出版予定)
- 金子貴昭「立命館ARC所蔵『東山名所図屏風』について」松本郁代、出光佐千子編『風俗絵画の文化学—都市をうつすメディア』思文閣出版、pp.189-210, 2009年7月

- 金子貴昭「板木デジタルアーカイブ構築と近世出版研究への活用」赤間亮, 富田美香編『日本文化研究とイメージデータベース』ナカニシヤ出版, pp.52-72, 2010年3月, Takaaki Kaneko, 'Construction of a Printing Block Digital Archive and its Use in Studies of Early Modern Publishing', Ryo Akama, Mika Tomita, *Image-database and Studies for Japanese Arts and Cultures*, Nakanishiya Shuppan, pp.196-212, March 2010
- 亀田和子「風俗《曲水宴図》の思想と変容—月岡雪斎と窪俊満を例として—」松本郁代, 出光佐千子編『風俗絵画の文化学—都市をうつすメディア』思文閣出版, pp.43-76, 2009年7月
- 川嶋將生「近世風俗絵画のなかの節季候」松本郁代, 出光佐千子編『風俗絵画の文化学—都市をうつすメディア』思文閣出版, pp.122-137, 2009年7月
- 河角龍典「デジタル地図で見る古代都市長岡京・平安京」立命館大学文学部京都文化講座委員会編『京都に学ぶ7 京の地宝と考古学』白川書院, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(出版予定)
- 楠井清文「朝鮮の日本人移住者文学における「郷土」イメージの形成 「外地」日本語文学研究とデータベース」赤間亮・富田美香編『日本文化研究とイメージデータベース』ナカニシヤ出版, pp.73-89, 2010年3月, Kiyofumi Kusui, 'The Development of the Image of the Homeland in Literature by Japanese Immigrants to Korea', Ryo Akama, Mika Tomita, *Image-database and Studies for Japanese Arts and Cultures*, Nakanishiya Shuppan, pp.213-226, March 2010
- 佐古愛己「『兵範記』平信範 - 筆忠実な能吏が描く激動期の撰関家 - 」元木泰雄・松園斉編『日記で読む日本中世史』ミネルヴァ書房, pp.\*\*-\*\*, 2009年度中刊行予定
- 杉橋隆夫「保元・平治の乱 - 『平安』でなかった平安京」立命館大学文学部京都文化講座編『京都に学ぶ2 京の乱』白川書院, pp.4-26, 2009年5月
- 瀬戸寿一「京洛の庭園と歴史都市の風景 古の都の過去・現在・未来」立命館大学文学部京都文化講座委員会編『京都に学ぶ5 京の風土と景観』白川書院, pp.60-79, 2010年1月
- 當山日出夫「新常用漢字と文字論の可能性」文字研究会編『新常用漢字表の文字論』勉誠出版, pp.5-13, 2009年12月
- 富田美香「映画にみる「京の色彩」 光の美意識」立命館大学文学部京都文化講座委員会編『京都に学ぶ1 京の色彩』白川書院, pp.94-111, 2009年5月
- 富田美香「映画にみる「京の乱」 映画、投影装置」立命館大学文学部京都文化講座委員会編『京都に学ぶ2 京の乱』白川書院, pp.96-110, 2009年5月
- 富田美香「日本映画におけるヴァンプ・イメージの形成 役者絵から女優鈴木澄子へ」赤間亮, 富田美香編『日本文化研究とイメージデータベース』pp.132-153, 2010年3月, Mika Tomita, 'Formation of Images of Vamps in Japanese Cinema: From Yakusha-e to Actress', Ryo Akama, Mika Tomita, *Image-database and Studies for Japanese Arts and Cultures*, Nakanishiya Shuppan, pp.252-265, March 2010
- 花田卓司「南北朝内乱 - 京の争奪 - 」立命館大学文学部京都文化講座委員会編『京都に学ぶ2 京の乱』白川書院, pp.28-47, 2009年5月
- 前崎信也「写真は真を写したか - 明治初期の万国博覧会写真と日本陶磁器」松本郁代, 出光佐千子編『風俗絵画の文化学—都市をうつすメディア』思文閣出版, pp.301-325, 2009年7月

- 前崎信也「工芸研究に求められるイメージデータベースとは」赤間亮, 富田美香編『日本文化研究とイメージデータベース』ナカニシヤ出版, pp.36-51, 2010年3月, Shinya Maezaki, 'Image Database for the Studies of Kogei', Ryo Akama, Mika Tomita, *Image-database and Studies for Japanese Arts and Cultures*, Nakanishiya Shuppan, pp.185-195, March 2010
- 松葉涼子「近世歌舞伎研究とイメージデータベース」赤間亮, 富田美香編『イメージデータベースと日本文化研究』ナカニシヤ出版, pp.90-111, 2010年3月, Ryoko Matsuba, 'Image Databases and Early Modern Kabuki Performance Research', Ryo Akama, Mika Tomita, *Image-database and Studies for Japanese Arts and Cultures*, Nakanishiya Shuppan, pp.227-240, March 2010
- 松本郁代「巨視と微視の文化学」松本郁代, 出光佐千子編『風俗絵画の文化学—都市をうつすメディア』思文閣出版, pp.3-16, 2009年7月
- 松本郁代「中世における職人絵の表象—職能者をみる目線と社会—」松本郁代, 出光佐千子編『風俗絵画の文化学—都市をうつすメディア』思文閣出版, pp.99-121, 2009年7月
- 松本郁代「稲荷神と如意宝珠」中村陽監修『イチから知りたい日本の神さま2 稲荷大神』戎光祥出版, pp.76-87, 2009年9月
- 松本郁代「神輿入洛の儀礼と「洛中洛外」—南北朝期から室町期の山門嗽訴をめぐる—」Lucia Dolce, 松本郁代編『儀礼の力—中世宗教の実践世界』法蔵館, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(刊行予定)
- 桃崎有一郎「慶應義塾大学図書館貴重書室所蔵『北条家判尽』の紹介と解題 摂津氏庶流水谷(成田)氏の家伝文書」佐藤道生編『慶應義塾図書館の蔵書』慶應義塾大学出版会, pp.1-29, 2009年10月
- 和田晴吾「京・嵯峨野の古墳と他界観」立命館大学文学部京都文化講座委員会編『京都に学ぶ7 京の地宝と考古学』白川書院, pp.4-25, 2010年3月
- 【審査付き】Ellis Tinios, 'The purpose of Maruyama-Shijō schoolgafu', Jun Suzuki, Shugo Asano, ed., *Edo no Ehon: The Illustrated book in Edo period*, Yagi-shoten, pp.\*\*-\*\*, March 2010
- Lucia Dolce, 松本郁代「日本中世宗教文化における儀礼学の論点」Lucia Dolce, 松本郁代編『儀礼の力—中世宗教の実践世界』法蔵館, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(刊行予定)
- Keiji Yano, Tomoki Nakaya, Yuzuru Isoda and Tatsunori Kawasumi, 'Virtual Kyoto as 4D-GIS', Hui Lin and Michael Batty eds., *Virtual Geographic Environments*, Science Press, pp.71-88, July 2009
- Kingkarn Sookhanaphibarn and Ruck Thawonmas, 'Digital Museums in 3D Virtual Environment', *Handbook of Research on Method and Techniques for Studying Virtual Communities: Paradigms and Phenomena*, IGI Publishing, pp.\*\*-\*\*, MM 2010 (forthcoming)
- Woong Choi, Tadao Isaka, Hiroyuki Sekiguchi and Kozaburo Hachimura, 'Quantitative Analysis of Leg Movement and EMG signal in Expert Japanese Traditional Dancer', Vladimir A. Kulyukin ed., *Advances in Human-Robot Interaction*, IN-TECH, pp.165-178, December 2009 (出版予定)

#### 著書（翻訳）

- ジェームス・ケーヒル著，亀田和子訳「序文」古原宏伸著『米芾「画史」註解』中央公論美術出版，pp.\*\*-\*\*，2009年9月
- ジョシュア・モストウ著，亀田和子訳「『女大学宝箱』に見る『源氏物語』享受」源氏物語千年紀委員会編『源氏物語国際フォーラム集成』pp.217-227，2009年4月
- English Heritage編著，高瀬裕，門林理恵子翻訳監修『文化遺産のレーザー計測 考古学と建築のレーザー計測に携わるユーザーのためのアドバイスと指針』（'3D Laser Scanning for Heritage - Advice and guidance to users on laser scanning in archaeology and architecture'，2007）インターネットで公開中：<http://3dblog.nict.go.jp/digitalCH/index.html>
- Marc Prensky 著，藤本徹訳「デジタルゲーム学習 - シリアスゲーム導入・実践ガイド」東京電機大学出版局，388p.，2009年4月

#### 招待論文

- 上村雅之「テレビゲームの産業・技術史(第一部) 世界初のテレビゲームブーム」デジタルゲーム学研究，3-2，pp.191-203，2009年9月

#### 論文

- 【審査付き】朝田健太，塚本章宏，吉越昭久「大正期の京都における火災の分布 - 京都日出新聞記事の GIS 分析」歴史都市防災論文集（歴史都市防災シンポジウム'09），3，pp.173-180，東本願寺（京都市），2009年6月20日
- 【審査付き】井坪将，木村文則，手塚太郎，前田亮「古典史料からの知識獲得および情報の可視化」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集（情報処理学会シンポジウムシリーズ），2009-16，pp.231-238，立命館大学（草津市），2009年12月19日
- 井坪将，木村文則，手塚太郎，前田亮「古典史料を対象とした情報抽出および情報の可視化」第2回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム（DEIM2010）論文集，淡路夢舞台国際会議場（淡路市），2010年3月1日（発表予定）
- 出光佐千子「小杉放菴筆「南嶋帖」—若き日の放菴が抱いた大雅への憧れ—」出光美術館館報，148，pp.18-35，2009年8月
- 出光佐千子「寿老を廻る四季—池大雅筆「山居観花図」・「高士観泉図」・「南極寿星図」・「江上笛声図」・「雪天夜明図」の史的位罫—」出光美術館研究紀要，15，pp.\*\*-\*\*，2010年3月（出版予定）
- 【審査付き】伊藤健太郎，鶴田清也，崔雄，関口博之，八村広三郎「感性を伴ったダンスステップの識別」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集（情報処理学会シンポジウムシリーズ），2009-16，pp.147-154，立命館大学（草津市），2009年12月19日
- 【審査付き】井上学，桐村喬「戦前期における京都市電・市バスの利用に関する一考察」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集（情報処理学会シンポジウムシリーズ），2009-16，pp.345-350，立命館大学（草津市），2009年12月19日

- 【審査付き】尹新, 野村和義, 田中弘美「多方向照明画像からの皮膚触覚振動信号の生成」第 12 回画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2009), IS2-43, pp.1142-1147, くにびきメッセ 島根県立産業交流会館 (松江市), 2009年7月20-22日
- 【審査付き】上村雅之, 尾鼻崇「「遊び」としてのビデオゲーム研究—「ゲームプレイ」の可視化と保存—」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2009-16, pp.101-106, 立命館大学(草津市), 2009年12月18日
- 大中健司, 森勢将雅, 西浦敬信「頭部近接スピーカアレーを用いた高臨場感音場再生システムの検討」日本音響学会 2009年秋季研究発表会, pp.797-798, 日本大学(福島市), 2009年9月17日
- 【審査付き】大西秀紀「新派 SP レコード・ディスコグラフィ(未定稿)」歌舞伎 研究と批評, 43, pp.53-74, 2009年9月
- 【審査付き】大原邦彦, 吉村ミツ, 八村広三郎「浮世絵における落款の自動抽出の試み」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 立命館大学(草津市), 2009-16, pp.41-48, 2009年12月18-19日
- 【審査付き】大矢敦子「連鎖劇における映画場面の批評をめぐって」アート・リサーチ, 10, pp.51-60, 2010年3月
- 【審査付き】大崎隆比古, 木村文則, 手塚太郎, 前田亮「古記録の地名情報によるテキストマイニング手法の提案」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2009-16, pp.217-224, 立命館大学(草津市), 2009年12月19日
- 【審査付き】岡本隆明「デジタル画像史料を利用した文献研究に必要な環境について」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2009-16, pp.67-72, 立命館大学(草津市), 2009年12月21日
- 【審査付き】尾崎遼, 西脇靖洋, 武田祐樹, 湯原卓広, 田中弘美「多方向照明 HDR 画像を用いたシルクライク織物の 3次元織構造モデリング」第 12 回画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2009), IS3-71, pp.1134-1141, くにびきメッセ 島根県立産業交流会館 (松江市), 2009年7月20-22日
- 【審査付き】尾崎遼, 西脇靖洋, 武田祐樹, 湯原卓広, 田中弘美「多方向照明 HDR 画像を用いたシルクライク織物の 3次元織構造モデリング」日本バーチャルリアリティ学会論文誌, 14-3, pp.315-324, 早稲田大学(東京都新宿区), 2009年9月9-11日
- 【審査付き】尾崎良太, 鶴田清也, 崔雄, 八村広三郎「ダンスコラボレーションのための隠れマルコフモデルによるダンス動作の識別」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2009-16, pp.155-162, 立命館大学(草津市), 2009年12月19日
- 小田興, Ruck Thawonmas「自動漫画生成システムにおけるカメラワークの自動化」ゲーム学会 第 8 回全国大会論文集, pp.41-42, 大阪電気通信大学(四条畷市), 2009年12月6日
- 小田興, 谷慶能, 首田大仁, Ruck Thawonmas「オンラインゲームログを用いた漫画自動生成・カメラワーク編集システム」エンタテインメントコンピューティング2009論文集, pp.189-190, 東京大学(東京都文京区), 2009年9月16-18日

- 小田興, 首田大仁, Ruck Thawonmas「ゲームログを用いた自動漫画生成におけるカメラワークの検証」第28回日本シミュレーション学会大会発表論文集, pp.211-214, 芝浦工業大学(東京都江東区), 2009年6月11-13日
- 【審査付き】織田淳一, Ruck Thawonmas「座標分布及び遷移確率に基づいた移動軌跡の比較方法の提案 - オンラインゲームへの応用」ゲーム学会和文論文誌, 4-1, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(掲載予定)
- 【審査付き】尾鼻崇「ゲームマニュアルを資料とした学術研究のためのデータベース構築とその展望」ゲーム学会第8回全国大会論文集, pp.37-40, 大阪電気通信大学(四条畷市), 2009年12月6日
- 【審査付き】尾鼻崇「ゲームマニュアルを対象としたビデオゲーム研究の可能性 デジタル保存とデータベース構築の意義と課題」アート・リサーチ, 10, pp.101-110, 2010年3月
- 【審査付き】尾鼻崇, 上村雅之「ビデオゲームにみる“日本的なるもの”」立命館映像学, 3, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(出版予定)
- 【審査付き】尾鼻崇「コンピュータゲーム・アーカイブのアーキテクチャ」社会・芸術研究, 2, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(出版予定)
- 【審査付き】尾鼻崇「初期ビデオゲームにおけるアニメーション技術の活用とその系譜」コア・エシックス, 6, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(出版予定)
- 【審査付き】尾鼻崇「『ドラゴンクエスト』シリーズにみるゲームサウンドの変遷」ゲーム学会和文論文誌, 4, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(出版予定)
- 金子貴昭「『書林竹苞楼蔵版略書目』について」俳文学研究, 52, pp.4-5, 2009年10月
- 【審査付き】金子貴昭「『賞奇軒墨竹譜』の板木」アート・リサーチ, 10, pp.14-28, 2010年3月
- 【審査付き】金子貴昭「板本の板木—構造と特徴—」アート・ドキュメンテーション研究, 17, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(出版予定)
- 亀井千尋, 花岡和聖, 中谷友樹「震災時の道路閉塞状況からみた文化財の危険度評価 建物の建築年代・建築構造に着目したシミュレーション」GIS - 理論と応用, 17-1, pp.73-82, 2009年6月
- 【審査付き】木村文則, 前田亮「固有名詞の検出による古文並列コーパスを利用した時代横断対訳辞書の構築」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2009-16, pp.239-244, 立命館大学(草津市), 2009年12月19日
- 【審査付き】桐村喬「自己組織化マップ(SOM)を利用した神戸市既成市街地における阪神・淡路大震災前後の居住者特性の変化に関する研究 - 時空間データの類型化と可視化 - 」地理学評論, 83-2, pp.\*\*-\*\*, 2010年\*\*月(印刷中)
- 【審査付き】桐村喬, 塚本章宏, 矢野桂司「京都の通り名の時空間データベースの作成とその利用」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2009-16, pp.331-338, 立命館大学(草津市), 2009年12月19日
- 桐村喬「京都市における地域名称を名称に含む建物の空間分布に関する基礎的検討」地理情報システム学会講演論文集, 18, pp.535-540, 朱鷺メッセ(新潟市), 2009年10月16日
- 【審査付き】楠井清文「中島敦「虎狩」論 語り的手法と「虎」イメージの分析を中心に」論

- 究日本文学, 90, pp.36-51, 2009年5月
- 【審査付き】楠井清文「植民地期朝鮮における日本人移住者の文学 文学コミュニティの形成と「朝鮮色」「地方色」」アート・リサーチ, 10, pp.5-14, 2010年3月
- 【審査付き】倉橋正恵「ボストン美術館所蔵歌舞伎番付」アート・リサーチ, 10, pp.111-118, 2010年3月
- 【審査付き】斎藤進也「図的表現の展開と知識マネジメント 立方体の持つ情報表現力の開拓とその社会的活用」アート・リサーチ, 10, pp.87-98, 2010年3月
- 【審査付き】斎藤進也, 稲葉光行「テキストマイニングによる非営利ネットワークの組織化プロセスの可視化」政策科学(立命館大学政策科学会紀要), 17-2, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(出版予定)
- 【審査付き】齊藤ちせ「在伊日本美術資料情報公開の現状と課題 - イタリア文化財デジタル化政策の中で -」アート・ドキュメンテーション研究, 17, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(採録決定)
- 佐古愛己, 上島理恵子「源氏物語の時代」立命館文学, 612, pp.58-73, 2009年6月
- 澤井雅和, 磯田弦, 塚本章宏, 小阪佳宏, 仲田晋, 田中覚「GIS データに基づく3次元都市モデルの自動生成」第28回日本シミュレーション学会大会発表論文集, pp.227-230, 芝浦工業大学(東京都江東区), 2009年6月11-13日
- 【審査付き】関口博之, 崔雄, 八村広三郎「ピアノ演奏に基づくマリオネットダンスの生成と表示」情報処理学会インタラクシオン2010, 学術総合センター(東京都千代田区), 2010年3月1-2日
- 【審査付き】瀬戸寿一, 矢野桂司「写真資料のデジタル化による歴史的市街地の景観復原の可能性」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2009-16, pp.339-344, 立命館大学(草津市), 2009年12月19日
- 高瀬裕「文化遺産のレーザー計測と利活用」SPAR 2008J 第5回既存設備のデータ取得フォーラム, 川崎市産業振興会館(川崎市), 2009年5月15日
- 玉田浩之「歴史的建築データベースの付加情報(位置、画像)について 京都市の近代化遺産データベースを対象に」2009年度日本建築学会(東北)建築歴史・意匠部門研究協議会資料『歴史的建築リストの可能性 学会・行政・市民との連携に向けて』, pp.22-27, 東北学院大学(仙台市), 2009年8月27日
- 塚本章宏「近世京都の刊行都市図に描かれた空間」情報処理学会研究報告, 2009-CH-83(第83回人文科学とコンピュータ研究会「Historical GISの地平」シンポジウム), pp.111-126, 帝塚山大学(奈良市), 2009年7月25日
- 塚本章宏, 村中亮夫, 花岡和聖, 吉越昭久「第3回夏休みにみんなで作る地域の安全安心マップコンテスト報告の特徴」京都歴史災害研究, 11, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(印刷中)
- 【審査付き】鶴田清也, 森岡秀光, 崔雄, 関口博之, 八村広三郎「仮想ダンスコラボレーションのための感性情報を付与した身体動作の生成とその評価」映像情報メディア学会誌, 63-12, pp.1807-1814, 2009年12月
- 當山日出夫「デジタル文字の共有と継承について」情報処理学会研究報告, 2009-CH-82, pp.1-8, 東京大学(東京都文京区), 2009年5月23日

- 中村美奈子, 内田宏子, 小島一成「岩崎鬼剣舞に関する文理融合型研究 「ザイを切る」動作に焦点を当てて」韓国舞踊史学, 韓國舞踊史學會, 10, pp.279-293, 2009年6月
- 【審査付き】中山雅人, 西浦敬信, 山下洋一「母音/子音特徴量に基づく適応型マイクロホンアレーを用いた雑音下音声認識」電子情報通信学会論文誌, J92-D-9, pp.1568-1578, 2009年9月
- 【審査付き】橋本勝, 村田正浩, 鳥居悠人, 永野遼, 田中弘美, 矢野桂司「超高精細分光撮影による祇園祭・山鉾懸装品のデジタルアーカイブ」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2009-16, pp.171-176, 立命館大学(草津市), 2009年12月19日
- 花岡和聖「動的な空間的マイクロシミュレーションモデルを用いた社会シミュレーション 京町家の取壊し分析を事例に」地学雑誌, 118-4, pp.646-664, 2009年8月
- 花岡和聖, 中谷友樹, 矢野桂司, 磯田弦「京都市西陣地区における京町家の建替えの要因分析」地理学評論, 82-3, pp.227-242, 2009年6月
- 花園天皇日記研究会(横澤大典, 米澤隼人, 花田卓司, 坂口太郎, 村山識, 阿尾あすか, 長村祥知, 芳澤元)編「『花園天皇日記(花園院宸記)』正和二年二月記—訓読と注釈—」花園大学国際禅学研究所論叢, 5, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(刊行予定)
- 【審査付き】平部敬士, 澤井雅和, 磯田弦, 塚本章宏, 小阪佳宏, 長谷川恭子, 仲田晋, 田中覚「GISデータによる京都の町並みモデルの自動生成」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2009-16, pp.29-34, 立命館大学(草津市), 2009年12月18-19日
- 平部敬士, 芝崎将実, 磯田弦, 塚本章宏, 小阪佳宏, 長谷川恭子, 仲田晋, 田中覚「GISデータによる3次元都市モデルの自動生成 -モデリングとシミュレーション-」第14回バーチャルリアリティ学会大会論文集, 2A1-2, pp.\*\*-\*\*, 早稲田大学(東京都新宿区), 2009年9月9-11日
- 【審査付き】本多健一「近世の民俗行事からみた都市と周辺地域との結合関係 - 京都における六斎念仏を事例に -」人文地理, 61-4, pp.20-35, 2009年8月
- 【審査付き】本多健一「中世後期の京都今宮祭と上京氏子区域の変遷 - そこに顕現する空間構造に着目して -」歴史地理学, 246, pp.1-22, 2009年9月
- 【審査付き】本多健一, 大坪舞「中世前期の京都今宮祭に関する一考察 - 祭礼行列の渡物と疫病対策的性格に着目して -」アート・リサーチ, 10, pp.41-50, 2010年3月
- 【審査付き】前田耕作, 細井浩一「映画産業研究の歴史と現状 先行研究の整理と検討」アート・リサーチ, 10, pp.61-72, 2010年3月
- 【審査付き】松岡恵悟, 玉田浩之「京都市における近代建築の空間的分布と現存状況について—『日本近代建築総覧』掲載物件の追跡調査から—」季刊地理学, \*\*, pp.\*\*-\*\*, 2010年\*\*月(投稿中)
- 丸茂祐佳「平成二十年上半期 歌舞伎の舞踊評(東京)」歌舞伎 研究と批評, 42, pp.104-111, 2009年4月30日
- 【審査付き】村中亮夫, 中谷友樹「CVMによる災害発生後における歴史的景観復興の経済評価 京都市における事例分析」歴史都市防災論文集(歴史都市防災シンポジウム'09), 3, pp.245-252, 東本願寺(京都市), 2009年6月20日
- 【審査付き】桃崎有一郎「足利義持の室町殿第二次確立過程に関する試論 室町殿の同時代的・

- 歴史的認識再考」歴史学研究, 852, pp.2-10,59, 2009年4月
- 【審査付き】桃崎有一郎「初期室町幕府の執政と『武家探題』鎌倉殿の成立」古文書研究, 68, pp.41-63, 2010年1月
- 【審査付き】山本真紗子「明治後期の京都の美術商と陳列場」民族藝術, 26, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(出版予定)
- 【審査付き】山本真紗子「阪急百貨店美術部と新たな美術愛好者層の開拓」コア・エシックス, 6, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(出版予定)
- 【審査付き】吉田真澄, 佐古愛己, 杉橋隆夫「GISを用いた平安貴族の移動経路の分析」人文科学とコンピュータシンポジウム論文集(情報処理学会シンポジウムシリーズ), 2009-16, pp.351-356, 立命館大学(京都市), 2009年12月19日
- 和田晴吾「古墳の理解と保存整備」遺跡学研究, 6, pp.78-83, 2009年11月
- 和田晴吾「古墳時代の年代決定法をめぐって」日韓における古墳・三国時代の年代観( ), pp.51-71 (韓国語訳あり), 九州国立博物館(太宰府市), 2009年12月12日
- 和田晴吾「古墳とは何か」向日市埋蔵文化財センター年報「都城」, 21, pp.39-48, 2010年1月
- 【審査付き】Monika Bincsik, 'Plum Flowers and Cherry Blossoms: Auspicious Symbols of a Political Alliance: A Maki-e Daimyo Wedding Set', *Orientalism* (40th Anniversary), pp.73-79, September 2009
- 【審査付き】Monika Bincsik, 'Japanese Exported Lacquer: Reassessments and Summary of Sources', *Impressions*, 31, pp.158-170, MM 2010
- 【審査付き】Monika Bincsik, 'Circulation of Japanese lacquer objects in eighteenth-century Europe - Market price of the craftsmanship and the canon of the Grand Arts', *Crossing Borders - The Conservation, Science and Material Culture of East Asian Lacquer*, pp.\*\*-\*\*, V&A Museum (London, UK), 31 October 2009, text is under publication in the conference volume to come out in 2010 (2010 出版予定)
- 【審査付き】Chia-Jung Chan, Ruck Thawonmas and Kuan-Ta Chen, 'Automatic Storytelling in Comics: A Case Study on World of Warcraft', *CHI Extended Abstracts 2009*, The Hynes Convention Center (Boston, USA), pp.3589-3594, 4-9 April 2009
- 【審査付き】Kook Cho, Takanobu Nishiura and Yoichi Yamashita, 'A Study on Multiple Sound Source Localization with a Distributed Microphone System', *Proc. of the Interspeech 2009 (Interspeech2009)*, Brighton(United Kingdom), pp.1359-1362, 8 September 2009
- 【審査付き】Worawat Choensawat, Woong Choi, Hiroyuki Sekiguchi and Kozaburo Hachimura, 'Improved Segmentation of Motion Capture Data using SMOTE', *Image Electronics and Visual Computing Workshop 2010 (IEVC2010)*, \*\*, pp.\*\*-\*\*, Le Meridien Hotel (Nice, France), 5 March 2010, accepted
- 【審査付き】Worawat Choensawat and Kozaburo Hachimura, 'Segmentation of Motion Capture Data Using Neural Networks', *Proceedings of International Conference of Digital Archives and Digital Humanities 2009*, pp.380-381, National Taiwan University (Taipei, Taiwan), 1-2 December 2009

- 【審査付き】 Worawat Choensawat, Woong Choi and Kozaburo Hachimura, 'A Quick Filtering for Similarity Queries in Motion Capture Databases', *The 10th Pacific Rim Conference on Multimedia*, Pan Pacific Bangkok Hotel (Bangkok, Thailand), 15 December 2009, published in *Lecture Notes in Computer Science*, 5879, pp.404-415
- 【審査付き】 Woong Choi, Hiroyuki Sekiguchi and Kozaburo Hachimura, 'Analysis of Gait Motion by Using Motion Capture in the Japanese Traditional Performing Arts', *Proceedings of the Fifth International Conference on Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal Processing (IIHMSP2009)*, pp.1164-1167, Mielparque Kyoto (Kyoto, Japan), 13 September 2009
- 【審査付き】 Woong Choi, Takatoshi Ono and Kozaburo Hachimura, 'Body Motion Analysis for Similarity Retrieval of Motion Data and Its Evaluation', *Proceedings of the Fifth International Conference on Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal Processing (IIHMSP2009)*, pp.1177-1180, Mielparque Kyoto (Kyoto, Japan), 13 September 2009
- 【審査付き】 Woong Choi, Drew Baker, Martin Blazeby, Kozaburo Hachimura and Richard Beacham, 'Character Animation of Performing Arts in Second Life', *Proceedings of International Conference of Digital Archives and Digital Humanities 2009*, pp.378-379, National Taiwan University (Taipei, Taiwan), 1-2 December 2009
- 【審査付き】 Woong Choi, Drew Baker, Martin Blazeby, Kohei Furukawa, Kozaburo Hachimura and Richard Beacham, 'Character Animation of Intangible Cultural Heritage in Second Life', *Image Electronics and Visual Computing Workshop 2010 (IEVC2010)*, \*\*, pp.\*\*-\*\*, Le Meridien Hotel (Nice, France), 5 March 2010, accepted
- 【審査付き】 Woong Choi, Drew Baker, Martin Blazeby, Kohei Furukawa, Kozaburo Hachimura and Richard Beacham, 'Performing Arts of Intangible Cultural Heritage in Second Life', *人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 (情報処理学会シンポジウムシリーズ)*, 2009-16, pp.135-140, Ritsumeikan University (Shiga, Japan), 19 December 2009
- Woong Choi, Drew Baker, Martin Blazeby, Kozaburo Hachimura and Richard Beacham, 'Character Animation of Performing Arts in Second Life', *Proceedings of International Conference of Digital Archives and Digital Humanities 2009*, pp.378-379, National Taiwan University (Taipei, Taiwan), 1 December 2009
- 【審査付き】 Kohei Furukawa, Ryo Akama, Chisako Hirose and Kozaburo Hachimura, 'Digital Reconstruction of a Historical Kabuki Theater', *Proceedings of the Fifth International Conference on Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal Processing (IIHMSP2009)*, pp.1160-1163, Mielparque Kyoto (Kyoto, Japan), 12 September 2009
- C. Andrew Gerstle, 'The Impact of the Kyôhō Reforms on Taboo and Censorship of Shunga', to be published in a ronbunshu by the Centre Européen d'Etudes Japonaises d'Alsace (CEEJA), pp.\*\*-\*\*, MM 2010

- 【審査付き】 Takashi Hirabe, Masakazu Sawai, Yuzuru Isoda, Akihiro Tsukamoto, Yoshihiro Kosaka, Kyoko Hasegawa, Susumu Nakata and Satoshi Tanaka, 'Automatic Modeling of Virtual 3D Streets Based on GIS Data – Application to Generation of Kyoto in the Edo Era –', *Proceedings of the Fifth International Conference on Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal Processing (IIHMSP2009)*, pp.\*\*\*, Mielparque Kyoto (Kyoto, Japan), 12-14 September 2009
- Koichi Hosoi, 'Divergence of Contents Industry and Business: the present situation and educational design in Japan', *International Symposium on Creative Imagination and Culture Technology*, pp.79-89, Dongguk University (Seoul, Korea), 22 February 2010
- 【審査付き】 Takafusa Iizuka, Ayako Matsumoto, Toshikazu Seto and Keiji Yano, 'GIS-based Monitoring System for Kyo-machiya in Kyoto City', *22nd CIPA (Digital Documentation, Interpretation & Presentation of Cultural Heritage) Symposium*, USB memory, Kyoto Terrsa (Kyoto, Japan), 11-15 October 2009
- 【審査付き】 Yuzuru Isoda, Akihiro Tsukamoto, Yoshihiro Kosaka, Takuya Okumura, Masakazu Sawai, Keiji Yano, Susumu Nakata and Satoshi Tanaka, 'Reconstruction of Kyoto of the Edo era based on arts and historical documents: 3D urban model based on Historical GIS data', *International Journal for Humanities and Arts Computing*, 3, pp.\*\*\*, March 2010 (in print)
- Fuminori Kimura, Akira Maeda, Kenji Hatano, Jun Miyazaki and Shunsuke Uemura, 'Utilizing Web Directories for Translation Disambiguation in Cross-Language Information Retrieval', Sio-Long Ao, Xu Huang and Ping kong Alexander Wai eds., *Trends in Communication Technologies and Engineering Science*, Lecture Notes in Electrical Engineering, 33, pp.95-107, April 2009
- 【審査付き】 Fuminori Kimura and Akira Maeda, 'An Approach to Information Access and Knowledge Discovery from Historical Documents', *Proceedings of Digital Humanities 2009 (DH09)*, pp.359-361, University of Maryland (Maryland, USA), 23 June 2009
- 【審査付き】 Fuminori Kimura and Akira Maeda, 'Construction of Ancient-Modern Word Dictionary from Parallel Corpus of Ancient Writings and Their Translations in Modern Language', *Proceedings of the Fifth International Conference on Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal Processing (IIHMSP2009)*, pp.1126-1129, Mielparque Kyoto (Kyoto, Japan), 13 September 2009
- 【審査付き】 Fuminori Kimura, Takushi Toba, Taro Tezuka and Akira Maeda, 'Federated Searching System for Humanities Databases Using Automatic Metadata Mapping', *Proceedings of the 9th International Conference on Dublin Core and Metadata Applications (DC-2009)*, pp.139-140, National Library of Korea (Seoul, Korea), 14 October 2009
- 【審査付き】 Takashi Kirimura, Keiji Yano and Hiroshi Kawaguchi, 'Applicability of 3D GIS to the View Preservation Policy of Kyoto City', *22nd CIPA (Digital Documentation, Interpretation & Presentation of Cultural Heritage) Symposium*, USB memory, Kyoto

Terrsa (Kyoto, Japan), 11-15 October 2009

- 【審査付き】Takashi Kirimura, 'Changes in Residential Structure in 20th-century Kyoto City', *Japanese Journal of Human Geography*, 60-6, pp.\*\*-\*\*, 2009 (印刷中)
- 【審査付き】Shinya Maezaki, 'Creating a Digital Database of Japanese Ceramics in western Collections', *Proceedings of International Conference of Digital Archives and Digital Humanities 2009*, pp. 17-30, National Taiwan University (Taipei, Taiwan), 1-2 December 2009
- 【審査付き】Shinya Maezaki, 'Sino-Japanese Relations and Japanese Monochromes from the late Edo and Meiji periods', *Transactions of Oriental Ceramic Society* 73, pp.\*\*-\*\*, MM 2010 (出版予定)
- 【審査付き】Kazuyoshi Nomura, Xin Yin, Hiromi T.Tanaka and Naoki Saiwaki, 'Modeling of Finger Resonance Vibration for Distinction of Textures in a Single Image', *The proceedings of the fifth Joint Workshop on Machine Perception and Robotics (MPR 2009)*, PS1-5, Ritsumeikan University (Kyoto, Japan), 4-5 October 2009
- 【審査付き】Kazuyoshi Nomura, Yoshiyuki Sakaguchi, Xin Yin and Hiromi Tanaka, 'Estimation and Rendering Tactile Feeling Information Based on Photometric Images', *Proc. IEEE-CS The 2010 International Conference on Computational Science and Its Applications (ICCSA 2010)*, pp.\*\*-\*\*, Kyushu Sangyo University (Fukuoka, Japan), 17-19 March 2010 (in press)
- 【審査付き】Junichi Oda, Ruck Thawonmas and Kuan-Ta Chen, 'Comparison of User Trajectories Based on Coordinate Data and State Transitions', *Proceedings of the Fifth International Conference on Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal Processing (IIHMSP2009)*, pp.1134-1137, Mielparque Kyoto (Kyoto, Japan), 12-14 September 2009
- 【審査付き】Kenji Onaka, Masanori Morise and Takanobu Nishiura, 'A design of 3-dimensional sound field simulator based on acoustic ray tracing and HRTF', *The 13th IEEE International Symposium on Consumer Electronics (ISCE2009)*, pp.233-236, Mielparque Kyoto (Kyoto, Japan), 26 May 2009
- 【審査付き】Shinya Saito, Shin Ohno and Mitsuyuki Inaba, 'Collective Culture and Visualization of Spatiotemporal Information', *Proceedings of Digital Humanities 2009 (DH09)*, pp.248-250, University of Maryland (Maryland, USA), 22-25 June 2009
- 【審査付き】Shinya Saito, Shin Ohno and Mitsuyuki Inaba, 'A Platform for Visualizing and Sharing Collective Cultural Information', *Proceedings of International Conference of Digital Archives and Digital Humanities*, National Taiwan University (Taipei, Taiwan), pp.43-53, 1-2 December 2009
- 【審査付き】Mamiko Sakata, Sayaka Wakamiya, Naoki Odaka and Kozaburo Hachimura, 'Effect of Body Movement on Music Expressivity in Jazz Performances', *Proc. 13th International Conference on Human-Computer Interaction (HCI International 2009)*, 1,

pp.159-168, Town and Country Resort & Convention Center (San Diego, USA), 19-24 July 2009

【審査付き】 Masakazu Sawai, Yuzuru Isoda, Akihiro Tsukamoto, Yoshihiro Kosaka, Kyoko Hasegawa, Susumu Nakata and Satoshi Tanaka, 'Automatic Modeling of Virtual 3D Streets Based on GIS Data - Application to Generation of Kyoto in the Edo Era -', *Proceedings of Asia Simulation Conference 2009 (JSST 2009)*, pp.\*\*-\*\*, Ritsumeikan University (Shiga, Japan), 7-9 October 2009

【審査付き】 Masakazu Sawai, Yuzuru Isoda, Akihiro Tsukamoto, Yoshihiro Kosaka, Susumu Nakata and Satoshi Tanaka, 'Spread-sheet-based automatic modeling of urban street models from GIS data', *Proceedings of Asia Simulation Conference 2009 (JSST 2009)*, \*\*, pp.\*\*-\*\*, Ritsumeikan University (Kusatsu, Japan), 7-9 October 2009

【審査付き】 Masakazu Sawai, Yuzuru Isoda, Akihiro Tsukamoto, Yoshihiro Kosaka, Kyoko Hasegawa, Susumu Nakata and Satoshi Tanaka, 'Automatic modeling of virtual 3D streets based on GIS data - application to generation of Kyoto in the Edo era -', *Proceedings of the Fifth International Conference on Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal Processing (IIHMSP2009)*, pp.\*\*-\*\*, Mielparque Kyoto (Kyoto, Japan), 12-14 September 2009

【審査付き】 Hiroyuki Sekiguchi, Woong Choi and Kozaburo Hachimura, 'An Image-Based Document Reader with Editing Functions for Education and Research on Digital Humanities', *Proceedings of Digital Humanities 2009 (DH09)*, 395-397, University of Maryland (Maryland, USA), 22-25 June 2009

【審査付き】 Hiroyuki Sekiguchi, Woong Choi and Kozaburo Hachimura, 'Generating a Puppet's Dance from a Piano Performance', *Image Electronics and Visual Computing Workshop 2010 (IEVC2010)*, \*\*, pp.\*\*-\*\*, Le Meridien Hotel (Nice, France), 5 March 2010, accepted

【審査付き】 Toshikazu Seto, Ayako Matsumoto, Takafusa Iizuka and Keiji Yano, 'Public Participation GIS of Historical Landscapes: A Case Study of "Machiya Community-building Survey" in Kyoto City', *22nd CIPA (Digital Documentation, Interpretation & Presentation of Cultural Heritage) Symposium*, USB memory, Kyoto Terrsa (Kyoto, Japan), 11-15 October 2009

【審査付き】 Masami Shibasaki, Yuzuru Isoda, Akihiro Tsukamoto, Yoshihiro Kosaka, Kyoko Hasegawa, Susumu Nakata and Satoshi Tanaka, 'Modeling, viewing and simulating Kyoto street models created from GIS data', *22nd CIPA (Digital Documentation, Interpretation & Presentation of Cultural Heritage) Symposium*, USB memory, Kyoto Terrsa (Kyoto, Japan), 11-15 October 2009

【審査付き】 Kingkarn Sookhanaphibarn and Ruck Thawonmas, 'A Framework for Design and Evaluation of Digital Museums in Second life as Learning Institutions', *Proceedings of the Fifth International Conference on Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal*

*Processing (IIHMSP2009)*, pp.1130-1133, Mielparque Kyoto (Kyoto, Japan), 12-14 September 2009

【審査付き】 Kingkarn Sookhanaphibarn and Ruck Thawonmas, 'A Content Management System for User-Driven Museums in Second life', *Proc. the 2009 International Conference on CyberWorlds*, pp.185-189, University of Bradford (Bradford, UK), 7-11 September 2009

【審査付き】 Kingkarn Sookhanaphibarn and Ruck Thawonmas, 'A Movement Data Analysis and Synthesis Tool for Museum Visitors Behaviors', *Proc. of 10th Pacific Rim Conference on Multimedia: Advances in Multimedia Information Processing*, Pan Pacific Bangkok Hotel (Bangkok, Thailand), 15-18 December 2009, published in P. Muneesawang et al. eds., *Lecture Notes in Computer Science*, 5879, pp.144-154

Kingkarn Sookhanaphibarn and Ruck Thawonmas, 'RouteMap: Developing a Content Management System for Personalized Route Map in 3D Virtual Museums', *Virtual Reality*, Springer London (submitting)

【審査付き】 Kingkarn Sookhanaphibarn and Ruck Thawonmas, 'Analysis of visitors' behaviors in 3D virtual museums', *Proceedings of the International Conference of Digital Achieves and Humanities*, National Taiwan University (Taipei, Taiwan), pp.\*\*-\*\*, 1-2 December 2009

【審査付き】 Kingkarn Sookhanaphibarn and Ruck Thawonmas, 'A Movement Data Analysis and Synthesis Tool for Museum Visitors' Behaviors', *Proceedings of IEEE Pacific Rim Conference on Multimedia 2009*, pp.144-154, 15-18 December 2009

【審査付き】 Yutaka Takase, Keiji Yano, Tomoki Nakaya, Yuzuru Isoda, Satoshi Tanaka, Tatsunori Kawasumi, Toshikazu Seto, Atsushi Sone, Dai Kawahara, Akihiro Tsukamoto, Keigo Matsuoka, Takashi Kirimura, Takafusa Iizuka, Yoshihiro Kosaka and Manabu Inoue, 'Virtual Kyoto - A Comprehensive Reconstruction and Visualization of a Historical City', *Proceedings for 9th Conference on Optical 3-D Measurement Techniques*, 1, pp.11-20, Vienna University of Technology (Vienna, Austria), 1-3 July 2009

【審査付き】 Ruck Thawonmas, Keisuke Yoshida, Jing-Kai Lou and Kuan-Ta Chen, 'Analysis of Area Revisitation Patterns in World of Warcraft', *Proc. of IFIP 8th International Conference on Entertainment Computing (ICEC 2009)*, CNAM (Paris, France), 3-5 September 2009, published in Stéphane Natkin and Jérôme Dupire eds., *Lecture Notes in Computer Science*, 5709, pp.13-23

【審査付き】 Ruck Thawonmas, Ko Oda and Tomonori Shuda, 'Camerawork Editor for Automatic Comic Generation from Game Log', *Proc. of Nicograph International 2009*, CD-ROM, Kabuki-za (Kanazawa, Japan), 19-20 June 2009

【審査付き】 Ruck Thawonmas, Junichi Oda and Kuan-Ta Chen, 'Analysis of User Trajectories Based on Data Distribution and State Transition: a Case Study with a Massively Multiplayer Online Game Angel Love Online', *Proc. the 10th International Conference on Intelligent Games and Simulation (GAME-ON 2009)*, pp.56-60, Mediadesign Hochschule

(Düsseldorf, Germany), 26-28 November 2009

【審査付き】 Ellis Tinios, 'Kuniyoshi and China: Pushing the Boundaries', *Impressions: Journal of the Japanese Art Society of America*, 31, pp.\*\*-\*\*, March 2010

Ellis Tinios, 'Playful Transformations' [on *mitate* in Ukiyo-e prints by Kuniyoshi] article in a festschrift in honour of Robert Schaap, Hotei Press, pp.\*\*-\*\*, MM 2010 (forthcoming)

【審査付き】 Alejandro Toledo, Ruck Thawonmas, Akira Maeda and Fuminori Kimura, 'Interactive Visual Analysis of Personal Names in Japanese Historical Diary', Abstracts of Digital Humanities 2009, pp.278-280, University of Maryland (Maryland, USA), 22-25 June 2009

Alejandro Toledo, Kingkarn Sookhanaphibarn and Ruck Thawonmas, 'Similarity and Dissimilarity Patterns in Name Occurrences of Japanese Historical Diary', *Proceedings of International Conference of Digital Archives and Digital Humanities 2009*, pp.\*\*-\*\*, National Taiwan University (Taipei, Taiwan), 1-2 December 2009

【審査付き】 Akihiro Tsukamoto, 'Unfolding the Landscape Drawing Method of Rakuchū Rakugai Zu Screen Paintings in a GIS Environment', *International Journal for Humanities and Arts Computing*, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月 (出版予定)

【審査付き】 Wataru Wakita, Hirokazu Murai and Hiromi Tanaka, 'From Friction Measurement to Haptic Rendering with ONE Point-based Haptic Device', *Proc. IEEE-CS The 2010 International Conference on Computational Science and Its Applications (ICCSA 2010)*, pp.\*\*-\*\*, Kyushu Sangyo University (Fukuoka, Japan), 17-19 March 2010 (in press)

【審査付き】 Xiaoguang Wang and Mitsuyuki Inaba, 'Co-word Analysis of Research Topics in Digital Humanities', *Proceedings of Digital Humanities 2009 (DH09)*, University of Maryland (Maryland, USA), pp.148-150, 22-25 June 2009

【審査付き】 Xiaoguang Wang and Mitsuyuki Inaba, 'Structures and Evolution of Digital Humanities: An Empirical Research based on Correspondence Analysis and Co-word Analysis', *Proceedings of International Conference of Digital Archives and Digital Humanities 2009*, National Taiwan University (Taipei, Taiwan), pp.1-16, 1-2 December 2009

【審査付き】 Keiji Yano, Ryo Akama, Kozaburo Hachimura, Hiromi Tanaka and Mitsuyuki Inaba, 'From the Local to the Global Sphere: Prospects of Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures', *Proceedings of Digital Humanities 2009 (DH09)*, University of Maryland (Maryland, USA), pp.409-410, 22-25 June 2009

【審査付き】 Keiji Yano, Tomoki Nakaya, Satoshi Tanaka, Yuzuru Isoda, Toshikazu Seto, Yutaka Takase, Takafusa Iizuka, Ayako Matsumoto, Takashi Kirimura and Akihiro Tsukamoto, 'Transplanting Architectural Heritages into A Historical Virtual Geographic Environment: Kyo-machiya Surveys and Virtual Kyoto', *The 6th International Symposium on Digital Earth (ISDE6)*, CD-ROM, The Beijing International Convention Center (Beijing, China), 9-12 September 2009

【審査付き】Xin Yin, Kazuyoshi Nomura, Hiromi T. Tanaka and Naoki Saiwaki, 'Extracting Vibration Signal for Tactile Sensation from a Single Image', *Proceedings of ACCV 2009 Workshops: Vision and Control for Access Space (VCAS2009)*, IW2-7, pp.\*\*\*, Xian, China, 24 September 2009

【審査付き】Xin Yin, Kazuyoshi Nomura and Hiromi T. Tanaka, 'Extracting Tactile Sensation Information from Multi-illuminated Images of Tangible Cultural Property', *Proceedings of the Fifth International Conference on Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal Processing (IIHMSP2009)*, pp.1168-1171, Mielparque Kyoto (Kyoto, Japan), 12-14 September 2009

【審査付き】Xin Yin, Kazuyoshi Nomura and Hiromi T. Tanaka, 'Vibration Signal Synthesis of Tactile Sensation from Multi-illuminated Images', *Proceedings of Meeting on Image Recognition and Understanding 2009 (MIRU2009)*, pp.1142-1147, Kunibiki Messe (Matsue, Japan), 20-22 July 2009

【審査付き】Xin Yin, Ryo Akama, Hiromi T. Tanaka and Kazuaki Nagai, 'Restoring 3D Digital Woodcut Shape for Reproducing Ancient Book', *Proceedings of Digital Humanities 2009 (DH09)*, pp.410-413, University of Maryland (Maryland, USA), 22-25 June 2009

Xin Yin and Hiromi T. Tanaka, 'Visual Simulation of Ancient Book Printing', *Proceedings of Asia Simulation Conference 2009 (JSST 2009)*, ID168, Ritsumeikan University (Shiga, Japan), 7-9 October 2009

Mitsu Yoshimura, 'Signature Recognition', Stan Z. Li ed., '*Encyclopedia of Biometrics*', Springer, pp.1196-1202, August 2009

#### Keynote

Keiji Yano, 'Virtual Kyoto: Historical Virtual Geographic Environments', *14th International Conference of Historical Geographers*, Proceeding of the Opening Session, Kyoto University (Kyoto, Japan), 23-27 August 2009

#### 招待発表

上村雅之「遊戯としてのビデオゲーム」立命館大学経営学部校友会 2009 年度第 3 回「経営学振興事業セミナー」, グランドプリンスホテル新高輪 (東京都港区), 2010 年 1 月 16 日

上村雅之「日本の文化的特質とハイテクが融合して生れたグローバルヒット商品」新経営研究会 21 世紀フォーラム, 東京理科大学 (東京都新宿区), 2010 年 1 月 19 日

大西秀紀「パネル・ディスカッション 大阪のなかの東京・東京のなかの大阪—大正・昭和初期の「関西文化」を中心に」日本演劇学会全国大会, 大阪市立大学 (大阪市), 2009 年 6 月 28 日

大西秀紀「SP レコードに聴く新派劇」楽劇学会第 66 回例会, 早稲田大学 (東京都新宿区), 2009 年 11 月 13 日

高瀬裕「文化遺産のレーザー計測と利活用」SPAR 2008J 第 5 回既存設備のデータ取得フォーラム, 川崎市産業振興会館 (川崎市), 2009 年 5 月 15 日

- 中村美奈子「岩崎鬼剣舞に関する文理融合型研究 「ザイを切る」動作に焦点を当てて」韓国舞踊史學會大会, 韓国漢陽大学(ソウル市, 韓国), 2009年5月23日
- 前崎信也「松林靄之助とリーチ・ポタリー—日本製陶技術の西漸」生活美学研究会例会, 大阪学院大学(吹田市), 2009年8月30日
- 藤本徹「デジタルネイティブの学習者とデジタル移民の教育者」2009PCカンファレンス, 愛媛大学(松山市), 2009年8月9日
- 矢野桂司「デジタル化された京都の町並み 『バーチャル京都』の研究から」日本国際地図学会第42回地方大会, 京都御苑(京都市), 2009年10月17日
- 矢野桂司「ジオデモグラフィックスとは何か」エリアマーケティングに活かす地域プロファイリングセミナー~「ジオデモグラフィックスコード」の最新動向とマーケティング活動への展開~, 立命館大学(東京都千代田区), 2009年7月30日
- 矢野桂司「デジタル・ミュージアムとしてのバーチャル京都」第12回日本文化財探査学会大会, 立命館大学(京都市), 2009年6月13日
- Akira Maeda, 'Digital Humanities in the Context of Digital Libraries', *The third International Conference on Digital Libraries (ICDL2010)*, India Habitat Center (New Delhi, India), 24 February 2010 (発表予定)
- Shinya Maezaki, 'Sino-Japanese Relations and Japanese Monochromes from the late Edo and Meiji periods', *Oriental Ceramic Society, International Symposium 'The World in Monochromes'*, SOAS, University of London, (London, UK), 18 June 2009
- Shinya Maezaki, 'Meiji Porcelain Masterpieces in Chinese Imperial & Literati Taste', *Oriental Ceramic Society Annual Lecture*, Bonhams (London, UK), 26 January 2010
- Ikuyo Matsumoto (Respondent), Keynote Lecture1 'The Abhiseka Ritual and Imperial Successions in Early Heian Japan: Toward a Critique of the Chingo Kokka Theory' (Ryuichi Abe), カリフォルニア大学バークレー校日本学研究所50周年記念シンポジウム Tracing the Study of Japanese Buddhism, University of California (Bekeley, USA), 25 September 2009
- Keiko Suzuki, 'Ukiyo-e from an Anthropological Point of View', *The Japanese Woodblock Print as Art, Object, Culture* (Course Instructor: Claire Cuccio), Kyoto Consortium for Japanese Studies (Kyoto, Japan), 8 March 2010 (発表予定)
- Keiji Yano, Kozaburo Hachimura, Ryo Akama, Mitsuyuki Inaba and Keiko Suzuki, 'Digital Humanities Center for Japanese Arts and Cultures', *International conference of Digital Archives and Digital Humanities 2009*, National Taiwan University (Taipei, Taiwan), 1, pp.25-42, 1-2 December 2009
- Keiji Yano, 'Disaster management in Virtual Kyoto', *1st International Conference on Policy & Research For Global Disaster Management (PRAGDM 2009)*, Grand Hilton Seoul (Seoul, Korea), 11-13 November 2009

#### 口頭発表

- アンドリュー・ガーストル「18世紀女子用往来パロディの意義 月岡雪鼎の春本制作」立命館大

- 学アート・リサーチセンター創立 10 周年記念・国際シンポジウム「近世春本・春画とそのコンテキスト」, 立命館大学国際平和ミュージアム(京都市), 2009 年 12 月 4 日
- 飯塚隆藤, 松本文子, 矢野桂司, 高木勝英, 西天平「ArcPad を活用した京町家まちづくり調査」第 5 回 GIS コミュニティフォーラム, 東京ミッドタウン(東京都港区), 2009 年 6 月 4-5 日
- 【審査付き】石上阿希「西川祐信『絵本寝覚種』と鈴木春信『今様妻鑑』」第 11 回国際浮世絵学会大会, 学習院大学(東京都豊島区), 2009 年 6 月 14 日
- 【審査付き】石上阿希「春画・艶本データベースの構築にむけて その問題点と展望」アート・ドキュメンテーション学会第二回秋季研究発表会, 国立西洋美術館(東京都台東区), 2009 年 10 月 17 日
- 石上阿希「春本と養生書『黄素妙論』」シンポジウム「春本・春画とそのコンテキスト」, 立命館大学(京都市), 2009 年 12 月 5 日
- 出光佐千子「「片ぼかし」と近世絵画～「小杉放菴と大観」展を開催して～」明治美術学会 10 月例会, 東京大学(東京都文京区), 2009 年 10 月 24 日
- 稲葉光行「対話・議論の進行における対立構造の可視化～情報学および活動理論の視点～」異分野融合研究会, ホテルエルイン京都(京都市), 2010 年 1 月 30-31 日
- 稲葉光行「文化を媒介する道具としての Web 技術」第 1 回文化とコンピューティング国際会議(Culture and Computing 2010), 京都大学(京都市), 2010 年 2 月 22 日
- 井上学「バス交通の規制緩和における地方自治体の対応 - 近畿地方を事例として - 」経済地理学会第 56 回大会フロンティアセッション, 大阪市立大学(大阪市), 2009 年 9 月 26 日
- 井上学「乗合バス事業の規制緩和の評価と地方自治体の役割」日本交通学会関西支部例会, 関西鉄道協会都市交通研究所(大阪市), 2009 年 11 月 13 日
- 上島理恵子, 佐崎文「平安貴族の心情と行動」日本心理学会第 73 回大会, 立命館大学(京都市), 2009 年 8 月 27 日
- 埴淵知哉, 花岡和聖, 村中亮夫, 中谷友樹「社会調査のマイクロデータと地理的マクロデータの結合 JGSS-2008 を用いた健康と社会関係資本の分析を事例に」2009 年度第 2 回 JGSS 分析研究会, 大阪商業大学(東大阪市), 2009 年 10 月 25 日
- 埴淵知哉, 村中亮夫, 花岡和聖, 中谷友樹「社会調査のマイクロデータと地理的マクロデータの結合による健康の分析」第 68 回日本公衆衛生学会総会自由集会, 奈良県文化会館(奈良市), 2009 年 10 月 21 日
- 浦江宏志, 手塚太郎, 木村文則, 前田亮「多言語検索における言語横断キーワード抽出システムの構築」第 72 回情報処理学会全国大会講演論文集, 東京大学(東京都文京区), 2010 年 3 月 8-12 日(発表予定)
- 【審査付き】大西秀紀「新派 SP レコード・ディスコグラフィから見えるもの」歌舞伎学会秋季大会, 鶴見大学(横浜市), 2009 年 12 月 13 日
- 【審査付き】大矢敦子「映画興行における実演と連鎖劇 - 浅草 遊楽館の事例を中心に」日本映像学会第 35 回大会, 名古屋大学(名古屋市), 2009 年 5 月 30 日
- 大矢敦子「映画と連鎖劇における評価体系の位相」日本映像学会関西支部第 58 回研究会, 立命館大学(京都市), 2009 年 12 月 12 日

- 大矢敦子「映画「豪傑児雷也」に見られる見せ場 浮世絵に見られるイメージとの比較」風俗  
絵画研究会, 立命館大学(京都市), 2009年12月25日
- 大矢敦子「牧野守コレクション日本映画資料群の概要 - 戦前編 -」若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム(ITP)2009年度派遣者成果報告会, 立命館大学(京都市), 2010  
年2月11日
- 岡本隆明「画像処理サーバを利用したより詳細なアノテーションの記述とその応用 - 既存の画像  
データベースとの連携を前提として -」アート・ドキュメンテーション学会第2回秋季研究発表  
会, 国立西洋美術館(東京都台東区), 2009年10月17日
- 岡本隆明「立命館大学アート・リサーチセンター所蔵友禅図案の公開に向けた整理・本来のまとまり  
をいかに再現するか」アート・ドキュメンテーション学会2009年度年次大会, 立命館大学(京  
都市), 2009年6月6日
- 岡本隆明, 當山日出夫, 高田智和「デジタル画像資料に文献研究にむけて - HNG と画像内文字参  
照システムの統合的運用のころみ -」第101回訓点語学会研究発表会, 東京大学(東京都文  
京区), 2009年10月18日
- 【審査付き】尾鼻崇「ファミリーコンピュータにおける「ゲームサウンド」の諸相」日本映像学  
会第35回全国大会, 名古屋大学(名古屋市), 2009年5月31日
- 【審査付き】尾鼻崇「ビデオゲームを保存する—デジタル・アーカイブの構想と実践—」アジア藝  
術学会国内大会, 同志社大学(京都市), 2009年9月1日
- 【審査付き】尾鼻崇「ビデオゲーム音楽論—『ドラゴンクエスト』シリーズを事例として」日本  
音楽学会第60回全国大会, 大阪大学(豊中市), 2009年10月24日
- 【審査付き】蒲池卓巳, 松本(勝村)文子, 後藤和子「アンケート調査を用いたフェスティバルの  
文化的・社会的・経済的価値評価に関わる問題の提起—沖縄市キジムナーフェスタを事例として  
—」文化経済学会<日本>2009, 可児市文化創造センター(可児市), 2009年6月14日
- 亀田和子「曲水宴の和様化—『蘭亭曲水宴』から雛祭りへ」近世視覚文化を読み解く 第2回研究  
会, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009年6月12日
- 【審査付き】加茂瑞穂「『妹背山婦女庭訓』お三輪の衣裳に見られる変遷と現行衣裳の出自」歌  
舞伎学会平成21年度秋季大会, 鶴見大学(横浜市), 2009年12月13日
- 【審査付き】加茂瑞穂「『八百屋お七』の衣裳とその特徴—衣裳の定着と役者との関わりを中心と  
して—」藝能史研究会例会, キャンパスプラザ京都(京都市), 2010年1月8日
- 川嶋將生「日本における民間陰陽師の流れ」*Divination and Healing in Japan*, SOAS, ロンドン  
大学(ロンドン, 英国), 2009年9月4日
- 河角龍典「琉球王国那覇の地形景観復原のためのGISデータ構築」2009年日本地理学会秋季学術大  
会, 琉球大学(沖縄県中頭郡), 2009年10月24-27日
- 【審査付き】木村文則, 前田亮「古典史料の活用に対する情報技術応用の試み」第四十二回日本  
古文書学会大会研究発表要旨, pp.13-14, 足利商工会議所友愛会館(足利市), 2009年9月27  
日
- 桐村喬「自己組織化マップを用いた人口変動の地理的特性の可視化 阪神淡路大震災前後の神戸  
市既成市街地を事例として」災害を観る7, 京都大学防災研究所巨大災害研究センター, キャン

- パスプラザ京都(京都市), 2010年3月2日(発表予定)
- 楠井清文「『外地』日本語文学データベースの構築と課題 日本文学・文化研究における活用を目的として」2009年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会, 立命館大学(京都市), 2009年6月6日
- 【審査付き】楠井清文「張赫宙『迫田農場』における『地主』の表象 当時の新聞報道との比較から」日本文学協会第29回研究発表大会, 静岡大学(静岡市), 2009年7月19日
- 【審査付き】楠井清文「内野健児と植民地期朝鮮の日本詩壇 『郷土色』の創出と内野の詩における自他表象」2009年度日本近代文学会関西支部秋季大会, 関西大学(吹田市), 2009年11月7-8日
- 楠井清文「『外地』日本文壇と『郷土色』 韓国国立中央図書館所蔵資料を中心に」科研基盤研究(B)「戦前期<外地>刊行の日本文学資料に関する基礎的・総合的研究」研究会, アルカディア市ヶ谷私学会館(東京都), 2009年12月20日
- 楠井清文「『亜細亜詩脈』という場 1920年代朝鮮における詩雑誌のネットワーク」シンポジウム:プロレタリア芸術とアヴァンギャルド, 立命館大学国際言語文化研究所, 立命館大学(京都市), 2010年3月1-2日
- 斎藤進也, 山田早紀, 浜田寿美男, 指宿信「自白供述分析の3次元視覚化システムにおけるテクノロジー:法学、心理学の融合のかたち」法と心理学会第10回全国大会, 國學院大學(東京都渋谷区), 2009年10月25日
- 斎藤進也, 山田早紀「ナラティブな証拠の視覚化」第1回法と心理国際セミナー~法と心理研究の最前線~, 立命館大学(京都市), 2009年7月28日
- 齊藤ちせ「イタリア文化財デジタル化政策の動向及び在伊日本美術コレクション整理の現状と可能性」第29回アート・ドキュメンテーション学会年次大会「アート・コンテンツのデータベース化を楽しむ」, 立命館大学(京都市), 2009年6月6日
- 佐古愛己「平安貴族の規範と行動」日本心理学会第73回大会, 立命館大学(京都市), 2009年8月27日
- 周萍「累からお岩へ」歌舞伎学会平成21年度秋季大会, 鶴見大学(横浜市), 2009年12月13日
- 杉橋隆夫, 谷昇, 花田卓司, 田中誠「平安貴族の行動と見聞—古典史料アーカイブ利用の試み—」ポスター展示, 日本心理学会第73回大会, 立命館大学(京都市), 2009年8月26-28日
- 鈴木桂子「浮世絵にみる他者の構築—『唐人』という視点から考える」風俗絵画研究会, 立命館大学(京都市), 2009年8月16日
- 鈴木桂子「歌舞伎衣装に見える外国性—カテゴリーから考える」『近世視覚文化を読む』研究会(東京都), 2010年1月9日
- 谷昇「京都文化研究班に所属する研究プロジェクト 平安貴族の見聞と行動 古典史料アーカイブの試み」日本心理学会第73回大会, 立命館大学(京都市), 2009年8月26-28日(ポスター)
- 趙國, 西浦敬信, 山下洋一「チャンネル間相関に基づく音源位置同定におけるピーク探索窓の検討」日本音響学会 2009年秋季研究発表会講演論文集, 3-Q-15, pp.773-774, 日本大学(郡山市), 2009年9月17日

- 趙國, 西浦敬信, 山下洋一「分散マイクロホンシステムを用いた妨害音下での話者位置の同定」日本音響学会 2010 年春季研究発表会講演論文集, 2-P-4, pp.\*\*-\*\*, 電気通信大学(調布市), 2010 年 3 月 9 日(発表予定)
- 塚本章宏, 村中亮夫, 花岡和聖, 吉越昭久「夏休みにみんなで作る地域の安全安心マップコンテスト」, 第 5 回文化遺産防災シンポジウム, 立命館大学(京都市), 2009 年 12 月 13 日(ポスター)
- 當山日出夫「アーカイブズにおける文字と文字コード」日本アーカイブズ学会 2009 年度大会自由論題研究発表会, 学習院大学(東京都豊島区), 2009 年 4 月 26 日
- 當山日出夫「人文学の学知と継承」Wikimedia Conference Japan 2009, 東京大学(東京都文京区), 2009 年 11 月 22 日
- 當山日出夫「言語生活の視点からの文字 - 景観文字研究の課題 - 」第 4 回ワークショップ: 文字 - 言語生活のなかの文字 - (第 1 回文字研究会), 国立国語研究所(東京都立川市), 2010 年 1 月 30 日
- 富田美香 Tomita Mika「日独合作映画『武士道』(1924 年、東亜キネマ)にみる日本表象 (“The Representations of Japan in Japan-German Co-produced Film, Bushido (1924, Toa Kinema)”), « Devenir l'Autre. Expérience et récit du changement de culture entre Orient et Occident » 「他者になること——東西文化の体験と変容の物語」, 国際日本文化研究センター (Nichibunken) - Centre européen d'études japonaises d'Alsace (CEEJA) - Université de Strasbourg, 国際日本文化研究センター(京都市), 2009 年 6 月 2 日
- 中村美奈子, 門行人「創作バレエ作家佐多達枝の創作過程のドキュメンテーションとアーカイブ化」, 2009 年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会, 立命館大学(京都市), 2009 年 6 月 6 日
- 中谷友樹, 村中亮夫, 谷端郷, 花岡和聖, 塚本章宏, 米島万有子, 埴淵知哉「セーフコミュニティ活動を支援する地理情報システム (GIS)」, 第 5 回文化遺産防災シンポジウム, 立命館大学(京都市), 2009 年 12 月 13 日(ポスター)
- 藤本徹「オンラインゲームの教育利用: 実践上の課題」日本教育工学会第 25 回全国大会, pp.869-870, 東京大学(東京都文京区), 2009 年 9 月 21 日
- 【審査付き】藤本徹, Smith, B.K.「歴史探究学習プログラムにおける物語型教授エージェントを介した学習支援方法の研究」日本教育工学会第 25 回全国大会, pp.87-90, 東京大学(東京都文京区), 2009 年 9 月 21 日
- 藤本徹, Smith, B.K.「探索型歴史学習プログラムにおける相互学習原理を用いた学習支援方法の研究」2009PC カンファレンス, 愛媛大学(松山市), 2009 年 8 月 9 日
- 本多健一「中近世移行期における京都西陣道路網の変遷」日本地理学会 2009 年秋季学術大会, 琉球大学(中頭郡西原町), 2009 年 10 月 24 日
- 【審査付き】前崎信也「在外日本陶磁器コレクションのデジタル・アーカイブについて」2009 年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会, 立命館大学(京都市), 2009 年 6 月 6 日
- 【審査付き】前崎信也「三代清風与平と海外 - 在外コレクション所蔵の京焼作品を中心に」東洋陶磁学会平成 21 年度第 7 回・8 回研究会, 愛知県陶磁資料館(瀬戸市), 2009 年 3 月 13 日

- 前崎信也「在外日本陶磁器研究とデジタル・ヒューマニティーズ」第1回文化とコンピューティング国際会議 (Culture and Computing 2010), 京都大学 (京都市), 2010年2月22日
- 松葉涼子「近世演劇における『袖』のはたらき—清玄桜姫ものに関連して—」立命館大学日本文学会大会, 立命館大学 (京都市), 2009年6月14日
- 松本郁代「加持・祈禱・呪ノ咒文」, Healing and Divination 研究会, Centre for Study of Japanese Religion, SOAS, University of London (London, UK), 2009年9月3日
- 松本郁代「即位灌頂の時間と空間—神話と歴史の連続性と非連続性—」, 「アジアの王権儀礼と灌頂」, 主催「インドにおける宗教的空間の象徴性に関する学際的研究」(科学研究費基盤研究(B), 代表金沢大学教授森雅秀) 研究会, 金沢大学 (金沢市), 2010年2月7日
- 三上聡太「堀田昇一『モルヒネ』論」第7回「外地」文学研究会, 立命館大学 (京都市), 2009年6月26日
- 三上聡太「日本近代文学とアジア諸地域の阿片問題」第127回立命館大学日本文学会研究例会, 立命館大学 (京都市), 2009年9月13日
- 村中亮夫, 中谷友樹, 埴淵知哉「社会地区類型に着目した花粉症有病率の地域差—日本版総合的社会調査(JGSS)データによる分析—」2009年人文地理学会大会, 名古屋大学 (名古屋市), 2009年11月8日
- 村中亮夫, 谷端郷, 中谷友樹, 白石陽子「テキスト情報を用いた安全安心に関する空間認知の分析—手書き地図と自由記述におけるテキスト情報の利用—」2010年度日本地理学会春季学術大会, 法政大学 (東京都千代田区), 2010年3月27-28日 (ポスター)
- 村中亮夫, 谷端郷, 花岡和聖, 白石陽子, 中谷友樹「住民参加型の安全安心マップ作成に対する参加の規定要因—京都府亀岡市におけるセーフコミュニティ活動の事例分析—」2009年度日本地理学会秋季学術大会, 琉球大学 (沖縄県西原町), 2009年10月24-25日 (ポスター)
- 村中亮夫, 中谷友樹「古都京都における歴史的景観の経済評価」第5回文化遺産防災シンポジウム, 立命館大学 (京都市), 2009年12月13日 (ポスター)
- 矢野明子「『女貞訓下所文庫』の女性像」シンポジウム「近世春本・春画とそのコンテクスト」, 立命館大学 (京都市), 2009年12月4日
- 山本真紗子「明治後期の京都における「美術館」をめぐる考察」第25回民族芸術学会大会, 京都造形芸術大学 (京都市), 2009年4月18日
- 山本真紗子「阪急「趣味」と日本美術の大衆化」第一回芸術・思想国際研究セミナー・アジア芸術学会2009年国内大会, 同志社大学 (京都市), 2009年9月1日
- 山本真紗子「「美術」空間東山の連続性と変化」近世・近代京都研究会例会, ウィングス京都 (京都市), 2009年9月15日
- 【審査付き】Worawat Choensawat, Woong Choi, Hiroyuki Sekiguchi and Kozaburo Hachimura, 'Improved Segmentation of Motion Capture Data Using Smote', *IEEEJ Image Electronics and Visual Computing Workshop (IEVC2010)*, Le Meridien Hotel (Nice, France), 5-8 March 2010
- 【審査付き】Worawat Choensawat, Woong Choi and Kozaburo Hachimura, 'A Quick Filtering for Similarity Queries in Motion Capture Databases', *The 2009 IEEE Pacific-Rim*

*Conference on Multimedia*, Pan Pacific Bangkok Hotel (Bangkok, Thailand), 15-18 December 2009

【審査付き】 Worawat Choensawat and Kozaburo Hachimura, 'Segmentation of Motion Capture Data Using Neural Networks', *International Conference of Digital Archives and Digital Humanities 2009*, National Taiwan University (Taipei, Taiwan), 1-2 December 2009 (Poster)

Worawat Choensawat, Woong Choi and Kozaburo Hachimura, 'A Retrieval System for Similarity Queries in Motion Capture Databases', *International Symposium: Human Body Motion Analysis with Motion Capture*, Ritsumeikan University (Shiga, Japan), 23 January 2010

Worawat Choensawat, Woong Choi and Kozaburo Hachimura, 'A Quick Filtering for Similarity Queries in Motion Capture Databases', *The Second Asian Joint Workshop on Information Technologies*, Ritsumeikan University (Shiga, Japan), 9-10 September 2009 (Poster)

Andrew Gerstle, 'Women and Shunga', *Sexuality and Eroticism in Japanese Shunga Workshop 1*, School of Oriental and African Studies (SOAS), University of London (London, UK), 6 August 2009

Tomoya Hanibuchi, Tomoki Nakaya, Kazumasa Hanaoka and Akio Muranaka, 'Neighborhoods and health in Japan: An analysis of nationally representative samples linked to neighborhoods' indicators', 2010 AAG Annual Meeting, Marriott Wardman Park Hotel (Washington DC, USA), 17 April 2010

【審査付き】 Takafusa Iizuka, Ayako Matsumoto, Toshikazu Seto and Keiji Yano, 'GIS-based monitoring systems for Kyo-Machiya in Kyoto city', *22nd CIPA (Digital Documentation, Interpretation & Presentation of Cultural Heritage) Symposium*, Kyoto Terrsa (Kyoto, Japan), 13 October 2009

Aki Ishigami, 'One of Ways for Shunga Study and Creating the Database of Sunga/Shunpon', *Shunga Workshop*, SOAS, University of London (London, UK), 6 August 2009

Kazuko Kameda, 'Images of Purification Ritual Reinvented: The "Orchid Pavilion Gathering" and Dolls' Festival in Edo Japan', *The Impact of Image Culture: Using Digital Archives for Research in Japanese Art*, SOAS, University of London (London, UK), 4 September 2009

Mizuho Kamo, 'A Study of Kabuki Costume: Design Patterns Depicted in Ukiyo-e', *Workshop Digitalisatie Japanese Collecties*, Musées Royaux d'Art et d'Histoire (Brussels, Belgium), 12 November 2009

Hiroshi Kawakami, Toshihiro Irie, Yuki Mito, Reishi Watanuma, Yukitaka Shinoda and Mieko Marumo, 'Creating 3DCG Animation of Nihon Buyo "Tomoyakko" :Nihon University ORCNANA Project's Attempt', *International Symposium: Human Body Motion Analysis with Motion Capture*, Ritsumeikan University (Shiga, Japan), 23 January 2010

Takashi Kirimura, Keiji Yano and Hiroshi Kawaguchi, 'Applicability of 3D GIS to the View

- Preservation Policy of Kyoto City', *22nd CIPA (Digital Documentation, Interpretation & Presentation of Cultural Heritage) Symposium*, Kyoto Terrsa (Kyoto, Japan), 14 October 2009
- Takashi Kirimura, 'Spatial Changes of Residential Characteristics in 20th-Century Kyoto' *14th International Conference of Historical Geographers*, Kyoto University (Kyoto, Japan), 27 August 2009
- Kiyofumi Kusui, 'Construction of a Database of Japanese Literary Magazines Published in Japan-ruled Korea', *International Conference of Digital Archives and Digital Humanities*, National Taiwan University (Taipei, Taiwan), 1-2 December 2009 (Poster)
- 【審査付き】Shinya Maezaki, 'Tracing Paths of Export Ceramics: Digital Archives of Japanese Art in the Western Collections', *14th International Conference of Historical Geographers*, Kyoto University (Kyoto, Japan), 27 August 2009
- 【審査付き】Shinya Maezaki, 'A Legacy of Matsubayashi Tsurunosuke in St Ives: Introduction of the Art of Japanese Ceramic Making to the British Studio Pottery,' *International Symposium, East & West: Cross-Cultural Encounters*, University of St Andrews (St Andrews, UK), 11 September 2009
- 【審査付き】Shinya Maezaki, 'Creating a Digital Database of Japanese Ceramics in Western Collections', *International Conference of Digital Archives and Digital Humanities 2009*, National Taiwan University (Taipei, Taiwan), 1 December 2009
- 【審査付き】Shinya Maezaki, 'Copies or Inspired Originals? Production of Chinese-style Porcelain in Meiji Japan', *The Association for Asian Studies Annual Meeting*, (Philadelphia, USA), 26 March 2010
- Ryoko Matsuba, 'Reconstructing China on the Kabuki Stage', *AAS Annual Meeting 2010*, Philadelphia Marriott Downtown (Philadelphia, USA), 26 March 2010 (発表予定)
- 【審査付き】Ayako Matsumoto Katsumura, 'Arts and Commonality: Contemporary Arts Projects in Urban/Regional Societies', *Inter Asia Cultural typhoon*, Tokyo University of Foreign Studies (Tokyo, Japan), 5 July 2009
- Princess Akiko of Mikasa, 'Defining 'Chinese', Japanese Art: William Anderson's Classification', *Association of Asian Studies Annual Meeting 2010*, Philadelphia Marriott Downtown, (Philadelphia, USA), 26 March 2010 (発表予定)
- Princess Akiko of Mikasa, 'The Art of Copying: Reproductions of Japanese masterpieces in the British Museum', *International Conference East and West: Cross-cultural encounters*, University of St. Andrews, (Scotland, UK), 11 September 2009
- Minako Nakamura and Kohji Shibbano, 'The Digital Archive of the Works of Ms. Tatsue Sata, a leading Japanese creator of Modern Ballet', *The 26th Biennial Conference of International Council of Kinetography Laban/Labanotation (ICKL)*, Suan Sunandha Rajabhat University (Bangkok, Thailand), 3-8 August 2009 (3月に proceedings 発行予定)
- 【審査付き】Takashi Obana, Masayuki Uemura and Akinori Nakamura, 'New Perspectives on

the Use of Game Play Data Archives’, *Southwest Texas Popular Culture and American Culture Association 31st Annual Conference*, Hyatt Regency Albuquerque (New Mexico, USA), 10-13 February 2010

【審査付き】 Takaaki Okamoto, ‘Text and Pictures in Japanese Historical Documents’, *Digital Humanities 2009*, University of Maryland (Maryland, USA), 24 June 2009

【審査付き】 Takaaki Okamoto, ‘ “ Kuntten Management System ” –Explanation Marks Database on Japanese Historical and Religious Documents, based on text-image linkage’, *International Conference of Digital Archives and Digital Humanities 2009*, National Taiwan University (Taipei, Taiwan), 1 December 2009

Atsuko Oya, ‘A Survey of Non-film Materials in the Makino Mamoru Collection’, C.V. Starr East Asian Library at Columbia University (New York, United States), 20 November 2009

Ryota Ozaki, Seiya Tsuruta, Woong Choi and Kozaburo Hachimura, ‘Recognition of Dance Motions Using Hidden Markov Models for Dance Collaboration’, *The Fifth Joint Workshop on Machine Perception and Robotics (MPR2009)*, Ritsumeikan University (Kyoto, Japan), 5 October 2009

Masakazu Sawai, Yuzuru Isoda, Akihiro Tsukamoto, Yoshihiro Kosaka, Susumu Nakata and Satoshi Tanaka, ‘Spread-sheet-based automatic modeling of urban street models from GIS data’, *Asia Simulation Conference 2009 JSST 2009*, Ritsumeikan University (Shiga, Japan), 7-9 October 2009

Hiroyuki Sekiguchi, ‘Generating Puppet's Dance from the Piano Performance’, International Symposium: Human Body Motion Analysis with Motion Capture, Ritsumeikan University (Shiga, Japan), 23 January 2010

【審査付き】 Toshikazu Seto, Ayako Matsumoto, Takafusa Iizuka and Keiji Yano, ‘How to Create Historical Geo-spatial Information for Field Surveys: A Spatio-Temporal Analysis of Machiya through GIS’, *34th Annual Meeting of the Social Science History Association*, The Queen Mary (Long Beach, USA), 14 November 2009

【審査付き】 Toshikazu Seto, Ayako Matsumoto, Takafusa Iizuka and Keiji Yano, ‘Public Participation GIS of Historical Landscapes: A Case Study of "Kyo-Machiya Community-building Survey" in Kyoto City’, *22nd CIPA (Digital Documentation, Interpretation & Presentation of Cultural Heritage) Symposium*, Kyoto Terrsa (Kyoto, Japan), 14 October 2009

Masami Shibasaki, Yuzuru Isoda, Akihiro Tsukamoto, Yoshihiro Kosaka, Kyoko Hasegawa, Susumu Nakata and Satoshi Tanaka, ‘Modeling, viewing and simulating Kyoto street models created from GIS data’, *22nd CIPA (Digital Documentation, Interpretation & Presentation of Cultural Heritage) Symposium*, Kyoto Terrsa (Kyoto, Japan), 11-15 October 2009

【審査付き】 Keiko Suzuki, ‘Blurred Definitions of “Tōjin” and “Tōbutsu”’: Downplaying the Cultural Authority of “Chinese People” and “Chinese Goods” in Late Edo Japan’, *The*

*Association for Asian Studies Annual Meeting 2010* (Philadelphia, USA), 26 March 2010 (発表予定)

Ellis Tinios, 'Publishing Illustrated Erotic Books in the Later Edo Period, 1804-1868', Research Seminar at the Reischauer Institute of Japanese Studies, Harvard University, (Cambridge, USA), 1 May 2009

Ellis Tinios, 'Proposal for research into the economic and political factors influencing the production of Japanese erotic books in the Edo period', The Inaugural Meeting of the three-year project Shunga: Japanese Erotic Art, School of Oriental and African Studies (London, UK), 6 August 2009

Ellis Tinios, 'Widening Access to Edo-period Illustrated Books', *The 20th Annual Conference of the European Association of Japan Resource Specialists* (Norwich, UK), 16-19 September 2009

Ellis Tinios, 'Illustrated Erotic Book Production in the Edo Period', *Symposium 'Shunga Books and Prints in Context'*, Ritsumeikan University (Kyoto, Japan), 4-5 December 2009

Ellis Tinios, 'Digital Humanities and New Trends in the Study of Japanese Culture', Joint talk with Professor Ryo Akama (Ritsumeikan University), *the First International Conference on Culture and Computing*, Kyoto University (Kyoto, Japan), 22-23 February 2010

Ellis Tinios, 'The role of on-line resources in the study of Maruyama-Shijō Artists', Symposium Celebrating the Tenth Anniversary of the Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures (London, UK), 20 March 2010

Akihiro Tsukamoto, Naomi Akaishi, Yasutaka Watanabe, Kenta Asada, Shuta Kataoka, Akihisa Yoshikoshi and Hirofumi Katahira, 'GIS Analysis of Historical Urban Space Structure: Visualizing Fire Disasters in Heiankyo during the 12th and 13th Centuries', *14th International Conference of Historical Geographers*, Kyoto University (Kyoto, Japan), 23-27 August 2009

Akihiro Tsukamoto and Ryoko Matsuba, 'A GIS Analysis of Publishing Districts in Early Modern Kyoto', *34th Annual Meeting of the Social Science History Association*, The Queen Mary (Long Beach, USA), 12 November 2009

Seiya Tsuruta, Ryota Ozaki, Woong Choi and Kozaburo Hachimura, 'Generation and Evaluation of Emotional Body Motion for Virtual Dance Collaboration System', *The Fifth Joint Workshop on Machine Perception and Robotics (MPR2009)*, Ritsumeikan University (Kyoto, Japan), 5 October 2009

Seiya Tsuturu, Ryota Ozaki, Woong Choi and Kozaburo Hachimura, 'Generation and Evaluation of Emotional Dance Motion for Virtual Dance Collaboration System', *International Symposium Human Body Motion Analysis with Motion Capture*, Ritsumeikan University (Shiga, Japan), 23 January 2010

【審査付き】 Keiji Yano, Tomoki Nakaya, Satoshi Tanaka, Yuzuru Isoda, Toshikazu Seto, Yutaka Takase, Takafusa Iizuka, Ayako Matsumoto, Takashi Kirimura and Akihiro

Tsukamoto, 'Virtual Kyoto as Historical Virtual Geographic Environments: Restoring and Visualizing Changes of Urban Landscapes', *6th International Symposium on Digital Earth*, Beijing International Convention Center (Beijing, China), 10 September 2009

#### 講演

- 飯塚隆藤, 松本文子, 瀬戸寿一, 矢野桂司「第一期京町家まちづくり調査実施状況」今後の京町家の保全・再生のあり方検討会, 京都市景観・まちづくりセンター(京都市), 2009年7月17日
- 大西秀紀「歌舞伎 SP レコード談義—新歌舞伎を中心に—」第20回伝統芸能サロン, 国立劇場伝統芸能情報館(東京都千代田区), 2010年1月23日
- 河角龍典「地理情報システムによる古代宮都の3次元ビジュアライゼーション」日本文化財探査学会, 立命館大学(京都市), 2009年6月13日
- 河角龍典「GISによる遺跡の立地環境の解析」第118回人文地理学会歴史地理研究部会, 名古屋大学(名古屋市), 2009年11月7日
- 河角龍典「地理情報システムと日本古代都市史研究」日韓文化財科学国際シンポジウム, 国立現代美術館(ソウル市, 韓国), 2010年3月27日(発表予定)
- 佐古愛己「平安時代の宇治 - 雅と哀 - 」第18回アカデミック京都ウォッチング, 立命館大学(京都市), 2009年11月22日
- 杉橋隆夫「『源氏』の遺響と平安京 - 朱雀門の歴史的な位置 - 」第18回アカデミック京都ウォッチング, 立命館大学(京都市), 2009年11月22日
- 瀬戸寿一, 飯塚隆藤, 矢野桂司「歴史的建造物とGIS 奈良県近代和風建築調査を事例に 『町家・民家再生センター(仮称)』の設立に向けた第2回協議会, 奈良県社会福祉総合センター(橿原市), 2009年12月15日
- 丸茂美恵子「六代目尾上菊五郎と舞踊衣裳」日本大学文理学部資料館公開講座, 日本大学(東京都世田谷区), 2009年11月7日
- 丸茂美恵子「日本舞踊について」東北アジア舞踊国際学術大会, ソウル大学校(ソウル市, 韓国), 2009年11月12日
- 桃崎有一郎「足利氏ゆかりの寺院と京都御所: 現代京都の源流」第18回アカデミック京都ウォッチング, 立命館大学(京都市), 2009年11月22日
- 矢野桂司, 飯塚隆藤, 松本文子, 瀬戸寿一「第一期京町家まちづくり調査(中間報告: 西陣・伏見エリア)」景観・まちづくり調査シンポジウム「明日に活かす京町家 京町家まちづくり調査中間報告会」, ひと・まち交流館京都(京都市), 2009年7月20日
- 和田晴吾「後期古墳の世界」奈良県桜井市埋蔵文化財センター(桜井市), 2009年4月26日
- 和田晴吾「古墳の他界観」兵庫県有年考古館(赤穂市), 2009年5月17日
- 和田晴吾「古墳の他界観」三輪山セミナー, 大神神社(桜井市), 2009年8月29日
- 和田晴吾「高松塚古墳について - 考古学から」第10回高松塚古墳壁画劣化原因調査検討会, 文部科学省(東京都千代田区), 2009年9月1日
- 和田晴吾「古墳の他界観」東北学院大学東北文化研究所学術講演会, 東北学院大学(仙台市), 2009年10月10日

Ryoko Matsuba, 'Ukiyo-e and Kabuki Performance', Center for Japanese Studies, University of Hawaii at Manoa (Hawaii, USA), 19 October 2009

Ryoko Matsuba, 'Kabuki Theatre in Ukiyo-e', *Workshop Digitalisatie Japanese Collecties*, Royal Art and History Museum (Brussels, Belgium), 12 November 2009

Princess Akiko of Mikasa, 'What is the History of Japanese Art? – Classifying Japanese Art in 19th century – (provisional title)', Japan-America Society of Washington DC (Washington DC, USA), 23 March 2010 (発表予定)

Princess Akiko of Mikasa, 'Creating the History of Japanese Art in the British Museum', *Third Thursday Lecture*, Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures, (Norwich, UK), 21 January 2010 (発表予定)

Princess Akiko of Mikasa, 'Kwan ko dzu setsu: Textbook of Japanese ceramics in Victorian Britain', *Nissan Institute Seminar in Japanese Studies*, University of Oxford (Oxford, UK), 20 November 2009

Princess Akiko of Mikasa, 'Japanese Art in Transition: The William Anderson Collection of Japanese Paintings at the British Museum', *Lecture series "Iconic Encounters: Images and Media between East and West"*, University of Zurich, (Zurich, Switzerland), 12 November 2009

#### スピーチ

Princess Akiko of Mikasa, 'Britain and Japan thorough the British Museum', *Anglo-Japan Society Annual Dinner*, 14 December 2009

#### その他

##### 【書評】

松本郁代「西弥生著『中世密教寺院と修法院』」日本歴史, 吉川弘文館, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(刊行予定)

桃崎有一郎「菅原正子著『中世の武家と公家の「家」』」史学雑誌, 118-2, pp.104-110, 2009年2月

##### 【シンポジウム開催・オーガナイズ】

アンドリュー・ガーストル, 赤間亮, 早川聞多, 石上阿希・企画「立命館大学アート・リサーチセンター創立10周年記念・国際シンポジウム『近世春本・春画とそのコンテクスト』」立命館大学国際平和ミュージアム中野記念ホール(京都市), 2009年12月4-5日

イ・ジュイク, 斉藤綾子, 李泳采・パネラー, 富田美香・司会「シンポジウム 自立する女性 - 映画俳優キム・ヘスの魅力」第4回 RiCKS 韓国映画フェスティバル, 立命館大学コリア研究センター主催, 立命館大学(京都市), 2009年10月25日

尾鼻崇・企画, 上村雅之・司会「第2回ビデオゲーム・カンファレンス<ファミコンとの出会い vol.1>」文部科学省グローバルCOEプログラム「デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)主催, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009年11月12日

- 尾鼻崇・企画, 上村雅之・司会「第3回ビデオゲーム・カンファレンス<ファミコンとの出会い vol.2>」文部科学省グローバルCOEプログラム「デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)主催, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2010年3月4日
- 楠井清文・企画, 李承信「韓国の日本研究の現況 植民地時代の日本語資料のDB構築とその活用を中心に」番外編 GCOE セミナーVol.13, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009年7月15日
- 杉橋隆夫・企画・司会「シンポジウム;古行動(Paleo Behavior)の分析:史学・考古・心理学」日本心理学会第73回大会, 立命館大学(京都市), 2009年8月27日
- 高瀬裕・運営委員長「第22回CIPA国際シンポジウム」CIPA(International Committee for Documentation of Cultural Heritage)主催, 京都テルサ(京都市), 2009年10月11-15日
- 八村広三郎・実行委員長「人文科学とコンピュータシンポジウム(じんもんこん 2009)」情報処理学会 人文科学とコンピュータ研究会主催, 立命館大学(草津市), 2009年12月18-19日
- 八村広三郎・企画・実施, 中村美奈子, 座長「国際シンポジウム「モーションキャプチャ技術と身体動作解析」」立命館大学(草津市), 2010年1月23日
- 八村広三郎・企画「情報学シンポジウム」, 第1回文化とコンピューティング国際会議(Culture and Computing 2010), 京都大学(京都市), 2010年2月22-23日
- 細井浩一, 中島貞夫, 林海象, 田村秀行「コンテンツとテクノロジー:職人の技とこれからのコンテンツ制作」国際クロスメディアカンファレンス, *KYOTO Cross Media Experience 2009*, 祇園歌舞練場(京都市), 2009年9月30日
- 細井浩一, 土佐尚子, 鎌田優, 岡田至弘, 狩野博幸「クロスメディアとユニバーサル社会」国際クロスメディアカンファレンス, *KYOTO Cross Media Experience 2009*, 龍谷大学大宮学舎(京都市), 2009年10月1日
- 松本郁代「2009年夏季風俗絵画研究会」立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009年8月15-16日
- 松本郁代「2009年冬季風俗絵画研究会」立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009年12月25-26日
- Andrew Gerstle, 'Sexuality and Eroticism in Japanese Shunga Workshop 1', School of Oriental and African Studies (SOAS), University of London (London, UK), 6 August 2009
- Kozaburo Hachimura, Invited Session Chair, 'Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal Processing', *The Fifth International Conference on Intelligent Information Hiding and Multimedia Signal Processing (IIHMSP2009)*, Mielparque Kyoto (Kyoto, Japan), 12-14 September 2009
- Ryoko Matsuba, 'Using Digital Archives for Research in Japanese Art イメージ文化の利用と受容 - 日本美術研究におけるデジタルアーカイブの活用をめぐって -', SOAS, University of London (London, UK), 4 September 2009
- Ryoko Matsuba, 'Workshop Digitalisatie Japanse Collecties', Royal Art and History Museum (Brussels, Belgium), 12 November 2009
- Chise Saito and Ryoko Matsuba, 'The Impact of Image Culture: Using Digital Archives for

Research in Japanese Art', SOAS, University of London (London, UK), 4 September 2009  
Satoshi Tanaka, Steering Chair, International Symposium 'Asia Simulation Conference 2009  
(JSST 2009)', Ritsumeikan University (Shiga, Japan), 7-9 October 2009

**【パネルオーガナイズ・チェア】**

**【審査付き】** Keiko Suzuki, 'Japanese Visual and Material Culture in Transnational Contexts: Shifting Ideas of "China" in Edo and Meiji Japan', *The Association for Asian Studies Annual Meeting 2010* (Philadelphia, USA), 26 March 2010 (発表予定)

**【コメンテーター】**

出光佐千子「セインズベリー日本藝術研究所と英国の文化財アーカイブ」第 65 回研究会「セインズベリー日本藝術研究所と英国の文化財アーカイブ」, 東京文化財研究所(東京都台東区), 2010 年 2 月 25 日

楠井清文, フェイ・阮・クリーマン氏に対するコメント, 「植民地の心 台湾と文学の記憶」日本研究理論研究会国際ワークショップ, 立命館大学(京都市), 2010 年 1 月 11 日

高瀬裕「第 24 回デジタルコンテンツグランプリ」審査員, 経済産業省・デジタルコンテンツ協会主催, 東京国際交流館(東京都江東区), 2009 年 10 月 24 日

**【講座】**

上村雅之, 尾鼻崇「日本文化としての「スペース・インベーダー」—ビデオゲームの記録と分析—」第 2892 回立命館大学土曜講座, 立命館大学(京都市), 2009 年 4 月 18 日

木立雅朗, 岡本隆明「友禅図案のおもてとら - 図案とその裏側にある近現代資料 - 」第 2891 回立命館土曜講座, 立命館大学末川記念会館(京都市), 2009 年 4 月 11 日

木村一信, 楠井清文「「外地」における日本語文学 解明とデータベース化への試み」第 2893 回立命館土曜講座「日本文化デジタル・ヒューマニティーズの現在」, 立命館大学(京都市), 2009 年 4 月 25 日

倉橋正恵「歌舞伎の楽しみ方」関西経済連合会伝統芸能連続講座, 関西経済連合会(大阪市), 2009 年 11 月 25 日

富田美香「マキノ映画と京都」京都学・前衛都市モダニズムの京都展, 京都国立近代美術館(京都市), 2009 年 7 月 11 日

**【展示企画】**

八村広三郎「京都アート・エンタテインメントの時空散歩 - バーチャル京都: 祇園祭 船鉾の再現」京都文化博物館(京都市), 2010 年 1 月 8-11 日

立命館大学「市民参加による「京都らしい」町並み景観の発見 - 「京町家まちづくり」調査における挑戦 - 」第 5 回 GIS コミュニティフォーラム, 東京ミッドタウン(東京都港区), 2009 年 6 月 5 日

### 【上映会企画】

富田美香「前衛都市・モダニズムの京都映画『大活劇 争闘』『鐵血団』」京都学・前衛都市モダニズムの京都展, 京都国立近代美術館(京都市), 2009年7月10-11日

【審査付き】Akihiro Tsukamoto, 'A Historical GIS Analysis of the Landscape Compositions: A Case Study of Folding Screens "Rakuchu-Rakugai-zu"', Digital Humanities 2009 Conference Abstracts, pp.403-406, University of Maryland (Maryland, USA), June 22-25 2009

### 【新聞報道】

アンドリュー・ガーストル「『春画』国内外で脚光」京都新聞, 2010年1月27日

石上阿希「世相・文化伝える春画・春本 立命大アート・リサーチセンターで」京都新聞, 2009年12月4日

石上阿希「『春画』国内外で脚光」京都新聞, 2010年1月27日

橋本勝, 読売新聞, 2010年1月9日

八村広三郎「能の3D化 伝統美を解析 上達の味方に」京都新聞夕刊, 2009年9月25日

八村広三郎「体感CGで祇園祭」読売新聞京都版, 2010年1月9日

### 【その他執筆】

井上学「赤バスでめぐる大阪市内観光」大阪春秋 No.136, 新風書房, pp.48-53, 2009年10月1日

河原典史, 井上学・付録解説執筆『京都地積図』, 不二出版, 2009年4月

高橋健太郎, 瀬戸寿一, 鈴木重幾「竹内啓一先生の教材(3) 人文地理学概論・後篇」地域学研究, 19, pp.85-103, 2010年\*\*月【印刷中】

花園天皇日記研究会(横澤大典, 米澤隼人, 花田卓司, 坂口太郎)編「『花園天皇日記(花園院宸記)』正和二年二月記(一)―訓読と注釈―」花園大学国際禅学研究所論叢, 4, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(出版予定)

### 【展覧会】

石上阿希「近世春本・春画とそのコンテクスト」立命館大学アート・リサーチセンター/文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学), ロンドン大学 School of Oriental and African Studies(SOAS), 国際日本文化研究センター・主催, 立命館大学アート・リサーチセンター, 2009年11月24日-12月18日

石上阿希, アンドリュー・ガーストル, 矢野明子, 服部憲治「近世春本・春画とそのコンテクスト」WEB展覧会, 2009年12月17日公開

<http://www.dh-jac.net/db12/shunga/index.html>

Michel Lee, Clare Pollard, Shinya Maezaki and David Hyatt King, 'Seifu Yohei and His Contemporaries: Meiji Ceramics in the Scholarly Taste', Museum of East Asian Art (Bath, UK), 19 December 2009 - 25 April 2010

Monika Bincsik, 'Flower petals, bird wings – Japanese woodblock prints from the Meiji period in the collections of the Library of the Hungarian University of Fine Arts', Hungarian University of Fine Arts (Budapest, Hungary), 30 September - 22 October 2009

#### 【公開】

Alejandro Toledo, 'Stacked Graph Visualization Tool to plot the occurrences of names in the Hyohanki diary'  
<http://www.ice.ci.ritsumeai.ac.jp/~alex/infovis/StackedGraph3/Hyohanki>

#### 【その他執筆】

- 安聖基, 富田美香・聞き手「アン・ソングトーク 韓国映画と私」立命館大学コリア研究センター編『RiCKS ブックレット 3 アン・ソング 韓国映画とその時代』かもがわブックレット, 175, かもがわ出版, pp.5-22, 2009年10月
- 上田学「『紅葉狩』のノンフィルム・マテリアル」演劇研究, 33, 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(出版予定)
- 金子貴昭「アート・ドキュメンテーション学会第20回(2009年度)年次大会 アート・コンテンツのデータベース化を楽しむ 研究発表セッション 2 報告」アート・ドキュメンテーション通信, 82, pp.6-7, 2009年7月
- 勝村(松本)文子「デジタルアーカイブとシティプロモーション」河合孝仁著『シティプロモーション-地域の魅力を創るしごと-』東京法令出版, pp.230-233, 2009年12月
- 亀田和子「蘭亭が語るもの」『鴨東通信』四季報, 75, 思文閣出版, pp.12-13, 2009年9月
- 富田美香「アン・ソング フィルムグラフィーと解説」立命館大学コリア研究センター編『Ricks ブックレット 3 アン・ソング 韓国映画とその時代』かもがわブックレット, 175, かもがわ出版, pp.51-60, 2009年10月
- 和田晴吾「北河内の古墳と地域社会」交野市文化財シンポジウム『ヤマト政権の生産基盤を掘る』資料集, pp.90-98, 2009年10月
- 和田晴吾「日本の古墳文化」(招請講演会資料), pp.1-14(韓国訳あり), 韓国全南大学校・湖南文化財研究院, 2010年1月

#### 【受賞】

- 岡本隆明「情報処理学会平成21年度山下記念研究賞」受賞, 「コンピュータによる訓点資料の整理について」人文科学とコンピュータシンポジウム(じんもんこん2008)2010年3月9日
- 河角龍典「第2回日本文化財科学会奨励論文賞」受賞, 日本文化財科学会大会, 名古屋大学(名古屋市), 2009年7月12日
- Kazuko Kameda-Madar, 'International Tuition Award', Faculty of Graduate Studies, University of British Columbia (Vancouver, Canada), 2010年1月
- Kazuyoshi Nomura, Xin Yin, Hiromi T.Tanaka and Naoki Saiwaki, The Best Poster Award 受賞, 'Modeling of Finger Resonance Vibration for Distinction of Textures in a Single Image',

*The fifth Joint Workshop on Machine Perception and Robotics (MPR 2009)*, Ritsumeikan University (Kyoto, Japan), 4-5 October 2009

#### 【図録】

出光佐千子「ユートピア—描かれし夢と楽園」展覧会図録, 2009年10月

Monika Bincsik, 'Flower petals, bird wings – Japanese woodblock prints from the Meiji period in the collections of the Library of the Hungarian University of Fine Arts', *Exhibition catalogue*, pp.120, Hungarian University of Fine Arts (Budapest, Hungary), October 2009

#### 【展示】

飯塚隆藤, 松本文子, 矢野桂司「ArcPad を活用した京町家まちづくり調査」第5回 GIS コミュニティフォーラム, 東京ミッドタウン(東京都港区), 2009年6月4-5日

大西秀紀・資料提供, SPレコード3枚「日蓮記(ニッポノホン 836/837)」「寺子屋(ニットー83)」「忠臣蔵六段目(ニットー222)」, 『並木宗輔展—浄瑠璃の黄金時代—』, 早稲田大学演劇博物館(東京都新宿区), 2009年12月1日-2010年1月31日

富田美香・展示企画・協力「前衛都市・モダニズムの京都 マキノ映画コーナー」京都学・前衛都市モダニズムの京都展, 京都国立近代美術館(京都市), 2009年6月9日-7月11日

八村広三郎・展示「バーチャル山鉾巡行」京都アート・エンタテインメントの時空散歩 - バーチャル京都: 祇園祭 船鉾の再現, 京都文化博物館(京都市), 2010年1月8-11日

濱田裕司(Media art group「Circle side」)・展示「Undercurrent」遊びプログラム開発 エキゾチック ひかりのまち, 愛知県児童総合センター(愛知県長久手町), 2009年2月6-15日

#### 【講演・イベント実行委員長】

石上阿希「春画の美—浮世絵から新発見・甲斐庄楠音『松蘿帖』まで—」ぎゃらりい思文閣(京都市), 2009年11月1日

石上阿希, 金益見「7Gei-Sprito 春画考察」第七藝述劇場(大阪市), 2009年10月18日

細井浩一・総合アドバイザー, KYOTO Cross Media Experience 2009「ジャパン・コンテンツの悠久と先端 —鳥獣戯画からマンガ、映画、ゲームまで—」, KYOTO Cross Media Experience 実行委員会, 祇園甲部歌舞練場, 龍谷大学大宮学舎, 西本願寺, 京都コンピュータ学院, 京都国際マンガミュージアム, 東映京都撮影所, 松竹京都撮影所, 東映太秦映画村他(京都市), 2009年9月26日-10月4日

#### 【商業誌】

石上阿希「海外美術館所蔵の肉筆春画コレクション」及び作品解説, 白倉敬彦, 浅野秀剛, 早川聞多, 樋口一貴編『別冊太陽 肉筆春画』平凡社, pp.42-59, 88-93, 98-103, 172-175, 2009年5月

磯田弦, 小阪佳宏, 塚本章宏, 澤井雅和, 仲田晋, 田中覚「江戸時代の京都の町並み景観を再現する-GISデータにもとづく3次元都市モデルの自動生成-」画像ラボ, pp.37-42, 2009年8月

瀬戸寿一, 矢野桂司「バーチャルで体験する京都 過去・現在・未来の京都を可視化する」二

宮書店編『地理月報』二宮書店, 515, pp.1-3, 2010年1月

橋本勝「プリバリ印」2009年11月号 vol.9, pp.66-67, (社)日本印刷技術協会(ナノオのペイドパブにて紹介される)

[http://www.eizo.co.jp/products/solution/files/pv\\_ritsumeikan.pdf](http://www.eizo.co.jp/products/solution/files/pv_ritsumeikan.pdf)

#### 【報告書】

石上阿希「近世期艶本データベースシステム」2010年2月(公開予定)

[http://\\*\\*\\*\\*\\*](http://*****)

飯塚隆藤「平成 20、21 年度 京町家まちづくり調査中間報告(西陣エリア、伏見エリア)」京都市, 京都市景観・まちづくりセンター, 立命館大学

京町家まちづくり調査中間報告 1.調査の概要

[http://www.hitomachi-kyoto.jp/pubsys/updfile/contents/5000/4423/xml\\_upload\\_file1/01tyosagaiyo.pdf](http://www.hitomachi-kyoto.jp/pubsys/updfile/contents/5000/4423/xml_upload_file1/01tyosagaiyo.pdf)

京町家まちづくり調査中間報告 2.外観調査報告

[http://www.hitomachi-kyoto.jp/pubsys/updfile/contents/5000/4423/xml\\_upload\\_file2/02gaikantyosa.pdf](http://www.hitomachi-kyoto.jp/pubsys/updfile/contents/5000/4423/xml_upload_file2/02gaikantyosa.pdf)

京町家まちづくり調査中間報告 3.アンケート調査報告

[http://www.hitomachi-kyoto.jp/pubsys/updfile/contents/5000/4423/xml\\_upload\\_file3/03ikoutyosa.pdf](http://www.hitomachi-kyoto.jp/pubsys/updfile/contents/5000/4423/xml_upload_file3/03ikoutyosa.pdf)

河角龍典, 小野映介「更新世末以降の天神川(紙屋川)流域扇状地の地形発達史」京都市埋蔵文化財研究所編『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』, 京都市埋蔵文化財研究所, pp.63-66, 2009年\*\*月

後藤和子, 松本文子, 蒲池卓巳, 中野彩子「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ キジナーフェスタ 2008 調査報告書」キジムナーフェスタ実行委員会, 2009年4月

塚本章宏, 村中亮夫, 花岡和聖, 吉越昭久「第3回夏休みにみんなで作る地域の安全安心マップコンテスト報告」立命館大学歴史都市防災研究センター編『学術フロンティア推進事業「文化遺産と芸術作品を自然災害から防御するための学理の構築」2009年度末報告書』立命館大学歴史都市防災研究センター, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(出版予定)

富田美香「フィルム・アーカイブの活動と倫理的問題」立命館大学映像学部現代GP「映像文化の創造を担う実践的教育プログラム」報告書『映像文化の創造と倫理』, pp.7-13, 2010年3月

中谷友樹, 村中亮夫, 谷端郷, 花岡和聖, 塚本章宏, 米島万有子, 埴淵知哉「地理情報システム(GIS)によるセーフコミュニティ活動支援」学術フロンティア推進事業「文化遺産と芸術作品を自然災害から防御するための学理の構築」2009年度末報告書, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月, 印刷中

花岡和聖, 中谷友樹, 亀井千尋「歴史都市の防災・景観保全を対象とした空間的マイクロシミュレーション研究」学術フロンティア推進事業「文化遺産と芸術作品を自然災害から防御するための学理の構築」2009年度末報告書, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月, 印刷中

村中亮夫, 中谷友樹「古都京都における歴史的景観保全の社会経済評価 地域住民の支払意思額

と潜在的な観光客の仮想行動の分析」立命館大学歴史都市防災研究センター編『学術フロンティア推進事業「文化遺産と芸術作品を自然災害から防御するための学理の構築」2009年度末報告書』立命館大学歴史都市防災研究センター, pp.\*\*-\*\*, 2010年3月(出版予定)

#### 【Webアーカイブシステムの開発・公開】

金子貴昭, 板木閲覧システム(2010年2月第3週予定)

<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/db9/hangi/>

金子貴昭, 奈良大学所蔵板木関連資料のデジタル・アーカイブ構築, 「古典籍を中心とする書籍閲覧システム」上にて公開(2010年2月第3週予定), 約15,000カット

<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/db1/books/search.html>

濱田裕司・ストーリーミング配信「グローバルCOE拠点 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ教育プログラムGCOEセミナー」2008年6月10日-12月9日分の映像配信, 2009年7月3日・9月11日

<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/GCOE/seminar/gcoeweb/>

Shinya Maezaki and Kenji Hattori, 'Seifu Yohei and His Contemporaries: Meiji Ceramics in the Scholarly Taste', Museum of East Asian Art (Bath, UK), Exhibition website,

<http://www.dh-jac.net/db9/DHK/FMPro?-db=DHK.fmj&-lay=Layout2&-format=index.html&-max=all&-SortField=f31&-Find>

#### 【映像アーカイブ制作】

濱田裕司・映像アーカイブ制作, 片山定期能「小塩」京都観世会館(京都市), 2009年4月25日

濱田裕司・映像アーカイブ制作, 京都観世会例会「道盛」京都観世会館(京都市), 2009年6月28日

濱田裕司・映像アーカイブ制作, 片山定期能「砧」京都観世会館(京都市), 2009年9月11日

濱田裕司・映像アーカイブ制作, 京都観世会例会「善界」京都観世会館(京都市), 2009年9月27日

濱田裕司・映像アーカイブ制作, 杉市太郎三十三回忌追善能「三輪」京都観世会館(京都市), 2009年12月9日

濱田裕司・映像アーカイブ制作, 京都観世会例会「俊寛」京都観世会館(京都市), 2009年12月27日

濱田裕司・映像アーカイブ制作, 林吉兵衛襲名披露能「屋島」京都観世会館(京都市), 2010年1月31日

#### 【インタビュー記事】

彬子女王「寛仁親王家の女王姉妹インタビュー・若き皇族の「生活」と「意見」」文藝春秋, 2009-12, pp.\*\*-\*\*, 2009年12月

彬子女王『ひと』欄, 朝日新聞朝刊, 2010年2月10日

八村広三郎「モーションキャプチャで伝統舞踊の真髄を捉える 無形文化財のデジタルアーカイブ」

ブ」GIS NEXT, 29, pp.21-23, 2009年10月

#### 【映像監修】

濱田裕司・映像制作進行「第十三回 能装束・能面展 回顧展 継承の美」展示映像, 京都文化博物館(京都市), 2009年7月31日-8月1日

細井浩一・監修, セカンドライフ SIM「3D Community Lab」2009年4月-2010年3月

<http://slurl.com/secondlife/3D%20Community%20Lab/>

細井浩一・監修, セカンドライフ SIM「rits-gcoe-jdh」2009年4月-2010年3月

<http://slurl.com/secondlife/rits-gcoe-jdh/>

#### 【GCOE セミナー】

谷昇「後鳥羽上皇の政治課題と公事・宗教儀礼」第47回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009年4月28日

中村彰憲「日本のアニメーション/C G技術伝播に関する一考察: 中国デジタルコンテンツ産業クラスターを事例として」第47回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009年4月28日

関口博之, 岡本隆明「デジタルヒューマニティーズワークショップ 2009 参加報告 - 人文科学研究におけるコンピュータとネットワーク活用の実際 - 」第48回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009年5月12日

齊藤ちせ「イタリア文化財デジタル化政策の動向報告及び在伊日本美術コレクション整理の現状と可能性」第49回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009年5月19日

楠井清文「『外地』日本語文学データベースの構築と課題 日本文学・文化研究における活用を目的として Construction and Problems about a Database of the Gaichi (Foreign Lands) Japanese Literature」第49回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009年5月19日

前崎信也「松林靄之助とセント・アイヴス 日本陶磁史関連史料のデジタル・データベース化への試み」第49回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009年5月19日

岡本隆明「立命館大学アート・リサーチセンター所蔵友禅図案の公開に向けた整理 本来のまとまりをいかに再現するか」第49回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009年5月19日

大野晋, 斎藤進也, 稲葉光行, 'Collective Culture and Visualization of Spatiotemporal Information', 第50回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009年6月2日

塚本章宏, 'A Historical GIS Analysis of the Landscape Compositions: A Case Study of Folding Screens "Rakuchu-Rakugai-zu"', 第50回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009年6月2日

- 岡本隆明, 'Text and Pictures in Japanese Historical Documents', 第 50 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009 年 6 月 2 日
- 石上阿希「レインコレクションと春画・艶本データベース」第 51 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009 年 6 月 9 日
- Toledo Nolasco Alejandro, 'Interactive Visual Analysis of Personal Names in Japanese Historical Diary', 第 52 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009 年 6 月 16 日
- Kingkarn Sookhanaphibarn, 'Digital museums in Second Life', 第 52 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009 年 6 月 16 日
- 加茂瑞穂「視覚資料による模様研究とその課題 日本模様データベース構築に向けて」第 53 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009 年 6 月 23 日
- 周萍「お岩役の成立 趣向を中心に」第 53 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009 年 6 月 23 日
- 本多健一「中近世移行期における京都西陣道路網の変遷」第 54 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009 年 6 月 30 日
- 瀬戸寿一「ネット時代における地理空間情報の新展開」第 54 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009 年 6 月 30 日
- 桐村喬「20 世紀京都における居住地域構造の変遷」第 54 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009 年 6 月 30 日
- 尾鼻崇「家庭用ビデオゲームソフト付属マニュアルのデータベース構築とその課題」第 55 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009 年 7 月 7 日
- 三上聡太「阿片問題と文学 -資料のデジタル・アーカイブ化によせて-」Opium in Japanese literature, 第 55 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009 年 7 月 7 日
- 金子貴昭「板木と板本 - 板木を通じて板本を見る -」第 56 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009 年 7 月 14 日
- 大矢敦子「“映画・演劇興行年表 - 大正期 京都編 - (仮)”の構想と現状」第 56 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009 年 7 月 14 日
- 花田卓司「応仁・文明の乱における京都合戦」第 57 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009 年 7 月 21 日
- Bincsik Monika「From Museum display systems to databases, or how is art history produced? 美術館の陳列システムからデータベースへ、または美術史学の作り方」第 57 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009 年 7 月 21 日
- 高橋幸恵「基本動作に着目した仕舞の形(かた)の分析」第 58 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009 年 7 月 28 日
- 岡本隆明「画像変換サーバを用いた web 上の画像利用について」第 60 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター (京都市), 2009 年 10 月 6 日
- 楠井清文「韓国での日本語文学書籍の所蔵について」On the Collection of Japanese Literary

Books in Korea」第 60 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009 年 10 月 6 日

前崎信也, 服部憲治, 'Map of Japan from the Collection of Sir Hugh and Lady Cortazzi', 第 60 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009 年 10 月 6 日

崔雄「バーチャル文化財におけるキャラクタアニメーション」第 61 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009 年 10 月 13 日

鶴田清也「バーチャルダンスコラボレーションシステムのための感性情報を付与した身体動作の生成とその評価」第 61 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009 年 10 月 13 日

倉橋正恵「ボストン美術館所蔵歌川国貞浮世絵版画コレクション」第 62 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009 年 10 月 20 日

大野晋「Wikipedia における知的生産活動の構造とプロセスに関する研究」第 62 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009 年 10 月 20 日

松本文子「フィールド調査における歴史地理空間情報の活用 - GIS を用いた京町家の時空間分析 - 」第 62 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009 年 10 月 20 日

彬子女王「美術を保存するということ - 近代日本における美術複製の意義について - 」第 63 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009 年 10 月 27 日

山本真紗子「立命館大学アート・リサーチセンター所蔵友禅図案データベースの構築について - 図案面を中心に - 」第 63 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009 年 10 月 27 日

石上阿希「春画・艶本データベース構築に向けて - イギリス・フランスにおける調査報告 - 」第 65 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009 年 11 月 10 日

尾鼻崇, 上村雅之「「ゲームプレイ」をいかに記録するか」第 65 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009 年 11 月 10 日

Worawat Choensawat, 'Segmentation of Motion Capture Data Using Neural Networks', 第 66 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009 年 11 月 17 日

Kingkarn Sookhanaphibarn, 'Analysis of visitors' behaviors in 3D virtual museums', 第 66 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009 年 11 月 17 日

Alejandro Toledo Nolasco, 'Similarity and Dissimilarity Patterns in Name Occurrences of Japanese Historical Diary', 第 66 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009 年 11 月 17 日

Woong Choi, 'Character Animation of Performing Arts in Second Life', 第 66 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009 年 11 月 17 日

前崎信也, 'Creating a Digital Database of Japanese Ceramics in Western Collections', 第 67 回 GCOE セミナー, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2009 年 11 月 24 日

岡本隆明, 'Kunten Management System Explanation Marks Database on Japanese Historical and Religious Documents, based on text-image linkage', 第 67 回 GCOE セミナー,

立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2009年11月24日

楠井清文，‘Construction of a Database of Japanese Literary Magazines Published in Japan-ruled Korea’，第67回 GCOE セミナー，立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2009年11月24日

斎藤進也，‘A Platform for Visualizing and Sharing Collective Cultural Information’，第67回 GCOE セミナー，立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2009年11月24日

本多健一「中世の京都祭礼における鉾の変容 - その基礎的考察（前編） - 」第68回 GCOE セミナー，立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2009年12月1日

桐村喬「京都市における地域名称を冠する建物の空間分布」第68回 GCOE セミナー，立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2009年12月1日

瀬戸寿一「写真資料のデジタル化による歴史的市街地の景観復原」第68回 GCOE セミナー，立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2009年12月1日

加茂瑞穂「絵画資料を利用した歌舞伎衣裳の一考察 『妹背山婦女庭訓』お三輪を例として 」第69回 GCOE セミナー，立命館大学アート・リサーチセンター，2009年12月8日

Bincsik Monika「イギリスでの日本漆器コレクション」第69回 GCOE セミナー，立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2009年12月8日

金子貴明「続・板本の板木構造 - 藤井文政堂所蔵江戸期高野板の板木 - 」第69回 GCOE セミナー，立命館大学アート・リサーチセンター，2009年12月8日

松葉涼子「ベルギー王立美術歴史博物館所蔵浮世絵コレクションのデジタル化報告及びイメージ・データベース利用の展望について」第70回 GCOE セミナー，立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2009年12月15日

三上聡太「阿片問題資料のデジタル化について」第70回 GCOE セミナー，立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2009年12月15日

塚本章宏「出版図に描かれた近世京都の空間」第70回 GCOE セミナー，立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2009年12月15日

John Carpenter, ‘Kyokabon Online: Illustrated Poetry Anthologies by Utamaro from the Collection of the Fitzwilliam Museum, Cambridge University’，第71回 GCOE セミナー，立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2009年12月22日

齊藤ちせ「イタリア所蔵日本美術コレクション調査報告 - 現状と展望 - 」第72回 GCOE セミナー，立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2010年1月12日

周萍「日本と中国の水滸伝絵画 - 魯智深像を中心に - 」第72回 GCOE セミナー，立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2010年1月12日

大矢敦子「歌舞伎から映画へ 興行情報データベース等を利用して 」第72回 GCOE セミナー，立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2010年1月12日

高橋幸恵「能の形の動作評価における舞い手側の着眼点」第73回 GCOE セミナー，立命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2010年2月9日

**研究所・センター 2009年度研究活動総括と2010年度研究計画について**  
**様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)**

項 目	内 容
2009年度研究活動実績	以下の各項目の2009年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。
	<p align="center">研究所の研究の到達状況</p> <p>地域情報研究センターは、学外研究機関や自治体等との協力関係に基づいて研究活動を行うリエゾン型の研究センターであり、地域社会の抱える様々な問題に対する解決策を模索する地域インキュベーション研究センターでもある。したがって、本センターでは自由な研究課題を各学内の研究者が独自に行いつつも、関連する研究課題や分野では各研究者が柔軟に連携しながら研究を推進してきた。</p> <p>2009年度については、自治体との受託・共同研究が2件、民間財団からの助成に基づく研究プロジェクトが2件、JST(科学技術振興機構)による研究助成が1件、計5件の研究プロジェクトが実施された。個々のプロジェクト自体は実に多様であるが、いずれの研究活動も人と地域との関わりのあり方を模索し、より良い地域社会の実現に寄与することを目的としている点において、本研究センターの運営理念に即したものとなっている。概ね個々の研究プロジェクトから得られた成果については、インターネットや著作物として情報発信が行われており、極めて順調な研究の遂行とその成果の社会還元が達成されているものと考えられる。</p>
	<p align="center">学术交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>本年度の各研究プロジェクトについては、京都府を中心として自治体との連携や協力体制の下に進められており、本学の研究センターや研究所の中でも最も活発な社会的連携の構築が図られている。また、龍谷大学や京都学園大学との研究連携のように研究プロジェクトが展開されており、今後のさらなる研究プロジェクトの量的・質的な向上が期待される。また、国際的な研究ネットワークの一環として実施された研究プロジェクト、さらには、本センターの実施する研究の一環として、気候変動に対する先進の研究実績もあり、学術的・国際的交流の飛躍的な進展があった。</p>
	<p align="center">研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</p> <p>本センターは、バーチャルな研究ネットワークとしての柔軟性を生かして多様な研究プロジェクトを推進してきた。個々の研究プロジェクト自体は、地域をキーワードに様々な機関や自治体と連携を図っている一方で、センターの研究プロジェクト間での相互連携は必ずしも十分とは言えず、次年度以降では、プロジェクト間での相互連携も視野に入れることで、研究のさらなる質的向上が見込まれるものと考えられる。</p>
	<p align="center">学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トヨタ財団 政策科学部教授 鐘ヶ江秀彦</li> <li>・京都府八幡市 政策科学部教授 村山 皓 先生</li> <li>・愛媛県松山市 政策科学部准教授 宮脇 昇 先生</li> <li>・ベルテルスマン財団 産業社会学部教授 松田 亮三 先生</li> <li>・科学技術振興機構 文学部教授 吉田 甫 先生</li> </ul> <p>* 研究成果の刊行状況については別紙を参照</p>

項 目	内 容
2010 年度研究計画	以下の各項目の 2009 年度の活動実績を踏まえながら 2010 年度の活動計画について記入して下さい。
	<p>2010 年度の研究計画について</p> <p>2009 年度で委託研究・共同研究契約が満了となる研究プロジェクトについても、継続的な研究実施と情報公開を予定している。</p> <p>また昨年度に引き続き地域開発における地域情報の意味を鑑み、京都における研究ネットワークの強化とともに、国内の研究ネットワークの形成として、亀岡のカーボンマイナスに関連して研究連携が始まりました龍谷大学との協定の強化と推進、京都学園大との連携強化、京都大学農学研究科との連携推進を進める。</p> <p>2010 年度は、昨年度に研究協定を締結したタイ王国のタマサート大学研究センターとの国際研究連携を強化するとともに、タイ王国のカセサート大学との研究協定締結を行う。これにともなった研究者交流を実施してゆくことが研究センターの大きな役割であるものと考え、この準備を行う。</p>
	<p>学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>国際一村一品学会、地球環境変動における人間社会経済次元の国際共同研究実施のための Japan Biocha Association (International Biocha Initiative 日本支部)事務局、亀岡カーボンマイナス協議会事務局といった拠点形成を引き続き進めるとともに、研究プロジェクトに関連して研究者の派遣や受け入れを積極的に進めていく予定である。</p>
	<p>研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>本年度以降、各研究プロジェクト間の相互連携を図り、センターを受け入れ基盤とした国際共同研究や大型の競争的資金の獲得に向けた体制作りを進め、積極的な若手研究者の受け入れ等も考慮したい。また、センターホームページの拡充等も進め、研究成果の社会的還元を進めていく予定である。</p>
	<p>学外研究費の申請予定等について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日本生命財団「農地におけるバイオ炭を使った炭素隔離と炭素貯留野菜の普及」＜学際的総合研究＞</li> <li>2) トヨタ財団「信頼と協働に基づくコミュニティ形成を目指して」＜アジア隣人プログラム＞</li> <li>3) 旭硝子財団「地球環境変動に対応する地域炭素削減のためのカーボン・マイナス・プロジェクト研究」＜継続型研究助成＞</li> <li>4) 科学研究費補助金 基盤研究(A)「バイオマス炭化の社会的意義と国際貢献の可能性に関する研究」</li> <li>5) 環境省地球環境研究総合推進費「農山村部における炭素埋設量の排出権取引制度の実証実験」</li> </ol>

## 2009 年度研究成果・刊行状況等

### 「トヨタ財団」

研究者：政策科学部教授 鐘ヶ江秀彦

研究期間：2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日

研究課題：「バイオマス炭化物による CO2 発生抑制」を通じた都市部から農山村部への資金還流モデル設計 - ポスト京都議定書を見据えた排出量取引、農産物エコブランド化、エコポイントとの連携を通じて - 」

- (1) バイオマス炭化物の田畑散布を通じた温室効果ガスの発生抑制実験を行った。実験内容は、土壌中の炭素隔離量の定量、農作物生育実験、炭堆肥製造実験、牛糞堆肥炭化実験である。2009 年 9 月 27 日環境共生学会において一部実験内容の報告を発表した。
- (2) 農業者と企業間での CO2 排出量取引制度の設計について、農業者・亀岡市役所・京都府・小売業者・大和ハウス等大企業・京都府地球温暖化センター等と協議を行い、炭素隔離量の計測と確認保証制度・京都府の環境政策との整合性等、政策立案上の課題や可能性を検討し制度設計を個別に協議した。
- (3) 農作物のエコブランド化戦略の設計とマーケティング実験として炭堆肥による炭素隔離を行った農地において栽培した農産物の販売優位性(消費者受け入れ度)の検証をおこなった。2009 年 11 月下旬に農作物の収穫を行い、マーケティング実験を小売店頭にて実施した。
- (4) 京都府が導入を検討している「京都エコポイント(案)」との連携可能性の検討については、炭堆肥を使った農作物に対して、炭素隔離による排出量取引の一環としての京都エコポイント(案)との連携可能性を農業者・亀岡市役所・京都府・小売業者・消費者団体・京都府地球温暖化防止センター等と個別に協議を行い、消費者を巻き込んだ運動として政策立案上の課題や可能性を検討した。

### 「京都府八幡市」

研究者：政策科学部教授 村山皓

研究期間：2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日

研究課題：「八幡市の事務事業評価システムの円滑な運用と経年的な評価への展開」

平成 17 年度と平成 18 年度の住民へのアンケート調査によって、八幡市の 164 事務事業の効果性評価についてのデータがすべて整ったのに続き、平成 19 年度にはそれらの事務事業をシャッフルして新たに実施した調査の分析を行った。効果性評価は、住民の事務事業への意識を考慮に入れて、事業の住民への浸透度から政策や施策を評価しようとするものである。それは、八幡市の行政改革の一環としての事務事業評価の一翼を担うものである。そこでは、大学研究者の研究成果を製品化し、商品化することを目指す有限会社シンクメイトリサーチが提供する自治体の事業評価システム(特許申請中)を利用して、八幡市独自の事務事業評価システムの定着を図っている。本受託研究は、そのシステムを適用するための研究を、八幡市と共同して実践的に進めるものである。そのような平成 20 年度の実務業務の完了を受けて、平成 21 年度には 4 年間にわたる 2 グループのデータがすべて整った。それらについて、今年度には時系列の分析の方法を開発した。その分析の報告書も提出している。

## 「松山市」

研究者：政策科学部准教授 宮脇 昇

研究期間：2009年4月15日～2010年3月31日

研究課題：「坂の上の雲ミュージアムに関わる資料調査業務」

### 1 調査の目的

史料調査は、松山日露戦争史料調査会の研究代表者ならびに分担者（下記2参照）を中心に実施した。調査は、大きく二つに分けられる。第一に、日露戦争期の海外発行新聞の収集ならびに記事の和訳を行い、併せてその内容の分析を行った。第二に、日露戦争期の松山俘虜収容所についての調査を実施し、フィールド・ミュージアム・ツアーを主催した（詳細は後述）。

### 2 調査体制

#### 2.2.2. 研究協力者（順不同。敬称略）と主たる研究業務

- \* 井手康仁（日本大学商学部専任講師）：海外新聞紙誌和訳分析統括、収容所見学実施協力、報告書作成協力、ロシア紙翻訳及び分析
- \* 宮浦崇（立命館大学教育開発推進機構専任講師）：海外新聞紙誌和訳分析統括、会計業務補助、報告書作成協力
- ・ 稲葉千晴（名城大学都市情報学部教授）：日露戦争期の海外紙誌調査統括、米国紙・英国紙・フランス紙・ドイツ紙・中国紙・韓国紙監修、その他諸国氏紙（ポーランド・フィンランド・スウェーデン）翻訳
- ・ 横山宏章（北九州市立大学大学院社会システム研究科教授）中国紙翻訳
- ・ 大谷正（専修大学法学部教授）米国紙翻訳
- ・ 山根宏（立命館大学政策科学部教授）ドイツ紙翻訳
- ・ 檜山眞一（同志社大学非常勤講師）：ロシア紙翻訳、収容所跡地見学実施協力
- ・ 谷井紀夫（松山市立石井東小学校長）：収容所跡地見学協力
- ・ ポダルコ・ピョートル（青山学院大学国際政治経済学部准教授）：ロシア紙翻訳、収容所跡地見学協力
- ・ 伊藤信哉（松山大学法学部准教授）：日本語史料分析、収容所跡地見学協力
- ・ 苅谷千尋（立命館大学非常勤講師）：英国紙翻訳、議事録作成
- ・ 宮崎千穂（日本学術振興会特別研究員）：韓国紙翻訳
- ・ 星原大輔（早稲田大学大学院社会科学部研究科D）：史料調査及び収集（国内所蔵分）
- ・ 南祐三（早稲田大学大学院文学部研究科史学専修）：フランス紙翻訳
- ・ 中倉恵加（立命館大学大学院政策科学研究科D）：英国紙翻訳
- ・ 稲澤宏行（立命館大学大学院政策科学研究科M）：米国紙翻訳、英国紙翻訳、インド紙翻訳、議事録作成、連絡調整業務、会計業務

\* は副代表者

#### 2.3 研究補助

- ・ 松本眞和（立命館大学大学院政策科学研究科M）：連絡調整業務補助、収容所跡地見学実施協力補助

### フィールド・ミュージアム・ツアー実施報告

3.1 企画名称：フィールドミュージアムツアー ロシア兵捕虜の足跡を訪ねて

3.2 日程：7月5日（日） 午前8時30分-11時30分

#### 3.3 順路

坊ちゃん広場（伊予鉄・松山市駅前）集合 正宗寺収容所 松山南高（旧松山高等女学校：捕虜将校の学校見学、新年山での記念写真） 法龍寺収容所 露西亞町（旧湊町 3/4 丁目） 親愛

幼稚園 一番町収容所（跡地） 松山東雲中学・高等学校（旧松山病院） 坂の上の雲ミュージアム（館内） 解散

### 3.4 担当者

解説責任：宮脇昇（立命館大）

解説協力：稲葉千晴（名城大） 檜山眞一（同志社大） ポダルコ・ピョートル（青山学院大） 谷井紀夫（松山市立石井東小）

実施協力：井手康仁（日大） 宮浦崇（立命館大）

引率協力：稲澤宏行（立命館大学大学院 M）、松本眞和（立命館大学大学院 M）

### 3.5 概要

日露戦争期の松山収容所（明治三十七年三月開所～三十九年二月閉所）は、全国で最初におかれた収容所であるとともに、捕虜将校数が全国で一番多い収容所であった。捕虜将校は貴族出身が多く、「捕虜景気」で地元経済は潤ったという。

歴史的に、日本では第一次世界大戦期以降、捕虜を郊外に収容するようになっていったが、日露戦争では軍隊衛戍地たる都市の市街地内に収容することが少なくなかった。捕虜を収容した都市として松山はどのような姿をしていたのだろうか。

激戦が続いたことでロシア兵捕虜の数は、全体で七万人を超えた。全国 29 の収容所で、収容施設として 221 の建物が充当された。松山でも二一の建物が収容施設となったが、施設不足は深刻で松山城天守閣も、また県立商業学校や農業学校も収容所の候補に挙がっていた（実際には、天守閣も学校も収容所にはならなかった）。松山収容所とは、松山という都市自体であったと言っても過言ではない。当時の寺院や施設跡地、エピソードが残る教会を歩いて踏査するのが今回のフィールドミュージアムツアーの目的である。

当日はあいにくの雨天にもかかわらず集まった 45 名の市民とともに、坂の上の雲ミュージアムと松山日露戦争史料調査会のスタッフの引率により、朝八時半に坊っちゃん広場（松山市駅前）を出発した。最初に、一行が赴いたのは正宗寺である。捕虜にあてがわれたのは境内の建物 139 畳で、開所時には約 100 名の捕虜下士卒を収容した。捕虜は境内だけでなく付近の町内でもボランティアとして清掃活動をしており、町民から感謝されていた。なお境内の故・才神時雄（捕虜研究者）の墓碑も参加者に紹介された。

正宗寺から歩いてすぐのところにある県立松山南高校は、当時、松山高等女学校として、捕虜将校の見学を数回受け入れていた。『松山水曜会記事』では、「高等女学校ヲ参観セシ日八試験近キ為ニ妨害センコトヲ憚リテ教室ニ入ラス窓外ヨリ詳細ニ観察シタリ彼等将校ノ最モ敬服セシハ授業中一同ノ静肅ナルコト、行儀正キコト及内外ノ清潔ナルコト也」と捕虜将校の感嘆の言が記録されている。一行の訪問を温かく出迎えていただいた同高教諭の三好氏より、当時の高女生の文章を現在の南高生に読んでもらった。また百五年前に同校正門近くの「新年山」で一緒に捕虜と高女生が記念写真を撮ったのにちなんで、本会のポダルコ氏（青山学院大学）や同校生徒や参加者一同で記念撮影を行った。

次に向かったのは、法龍寺（当時、収容所）である。捕虜下士卒が高女生の登下校を見て手招きをしたという記録が残っている。法龍寺の山門は当時、末広町側の通りに面していた。

法龍寺から北に向かい一番町教会に到着。立ち寄った参加者一同に、ポダルコ氏と谷井紀夫氏（石井東小学校）より、当時の教会のデマリ―宣教師夫人（アメリカ人）とその子供セネカが松山収容所の仮設病院（城北練兵場内に設けられたもので、別名「バラック」）を慰問し、兵卒一人一人に花を渡した話など、心温まるエピソードが紹介された。

一番町教会から一番町通りに出て、現在の愛媛県庁別館と松山法務庁舎にまたがる付近にあったのが一番町収容所である。同収容所は大林区署（現在の営林署に相当）の元建物を用い、平屋だ

が、多少洋風が加味された建築であった。

捕虜とは異なる身分ながら、捕虜よりも早く松山にやってきた傷病兵がいたのが、現在の松山東雲女子中学・高校の敷地にあった松山病院である。開戦時に仁川で日本軍と交戦したワリヤーク号の負傷兵のうち二名は、第三国フランスの軍艦に救助されてから日本側に引き渡された。それゆえ捕虜としては扱われず、日本赤十字社の管轄となった。彼らは、明治三十七年三月一日から松山病院内の敷地内の北側約三分の一の区域をあてがった日本赤十字社松山臨時救護所にて治療を受け、順々に完治し同年十月までに帰国していった。

東雲中学・高校を後にして、最後に到着した坂の上の雲ミュージアムにて、参加者はデマリー宣教師のエピソードの朗読テープを聴くとともに、また本会の稲葉千晴氏（名城大学）より、日露戦争における松山収容所の位置づけについての詳しい説明がなされた。最後に参加者から、参加者の母親が当時小学生の頃、捕虜にゴム鞆をもらい、捕虜に頭をなでてもらったという話が伝わっていることが参加者より紹介された。

### 「ベルテルスマン財団」

研究者：産業社会学部教授 松田 亮三

研究期間：2009年1月1日～2009年12月31日（今年度継続）

研究課題：日本における現在の保健政策問題と最近の改革進展

#### 1. 09年度 研究報告および刊行物について

##### < 研究報告 >

本研究は国際的な研究ネットワーク(International Network Health Policy & Reform)の一部として、日本の医療改革の分析を行っていくことを目的としている。2009年度は日本の医療政策についての進展を分析し、5つの内容についての報告を作成し、同ネットワークのウェブで公開した。また2009年7月に行われたネットワーク会議に参加して、各国における医療政策の展開についての情報収集を行った。

##### < 刊行物 >

- Tomizuka, T and Matsuda, R. (2009) Introduction of No-Fault Obstetric Compensation, October 2009. Available at <http://www.hpm.org/survey/jp/a14/4>. (富塚太郎・松田亮三「産科医療補償制度の創設」医療政策モニター報告, 2009年10月)
- Matsuda, R (2009) ICT in health care, October 2009. Available at <http://www.hpm.org/survey/jp/a14/3>. (松田亮三「医療におけるICT」医療政策モニター報告, 2009年10月)
- Matsuda, R (2009) Health Care Policy of the New Government, October 2009. Available at <http://www.hpm.org/survey/jp/a14/2>. (松田亮三「新政権の医療政策」医療政策モニター報告, 2009年10月)
- Matsuda, R (2009) Review of Mental Health Care Reform, October 2009. Available at <http://www.hpm.org/survey/jp/a14/1>. (松田亮三「精神医療改革の中間評価」医療政策モニター報告, 2009年10月)
- Matsuda, Ryozo. "A New Rule for Setting Premium Rates". Health Policy Monitor, April 2009. Available at <http://www.hpm.org/survey/jp/a13/1> (松田亮三「保険料率設定の新方式」医療政策モニター報告, 2009年4月)

## 「JST」

研究者：文学部教授 吉田 甫

研究期間：2009年4月1日～2010年3月31日（報告対象期間）

研究課題：「生活介入方法の開発・被験者の脳機能と認知心理学検査」

研究の目的：

- (1) 地域に在住の高齢者を対象に音読・計算といった介入を行い、こうした活動を定期的におこなった高齢者の記憶機能、抑制機能、日常生活の質の改善が認められるかどうかを、そうした介入をおこなわない対象群との比較から、検討する。
- (2) 公文教室に在籍している発達障害児（自閉症、ダウン症児など）を定期的に観察・録画し、教室内での行動に変化が認められるかどうかを検討する。

研究実施内容：

- (1) 平成21年度での参加者は、大学での介入活動には84人、京都市役所と共催した介入活動64人、施設での介入では13人が、それぞれ参加した。09年に参加した延べ人数は、3120人になった。主に大学での活動に参加した高齢者を対象に、前頭葉機能検査(FAB)、認知機能検査(MMSE)、日常生活に関わるさまざまな活動、抑制機能に関する実験的課題(SRC課題、ストループ課題)をおこなった。その結果、介入活動に参加した高齢者は、参加しなかった対象群の高齢者に比べて、いずれの課題においても、有意な向上を示した。
- (2) 発達障害児に関しては、少なくとも2年以上の参加がありまた4回以上の録画をおこなっている自閉症児10人とダウン症児10人とをそれぞれ研究の対象とした。学習場面におけるさまざまな行動をカテゴリー化し、それぞれのカテゴリーごとの出現時間を計測した。その結果、課題に関連する行動は、明らかな進歩が見られた。また教室で実施しているプログラム内容を言語、数、動作に分類して解析したところ、まず動作に関わるカテゴリーでの改善が見られ、その次に言語、そして数という順序で改善するという傾向を見いだした。

論文発表...5件

2010 3年間での認知症高齢者の変化過程に関する介入研究 立命館人間科学研究、No.20, 31-39、孫琴・吉田甫・大川一郎・土田宣明

2009 健康高齢者の抑制機能および関連する認知機能に関する研究：日本と中国における比較研究の視点から、立命館人間科学研究、No.19, 103-110. 孫琴・吉田甫・大川一郎・土田宣明

2009 音読と簡単な計算の遂行による介入が認知症高齢者の日常生活動作におよぼす影響、立命館人間科学研究、No.18, 23-32. 吉田甫・玉井智・大川一郎・土田宣明・田島信元・川島隆太・泰羅雅登・杉本幸司

2009 直接有効性仮説をめぐって：山本論文へのコメント 心理学評論 Vol.52, 411-415.

2009 子どもの論理を活かす授業づくり：デザイン実験の教育実践心理学 吉田甫・エリックディコルテ編 北大路書房

**研究所・センター 09 年度研究活動総括と 10 年度研究計画について**  
**様式は、変更しないで下さい。(研究成果の欄等が不足する場合は別紙を添付下さい)**

項 目	内 容
2009 年度研究活動実績	以下の各項目の 2009 年度の当初の研究所の活動計画に触れながらその到達度について具体的に記入して下さい。
	<p align="center">研究所の研究の到達状況</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバル経済金融危機克服という世界と日本が直面する課題において東北アジア地域協力が果たす重要な役割について、危機の原因の考察を踏まえて検討し、国際シンポジウム(「北東アジア地域自治体連合国際経済フォーラム」2009 年 5 月、韓国・慶州市、「第二屆東北亞区域合作國際論壇」同 6 月、中国・ハルビン市、「Asia Economic Community Forum」韓国・仁川市)で報告するとともに、学術論文として発表した。</li> <li>2. 東北アジア地域協力の中核をなす日中協力について、国際地域研究所、人文科学研究所とともに、平成 21 年度日中研究交流事業「21 世紀東アジアにおける新たな日中関係の構築」を推進し、日米の新政権成立、グローバル経済金融危機などを踏まえ、「東アジア共同体」構築を中心に、新たな日中関係構築の重要性とその内容について、中国の代表的研究者、外務省関係者とともに研究し、専門家会議(2009 年 11 月北京)シンポジウム(2010 年 1 月、本学)において公表した。</li> <li>3. 国際産学公連携による地域発展の発展可能性について、基盤整備が進む京都舞鶴港を活用した北東アジア地域人流・物流の活性化を中心に、北東アジアアカデミックフォーラム(事務局:京都府)と連携しながら研究し、その成果をもとに同フォーラム全体交流会(2010 年 3 月)を企画した。</li> <li>4. 以上に加えて、農業・農村を中心とした中国東北地域の社会経済変化、中国 IT 産業の人材育成、中国の都市化と貧困・医療保障問題並びに財政、中国の新エネルギー産業等の現状を踏まえた東北アジア地域協力の課題について研究を進めた。</li> </ol>
	<p align="center">学術交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>これまでの交流の成果を基礎に、大連市発展研究センターとの間で東北アジア地域研究などの学術交流協力覚書を締結した。また、上記国際シンポジウム、フォーラム等を通じて、北東アジア地域自治体連合、中国社会科学院、上海社会科学院、京都府、関連企業(JTB 西日本地域交流活性化ビジネス室等)との連携を強化した。引き続き、東北アジア研究交流ネットワーク(NEASE-Net)を通じた東北大学、ERINA など国内大学、研究機関との学術交流を行った。</p>
	<p align="center">研究の組織化および運営の状況、研究所・センターの運営体制等について</p> <p>シンポジウム、フォーラム、セミナー等の開催に当たり、研究メンバー間で協議、研究を組織するとともに、研究課題の設定と研究計画について協議しながら研究を進めた。</p>
	<p align="center">学外研究費の獲得および主な研究成果の刊行状況等について</p> <p>学外研究費：平成 21 年度外務省日中研究交流支援事業(国際地域研究所、人文科学研究所と共同) 4,332,639 円 + 日中共同研究者訪中経費(大学側経費受入なし)</p> <p>研究成果の刊行：同上事業報告書『21 世紀東アジアにおける新たな日中関係 現状と課題』(2010 年 3 月)、松野周治「世界経済再構築と東アジア地域協力の意義」(『立命館経済学』第 58 巻第 5・6 号、2010 年 3 月)など。</p>

項 目	内 容
2010 年度研究計画	以下の各項目の 2009 年度の活動実績を踏まえながら 2010 年度の活動計画について記入して下さい。
	<p>2010 年度の研究計画について</p> <p>これまでの研究成果の上に立って、中国東北部を中心に東北アジアの社会経済変動を明らかにするとともに、今後の地域協力の発展の可能性を検討する。具体的には、以下の諸点の解明を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバル経済金融危機克服と東北アジア地域協力の意義と現状、今後の課題。中国東北の発展と、中朝露国境地域の新たな動き（図們江開発計画や朝鮮半島北部開発構想など）を踏まえた、地域発展の意義と可能性などを検討する。</li> <li>2. 中国東北振興戦略展開下の地域経済社会の変化（新たな合作社形成など農業・農村の変化、大連市等における新たな産業集積、国有企業改革の成果と問題点など）。</li> <li>3. 都市化、医療・社会保障など中国を中心に東北アジアが直面する新たな課題と政府の役割・財政。</li> <li>4. 京都府北部地域と対岸地域との交流活性化を通じた地域発展施策。基盤整備が進む舞鶴港等を活用した、韓国、中国との物流、人流の活性化について、引き続き、専門研究者、自治体、企業と共同して研究する。</li> </ol>
	<p>学术交流、社会的連携、国際交流について</p> <p>下記の研究交流、協力等を通じて国際産学公連携をさらに強化する。第 3 回東北亜区域合作国際論壇（東北アジア地域協力国際フォーラム、2010 年 6 月、中国・哈爾濱市）等、2010 年北東アジア学会学術研究大会（同学会並びに韓国東北アジア経済学会等主催、8 月、韓国・東海市）、延辺大学（2010 年 11 月）など国際フォーラム・学会等への参加。2009 年度締結の学术交流覚書に基づく大連市人民政府発展研究センターの日本研修受け入れと共同セミナーの開催（2010 年 6 月）また、引き続き、北東アジア研究交流ネットワーク（NEASE-Net）、北東アジアアカデミックフォーラム等を通じた国内関連研究機関や、自治体、企業との連携、交流をすすめる。</p>
	<p>研究の組織化および運営の状況、研究所、研究センターの運営体制等について</p> <p>定例研究会(隔月を基本)を開催するとともに、適時、国際フォーラム参加報告や提携大学・研究機関訪問報告など情報を随時交換し、組織的に研究を展開する。</p>
	<p>学外研究費の申請予定等について</p> <p>計画に沿った研究活動を基礎に、北東アジア研究交流ネットワーク（NEASE - Net）を通じてサントリー文化財団に、単独で、北東アジアアカデミックフォーラム研究助金に申請中であり、平成 22 年度科学研究費補助金に申請予定である。2011 年度日中研究交流推進事業への申請についても検討する。</p>